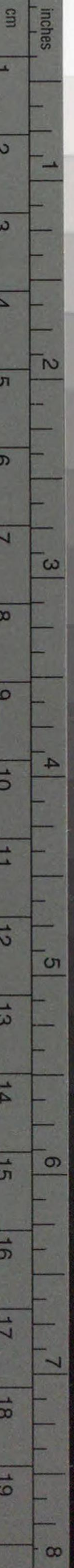
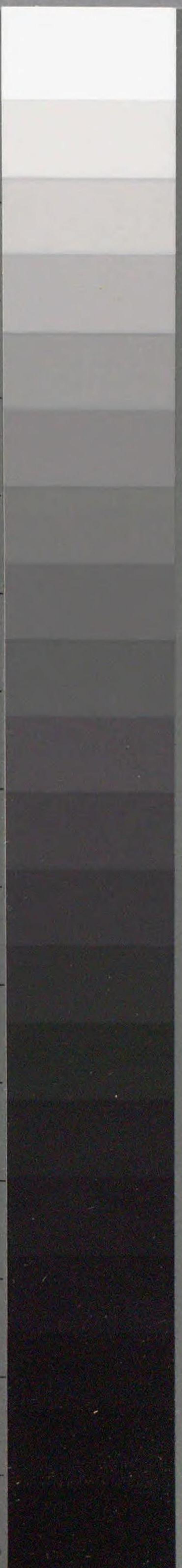


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



CZ-476-023



\*1200801701279\*







44757

海事法令集 1 (2)



# 造船規程

(大正五年十二月  
遞信省令第六十五號)

改正 昭和九年二月遞信省令第十一號

## 第一編 船體部

- 第一章 總則
- 第二章 材料及材料試驗
- 第三章 龍骨、船首材及船尾骨材
- 第四章 舵
- 第五章 肋骨
- 第六章 肋板
- 第七章 特設肋骨
- 第八章 內龍骨
- 第九章 船側縱通材
- 第十章 二重底及水艙
- 第一節 總則
- 第二節 肋骨每ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底
- 第三節 肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底
- 第十一章 船首船底ノ補強構造
- 第十二章 支水隔壁、支水甲板及車軸隧道

- 第十三章 梁
- 第十四章 特設艙梁
- 第十五章 梁柱
- 第十六章 特設梁柱及特設梁下縱通材
- 第十七章 外板及舷牆
- 第十八章 覆板及縱橫線
- 第十九章 鉸釘及固著力
- 第二十章 木甲板及鋼甲板
- 第二十一章 梁上側板及梁上帶板
- 第二十二章 船首肘板、船尾肘板及船尾防撓構造
- 第二十三章 機關室
- 第二十四章 機關室口
- 第二十五章 艙口及其ノ他ノ甲板口
- 第二十六章 通風器
- 第二十七章 排水裝置及諸管
- 第二十八章 內張板
- 第二十九章 操舵機具
- 第三十章 輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船
- 第三十一章 船首樓、船尾樓、船橋及甲板室
- 第三十二章 低船首樓及低船尾樓



第三十三章 載貨門、載炭門及舷窓

第三十四章 檣、索具及揚貨、揚錨、繫船等ノ裝置並  
其ノ他ノ艤裝品

第三十五章 燃料油ヲ積載スル船舶

第三十六章 油 艙 船

第二編 機關部 (削除)

第一編 船體部

第一章 總 則

第一條 本令ニ定ムル船體ノ構造ニ用ウル材料ノ寸法ハ特  
ニ明文アル場合ヲ除クノ外鋼ヲ以テ造レルモノヲ示ス

第二條 削 除

第三條 削 除

第四條 上甲板ト稱スルハ最上層ノ甲板ヲ、第二甲板ト稱  
スルハ第二層ノ甲板ヲ、第三甲板ト稱スルハ第三層ノ甲  
板ヲ謂ヒ以下之ニ準ス

船樓甲板ト稱スルハ全通船樓板上上甲板ヲ包含ス

第五條 一層ノ甲板ヲ有スル汽船ヲ分チテ左ノ二種トス

一 重 構 船

二 輕 構 船

二層以上ノ甲板ヲ有スル汽船ヲ分チテ左ノ四種トス

一 重 構 船

二 輕 構 船

三 全通船樓船

四 遮浪甲板船 (上甲板ニ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板  
口ヲ有スルモノ)

第六條 長船橋樓ト稱スルハ第二十號表ニ掲クル長ヲ超ユ  
ル船橋樓ヲ謂ヒ短船橋樓ト稱スルハ同表ニ掲クル長ヲ超  
エサル船橋樓ヲ謂フ

第七條 船ノ長ト稱スルハ上甲板梁上ニテ、船首材ノ前面  
ヨリ船尾材ノ後面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部彎曲ノ船  
首材ヲ備フル船舶ニ在リテハ該材下部ノ前面ニ沿ヒテ真  
直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リ  
タル水平距離ヲ謂フ

幅ト稱スルハ船體廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ  
水平距離ヲ謂フ

深ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於ケル龍骨ノ上面ヨリ上甲  
板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ但シ長船首

樓ト之ニ連續セル低船尾樓ト有スル船舶ニ在リテハ長  
船首樓ノ部分ニ於テ上甲板ト平行シテ低船尾樓甲板ノ延  
長面ヲ假定シ其ノ船側ニ於ケル下面迄ノ垂直距離トス

長面ヲ假定シ其ノ船側ニ於ケル下面迄ノ垂直距離トス  
艙内ノ深ト稱スルハ船ノ長ノ中央ニ於テ普通通甲板ヲ有ス  
ル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋骨ノ上面ヨリ、二重  
底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル二重底ノ上面ヨ  
リ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ

第八條 第一數ト稱スルハ重構船ニ在リテハ深ト幅トノ和  
ヲ謂ヒ其他ノ船舶ニ在リテハ深ト幅トノ和ヨリ左ノ各號  
中最小ナルモノヲ減シタルモノヲ謂フ

一 八呎

二 甲板二層以上ヲ有スル場合ニ於ケル上甲板ト第二甲  
板トノ間ノ高

三 深十六呎未満ナル場合ニ於ケル深ノ二分ノ一

第二數ト稱スルハ第一數ニ船ノ長ヲ乘シタル數ヲ謂フ

前二項ノ長、幅、深等ハ呎ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位  
ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ

第九條 長カ深ノ十三・五倍ヲ超ユル船舶ニ在リテハ中央  
部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間以上ニ船橋樓ヲ設クルカ又  
ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第十條 本令ニ定ムル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離  
ハ最大ノ限度ヲ示スモノトス

第十一條 材料ノ寸法ハ別表ニ依ルヘシ

鉸釘、龍骨、船首材、船尾骨材、舵、梁柱、填板、甲板、  
肋板、二重底用材、石炭庫隔壁、支水隔壁、仕切隔壁、  
車軸隧道、機圍室圍壁、甲板口緣材、舷牆及甲板室ヲ除  
クノ外船體ノ部分ニハ特ニ検査官吏ノ承認ヲ受クルニ非  
サレハ鐵ヲ使用スルコトヲ得ス

甲板、肋板、艙内ニ於ケル二重底用材、石火庫隔壁、支  
水隔壁、車軸隧道、機圍室圍壁、甲板口緣材及舷牆ニ鐵  
ヲ使用スルトキハ鋼ヲ使用スルトキヨリ其ノ厚ヲ十分ノ  
一増スヘシ

第十二條 肋板ノ寸法及肋骨ノ心距ハ第一數ニ依リ、肋骨  
及特設肋骨ノ寸法ハ第一數及艙内ノ深ニ依リ、龍骨、船  
首材船尾骨材、船側外板、船底外板、二重底用材、船側  
縦通材内龍骨、第二層梁以下ノ梁上側板、鋼甲板等ノ寸  
法ハ第二數ニ依リ、上甲板及長船橋樓ノ側外板梁上側  
板、鋼甲板等ノ寸法ハ第二數及長深ノ割合ニ依リ之ヲ定  
ムヘシ

輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ其吃水ニ應



シ検査官吏ノ見込ニ依リ各部材料ノ寸法ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

**第十二條ノ二** 重構汽船及輕構汽船ニハ成ルヘク船首樓又ハ低船首樓ヲ設クルカ若ハ船首ノ部分ニ於ケル舷弧ノ高ヲ特ニ大ナラシムヘシ

**第十三條** 本令ニ定ムル試験ハ検査官吏ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スヘシ

試験機ハ検査官吏ノ檢定ヲ受ケタルモノヲ用ウヘシ

**第十四條** 本令中試験ニ關スル規定ハ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書アル場合ニ限り之ヲ適用セサルコトヲ得

**第十五條** 船體各部ノ工事ハ良好且有効ナルコトヲ要ス

**第十六條** 本令ニ該當セサル船體ノ構造及寸法ハ検査官吏ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル場合ニ限り之ヲ合格ト爲スヘシ

**第十七條** 船ノ首尾及局部ニ於ケル構造及寸法ハ本令ニ該當セサルモノト雖検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

**第十八條** 遞信大臣ハ航路ノ難易、載貨ノ種類又ハ使用ノ方法ニ應ジ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトアルヘシ特殊ノ船形ヲ有スル船舶ニ付亦同シ

二十以上ナルコトヲ要ス但シ鋼板ヲ除キ其ノ鋼材ハ抗張力ノ上限ハ三十三噸ト爲シ伸長ノ割合大ナル鋼材及常溫ニテ曲線工事ヲ施スヘキ鋼板ハ抗張力ノ下限ヲ二十六噸ト爲スコトヲ得

二 屈曲試験、燒入屈曲試験ニ於テハ血紅色ニ熱シタル試験材ヲ華氏八十度以下ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試験材ノ厚ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

常溫屈曲試験ニ於テハ常溫ノ儘前項ノ試験ヲ執行シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

前項第二號ノ試験材ハ幅一吋以上ニシテ試験スヘキ鋼材ヨリ剪斷シタル儘ト爲スヘシ但シ厚〇・五吋以上ナルトキハ剪斷面ヲ平削スルコトヲ得

**第二十四條** 梁柱、舵板及厚〇・二吋ヲ超エサル鋼材ニハ抗張試験ヲ省略スルコトヲ得

甲板室、船樓甲板上又ハ蔽圍シタル場所ニ在ル縁材ヲ除キタル機關室圍壁及圍壁船口、石炭庫圍壁、錨鎖庫圍壁、仕切隔壁、舷牆、彎曲部龍骨、汽鐘臺、補助汽機臺其ノ他之ニ相當スル部分ニ用ウル鋼材ニハ材料試験ヲ省略スルコトヲ得

**第十九條 削除**

**第二十條** 帆船ノ構造及寸法ニ付テハ汽船ノ重構船及輕構船ニ關スル規定ヲ準用ス但シ肋骨、梁、肘板、牆、帆架、索具等ノ構造及寸法、局部補強ノ方法、竝ニ支水隔壁ノ數ニ付テハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

**第二十一條** 第三級船及第四級船ノ構造及寸法ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル前項ノ船舶ニ付テハ本章第五條及第八條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第二章 材料用ヒ材料試験

**第二十二條** 壓延鋼材ハ平爐ニ依リ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

**第二十三條** 鉸釘用鋼圓材ヲ除キ其ノ他ノ壓延鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試験 鋼材ノ厚〇・三七五吋未滿ナルトキハ幅二吋半ヲ、厚〇・三七五吋以上〇・八七五吋以下ナルトキハ幅二吋ヲ、厚〇・八七五吋ヲ超ユルトキハ幅一吋半ヲ超エサル試験材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ八吋ノ標點間ノ長ニ於テ〇・三七五吋未滿ナルトキハ百分ノ十六以上、厚〇・三七五吋以上ナルトキハ百分ノ

前二項ニ掲グルモノノ外重要ナラサル部分ニ使用スル鋼材ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ材料試験ヲ省略スルコトヲ得

**第二十五條** 鉸釘用鋼圓材ハ徑ノ八倍又ハ四倍ニ等シキ標點間ノ長ヲ有スル試験材ニ付抗張試験ヲ執行シ一平方吋ノ抗張力ハ廿五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長カ徑ノ八倍ナルトキハ百分ノ二十五以上、徑ノ四倍ナルトキハ百分ノ三十以上ナルコトヲ要ス

**第二十六條** 前條ノ抗張試験ヲ執行セサル鋼圓材ヲ以テ製造シタル鉸釘ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

- 一 屈曲試験 常溫ノ儘其ノ桿部ヲ百八十度屈曲シテ相接著セシメ屈曲ノ外部ニ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス
- 二 鍛鍊試験 鉸釘ヲ熱シ其ノ頭ヲ鉸徑ノ二・五倍迄ニ扁平ニ打壓シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

**第二十七條** 鑄鋼材ハ適當ナル燒鈍爐ニ於テ燒鈍スルコトヲ要ス燒鈍後施工ノ爲再ヒ之ヲ熱シタル場合ニ於テハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ燒鈍スルコトヲ要ス

重要ナル鍛鋼材ニシテ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルモノニ付テハ適當ニ燒鈍スルコトヲ要ス燒鈍スヘキ材料ノ試



驗材ハ燒鈍後之ヲ切取ルコトヲ要ス

第二十八條 鑄鋼製ノ船首材、船尾骨材、舵、舵柄、螺旋軸支肘等ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試驗 徑〇・五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇・七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇・九七七吋ナルトキハ三吋半ノ標點間ノ長ヲ有スル試驗材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ百分ノ二十以上ナルコトヲ要ス
- 二 屈曲試驗 幅一吋厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ヲ半徑十六分ノ一吋ノ圓形ト爲シタル試驗材ヲ作り常溫ノ儘二吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百二十度以上屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス
- 三 墜落試驗 一材ニ鑄造シタル船尾骨材ニシテ其ノ突出部ノ形狀ニ適合スヘキ穴ヲ硬質ノ地面ニ穿テ置キ該材ノ一端ヲ地面ト四十五度ノ傾斜ニ起シテ地上ニ墜落シ又船首材、舵、舵柄、螺旋軸支肘二材以上ニ鑄造シタル船尾骨材等ニ於テハ其ノ形狀及重量ニ應シ七呎乃至十呎ノ高ヨリ之ヲ墜落スヘシ但シ長大又ハ複雜ナル形狀ニシテ之ヲ墜落スルトキハ變形スル虞アルモノニ

付テハ鑄物ノ上部及底部ヨリ各二箇ノ試驗材ヲ採リテ抗張試驗及屈曲試驗ヲ執行シ墜落試驗ヲ省略スルコトヲ得

- 四 錘打試驗 鑄鋼材ハ墜落試驗ヲ執行シタル後之ヲ吊シテ重量七封度以上ノ錘ヲ以テ敲キ其ノ生來ノ裂疵及墜落試驗ニ起因スル裂疵ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ナキコトヲ要ス
- 錘打試驗ハ墜落試驗ヲ省略シタルモノニ付テモ亦之ヲ執行スヘシ
- 前項ニ掲ケサル鑄鋼材ニハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ナル材料試驗ヲ執行スヘシ

第二十九條 可鍛鑄鐵材ニハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ナル材料試驗ヲ執行スヘシ

第三十條 鍛鋼材ハ幹部ノ截面ヲ原塊鋼ノ截面ノ五分ノ一以内ニ、其ノ他ノ部分ノ截面ヲ原塊鋼ノ截面ノ三分ノ二以内ニ鍛鍊シタルモノナルコトヲ要ス

第三十一條 鍛鋼材ニハ幹部ヨリ小ナラサル截面ヲ有スル部分ヨリ縱ニ切取りタル試驗材ニ付左ノ試驗ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試驗 徑〇・五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇・

七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇・九七七吋ナルトキハ三吋半ノ標點間ノ長ヲ有スル試驗材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ抗張力二十六噸ノモノハ百分ノ三十一以上、抗張力三十五噸ノモノハ百分ノ二十二以上又抗張力ノ噸數ト伸長ノ割合ノ百分率ノ分子トノ和ハ五十七以上ナルコトヲ要ス但シ鍛接ヲ爲スヘキ鍛鋼材ハ一平方吋ノ抗張力二十二噸以上二十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ抗張力二十二噸ノモノハ百分ノ三十五以上、抗張力二十六噸ノモノハ百分ノ三十一以上又抗張力ノ噸數ト伸長ノ割合

ノ百分率ノ分子トノ和ハ五十七以上ナルコトヲ要ス

- 二 屈曲試驗 幅一吋厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ヲ半徑十六分ノ一吋ノ圓形ト爲シタル試驗材ヲ作り常溫ノ儘二分ノ一吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス但シ一平方吋ノ抗張力三十二噸ヲ超ユルモノニ在リテハ屈曲ノ内徑ヲ四分ノ三吋ト爲スコトヲ得

小形鍛鋼材ニシテ鍛造完了ノ際一様ニ加熱シタルモノ又ハ適當ナル燒鈍法ヲ施シタルモノニ付テハ前項ノ試驗ヲ省略スルコトヲ得

第三十二條 試驗材ノ數ハ左表ニ依ルヘシ

| 種類             | 抗張試驗材ノ數  | 屈曲試驗材ノ數                                      | 鍛鍊試驗材ノ數 |
|----------------|--|--|---------|
| 壓延鋼材(鉸釘用圓材ヲ除ク) | 同一鑄解ノ板若ハ形材毎ニ一個(板若ハ形材カ二十五噸ヲ超ユルトキハ一個ヲ加ヘ又板若ハ形材ノ厚ガ〇・一五吋ヲ異ニスルモノ毎ニ尙一箇ヲ加フ)又同一異ニ類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數 | 一箇ノ鋼片ヨリ壓延シタル板若ハ形材毎ニ一箇又ハ同一種類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數 | 一       |
| 鉸釘用圓材          | 同一鑄解ノ材料十噸若ハ十噸未滿毎ニ一箇又ハ同一種類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數   | 一  | 一       |
| 鉸釘             | 同一種類ノ鉸釘ヨリ検査官吏ノ適當ト認ムル數  | 同上   | 同上      |



|     |                                 |    |    |
|-----|---------------------------------|----|----|
| 鑄鋼材 | 鑄鋼材毎二箇、二鑄解以上ノ鑄解ヨリ製造シタル鑄鋼材ニ付テハ四箇 | 同上 | 同上 |
| 鍛鋼材 | 鍛鋼材毎二箇                          | 同上 | 同上 |

同一鑄解又ハ同一種類ノ板若ハ形材ヨリ採リタル屈曲試験材ニハ約半數宛燒入屈曲試験ト常溫屈曲試験トヲ執行スヘシ但シ常溫ニテ曲線工事ヲ施スヘキ鋼板ノ試験材ニハ検査官吏ノ見込ニ依リ常溫屈曲試験ノミヲ執行スヘシ

**第三十三條** 本章第二十三條及第二十五條ノ試験材カ試験ニ合格セサルトキハ更ニ同一ノ鋼材ヨリ二箇ノ試験材ヲ採リ其ノ適否ヲ試験シ二箇ノ試験材カ共ニ試験ニ合格シタル場合ニ於テハ之ヲ合格トス

前項ノ試験ニ合格セサル場合ニ於テハ試験材ヲ採リタル鋼材ヲ除キ其ノ他ノ鋼材毎ニ本章第二十三條及第二十五條ノ試験ヲ執行シ合格シタルモノハ之ヲ合格トス

本章第二十六條ノ試験材カ試験ニ合格セサルトキハ更ニ二箇ノ試験材ヲ採リ其ノ適否ヲ試験シ二箇ノ試験材カ共ニ試験ニ合格スルトキハ之ヲ合格トス

本章第二十八條及第三十一條ノ試験材カ抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セサルトキハ検査官吏ニ於テ該試験ノ結果ヲ考量シ試験材カ適當ニ材質ヲ表明セスト認メタル場合

ニ限リ合格セサルモノニ對シ更ニ試験材ヲ作り其ノ適否ヲ試験シ該試験材カ合格スルトキハ之ヲ合格トス

**第三十四條** 検査官吏ハ本章ノ規定ニ合格セサル材料又ハ本章ノ試験ヲ受ケサル材料ト雖使用ノ方法若ハ部局ヲ限リ又ハ條件ヲ附シ其ノ使用ヲ承認スルコトヲ得

第三級船及第四級船ニ在リテハ検査官吏ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノヲ除クノ外材料試験ヲ省略スルコトヲ得

第三章 龍骨、船首材及船尾骨材

**第三十六條** 龍骨翼板ノ厚ヲ第十四號表ニ掲クルモノヨリ増ストキハ其ノ割合ニ應シ方形龍骨ノ厚ヲ減スルコトヲ得

**第三十七條** 側板龍骨ノ合厚ハ第一號表ニ掲クル方形龍骨ノ厚ニ等シクスヘシ

**第三十八條** 平板龍骨ノ寸法ハ第十四號表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ平板龍骨ノ厚ハ同表ニ掲クルモノヨリ〇・〇二吋減スルコトヲ得

平板龍骨ニハ斷切内龍骨板又ハ中心線貫通板ヲ附シ其ノ兩側ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第六號表ニ掲クル平板龍骨用山形材ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ二重底内ニ於ケル平板龍骨ニハ中心線桁板ヲ附シ其ノ兩側ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第八號甲表ニ掲クル平板龍骨用山形材ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

**第三十五條** 方形龍骨、船首材、船尾材及推進器柱ノ寸法ハ第一號表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ各材ノ寸法ヲ該表ニ掲クル二段下級ノ寸法迄減スルコトヲ得

前項ニ掲クル諸材ノ嵌接ノ長ハ其ノ厚ノ九倍ト爲スヘシ長大ナル船尾骨材ヲ二材以上ニテ構造スルトキハ嵌接ノ幅ハ其ノ幅ノ一・五倍、嵌接ノ長ハ其ノ幅ノ三倍ト爲シ四列釘固著ト爲スヘシ

高速力ノ汽船ニ在リテハ適當ニ船尾骨材ノ寸法ヲ増スヘシ

**第三十九條** 船首材ノ幅ハ下端ニ於テハ方形龍骨ノ深ニ等シクシ又滿載吃水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル幅ハ第一號表ニ掲クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

**第四十條** 單螺旋汽船ノ推進器柱ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル

厚ハ第一號表ニ掲クル厚ノ五分ノ三ヨリ少カラス又船尾骨材踵部ノ截面ハ推進器柱ノ截面ヨリ百分ノ十五以上増シタルモノト爲シ其ノ方形龍骨ト嵌接スヘキ部分ニ於テハ漸次該龍骨ノ寸法迄減少スヘシ

螺旋孔ヲ有スル螺旋汽船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第一號表ニ掲クル船首材ノ截面ト同一ト爲スコトヲ得

外車汽船又ハ螺旋孔ヲ有セサル雙螺旋汽船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第一號表ニ掲クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

**第四十一條** 船尾骨材ト方形龍骨トノ嵌接ノ後端ヨリ船尾骨材ノ前面迄ノ距離ハ外車汽船又ハ螺旋孔ヲ有セサル雙螺旋汽船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ一・五倍其ノ他ノ螺旋汽船ニ在リテハ二・五倍ヨリ少カルヘカラス

**第四十二條** 第二數一萬六千ヲ超ユル汽船ニ在リテハ推進器柱ヲ上部ニ延長シテ肋板及梁上ニ張りタル鋼板ニ固著スヘシ

**第四十三條** 船尾材ハ適當ニ上部ニ延長シ其ノ兩側ニ適當ノ山形材ヲ附シテ船尾肋骨板ニ固著スヘシ

**第四十四條** 船尾材ニハ舵ノ壺金ノ位置ニ應シ壺金ヲ設ケ



其ノ深ハ舵頭ノ徑ノ十分ノ七、厚ハ舵針ノ徑ノ二分一ト爲スヘシ

第四章 舵

第四十五條 舵頭ノ徑ハ航海速力及舵ノ面積ニ舵針ノ中心線ヨリ舵面ノ重心ニ至ル距離ヲ乗シタル數ニ依リ第二號甲表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第四十六條 舵ノ各部ノ寸法ハ舵頭ノ徑ニ應シ第二號丙表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

舵心材ハ最上端ノ壺金ノ位置ニ於テ舵頭ノ截面ヨリ小ナラサル截面ヲ有シ以下漸次第二號丙表ニ掲クル下端ノ寸法迄減スルコトヲ得

第四十七條 舵頭ト舵心材トヲ鑿接又ハ嵌接スルトキハ接合部及螺釘ノ寸法ハ舵頭ノ徑ニ應シ第二號乙表ニ依リ之ヲ定ムヘシ又螺釘孔ノ中心ト鑿縁トノ距離ハ螺釘ノ徑ノ一倍六分ノ一ヨリ少カルヘカラス  
舵頭ト舵心材トノ嵌接ノ端末ニ於ケル厚ハ舵頭ノ徑ノ百分ノ十三ト爲スヘシ

第四十八條 舵ノ壺金ノ心距ハ第二號丙表ニ依リ最上端ノ壺金ハ成ルヘク之ヲ舵頭管ニ接近セシムヘシ  
舵ノ壺金ノ深ハ舵頭ノ徑ノ十分ノ七、厚ハ舵針ノ徑ノ二

分ノ一ト爲スヘシ

第四十九條 舵板ノ兩面ニハ交互ニ第二號丙表ニ掲クル補強骨ヲ同表ニ掲クル心距ニ設クヘシ舵心材ト共ニ鍛造又ハ鑄造スル補強骨ノ咽喉部ニ於ケル半徑小ナルモノニ在リテハ其ノ咽喉部ニ於ケル半徑ハ補強骨ノ心距ノ五分一以上ト爲シ又咽喉部ニ於ケル半徑大ナルモノニ在リテハ其ノ咽喉部ニ於ケル半徑ノ補強骨ノ心距ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

補強骨ヲ舵心材ニ栓止ト爲ストキハ該部ニ於ケル舵心材ノ徑十分ノ一増シ堅溝ヲ作り之ニ栓ヲ打込ムヘシ

第五十條 幅四吋半ヲ超ユル補強骨ニ舵板ヲ固著スル鉸釘ハ之ヲ千鳥形ニ配置スヘシ

第五章 肋 骨

第五十一條 肋骨ノ寸法ハ第三號甲表及乙表ニ依ルヘシ

第五十二條 肋骨ノ心距ハ第三號甲表及乙表ニ依ルヘシ但シ船首隔壁ト船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所トノ間ニ於テハ最下層梁ニ達スル二重正肋材ヲ用ウル場合ヲ除クノ外二十七吋ヲ、船首尾艙ニ於テハ二十四吋ヲ超ユヘカラス  
船尾斜肋骨ノ心距ハ船尾稜縁ニ於テ之ヲ測ルヘシ

肋骨ノ心距ヲ本令ニ規定スルモノヨリ増ストキハ必要ニ應シ肋骨、肋板、二重底用材、梁、梁柱、外板及甲板ノ寸法及固著釘ヲ適當ニ増スヘシ

第五十三條 正肋材ハ龍骨ヨリ船體ノ上端迄達セシムヘシ

第五十四條 正肋材及副肋材ヲ以テ構造シタル肋骨、球山形肋骨又ハ副肋材ヲ附セサル溝形肋骨ヲ用ウル船舶ニ在リテハ特設艙梁ト其ノ上層梁トノ間ノ高ハ艙内ノ深ヨリ大ナルヘカラス但シ該梁間ノ高九呎ヲ超ユルトキハ艙梁ト其ノ上層梁トノ中間ニ船側縱通材ト同一ノ寸法ヲ有スル縱通材ヲ設クヘシ

第五十五條 正肋材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ衝接スルトキハ中央部ニ於テ少クモ船ノ長ノ四分ノ三間ハ其ノ背面ニ之ト同寸法ニシテ長ハ正肋材ト山形材ノ兩邊ノ和ノ五倍ヨリ少カラス三呎ヨリ多カラサル覆山形材ヲ附スヘシ但シ平板龍骨ニ貫通板内龍骨ヲ用ウルトキ及船底ノ形狀鋭尖ニシテ兩舷ノ正肋材カ船底ニ於テ交又スル角度カ六十度以下ナル部分並第一數三十以下ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

平板龍骨ニ斷切板内龍骨ヲ用ウル船舶ニ在リテハ前項ノ覆山形材ノ長ハ其ノ兩邊ノ和ノ四倍迄減スルコトヲ得

正肋材ヲ龍骨ノ上面以外ノ場所ニ於テ衝接スルトキハ第一項ニ規定スル覆山形材ヲ附スヘシ

第五十六條 梁一層ノミヲ備フル部分ニ於テハ副肋材ハ本條ノ規定ニ從ヒ艙内ノ深ニ依リ之ヲ達セシムヘキ高ヲ定ムヘシ

艙内ノ深七呎ヲ超エ九呎以下ナルトキハ副肋材ハ總テ彎曲上部迄達セシムヘシ

艙内ノ深九呎ヲ超エ十一呎以下ナルトキハ副肋材ハ一本置ニ彎曲上部迄ト船側縱通材ノ上部迄トニ達セシムヘシ艙内ノ深十一呎ヲ超エ十三呎以下ナルトキハ副肋材ハ一本置ニ船側縱通材ノ上部迄ト上甲板迄トニ達セシムヘシ艙内ノ深十三呎ヲ超エ二十七呎以下ナルトキハ副肋材ハ總テ上甲板迄達セシムヘシ

第五十七條 重構船ニ於テ二層以上ノ梁ヲ備フル部分ノ層梁間ノ高八呎ヲ超エサルトキハ副肋材ハ一本置ニ上甲板迄ト第二層梁ノ梁上側板迄トニ達セシムヘシ

第五十八條 副肋材ヲ附シタル溝形肋骨ヲ用ウル船舶ニ在リテハ副肋材ハ最下甲板迄達セシムヘシ

第五十九條 最下層梁カ特設艙梁ナルトキハ副肋材ハ總テ直上ノ甲板迄達セシムヘシ



**第六十條** 汽機室及汽鐘室ニ於テハ肋骨毎ニ肋板ノ他面ニモ副肋材ヲ附シテ之ヲ彎曲上部迄達セシムヘシ但シ第二數一萬一千以下ノ船舶ニ在リテハ汽鐘室ニ於ケル増設副肋材ハ汽鐘ノ重量ヲ支フル肋骨毎ニ附スルモ妨ナシ

第二數一萬一千ヲ超ユル汽船ニ在リテハ前項ノ増設副肋材ハ之ニ彎曲上部ニ於ケル縦通材ヲ固著シ得ヘキ高迄達セシムヘシ

**第六十一條** 副肋材ノ銜接ニハ覆山形材ヲ附シ其ノ兩邊ハ接合ノ兩側ニ於テ各三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ固著スヘシ但シ副肋材ノ各邊ノ幅二吋半以下ナルトキハ鉸釘ノ數ハ二箇ト爲スコトヲ得

**第六十二條** 第二數一萬五千ヲ超ユル汽船ノ船尾艙ニ於ケル副肋材ハ上甲板迄達セシムヘシ但シ輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ第二甲板ニ止ムルモ妨ナシ

**第六十三條** 層梁間ノ高八呎ヲ超ユル船舶、二層以上ノ梁ヲ有スル輕構船、全通船樓船、遮浪甲板船及長キ船樓、低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ノ層梁間ノ肋骨ノ寸法及副肋材ヲ達セシムヘキ高ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

**第六十四條** 高速力ノ汽船ノ船尾部ニ於テハ適當ノ高ニ達

スル二重正肋材ヲ設クルカ又ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第六章 肋板

**第六十五條** 船ノ中心線ニ於ケル肋骨ノ寸法ハ第四號表ニ依ルヘシ但シ其ノ厚ハ同表ニ掲クルモノヨリ汽機室ニ於テハ〇・〇四吋、汽鐘室ニ於テハ〇・一時増スヘシ

輕構船ニ在リテハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ其吃水ニ應ジ肋骨ノ寸法ヲ増スヘシ

船ノ中心線ヨリ正肋材ニ沿ヒテ船ノ幅ノ八分ノ三ニ相當スル箇所ニ於ケル肋骨ノ深ハ中心線ニ於ケル深ノ二分ノ一ヨリ少カルヘカラス但シ船底ノ形狀扁平ナルトキハ適當ニ之ヲ増シ又銳尖ナルトキハ適當ニ之ヲ減スルコトヲ得

肋板ノ深ハ其ノ兩端ニ於テハ正肋材ノ横邊ノ幅ヨリ少カルヘカラス

龍骨ノ上面ヨリ測リタル肋板ノ兩端外縁ノ高ハ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ一間ハ中心線ニ於ケル深ノ二倍ト爲シ其ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ中心線ニ於ケル深迄減スルコトヲ得但シ船ノ首尾ニ於テハ漸次肋板ノ深ヲ増シ兩舷ノ固著ヲ充分ナラシムヘシ

スル船尾骨材ノ厚ノ六倍ヨリ少カルヘカラス又其ノ厚ハ船ノ首尾ニ於ケル船底外板ノ厚ニ等シクスヘシ

第七章 特設肋骨

**第七十二條** 特設肋骨、特設肋骨間側板及中間肋骨ヲ以テ普通肋骨及船側縦通材ニ代用スルトキハ特設肋骨間ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ六倍ト爲シ其寸法及肋骨ノ心距ハ第五號表ニ依ルヘシ

**第七十三條** 特設肋骨間側板ヲ特設肋骨ニ固著スル二重山形材並特設肋骨及特設肋骨間側板ヲ外板ニ固著スル山形材ノ厚ハ第五號表ニ掲クル特設肋骨ノ厚ニ等シクス又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半、徑一時ナルトキハ四吋ト爲スヘシ

幅二十四吋ヲ超ユル特設肋骨ハ二重山形材又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル單山形材ヲ以テ外板ニ固著スヘシ但シ單山形材ヲ用ウルトキハ之ヲ二列釘固著ト爲スコトヲ要ス

**第七十四條** 特設肋骨間側板ノ内縁ニ附スル山形材ハ特設肋骨毎ニ第五號表ニ掲クル覆板ヲ以テ之ヲ接續スヘシ

**第七十五條** 特設肋骨ノ上端ニ取付クル甲板梁ノ肘板ノ幅及深ハ特設肋骨ノ幅ニ等シクス其ノ各枝ハ二列釘固著ト

**第六十六條** 肋板ハ正肋材毎ニ取附クヘシ

**第六十七條** 中心線貫通板ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ兩側ニ於テ肋板ノ兩面ニ厚ハ貫通板ノ厚ニ等シクス又其ノ兩邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半ヲ有スル豎山形材ヲ附シテ肋板ト貫通板トヲ固著スヘシ

**第六十八條** 肋板ヲ二倍以上ニテ構造スルトキハ其ノ接合ハ第十八號表ニ依リ其ノ位置ハ適當ニ避距スヘシ

**第六十九條** 肋板、中心線貫通板及斷切内龍骨板ニハ塗水孔ヲ穿ツヘシ

**第七十條** 船尾艙ニ於テハ肋骨ヲ船尾管ノ上部迄達セシムヘシ但シ船形肥滿セル爲肋板ヲ船尾管ノ上部迄達セシメ難キトキハ船尾管ノ上部ニ適當ノ兩舷結合板ヲ取附ケ該板ノ上下兩端ヲ曲線ト爲スカ又ハ該板ノ上下兩端ニ山形材ヲ附シテ之ヲ防撓シ且該板上ニ側板ヲ附シテ之ヲ外板ニ固著スヘシ

船尾艙ニ於ケル肋板及兩舷結合板ト肋骨トヲ固著スル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ヲ超ユヘカラス

**第七十一條** 船尾肋板ノ深ハ第一號表ニ掲クル螺旋孔ヲ有



爲スヘシ但シ肘板ノ幅ハ特設肋骨ノ内縁ヨリ又其ノ深ハ肋骨ノ下端ヨリ測リタルモノトス

前項ノ肘板ハ其ノ内縁ヲ曲線ト爲スヘシ

**第七十六條** 特設肋骨間側板ハ其ノ幅十六吋ヲ超エ十八吋以下ナルトキハ特設肋骨間ノ中央ニ於テ、幅十八吋ヲ超ユルトキハ肋骨一本置ニ間側板ニ等シキ厚ヲ有スル肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ

**第七十七條** 特設肋骨ノ上部ニ於ケル甲板間ノ肋骨ハ中間ノ肋骨ト同一強力ト爲スヘシ

**第七十八條** 特設肋骨ヲ有スル一層甲板船ノ副肋材ハ上甲板ノ梁上側板迄達セシムヘシ

**第七十九條** 特設肋骨ヲ有シ二層以上ノ梁ヲ備フル重構船ニ於テ層梁間ノ高八呎ヲ超エサルトキハ副肋板ハ一本置ニ上甲板迄ト第二層梁ノ梁上側板迄トニ達セシムヘシ  
特設肋骨間側板間ノ距離及最下間側板ト中心線ニ於ケル普通肋骨ノ上面又ハ二重底ノ縁板ノ上面トノ距離ハ船ノ各部ニ於テ八呎ヲ超ユヘカラス

**第八十條** 層梁ノ高八呎ヲ超ユル船舶、二層以上ノ梁ヲ有スル輕構船、全通船樓船、遮浪甲板船及長キ船樓、低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ノ層梁間ノ肋骨ノ寸法及

要ス

**第八十五條** 中心線斷切板内龍骨ノ斷切板ハ二重山形材ヲ以テ肋板ニ固著スヘシ此ノ場合ニ於ケル山形材ノ厚ハ斷切板ノ厚ニ等シクシ又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半ヨリ少カルヘカラス

**第八十六條** 中心線貫通板内龍骨ノ貫通板ハ肋板ノ上端迄達セシメ且肋板上ニ幅ハ二十四吋厚ハ貫通板ノ厚ニ等シキ礎板ヲ設ケ貫通材ノ上端兩面ニ附スル山形材ニ固著スヘシ但シ貫通板ヲ肋板ノ上部ニ延長スルトキハ其ノ兩側ニ幅十二吋ノ礎板ヲ設クヘシ

第二數一萬ヲ超エ一萬七千二百以下ナルトキハ第六號表ニ掲クル二重球山形材ヲ礎板上ニ取附ケ又第二數一萬七千二百ヲ超エ三萬六千以下ナルトキハ貫通板ヲ第六號表ニ掲クル高迄肋板上ニ延長シ且礎板、四箇ノ山形材及貫通板ノ厚ニ等シキ厚ヲ有スル冠板ヲ取附クヘシ

**第八十七條** 翼内龍骨ハ斷切板ヲ以テ外板ニ固著スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於ケル外板トノ固著山形材ノ厚ハ斷切板ノ厚ニ等シクシ又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘

副肋材ヲ達セシムヘキ高ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八章 内龍骨

**第八十一條** 内龍骨ヲ構造スル各材ノ寸法ハ第六號表ニ依ルヘシ

内龍骨ハ船ノ首尾ニ縱通セシムヘシ

**第八十二條** 内龍骨ノ下部ハ副肋材及肋板ノ他面ニ三箇以上ノ鉸釘ヲ以テ取附ケタル短山形材又ハ副肋材ヲ内龍骨ノ下部ニ於テ銜接スル場合ニ於テハ副肋材ノ銜接用覆山形材ニ固著スヘシ

**第八十三條** 肋板上ニ堅板、四箇ノ山形材及冠板ヲ以テ構造スル内龍骨ノ上端ニ附スル山形材ハ其ノ廣邊ヲ水平ニ置キ且中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ハ其ノ上面ニ厚ハ堅板ノ厚ニ等シク幅ハ山形材ノ上邊ノ和ヨリ一時多キ冠板ヲ取附クヘシ

**第八十四條** 肋板上ニ設クル中心線内龍骨ハ第二數四千七百以下ナルトキハ二重球山形材ヲ以テ第二數四千七百ヲ超エ三萬六千以下ナルトキハ堅板、四箇ノ山形材及冠板ヲ以テ構造スヘシ但シ第二數二萬六千ヲ超ユルトキハ幅十八吋厚〇・五吋ノ礎板ヲ肋板ノ上面ニ取附クルコトヲ

ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半ヨリ少カルヘカラス

**第八十八條** 幅二十七呎以下ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ翼内龍骨ヲ設クヘシ  
幅二十七呎ヲ超エ五十呎以下ノ船舶ニ在リテハ二箇ノ翼内龍骨ヲ設クヘシ

**第八十九條** 翼内龍骨ヲ堅板、四箇ノ山形材及冠板ヲ以テ構造スルトキハ中心線ニ近キ翼内龍骨ノ堅板ハ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ノ前後ニ於テ、中心線ニ遠キ翼内龍骨ノ堅板ハ中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ノ前後ニ於テ漸次其ノ深ヲ減シテ堅板ノ下端ニ附スル山形材ノ堅邊ノ幅ニ等シクスヘシ又冠板ハ之ヲ延長スルコトヲ要セ

**第九十條** 幅五十呎ヲ超エ五十四呎以下ノ船舶ニ在リテハ本章第八十八條第二項ニ規定スル二箇ノ翼内龍骨ノ外二重山形材及斷切板ヲ以テ構造スル彎曲部内龍骨ヲ設クヘシ

**第九十一條** 内龍骨ノ山形材及球山形材ノ接合ハ適當ニ避距シ其ノ銜接ニハ長ハ二呎以上厚ハ固著スヘキ山形材又ハ球山形材ノ厚ニ等シキ覆山形材又ハ覆板ヲ取附クヘシ



内龍骨ヲ構造スル諸板ノ横縁固著ハ第十八號表ニ依ルヘシ但シ堅板ノ横縁ハ之ヲ衝接ト爲シ其ノ厚ノ二分ノ一ニ〇・一四吋ヲ加ヘタル厚ヲ有スル二重覆板ヲ附スルカ又ハ之ヲ累接ト爲スヘシ

第九章 船側縦通材

第九十二條 船側縦通材ノ寸法ハ第七號表ニ依ルヘシ

第九十三條 船側縦通材ハ船内ノ深七吋ヲ超エ十四吋以下ナルトキハ一箇、船内ノ深十四吋ヲ超エ二十一吋以下ナルトキハ二箇、船内ノ深二十一吋ヲ超エ二十七吋以下ナルトキハ三箇ヲ設クヘシ

船ノ首尾ニ於ケル船側縦通材間ノ距離ハ船ノ中央部ニ於ケルモノヨリ大ナルヘカラス

第九十四條 船側縦通材ハ第七號表ニ掲クル山形材ヲ肋骨ノ内面ニ取附ケ第三號甲表ニ掲クル肋骨ノ深三吋ヲ超ユルトキ又ハ第三號乙表ニ掲クル肋骨ノ深四吋ヲ超ユルトキハ斷切板ヲ附シ山形材ヲ以テ外板ニ固著シタルモノト爲スヘシ

前項ノ外材ニ附スル山形材ノ厚ハ斷切板ノ厚ニ等シクシ又其ノ各邊ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分

材ノ寸法及固著方ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ二重底用材ノ厚ハ第八號甲表ニ掲グルモノヨリ〇・〇四吋以内減スルコトヲ得但シ肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル二重底ニ於ケル肋板ヲ附セサル副肋材ノ厚ハ〇・二六吋其ノ他ノ各材ノ厚ハ〇・二八吋ヨリ少カルヘカラス

第九十九條 二重底ノ内底板及水艙ノ頂板ニハ密閉シ得ヘキ出入口ヲ設ケ之ニ鐵製又ハ鋼製ノ蓋板ヲ備ヘ且内底板又ハ頂板ノ厚〇・三六吋以下ニシテ螺釘ヲ以テ蓋板ヲ内底板又ハ頂板ニ取附クルトキハ其ノ周圍ニ縁環ヲ取附クヘシ

船艙ノ二重底上ニ内張板ナキ場合ニ於テ出入口ノ蓋板又ハ其ノ取附金具ニ突起アルトキハ該口ノ周圍ニ縁材ヲ取附ケ木製又ハ鋼製ノ蓋ヲ設クヘシ

二重底ノ桁板及區畫式二重底ノ肋板ニハ人孔、充分ナル通氣孔及通水孔ヲ設クヘシ但シ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ニ於ケル中心線桁板ニハ人孔ヲ設クヘカラス

第一百條 二重底及水艙ハ水密ニ構造シ之ニ充分ノ排氣管ヲ設ケ内部ノ通氣ヲ充分ナラシムヘシ船首尾水艙及艙内水艙ニハ中央部ニ於テ制水板ヲ設ケ又艙内水艙ニ在リテハ

ノ七吋ナルトキハ三吋半、徑一吋ナルトキハ四吋ト爲スヘシ

第九十五條 船側縦通材ノ山形材ハ肋骨毎ニ二箇以上ノ鉸釘ヲ以テ副肋材又ハ肋骨ニ取附ケタル短山形材ニ固著シ隔壁ニ於テハ之ヲ止メ船側ニ於テ肋骨ノ心距ノ二倍、隔壁ニ於テ肋骨ノ心距ニ等シキ枝幅ヲ有シ厚ハ斷切板ノ厚ニ〇・〇六吋ヲ加ヘタル肘板及單山形材ヲ以テ隔壁ニ固著スヘシ

第九十六條 各縦通材ノ接合ハ適當ニ避距シ山形材ノ衝接ニハ厚ハ山形材ノ厚ニ等シク長ハ二呎以上ノ覆山形材又ハ覆板ヲ取附クヘシ又斷切板ハ成ルヘク長材ヲ使用シ其ノ衝接ニハ覆板ヲ取附クヘシ

第九十七條 船側外板ノ厚ヲ適當ニ増ストキハ船側縦通材ハ船ノ首尾部ヲ除クノ外之ヲ設ケサルモ妨ナシ此ノ場合ニ於テハ船側縦通材ヲ附スヘキ位置ニ支水障壁ノ前後ニ於テ本章第九十五條ニ規定スル肘板ヲ設クヘシ

第十章 二重底及水艙

第一節 總則

第九十八條 二重底用材ノ寸法及固著方ハ第八號甲表及乙表ニ依ルヘシ但シ一部ニ二重底ヲ設クル場合ニ於テハ各

其ノ兩側ニ於テ斷切板梁下縦通材ヲ設ケ之ニ側梁柱ヲ取附クヘシ但シ小ナル水艙ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 二重底ニ於テハ特設肋骨ヲ設ケ船側ヲ補強スヘシ但シ小ナル水艙ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百條 機關室ニ二重底ヲ備ヘ之ニ塗水溜ヲ設クルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以内ト爲スヘシ艙内ニ設クル塗水溜ハ成ルヘク之ヲ短クスヘシ

機關室及艙内ニ設クル塗水溜ノ塗水孔ニハ不還瓣ヲ設クヘシ

第一百一條 二重底全通セサルトキハ彎曲部内龍骨及翼内龍骨ハ之ヲ肋骨ノ心距ノ三倍ノ間ニ二重底内ニ延長シテ縦通桁板ニ固著スルカ又ハ縦通桁板ヲ二重底外ニ延長シテ之ニ該内龍骨ヲ固著スヘシ

二重底内ノ側桁板ハ成ルヘク之ヲ首尾ニ延長スヘシ中心線桁板ニ隣接スル側桁板ハ船首船底ノ形狀鋭尖ナル場合ヲ除クノ外成ルヘク之ヲ船首隔壁迄達セシムヘシ

二重底内ノ側桁板間ノ距離六吋ヲ超ユル部分ノ水密肋板ニハ側桁板間ノ中央ニ於テ肋板ニ附スル正肋材ニ等シキ山形材ヲ堅ニ取附クヘシ



**第三百三條** 二重底ハ船ノ滿載吃水ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

船首尾水艙及艙内水艙ニハ其ノ頂板上八呎ヨリ少カラス且滿載吃水線ヨリ少カラサル高ニ相當スル水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ但シ水艙頂板上甲板ナルトキハ検査官吏ノ見込ニ依リ頂板上四呎ニ相當スル水高壓力ヲ以テ試驗スルコトヲ得

**第三百四條** 汽機室ノ各肋板及汽機室ヲ支フル肋板上端兩面ニハ機關臺ノ外側ニ隣接スル桁板間ニ於テ山形材ヲ附スヘシ

**第三百五條** 縁板ノ上邊ヲ除キタル幅ハ第八號甲板ニ掲クル寸法ト爲スヘシ但シ船尾ヨリ船ノ長ノ五分ノ一間ニ於テハ漸次之ヲ減シ船尾端ニ於テ同表ニ掲クル幅ノ百分ノ八十五ト爲スコトヲ得

**第三百六條** 縁板ノ外部ニ附スル肘板ハ彎曲上部ニ於テ第八號甲板ニ掲クル高迄達セシムヘシ但シ船尾ヨリ船ノ長ノ四分ノ一間ニ於テハ漸次之ヲ減シ船尾端ニ於テ二重底ノ高ニ等シクスルコトヲ得

**第三百七條** 縁板ヲ肋板又ハ縁板ノ外部ニ附スル肋板ニ固著スル豎山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數及徑ハ左表ニ依ル

| 縁板ノ上邊ヲ除キタル幅   | 豎山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數 | 鉸釘ノ徑  |
|---------------|-----------------|-------|
| 十九吋ヲ超エ二十四吋 以下 | 五               | 四分ノ三吋 |
| 二十四吋ヲ超エ二十八吋以下 | 六               | 四分ノ三吋 |
| 二十八吋ヲ超エ三十吋 以下 | 六               | 八分ノ七吋 |
| 三十吋ヲ超エ三十五吋 以下 | 七               | 八分ノ七吋 |
| 三十五吋ヲ超エ四十吋 以下 | 八               | 八分ノ七吋 |
| 四十吋ヲ超エ四十四吋 以下 | 九               | 八分ノ七吋 |

ヘシ但シ二重山形材ヲ以テ肘板ヲ縁板ニ固著スル場合ニ於テハ鉸釘ノ數ハ同表ニ掲クルモノヨリ一箇減スルコトヲ得

**第三百八條** 縁板ノ外部ニ附スル肘板ノ船側ニ於ケル幅及肘板ト正肋材トノ固著鉸釘ノ數ハ縁板ニ於ケル肘板ノ幅及縁板ト肘板トノ固著用豎山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數ヨリ少カルヘカラス

**第三百九條** 撥形板又ハ其ノ他ノ帶板等ヲ以テ内底板ト縁板ノ外部ニ附スル肘板トヲ固著スルトキハ縁板上邊ノ幅ハ内底板ノ外側ニ於テ撥形板等ヲ取附クルニ充分ナルコトヲ得

トヲ要ス

**第三百十條** 特設肋骨ハ二重山形材ヲ以テ縁板ニ固著スヘシ特設肋骨ノ幅十五吋ヲ超エ十七吋以下ナルトキハ特設肋骨毎ニ、幅十七吋ヲ超エ二十吋以下ナルトキハ特設肋骨毎及各特設肋骨間ノ中央ニ、幅二十吋ヲ超エ二十六吋以下ナルトキハ肋骨一本置ニ、幅二十六吋ヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ撥形板又ハ適當ノ山形材ヲ以テ特設肋骨又ハ肋骨ト内底板トヲ固著スヘシ

**第三百十一條** 汽機室ニ於ケル二重底用山形材ハ外板ニ附シ且「セメント」ヲ以テ蔽被スルモノヲ除クノ外第八號甲板ニ掲クル厚ヨリ〇・一時其ノ厚ヲ増スヘシ

**第三百十二條** 縁板ト外板トヲ固著スル山形材ヲ除キ其ノ他ノ二重底用山形材ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間前後ニ於テハ左表ニ依リ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

| 中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル山形材ノ厚 | 船ノ首尾ニ於テ減シ得ヘキ厚 |
|-------------------------|---------------|
| 〇・四吋ヲ超エ〇・五吋 以下          | 〇・〇二吋         |
| 〇・五吋ヲ超エ〇・六吋 以下          | 〇・〇四吋         |
| 〇・六吋ヲ超エ〇・七吋 以下          | 〇・〇六吋         |

**第三百十三條** 二重底ノ構造ニ於テ肋板、肘板、斷切桁板等ニ曲線鋼板ヲ使用スルトキハ其ノ接面ノ幅ハ該部ニ用ウヘキ規定ノ山形材ノ邊ノ幅ヨリ少カルヘカラス

二重底ノ肋板又ハ肘板ヲ其ノ下端ニ於テ曲線ト爲シ外板ニ固著スルトキハ該板ノ厚ハ第八號甲板ニ掲クルモノヨリ〇・二〇吋増スヘシ

**第三百十四條** 汽機室及汽機室ニ於ケル區畫式二重底ノ肋板ハ二重山形材ヲ以テ中心線桁板ニ固著スヘシ

第一數六十六ヲ超ユル船舶ニ在リテハ區畫式二重底ノ肋板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ハ二重山形材ヲ以テ中心線桁板ニ固著スヘシ

**第三百十五條** 高速力ノ汽船ニ在リテハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ機關室ニ於ケル内底板ト縁板ノ外部ニ附スル肘板トノ固著ニ肋骨毎ニ撥形板ヲ附セシメ又ハ其ノ代リニ帶板ヲ附セシムルコトヲ得

**第三百十六條** 内底板ハ縦ニ之ヲ取附ケ其ノ横線ハ交互ニ且中心線桁板ノ横線ト避距シ又縦線ハ桁板ト適當ニ隔離スヘシ

**第三百十七條** 汽機床ヲ直ニ内底板ニ固著スルトキハ該部ニ於ケル内底板ノ厚ハ中央部ニ於ケル艙内内底板ノ厚ノ約



二倍ト爲シ且必要ニ應シ其ノ縱横線ノ固著釘ヲ増スヘシ  
**第一百八條** 船首尾水艙ノ頂板ニ於テ正肋材及副肋材ヲ切斷スルトキハ肋骨毎ニ又副肋材ノミヲ切斷スルトキハ肋

骨一本置ニ肋板ヲ以テ之ヲ頂板ニ固著スヘシ該肋板ノ厚ハ正肋材ノ厚ニ等シクシ又其ノ幅及固著鉸釘ハ左表ニ依ルヘシ

| 第一        | 數  | 外板ノ内面ヨリ測リタル肋板ノ幅 | 鉸釘ノ數 | 鉸釘ノ徑  |
|-----------|----|-----------------|------|-------|
| 二十三ヲ超エ四十二 | 以下 | 十               | 四    | 八分ノ五吋 |
| 四十二ヲ超エ五十四 | 以下 | 十               | 四    | 四分ノ三吋 |
| 五十四ヲ超エ六十三 | 以下 | 二十              | 五    | 四分ノ三吋 |
| 六十三ヲ超エ七十五 | 以下 | 二十              | 六    | 四分ノ三吋 |
| 七十五ヲ超エ八十七 | 以下 | 二十              | 七    | 四分ノ三吋 |
| 八十七ヲ超エ九十九 | 以下 | 三十              | 七    | 八分ノ七吋 |

第二節 肋骨毎ニ肋板ヲ有スル

區畫式二重底

**第一百九條** 肋骨毎ニ中心線桁板ヨリ縁板迄貫通スル肋板ヲ以テ區畫式二重底ヲ構造スルトキハ中心線桁板ト縁板トノ間ニ設クル斷切側桁板ノ數ハ船ノ幅ト中央部ニ於ケル内底板ノ幅トノ中其ノ多キモノニ從ヒ左表ニ依ルヘシ

| 船ノ幅          | 中央部ニ於ケル内底板ノ幅  | 各側ニ於ケル側桁板ノ數 |
|--------------|---------------|-------------|
| 五十呎以下        | 三十六呎以下        | 一           |
| 五十呎ヲ超エ六十呎以下  | 三十六呎ヲ超エ四十八呎以下 | 二           |
| 六十呎ヲ超エ七十二呎以下 | 四十八呎ヲ超エ六十呎以下  | 三           |

**第二十條** 汽機室ニ於テハ適當ニ側桁板ノ數ヲ増スヘシ  
**第二十一條** 二重底ノ部分ニ於ケル外板ハ平板龍骨及龍骨翼板ヲ除クノ外厚〇・五二吋ナルトキハ〇・〇二吋、厚〇・五四吋以上〇・六四吋以下ナルトキハ〇・〇四吋、厚〇・六六吋ナルトキハ〇・〇二吋第十四號表ニ掲クル厚ヨリ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第三節 肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底

**第二十二條** 長四百呎ヲ超ユル船舶及深二十六呎ヲ超ユル一層甲板船ノ二重底ハ本節ノ規定ニ依ルヘカラス  
**第二十三條** 肋骨一本置ニ附シタル肋板ヲ以テ區畫式二重底ヲ構造スルトキハ中心線桁板ト縁板トノ間ニ設クル斷切側桁板ノ數ハ船ノ幅ト中央部ニ於ケル内底板ノ幅トノ中其ノ多キモノニ從ヒ左表ニ依ルヘシ

| 船ノ幅          | 中央部ニ於ケル内底板ノ幅  | 各側ニ於ケル側桁板ノ數 |
|--------------|---------------|-------------|
| 三十四呎以下       | 二十八呎以下        | 一           |
| 三十四呎ヲ超エ五十呎以下 | 二十八呎ヲ超エ三十六呎以下 | 二           |

**第二十四條** 船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ト船首隔壁トノ間及汽機室ニ於テハ肋骨毎ニ肋板ヲ設クヘシ又汽機室ノ下ニハ肋板ヲ設クヘシ

**第二十五條** 肋板ヲ附セサル肋骨ノ位置ニハ第八號表ニ掲クル正肋材ヲ外板ニ、副肋材ヲ内底板ノ下面ニ取附クヘシ但シ側桁板ノ數ヲ増スカ又ハ内底板ノ厚ヲ〇・〇四吋増ストキハ副肋材ハ之ヲ取附ケサルモ妨ナシ

**第二十六條** 二重底内ノ肋板ヲ附セサル肋骨ニハ中心線桁板及縁板ヲ固著スル爲メ肋板ヲ設クヘシ又第二數二萬ヲ超ユル船舶ニ在リテハ肋板ノ頂部ノ幅ハ中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ハ副肋材ニ三箇ノ鉸釘ヲ以テ固著スルニ充分ナルコトヲ要ス

**第二十七條** 前二條ノ規定ハ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**第二十八條** 側桁板ニハ肋板ヲ附セサル肋骨ノ位置ニ於テ堅山形材ヲ附シ成ルヘク之ヲ二個以上ノ鉸釘ヲ以テ正肋材及副肋材ニ固著スヘシ

第十一章 船首船底ノ補強構造

**第二十九條** 船首船底ニ於テハ本章ノ規定ニ依リ補強構造ヲ爲スヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニハ本章第三百三十



一條第三百三十二條但書、第三百三十三條及第三百三十五條ノ規定ヲ適用セス

**第三百三十條** 船底外板ト正肋材トヲ固著スル鉸釘ノ心距ハ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一間ニ於テハ釘徑ノ五・五倍ヲ超ユヘカラス

**第三百三十一條** 肋骨毎ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底ヲ備フル場合ニ於テハ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ前方ニ中心線桁板ノ高ノ二分ノ一ノ高ヲ有スル増設斷切桁板ヲ兩舷ニ設ケ充分之ヲ船首ニ延長スヘシ

**第三百三十二條** 肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底ヲ備フル場合ニ於テハ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ前方船首隔壁ニ至ル間肋骨毎ニ肋板ヲ附シ且側桁板ヲ充分船首ニ延長スヘシ但シ該部ニ於ケル側桁板ノ數カ前條ノ規定ニ依ルモノヨリ少キトキハ前條ノ増設斷切桁板ヲ設クヘシ

**第三百三十三條** 船首部ニ二重底ヲ備ヘサル場合ニ於テハ船首ヨリ船ノ長ノ十分ノ一ニ相當スル箇所ト五分ノ一ニ相當スル箇所トノ間斷切板翼内龍骨ヲ増設スヘシ

**第三百三十四條** 船首ヨリ船ノ長ノ十分ノ一ニ相當スル箇所ト五分ノ一ニ相當スル箇所トノ間正肋材ハ船首部ニ二

船尾管ハ水密ナル場所ニ之ヲ設クヘシ

**第三百二十九條** 長二百二十呎以下ノ汽船ニ於テ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ支水隔壁ノ數ハ三箇ト爲スモ妨ナシ

長二百二十呎ヲ超エ二百八十五呎以下ノ汽船ニ於テ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ間ニ二個ノ支水隔壁ヲ増設スヘシ

長二百八十五呎ヲ超エ三百三十五呎以下ノ汽船ニ在リテハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ間ニ二個ノ支水隔壁ヲ増設スヘシ但シ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ間ニ三箇ノ支水隔壁ヲ増設スヘシ

長三百三十五呎ヲ超エ四百五呎以下ノ汽船ニ在リテハ前項ニ掲クル隔壁ノ外更ニ船尾隔壁ト機關室後端ノ隔壁トノ間ニ二個ノ支水隔壁ヲ増設スヘシ但シ機關室ヲ船尾ニ設クルトキハ船首隔壁ト機關室前端ノ隔壁トノ間ニ三箇ノ支水隔壁ヲ増設スヘシ

重底ヲ備フル場合ニ於テハ縁板ヨリ縁板迄、船首部ニ二重底ヲ備ヘサル場合ニ於テハ彎曲部ヨリ彎曲部迄之ヲ二重ト爲スヘシ

**第三百三十五條** 龍骨ニ隣接スル外板三條ノ厚ハ船首ヨリ船ノ長ノ十分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ中央ニ至ル間中央部ニ要スル外板ノ厚ヨリ減スルコトヲ得ス

**第三百三十六條** 船尾ニ機關室ヲ有スル第二數一萬以下ノ汽船ニ在リテハ船首ヨリ船ノ長ノ十分ノ一ニ相當スル箇所ト四分ノ一ニ相當スル箇所トノ間本章ノ規定ニ依ル補強構造ヲ爲スヘシ但シ本章第三百三十四號ノ二重正肋材ノ代リニ第三號甲板ニ掲クル船首尾艙ノ正肋材ト同寸法ノ中間肋骨ヲ肋板ト肋板トノ間ニ設クルモ妨ナシ

**第三百三十七條** 本章ノ規定ニ依リ補強構造ヲ爲スヘキ部分ニ於ケル肋板及側桁板ハ之ヲ曲線ト爲スヘカラス

第十二章 支水隔壁、支水甲板及車軸隧道

**第三百三十八條** 汽船ニハ首尾及機關室前後ニ支水隔壁ヲ設クヘシ  
船首隔壁ハ滿載吃水線ニ於テ船首材ノ前面ヲ距ルコト船ノ長ノ十分ノ一ヨリ少カラサル所ニ之ヲ設クヘシ

**第三百四十條** 前二條ノ隔壁ハ之ヲ上甲板迄達セシムヘシ但シ船首隔壁ヲ除キ其ノ他ノ隔壁ハ全通船樓船及遮浪甲板

船ニ在リテハ之ヲ第二甲板ニ止メ又二層以上ノ甲板ヲ有スル輕構造船ニ在リテハ其ノ吃水ニ應シ検査官吏ノ見込ニ依リ之ヲ第二甲板ニ止ムルコトヲ得

前二條ノ隔壁ハ低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ検査官吏ノ見込ニ依リ其吃水ニ應シ之ヲ適當ニ船樓甲板ニ達セシムヘシ

前二條ノ隔壁ハ本條第四項ノ場合ヲ除クノ外船ノ長ノ中中央ニテ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面ガ海水中ニ於ケル最高滿載吃水線以上ニ在ル甲板ニ達セシムルコトヲ要ス

滿載吃水線以上ニ在ル甲板ヲ船尾隔壁ヨリ船尾迄水密ニ構造スルトキハ船尾隔壁ハ之ヲ該甲板ニ止ムルコトヲ得

**第三百四十一條** 長キ船樓ノ甲板ト上甲板トノ間ニ於テハ支水隔壁ヲ船樓甲板ニ達セシメザルトキハ支水隔壁ノ上部ニ部分隔壁ヲ設クヘシ支水隔壁ヲ第二甲板ニ止ムル船舶

ノ上甲板ト第二甲板トノ間ニ於テモ亦同シ  
支水隔壁ヲ本章ニ規定スル適當ノ位置ニ取附ケ難キトキハ部分隔壁ヲ附シテ船體ヲ補強スヘシ

**第三百四十二條** 支水隔壁板ノ厚ハ第九號甲板ニ依ルヘシ但



シ防撓材ノ心距カ三十吋ト三十六吋トノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ之ヲ定ムヘシ

最下部ニ於ケル隔壁板ハ二重底アル場合ニ於テハ二重底ノ上面ヨリ其ノ他ノ場合ニ於テハ龍骨ノ上面ヨリ其ノ高ヲ三十六吋ト爲シ其ノ厚ハ第九號甲表ニ掲クル厚ヨリ〇・〇四吋増スヘシ但シ隔壁板ノ片面ノミニ二重底アル場合ニ於テハ二重底上面ヨリノ高ヲ十二吋ト爲スコトヲ得

汽罐又ハ石炭庫ニ面スル隔壁ノ最下部ニ於ケル隔壁板ハ其ノ厚ヲ第九號甲表ニ掲クルモノヨリ〇・一時増シ且汽罐ニ面スルモノハ汽罐室床板上ノ高ヲ二十四吋ト爲スヘシ  
塗水道ニ於ケル隔壁板ノ厚ハ第九號甲表ニ掲クルモノヨリ〇・一時増スヘシ

**第四百十三條** 支水隔壁ニハ第九號乙表又ハ丙表ニ掲クル防撓材ヲ堅ニ三十吋ノ心距ニ設クヘシ

防撓材ノ長又ハ防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高カ第九號乙表又ハ丙表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ防撓材ノ寸法ヲ定ムヘシ  
防撓材ノ寸法ヲ適當ニ増ストキハ其心距ヲ三十六吋迄増

側ニ於テ隔壁ノ下端ヨリ戸口上適當ノ高迄達スル防撓材板ヲ設クヘシ

甲板間支水隔壁ニ於テ支水戸ヲ設クル爲防撓材ノ心距ヲ増シタルトキハ其ノ寸法ヲ適當ニ増スヘシ此ノ場合ニ於ケル戸口ノ枠ハ防撓材ト看做スヘカラス

特設梁下縦通材ヲ取付クル隔壁ノ部分及特ニ重量物ヲ支フル隔壁ノ部分ニハ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

**第四百十七條** 船首尾水艙及艙内水艙ニ面スル隔壁並船首

隔壁ニ於テハ第九號乙表又ハ丙表ニ掲クル防撓材ヲ堅ニ二十四吋ノ心距ニ取付ケ隔壁板ノ厚ハ第九號甲表ニ掲クル防撓材ノ心距三十吋ナルトキノ隔壁板ノ厚ニ等シクスヘシ但シ水艙ニ面スル隔壁ニ於テハ防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高カ十二呎未滿ナルトキハ之ヲ十二呎ト看做シ防撓材及隔壁板ノ寸法ヲ定ムヘシ  
前項但書ノ規定ハ水艙カ隔壁ノ上端ニ達スル場合ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

長大ナル水艙ノ隔壁ハ防撓材板ヲ以テ適當ニ之ヲ補強スヘシ

**第四百十八條** 隔壁板ト外板、二重底及甲板トヲ固著スルニハ第九號甲表ニ掲クル隔壁板ノ厚ヨリ〇・一時厚キ單

スコトヲ得

**第四百十四條** 防撓材ノ上下兩端ハ第九號丁表ニ掲クル肘板又ハ短山形材ヲ以テ固著スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ肘板ノ枝幅ハ第九號乙表ニ掲クル防撓材ノ深ノ三倍ヨリ小ナルヘカラス  
防撓材ノ上下兩端ニ當ル甲板ニハ隔壁ニ十分ナル強力ヲ與フル爲適當ノ鋼板又ハ鋼甲板ヲ設クヘシ  
艙内ニ於ケル防撓材ノ下端ハ外板、二重底又ハ適當ノ平置板ニ之ヲ取附クヘシ

艙内ニ於ケル防撓材ノ下端ニ附スル肘板又ハ其ノ固著山形材ハ二重底ノ場合ニ於テハ隔壁ニ隣接スル肋板ニ達セシメ又上端ニ附スル肘板ハ隔壁ニ隣接スル梁ニ達スル山形材ニ固著スルカ、該梁ニモ固著スルカ又ハ適當ノ方法ニ依リ固著スヘシ

**第四百十五條** 船首隔壁ニハ塗水孔又ハ戸口ヲ、其ノ他ノ支水隔壁ニハ塗水孔ヲ設クヘカラス但シ船尾隔壁ニハ支水艙ヲ設クルコトヲ得

**第四百十六條** 支水隔壁ノ下部ニ支水戸ヲ設クル爲防撓材ヲ切斷シタルトキハ戸口ノ枠ハ適當ニ構造シ且戸口ノ兩

山形材ヲ用キ隔壁上端ヨリ深二十四呎ノ所迄ハ山形材ノ各邊ニ一列釘ヲ以テ固著シ其ノ下部ニ於テハ二列釘ヲ以テ固著スヘシ但シ水艙ノ隔壁板ト外板及二重底トハ二列釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ

前項ノ山形材ノ各邊ノ幅ハ一列釘固著ニシテ其ノ釘徑四分ノ三吋ナルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半、徑一時ナルトキハ四吋ト爲シ又二列釘固著ニシテ其ノ釘徑四分ノ三吋及八分ノ七吋ナルトキハ五吋、徑一時ナルトキハ六吋ト爲スヘシ

**第四百十九條** 支水隔壁板ノ縱橫緣固著ハ一列釘ト爲スヘシ但シ隔壁上端ヨリノ深三十五呎ヲ超ユル部分ニ於ケル橫緣ノ固著ハ二列釘ト爲スヘシ

**第四百十條** 支水甲板ニ於テ肋骨ノ貫通スル部分ハ鍛造山形材、鑄鋼又ハ鑄鐵ノ填材ヲ用キ水密ト爲スヘシ但シ水艙頂板ニ於テハ鑄鋼又ハ鑄鐵ノ填材ヲ用ウヘカラス

**第四百十一條** 船尾隔壁ニ於テ螺旋軸ノ貫通スル部分ハ填管環ヲ附シ且該部ノ隔壁板ヲ二重張ト爲スカ又ハ其ノ厚ヲ増スヘシ

**第四百十二條** 支水隔壁ニ風折セル部分アルトキハ該部ノ構造及寸法ハ隔壁ノ構造及寸法ニ等シクスヘシ



第五百十三條 船首尾水艙及艙内水艙ノ頂面ニハ支水甲板ヲ設クヘシ

支水隔壁ヲ規定ノ高迄同一肋骨ニ於テ達セシムルコト能ハサルトキハ上部隔壁ノ下端ト下部隔壁ノ上部トヲ接續スル爲支水甲板ヲ設クヘシ

第五百十四條 支水甲板ノ梁ハ肋骨毎ニ之ヲ取附ケ其ノ強力ハ該甲板ニ第九號乙表ニ掲クル防撓材ト第九號丙表ニ掲クル防撓材トノ中間ノ強力ヲ有スル梁ヲ心距三十吋ニ設ケタルトキト同一效力ト爲スヘシ但シ短キ梁ニシテ其ノ兩端ニ肘板ヲ附スルモノハ第九號乙表ニ掲クル防撓材ト同一寸法ノ梁ヲ心距三十吋ニ設ケタルトキト同一效力ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ第九號乙表及丙表ニ掲クル防撓材ノ寸法ヲ定ムルニハ梁ノ支點間ノ最大距離ヲ該表ノ防撓材ノ長ニ充テ又支水甲板ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高ヨリ梁ノ支點間ノ最大距離ノ二分ノ一ヲ減シタルモノ(水艙頂面ノ支水甲板ニ於テハ高十二呎未満ナルトキハ之ヲ十二呎ト看做ス)ヲ該表ノ防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高ニ充ツヘシ

支水甲板ノ厚ハ該甲板ヨリ支水隔壁ノ上端ニ至ル高(水

艙頂面ノ支水甲板ニ於テハ高十二呎未満ナルトキハ之ヲ十二吋ト看做ス)ヲ第九號甲表ニ掲クル防撓材ノ心距三十吋ナルトキノ隔壁ノ上端ヨリ隔壁板ノ下縁ニ至ル深ニ充テ該表ニ依リ定メタル隔壁板ノ厚ヨリ〇・〇四吋増スヘシ又梁ノ心距三十吋ヨリ異ナルトキハ適當ニ其ノ厚ヲ増減スヘシ

前三項ノ規定ニ拘ラス支水甲板梁及支水甲板ノ寸法ハ本編第十三章及第二十章ニ依ル梁及鋼甲板ノ寸法ヨリ小ナルヘカラス

支水甲板梁ニ取附クヘキ梁柱ノ上下兩端ノ固著釘ハ水壓力ニ耐フルニ充分ナル強力ヲ有スルコトヲ要ス

第五百十五條 區畫式二重底ニハ規定ノ支水隔壁ノ直下又ハ其ノ附近ニ水密肋板ヲ設クヘシ

艙内支水隔壁ニ設クル支水戸ハ滿載吃水線以上ノ甲板ヨリ之ヲ容易ニ開閉シ得ヘキ裝置ト爲シ且石炭庫ニ面スルモノハ成ルヘク之ニ直接石炭ヲ觸レシメサル裝置ト爲スヘシ

第五百十六條 縱通支水隔壁ノ構造及寸法ハ同高ノ橫置支水隔壁ノ構造及寸法ニ準スヘシ

第五百十七條 車軸隧道板ノ厚ハ扁平ナル側部ニ於テハ第

九號甲表ニ掲クル防撓材ノ心距三十六吋ナルトキノ隔壁板ノ厚ニ等シクシ圓形ナル頂部ニ於テハ同表ニ掲クル防撓材ノ心距三十六吋ナルトキノ隔壁板ノ厚ニ等シクスヘシ

艙口ノ直下ニ於テハ壁頂板ノ厚ヲ〇・一時以上増スカ又ハ厚二吋以上ノ木板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第五百十八條 車軸隧道ニハ第九號戊表ニ掲クル防撓材ヲ三十六吋ノ心距ニ取附ケ其ノ下端ハ壁頂板ノ下端ニ附スル山形材ニ固著スヘシ

隧道板ノ下端ニ附スル山形材ハ扁平ナル側部ニ於ケル隧道板ノ厚ヨリ〇・一時厚キモノヲ用キ一列釘ヲ以テ固著スヘシ

水艙ニ面スル車軸隧道板ニハ特ニ堅牢ナル防撓材ヲ取附クヘシ

第五百十九條 車軸隧道ハ機關室ヨリ船尾管ニ通行シ得ヘキ様水密ニ構造シ其前部ノ出入口ニハ支水戸ヲ備ヘ滿載吃水線以上ノ甲板ヨリ容易ニ開閉シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ但シ該甲板ヨリ各軸受及船尾管ニ達シ得ヘキ水密構造ノ昇降路ヲ設クルトキハ車軸隧道ハ通行シ得ヘカラサルモ妨ナシ

艙内ニ其ノ他ノ隧道ヲ設ケルトキハ其ノ構造及寸法ハ車軸隧道ノ構造及寸法ニ準スヘシ

第六十條 船首尾隔壁ハ船首尾艙ニ滿載吃水線ニ相當スル高迄水ヲ滿シ其ノ他ノ支水隔壁、支水甲板及車軸隧道等ニハ唧筒ヲ以テ布管内ノ水壓力三十封度以上ノ水ヲ注射シ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第六十一條 第二數一萬一千以下ノ汽船ニ在リテハ検査官吏ノ見込ニ依リ本章第四百十二條ニ規定スル支水隔壁ノ最上部ニ於ケル隔壁板ノ高及厚、本章第四百七條及第五百十四條ニ規定スル防撓材ノ上端ヨリ隔壁ノ上端ニ至ル高ノ制限並前條ニ規定スル布管内ノ水壓力ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

第十三章 梁

第六十二條 暴露甲板梁ノ梁矢ハ成ルヘク梁ノ長ノ五分ノ一ト爲スヘシ

第六十三條 各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ同一ノ肋骨ニ取附ケ且成ルヘク最上甲板迄副肋材ニ達スル肋骨ニ取附クヘシ



第六十四條

梁及梁柱ノ寸法ハ第十號甲表乃至丁表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ其ノ厚ヲ表ニ掲クルモノヨリ〇・〇二吋減スルコトヲ得

梁柱ノ代リニ肘板ヲ用ウルトキハ其ノ幅及深ハ梁柱ノ深ニ等シク又其ノ厚ハ梁柱ノ厚ニ等シクスヘシ

甲板間ノ高八呎六吋ヲ超エ之ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ其ノ下層ノ梁及梁柱ハ適當ニ其ノ寸法ヲ増スヘシ

第六十五條

梁ニ梁柱一列ヲ取附クルトキハ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ三分ノ二以下ノ長ヲ有スル梁ハ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第二行ニ掲クル寸法ト爲スコトヲ得

船ノ中央部ニ於ケル梁ニ梁柱二列ヲ取附クルトキハ梁柱列間ノ距離ハ船ノ幅ノ約三分ノ一ト爲シ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ三分ノ二以下ノ長ヲ有スル梁ハ之ニ梁柱一列ヲ取附ケ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第二行ニ掲クル寸法ト爲シ又船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル梁ハ之ニ梁柱一列ヲ取附ケ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第三行ニ掲クル寸法ト爲スコトヲ得

船ノ中央部ニ於ケル梁ニ梁柱二列ヲ取附クルトキハ梁柱列間ノ距離ハ船ノ幅ノ約三分ノ一ト爲シ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ三分ノ二以下ノ長ヲ有スル梁ハ之ニ梁柱一列ヲ取附ケ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第二行ニ掲クル寸法ト爲シ又船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル梁ハ之ニ梁柱一列ヲ取附ケ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第三行ニ掲クル寸法ト爲スコトヲ得

ニ掲クル寸法ト爲スコトヲ得

船ノ中央部ニ於ケル梁ニ梁柱三列ヲ取附クルトキハ梁柱列間ノ距離ハ船ノ幅ノ約四分ノ一ト爲シ船ノ首尾ヲ通シテ第十號甲表乃至丙表ノ各欄第三行ニ掲クル船ノ中央部ニ於ケル梁ト同寸法ノ梁ヲ用ウヘシ但シ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ四分ノ三以下ノ長ヲ有スル梁ハ梁柱二列ニ減シ又船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル梁ハ梁柱一列ニ減スルコトヲ得

第六十六條

船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長三十四呎ヲ超ユル甲板ニ球山形梁ヲ肋骨一本置ニ取附クル場合ニ於テハ該梁上ニ鋼甲板ヲ張詰ムルカ又ハ適當ナル梁上帶板及斷切板梁下縱通材ヲ以テ該梁ヲ補強スルコトヲ要ス

第六十七條

長十呎ヲ超ユル船口ノ兩端ニハ各甲板ニ於テ第十號乙表又ハ丙表ニ掲クル肋骨一本置ニ取附クヘキ梁ヲ設クヘシ

本編第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リ船口側縁材ヲ補強シタル場合ニ於テ船口ノ四隅ニ梁柱ノ設ナキトキハ船口端梁ヲ適當ニ補強スヘシ

第六十八條

各甲板ニ於ケル船口及其ノ他ノ甲板口ノ兩

一 支水甲板梁

二 深十五呎ヲ超ユル一層甲板船ノ上甲板梁(船樓下ノモノヲ除ク)

三 全通鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ木甲板ヲ張ラサル部分ノ上甲板梁(船樓下ノモノヲ除ク)及長船橋樓甲板梁

四 長四百五十呎ヲ超ユル船舶ノ上甲板梁(船樓下ノモノヲ除ク)及長船橋樓甲板梁

五 長四百五十呎ヲ超ユル幅六十六呎ヲ超ユル船舶ノ船橋樓ノ部分ニ於ケル上甲板梁

六 長四百五十呎ヲ超ユル幅六十六呎以下ノ船舶ノ船橋樓兩端ヨリ船橋樓内ニ船ノ長ノ十分ノ一ニ相當スル箇所迄ノ上甲板梁

七 鋼甲板ヲ要スル甲板ニ於ケル船口及其ノ他ノ甲板口ノ兩端ニ於テ木甲板ヲ張ラサル鋼甲板ニ附スル梁

八 肋骨ノ心距二十七吋ヲ超ユル部分ノ甲板梁

前項各號ニ該當セサル場合ト雖甲板梁ノ心距ハ肋骨ノ心距ノ二倍ヲ超ユヘカラス

第七十二條

機關室ニ於ケル特設梁ハ板ノ兩面上下ニ山形材ヲ備フルモノ又ハ肋骨ノ心距ニ等シキ幅ヲ有スル冠

側ニ設クル半梁ハ其ノ支點間ノ最大距離カ船ノ長ノ中央部ニ於ケル梁ノ長ノ二分ノ一、三分ノ一又ハ四分ノ一ナルトキニ從ヒ第十號甲表、乙表又ハ丙表各欄第一行、第二行又ハ第三行ニ掲クル寸法ト爲スヘシ

半梁ノ支點間ノ最大距離カ前項ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ其ノ寸法ヲ定ムヘシ

第六十九條

船口及其ノ他ノ甲板口ノ兩側ニ掲クル半梁ハ肋骨毎ニ之ヲ取附クルトキハ縁材ノ厚ヨリ少カラサル厚ヲ有スル單山形材ヲ以テ又肋骨一本置ニ之ヲ取附クルトキハ二重山形材ヲ以テ縁材ニ固著スヘシ

前項ノ山形材ノ各邊ニ於ケル鉸釘ノ數ハ半梁ノ深七吋半以上九吋半以下ナルトキハ三個、深十吋以上十二吋以下ナルトキハ四個ト爲スヘシ

第七十條

第二甲板以下ノ各層ノ甲板ニ石炭又ハ貨物ヲ積載セサルトキハ該甲板梁ノ寸法ハ同長ノ上甲板梁ニ要スルモノト同一ト爲スコトヲ得

船樓内ノ廣大ナル場所ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ其直下ノ甲板梁ノ寸法ハ同長ノ第二甲板梁ニ要スルモノト同一ト爲スヘシ

第七十一條

左ニ掲クル梁ハ肋骨毎ニ之ヲ取附クヘシ



板ノ下面兩縁ニ板ヲ附シ板ノ上下兩端ニ山形材ヲ附シタル溝形ノモノナルコトヲ要ス

**第七十三條** 遮浪甲板、端艇甲板等ノ甲板梁ハ適當ノ寸法ト爲シ端艇其ノ他ノ重量物ヲ支フル梁ハ特ニ補強スヘシ

**第七十四條** 左ニ掲クル梁ニハ第十號甲板乃至丙表ニ掲クル梁一層ノミヲ有スル部分ニ於ケル汽船ノ同長ノ上甲板梁ニ用ウヘキ梁枝ヲ用ウヘシ

一 上甲板下ニ特設船梁ヲ用キタル場合ニ於ケル上甲板梁

二 支水甲板梁

| 船ノ深     | 肘板ノ寸法 |       |
|---------|-------|-------|
|         | 幅     | 厚     |
| 二十三呎ヲ超エ | 三十三吋  | 〇・五〇吋 |
| 二十四呎以下  | 三十三吋  | 〇・五〇吋 |
| 二十四呎ヲ超エ | 三十六吋  | 〇・五二吋 |
| 二十五呎以下  | 三十六吋  | 〇・五二吋 |
| 二十五呎ヲ超エ | 三十九吋  | 〇・五四吋 |
| 二十六呎以下  | 三十九吋  | 〇・五四吋 |
| 二十六呎ヲ超エ | 四十二吋  | 〇・五四吋 |
| 二十七呎以下  | 四十二吋  | 〇・五四吋 |

**第七十五條** 大形船ノ甲板一層ノミヲ有スル部分ノ肋骨毎ニ設クル上甲板梁ニハ左表ニ掲クル寸法ノ肘板ヲ取附クヘシ

| 梁枝又ハ肘板ノ深      | 肘板ノ幅 | 肘板ノ厚  |
|---------------|------|-------|
| 十七吋ヲ超エ二十吋以下   | 四    | 四分ノ三吋 |
| 二十一吋ヲ超エ二十四吋以下 | 五    | 四分ノ三吋 |
| 二十四吋ヲ超エ二十八吋以下 | 六    | 八分ノ七吋 |
| 二十八吋ヲ超エ三十二吋以下 | 七    | 八分ノ七吋 |
| 三十二吋ヲ超エ三十六吋以下 | 八    | 八分ノ七吋 |
| 三十六吋ヲ超エ四十吋以下  | 九    | 八分ノ七吋 |

第十四章 特設船梁

ノ寸法ハ第十號丁表ニ依ルヘシ  
**第七十九條** 特設船梁ノ心距ハ二十四呎ヲ超ユヘカラス  
**第八十條** 特設船梁ニハ左表ニ掲クル梁上側板ヲ設ケ幅ハ三吋半ニ三吋半厚ハ梁上側板ノ厚ニ等シキ二重山形材

ヲ以テ外板ニ固著シ且梁上側板ノ内縁ニ左表ニ端クル球山形材又ハ之ト同一效力ヲ有スル溝形材ヲ取附クヘシ又該梁上側板ハ肋骨一本置ニ肘板ヲ以テ之ヲ支フルコトヲ要ス

| 第          | 二        | 數        | 最下甲板迄ノ船内ノ深 |      |
|------------|----------|----------|------------|------|
|            |          |          | 厚          | 幅    |
| 一萬八千二百ヲ超エ  | 二萬六千四百以下 | 二萬六千四百以下 | 厚          | 幅    |
|            |          |          | 〇・六四吋      | 六十八吋 |
| 二萬六千四百ヲ超エ  | 三萬四千八百以下 | 三萬四千八百以下 | 厚          | 幅    |
|            |          |          | 〇・六四吋      | 六十八吋 |
| 内縁ニ附スル球山形材 |          |          | 厚          | 幅    |
|            |          |          | 〇・六四吋      | 六十八吋 |

**第八十一條** 特設船梁ハ梁上側板ト同厚ニシテ長ハ肋骨ノ心距ノ四倍ニ等シク幅ハ肋骨ノ心距ノ二倍ニ等シキ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著シ又梁上側板ハ肘板ヲ以テ支水隔壁ニ取附クヘシ

**第八十二條** 長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ特設船梁其ノ他本章ニ規定スル材料ノ厚ヲ〇・〇二吋減スルコトヲ得

第十五章 梁 柱

**第八十三條** 梁柱ノ寸法ハ第十一號表ニ依ルヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ同表ニ掲クル梁柱ノ徑ヲ八分ノ一吋減スルコトヲ得  
 各梁ニ取附クル梁柱ノ數ハ第十一號表及本編第六十五條ノ規定ニ從ヒ且船ノ中央部ニ於ケル梁ノ長四十四呎ヲ超ユルトキハ二列以上、六十呎ヲ超ユルトキハ三列以上



ト爲スコトヲ要ス

上層梁ニ梁柱ヲ設クルコトヲ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

肋骨毎ニ柱ヲ取附クルトキハ梁ノ下部ニ梁下縦通材ヲ設ケ山形材ヲ以テ梁毎ニ固著シ之ニ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クヘシ

梁下縦通材ハ隔壁ニ於テ之ヲ止メ山形材ヲ以テ隔壁ニ固著スヘシ

**第百八十四條** 梁柱ノ長十呎ヲ超エ十八呎以下ナルトキ又ハ其ノ徑二吋八分ノ五ヲ超エ四吋以下ナルトキハ徑八分ノ七吋ノ鉸釘二箇、梁柱ノ長十八呎ヲ超エ二十四呎以下ナルトキ又ハ其ノ徑四吋ヲ超エ五吋以下ナルトキハ同鉸釘三箇、梁柱ノ徑五吋ヲ超ユルトキハ同鉸釘四箇以上ヲ以テ其ノ兩端ヲ固著スヘシ  
二重底上ニ於ケル梁柱ノ下端ハ内底板ニ固著セル短山形材又ハ丁字形材ニ固著スヘシ

**第百八十五條** 艙口及其ノ他ノ甲板口側ニ於テハ第十一號

|                 |         |         |         |          |          |          |          |          |          |          |          |          |
|-----------------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 第十一號表ニ掲クル中空梁柱ノ厚 | 十六分ノ五吋  | 十六分ノ六吋  | 十六分ノ七吋  | 十六分ノ八吋   | 十六分ノ九吋   | 十六分ノ十吋   | 十六分ノ十一吋  | 十六分ノ十二吋  | 十六分ノ十三吋  | 十六分ノ十四吋  | 十六分ノ十五吋  | 十六分ノ十六吋  |
| 引拔鋼管ノ厚          | 三十二分ノ八吋 | 三十二分ノ九吋 | 三十二分ノ十吋 | 三十二分ノ十一吋 | 三十二分ノ十二吋 | 三十二分ノ十三吋 | 三十二分ノ十四吋 | 三十二分ノ十五吋 | 三十二分ノ十六吋 | 三十二分ノ十七吋 | 三十二分ノ十八吋 | 三十二分ノ十九吋 |

**第百八十八條** 重構船及輕構船ノ第二甲板又ハ全通船樓船及遮浪甲板船ノ第三甲板ニ石炭若ハ貨物ヲ積載セサルト

キハ該甲板梁ト船底トノ間ニ設クル梁柱ノ徑ハ第十一號表ニ掲クルモノヨリ四分ノ一吋ヲ、重構船及輕構船ノ第三甲板又ハ全通船樓船及遮浪甲板船ノ第四甲板ニモ石炭若ハ貨物ヲ積載セサルトキハ該甲板ト船底トノ間ニ設クル梁柱ノ徑ハ同表ニ掲クルモノヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

船樓内ノ上甲板又ハ全通船樓船及遮浪甲板船ノ第二甲板ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ該甲板梁ト船底トノ間ニ設クル梁柱ノ徑ヲ四分ノ一吋ツツ増スヘシ

**第百八十九條** 船内水艙ニ於テハ側梁柱ヲ設ケ其頭部ニハ斷切板梁下縦通材ヲ取附クヘシ但シ小ナル水艙ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

**第百九十條** 甲板室、橋、斜橋、揚錨機、操舵機、揚貨機、繫船機等ヲ支フル梁其ノ必要ノ箇所ニハ支柱ヲ設ケタルカ又ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

表ニ掲クル梁柱二列ヲ取附クヘキ場合ノ梁柱ノ徑ニ二分ノ一吋ヲ加ヘタル徑ヲ有スル柱梁ヲ取附クルトキハ其ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ四倍ト爲スコトヲ得

艙口及其ノ他ノ甲板口側ニ於ケル梁柱ヲ肋骨ノ心距ノ四倍ヲ超ユル距離ニ取附クルトキハ其ノ寸法及中心線ニ於テ艙口及其ノ他ノ甲板口ノ兩端梁ニ取附クル梁柱ノ寸法ハ本編第十六章ノ規定ニ準シ之ヲ定ムヘシ

**第百八十六條** 特設艙梁ニ取附クル梁柱ノ寸法ハ其ノ上層ノ甲板梁ニ取附クヘキ同長ノ梁柱ニ要スル寸法ト同一ト爲スコトヲ得

**第百八十七條** 第十一號表ニ掲クル中空梁柱ノ代リニ引拔鋼管ヲ用ウルトキハ其ノ厚ハ左表ニ依リ之ヲ減スルコトヲ得  
此ノ場合ニ於ケル引拔鋼管ノ抗張力ハ一平方吋ニ付三十五噸以上、其ノ伸長ノ割合ハ八吋ノ標點間ノ長ニ於テ百分ノ十以上ナルコトヲ要ス

**第百九十一條** 仕切板ヲ取附クル爲梁柱ヲ二重ニ設クルト

キハ其ノ徑ハ單柱ニ要スル徑ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

**第百九十二條** 車軸隧道ニ梁柱ヲ取附クルトキハ隧道頂板ニ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

**第百九十三條** 機關室内ノ梁ニハ成ルヘク梁柱ヲ取附クヘシ但シ眞直ナル石炭庫隔壁又ハ圍壁ヲ以テ梁ヲ支ヘ且該隔壁又ハ圍壁ニ充分ノ防材ヲ設クルトキハ該部分ニ於ケル梁柱ハ之ヲ省略スルコトヲ得

**第百九十四條** 適當ノ構造ヲ有スル縦通隔壁ヲ設クルトキハ該部分ニ於ケル梁柱ハ之ヲ省略スルコトヲ得

**第百九十五條** 船樓甲板又ハ遮浪甲板ノ上ニ二層以上ノ甲板ヲ設クルトキハ其ノ下部ニ於ケル梁柱ハ適當ニ其ノ徑ヲ増スカ又ハ適當ノ構造ト爲スヘシ

第十六章 特設梁柱及特設梁下縦通材

**第百九十六條** 特設梁柱及特設梁下縦通材ヲ以テ普通ノ梁柱及梁下縦通材ニ代用スルトキハ其ノ構造及寸法ハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

**第百九十七條** 特設梁柱ヲ構造スル各材ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ數ト梁柱ノ長トニ依リ第十二號表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ各材ノ厚ヲ〇・







ヘシ

**第二百七條** 特設梁下縱通材ノ溝形材又ハ堅邊ノ幅四吋以上ノ山形材ハ千鳥形二列釘ヲ以テ相互ニ固著スヘシ  
 特設梁下縱通材又ハ山形材ヲ相互ニ固著スル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍又鋼甲板ニ取附クル斷切山形材ノ兩邊ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ト爲スヘシ

第十七章 外板及舷牆

**第二百八條** 外板ノ寸法ハ第十四號表、第十五號表及第二十號表ニ依リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ依リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

螺旋汽船ニ於テ船尾骨材ニ固著スヘキ外板ハ其ノ厚ヲ船ノ中央部ニ要スル外板ノ厚ニ等シクスヘシ但長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得  
 錨鎖孔ノ部分ニ於ケル外板ハ適當ニ其ノ厚ヲ増スカ又ハ之ヲ二重張ト爲スヘシ

**第二百九條** 上下ニ隣接スル外板ノ横線ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲シ又一條ヲ隔テタル外板ノ横線ノ距離ハ肋骨ノ心距以上ト爲スヘシ  
 上甲板又ハ長船橋樓甲板ノ舷側厚板ノ横線ト之ニ附スル

外板ニ徑十吋以上ノ舷窓其ノ他ノ孔口ヲ設クルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ但シ短キ船樓ノ項部外板ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

**第二百十二條** 舷牆板ニハ六呎ノ距離ニ支柱ヲ取附クヘシ但シ船橋樓ノ兩端及長キ船尾樓前部ノ隔壁ニ接スル部分ニ於テハ支柱ハ特ニ其ノ寸法ヲ増シ且隔壁ヨリノ距離ヲ五呎ト爲スヘシ船橋樓ノ兩端及船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル船首尾樓端ニ接スル舷牆板ハ特ニ其ノ厚ヲ増シ肘板ヲ以テ之ヲ隔壁ニ固著シ又其ノ排水口ノ四隅ハ圓形ト爲シ且縁環ヲ取附クヘシ  
 出入口ヲ設クル爲舷牆板ヲ斷切スルトキハ其ノ兩端ニ設クル支柱ハ特ニ其ノ寸法ヲ増スヘシ

第十八章 覆板及縱横線

**第二百十三條** 外板、内底板、縱通桁板、梁上側板、梁上帶板、鋼甲板、肋板、内龍骨板等ノ横線覆板ノ幅及厚、縱横線累接ノ幅及縱横線ノ釘列ハ第十六號表及第十八號表ニ依ルヘシ

**第二百十四條** 外板ヲ二重張ト爲ストキハ其ノ内外板トモ覆板ヲ附シテ前條ノ規定ニ從ヒ二列釘又ハ三列釘ヲ以テ之ヲ固著シ且内外板トモ肋骨ニ固著スルノ外肋骨間ノ中

梁上側板ノ横線トノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ

兩舷ニ於ケル龍骨ニ隣接スル外板ノ横線ノ距離ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲シ且平板龍骨ノ横線又ハ方形龍骨ノ嵌接ト適當ニ避距スヘシ  
 前三項ノ規定ハ船ノ首尾ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**第二百十條** 第十八號表ニ規定スル固著方ヲ適用シ得ヘキ外板ノ幅ハ船ノ深ニ依リ左表ニ掲クルモノヨリ大ナルヘカラス

| 船ノ深           | 外板ノ最大幅 |
|---------------|--------|
| 二十呎以下         | 五十四吋   |
| 二十呎ヲ超エ二十四呎以下  | 六十吋    |
| 二十四呎ヲ超エ二十八呎以下 | 六十六吋   |
| 二十八呎ヲ超ユルモノ    | 七十二吋   |

前項ニ規定スル幅ヲ超ユル外板ノ横線ノ固著ハ適當ニ釘列ヲ増スヘシ

**第二百十一條** 中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ニ於テ項部

央及縱線ニ於テ相互ニ固著スヘシ

**第二百十五條** 外板ノ衝接ニ用ウヘキ二重覆板ノ外部ニ附スル覆板ハ一列釘少ナキ固著ニ要スル覆板ノ幅ト爲シ一列釘少ナキ固著ト爲スコトヲ得

**第二百十六條** 本章ノ規定ニ依ル二重覆板三列釘ハ五列釘累接ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第十九章 鉸釘及固著方

**第二百十七條** 鉸釘ノ徑ハ第十六號表ニ依リ固著スヘキ板ノ厚キモノヲ表中ノ板ノ厚ニ充テ之ヲ定ムヘシ  
 肋骨ト外板トヲ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ肋骨ノ縱邊ノ幅三吋ヲ超エサルトキハ八分ノ七吋ヲ、縱邊ノ幅三吋半ナルトキハ一時ヲ超ユヘカラス

外板ヲ船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘ニ固著スヘキ鉸釘ノ徑ハ外板ノ厚ニ依リテ定メタル鉸釘ノ徑八分ノ五吋以下ナルトキハ八分ノ一時ヲ、徑四分ノ三吋以上ナルトキハ四分ノ一時ヲ増スヘシ但シ一時四分ノ一ヲ超ユルコトヲ要セス

**第二百十八條** 外板ト船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘トヲ固著スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外二列釘ヲ用ウヘシ



第二百十九條 二列以上ノ鉸釘ヲ要スル接合ニ於テハ鉸釘ノ配置ハ竝列法ヲ用ウヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 外板ヲ船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘ニ固著スルトキ
- 二 肋板及特設肋骨板ヲ接合スルトキ
- 三 外板ノ縱縁ニ三列釘ヲ用ウルトキ
- 四 山形材ノ固著ニ二列釘ヲ用ウルトキ
- 五 特別ノ規定アルトキ

第二百二十條 鉸釘ハ固著スヘキ板、山形材等ノ縁ヲ距ルコト釘徑以上ト爲スヘシ  
板ノ縱縁ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二・五倍以上ト爲スヘシ

板ノ横縁ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ衝接ニ在リテハ釘徑ノ三倍、累接ニ在リテハ釘徑ノ三・五倍ト爲スヘシ  
第二百二十一條 板ノ横縁ノ固著ニ三列釘又ハ四列釘ヲ用ウル場合ニ於テハ衝接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但シ第二數一萬六千ヲ超ユル船舶ニ在リテハ終列ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ五・二五倍ヲ超ユヘカラス

本編第二百五條ニ規定スル二重覆板ノ内部ニ附スル覆板ノ終列ニ於ケル鉸釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍ト爲スコトヲ得

第二百二十二條 鉸釘ノ心距ハ左ノ規定ニ依ルヘシ  
一 鉸釘徑ノ三・五倍ト爲スヘキ場合  
四列釘及五列釘累接並ニ二重覆板衝接ノ場合ヲ除クノ外板及梁上側板ノ横縁

- 二 釘徑ノ四倍ト爲スヘキ場合
- イ 船ノ首尾ニ於ケル外板ノ縱縁
- ロ 四列釘累接ノ横縁及二重覆板衝接
- ハ 鋼甲板、縦通甲板、梁上帶板及肋板ノ横縁
- ニ 内底板及縁板ノ縱横縁
- ホ 肘板ヲ附セサル支水隔壁堅防撓材ノ上下兩端ニ於テ其ノ長ノ百分ノ十五ノ間ニ於ケル固著

三 釘徑ノ四・五倍ト爲スヘキ場合  
イ 五列釘累接ノ横縁

- ロ 暴露甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材及縁板ト外板トノ固著用山形材ノ固著
- ハ 鋼甲板ノ縱縁
- ニ 支水隔壁板及車軸隧道板ノ縱横縁

ホ 支水隔壁板ト外板、甲板、車軸隧道板及二重底トノ固著用山形材並車軸隧道板ト二重底トノ固著用山形材ノ固著但シ本條第四號ノ場合ヲ除ク

四 釘徑ノ五倍ト爲スヘキ場合  
イ 船首材、船尾骨材、方形龍骨及螺旋軸支肘ト外板トノ固著

ロ 平板龍骨ニ附スル山形材ノ固著  
ハ 肋板ト中心線桁板トノ固著用山形材ノ固著

ニ 支水隔壁板ト外板トノ固著用山形材ト外板トノ固著

ホ 檣板ノ縱横縁  
ヘ 船尾艙ニ於ケル肋板及兩舷結合板ト正肋板トノ固著

五 釘徑ノ五・五倍ト爲スヘキ場合  
イ 船首尾水艙及艙内水艙ニ於ケル外板ト肋骨トノ固著

ロ 船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一間ニ於ケル船底外板ト正肋板トノ固著  
ハ 副肋材ヲ附シタル溝形肋骨ト外板トノ固著

六 釘徑ノ六倍ト爲スヘキ場合

第二百二十三條 第三號甲板ニ依ル肋骨ヲ用ウルトキハ正

イ 肋骨一本置ニ附シタル單邊梁ト鋼甲板及梁上側板トノ固著

ロ 深十一吋ヲ超ユル肋骨ト外板トノ固著  
ハ 心距二十六吋ヲ超ユル肋骨ト外板トノ固著

七 釘徑ノ七倍ト爲スヘキ場合

イ 肋骨ト外板トノ固著但シ前數號ニ掲クル場合ヲ除ク

ロ 正肋材、副肋材、肋板及内龍骨各材ノ固著

ハ 梁用山形材ト梁板トノ固著  
ニ 暴露セサル甲板及艙梁ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ固著

ホ 梁下鋼甲板及梁上側板トノ固著但シ本條第六號イノ場合ヲ除ク

ヘ 特設肋骨及特設肋骨間側板ノ内縁ニ附スル山形材ノ固著  
ト 支水隔壁及車軸隧道ノ防撓材ノ固著但シ本條第二號ホノ場合ヲ除ク

チ 縦通桁板ニ附スル縦通山形材及肋板ト側桁板トノ固著用山形材ノ固著



肋材ト副肋材トヲ固著スル鉸釘ノ心距ハ正肋材ト外板トヲ固著スル鉸釘ノ心距ニ等シクスヘシ

第二百二十四條

舷側厚板ハ厚〇・八四吋以下ナルトキ、龍骨ヨリ彎曲上部ニ至ル間ノ外板ハ船ノ中央部ニ於テ厚〇・三六吋ヲ超ユルトキ又彎曲上部ヨリ上部ノ外板ハ船ノ中央部ニ於テ厚〇・四八吋ヲ超ユルトキハ其ノ縱線ハ船ノ首尾ヲ通シテ二列釘固著ト爲スヘシ但シ之ヨリ薄キ外板並第二數四千以下ノ船舶ノ舷側厚板及龍骨翼板ノ縱線ハ一列釘固著ト爲スコトヲ得厚〇・八四吋ヲ超ユル側外板ノ縱線ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ四間ハ三列釘固著ト爲スヘシ

長四百八十呎ヲ超ユル船舶ニ在リテハ側外板ノ厚〇・八四吋以下ノ場合ト雖船ノ前後部ニ於テ各船ノ長ノ四分ノ一間船ノ深ノ約三分ノ一ニ相當スル場所ノ縱線ハ三列釘固著ト爲スヘシ

第二百二十五條

長三百五十呎ヲ超ユル單螺旋汽船ニ在リテハ螺旋軸管ノ下部ニ限リ外板ヲ推進器柱ニ固著スルニ

ハ三列釘ヲ用ウヘシ

第二百二十六條

外板ノ縱線カ二列釘固著ナルトキハ縱線ヲ通シテ肋骨毎ニ鉸釘一個ヲ用ウヘシ但シ外板又ハ肋骨ヲ屈曲シテ填板ヲ附セサル船舶ニ在リテハ縱線ヲ通シテ肋骨毎ニ鉸釘二個ヲ用ウヘシ

外板ノ縱線カ三列釘固著ナルトキハ縱線ヲ通シテ肋骨毎ニ鉸釘二個ヲ用ウヘシ

第二百二十七條

梁上側板及船側縱通材ノ斷切板等ヲ外板ニ固著スヘキ山形材ノ兩邊ニハ各肋骨間ニ於テ肋骨ノ心距二十六吋以下ナルトキハ四個、二十六吋ヲ超ユ三十吋以下ナルトキハ五個、三十吋ヲ超ユ三十三吋以下ナルトキハ六個ノ鉸釘ヲ用ウヘシ但シ肋骨ノ心距二十二吋以下ナルトキハ鉸釘數ヲ三個ニ減スルコトヲ得

第二百二十八條

特設肋骨板ト特設肋骨間側板トヲ接續スル覆板ニ用ウル鉸釘ノ徑及數ハ第五號表ニ依ルヘシ

第二百二十九條

船ノ中央部ノ肋骨間ニ於ケル外板縱線ノ各列ノ鉸釘ノ數ハ第十七號表ニ依ルヘシ

第二十章 木甲板及鋼甲板

第二百三十條

木甲板ノ厚ハ左表ニ依ルヘシ

| 船             | 長                        | 超ユルモノ       |              |       |      |
|---------------|--------------------------|-------------|--------------|-------|------|
|               |                          | 二百二十呎ヲ超ユルモノ | 六十呎ヲ超ユ百六十呎以下 | 六十呎以下 | 百呎以下 |
| 梁ニ木甲板ノミヲ張ル場合  | 暴露(全通船樓甲板及ヒ)上甲板(遮浪甲板ヲ除ク) | 四吋          | 三吋           | 三吋    | 三吋   |
| 鋼甲板上ニ木甲板ヲ張ル場合 | 暴露甲板                     | 三吋          | 三吋           | 三吋    | 三吋   |
| 合             | 暴露セサル甲板                  | 二吋          | 二吋           | 二吋    | 二吋   |

第二百三十一條

削除

第二百三十二條

木甲板ノ固著釘ノ寸法ハ左表ニ依ルヘシ

| 木甲板ノ厚 | 固著釘ノ徑 |
|-------|-------|
| 三吋半未滿 | 三吋未滿  |
| 三吋半以上 | 三吋以上  |
| 四吋以下  | 三吋半以下 |
|       | 八分ノ五吋 |

第二百三十三條

木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ螺釘一個ヲ幅六吋ヲ超ユルトキハ二個ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ但シ幅八吋以下ナルトキハ其ノ一個ハ振込釘ヲ使用スルコトヲ得

梁上ニ鋼板ヲ張りタルトキハ木甲板ハ該鋼板ニ之ヲ固著

スヘシ

第二百三十四條

副汽鐘臺、揚錨機、操舵機、揚貨機、繫船機等ヲ取附クル甲板ノ部分ニハ鋼板ヲ張ルヘシ但シ小形船ニ付テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百三十五條

甲板上ノ舷側ニ水道ヲ設クルトキハ水道ノ内側ニ取附クヘキ山形材ノ厚ハ左表ニ掲クル厚ヨリ少カルヘカラス

| 木甲板ノ厚 | 山形材ノ厚 |
|-------|-------|
| 二吋    | 〇・三〇吋 |
| 二吋半   | 〇・三四吋 |



|   |    |       |
|---|----|-------|
| 三 | 時  | 〇・四〇時 |
| 三 | 時半 | 〇・四四時 |
| 四 | 時  | 〇・五〇時 |

**第二百三十六條** 鋼甲板又ハ鐵甲板上ニ木甲板ヲ張ラサル場合ニ於テ甲板梁ヲ肋骨一本置ニ取附クルトキハ鋼甲板又ハ鐵甲板ノ厚ハ左表ニ掲クル厚ヨリ少カルヘカラス

| 梁ノ心距         | 中央部ニ於ケル厚 |        |
|--------------|----------|--------|
|              | 鋼        | 鐵      |
| 四十二吋以上四十四吋以下 | 〇・三六吋    | 十六分ノ六吋 |
| 四十六吋以上五十四吋以下 | 〇・四〇吋    | 十六分ノ七吋 |

**第二百三十七條** 鋼甲板ヲ要スル場合及其ノ厚ハ第十五號表第十九號表及第二十號表ニ依ルヘシ

二層ノ鋼甲板ヲ要スル船舶ノ第二甲板ノ梁上側及鋼甲板ノ厚ハ長船橋梁ヲ有スル部分ニ於テハ第三甲板ニ要スルモノニ等シクスルコトヲ得但シ鋼甲板ノ厚ハ〇・三六吋ヨリ少カルヘカラス

**第二百三十八條** 中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ニ鋼甲板ヲ張ルトキハ其ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八分ノ一間ハ漸

側板並之ニ隣接スル鋼甲板ニ甲板口ヲ設クルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

**第二百四十二條** 暴露甲板ニハ唧筒ヲ以テ水ヲ注射シ其ノ水密ヲ試験スヘシ

甲板上ノ水道ニハ水ヲ滿タシ其ノ水密ヲ試験スヘシ

**第二十一章** 梁上側板及梁上帶板

**第二百四十三條** 梁上ニハ梁上側板ヲ設クヘシ  
上甲板及長船橋樓甲板ノ梁上側板ハ第十五號表ニ、第二甲板以下ノ梁上側板ハ第十九號表ニ依リ其ノ寸法ヲ定メ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ幅及厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

**第二百四十四條** 梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ハ第十五號表、第十九號表及第二十號表ニ依ルヘシ但シ上甲板ニ於ケル山形材ノ寸法ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ減シ首尾ニ至リ第十九號表未行ニ掲クル首尾兩端ニ於ケル船樓下ノ上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ト同一ト爲スコトヲ得

**第二百四十五條** 鋼甲板ヲ備フル甲板梁及特設梁ヲ除ク外各層梁上ニハ船ノ首尾ヲ通シテ梁上帶板ヲ二條宛設

次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ之ヲ會セシムヘシ

**第二百三十九條** 鋼甲板上ニ木甲板ヲ張ラサル船橋樓甲板及上甲板ニ斷切板梁下縱通材ノ設ナキトキハ船ノ中央部ニ於テ艙口、機關室口、甲板室等ノ縁材間ニ特ニ斷切板梁下縱通材ヲ設ケ之ヲ縁材ニ累接スルカ又ハ肘板ヲ以テ縁材ニ固著スヘシ但シ長キ船橋樓下ノ上甲板ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ梁下縱通材ト縁材トカ同一線上ニ來ラサルトキハ適當ナル距離ノ間該縱通材ト縁材ト相累スルコトヲ要ス

**第二百四十條** 長船橋樓甲板又ハ上甲板ニ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ該甲板ニ大ナル幅ヲ有スル艙口其ノ他ノ口ヲ設クルトキハ口ノ四隅ニ二重張板ヲ爲シ尙口ノ幅力船ノ幅ノ十分ノ三ヨリ大ナルトキハ口ノ幅力船ノ幅ノ十分ノ三ナルトキト同一效力ナラシムル様口ノ兩側ニ鋼甲板ノ厚ヲ適當ノ長ノ間増加スヘシ

前項ノ甲板ヨリ下方ノ甲板ニ鋼甲板ヲ要スル船舶ニ於テ該甲板ニ船ノ幅ノ二分ノ一ヨリ大ナル幅ヲ有スル艙口其ノ他ノ口ヲ設クルトキハ前項ニ準シ補強ヲ爲スヘシ

**第二百四十一條** 長船橋樓甲板、上甲板及第二甲板ノ梁上

ケ其ノ寸法ハ第十五號表、第十九號表及第二十號表ニ依リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

**第二百四十六條** 削除  
第二十二章 船首肘板、船尾肘板及船首尾防擣構造

**第二百四十七條** 縱通材ノ首尾兩端ハ第四號表ニ掲クル船ノ中央部ニ於ケル肋板ノ厚ニ等シキ船首尾甲板ヲ以テ之ヲ接續シ船梁ノ下部ニ於テハ約四呎ノ距離ニ肘板ヲ附シ又第二數一萬八千二百ヲ超ユル船舶ニ在リテハ各層梁間ノ中央ニ於テ肘板ヲ設クヘシ

**第二百四十八條** 船首尾艙ニ於テハ上甲板ヨリ船底迄八呎ヲ超エサル距離ニ層梁ヲ設クヘシ

**第二百四十九條** 船首隔壁ノ後部ニハ防擣梁及梁上側板又ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨及特設肋骨間側板ヲ設クヘシ前項ノ防擣梁ニ取附クヘキ梁上側板又ハ特設肋骨間側板ハ二重山形材ヲ以テ外板ニ固著シ肋骨毎ニ肘板ヲ以テ之ヲ支フヘシ但シ第二數一萬一千以下ノ船舶ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**第二百五十條** 検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ船尾ニ



モ適當ノ防撓梁及梁上側板又ハ特設肋骨ヲ附セシムルコトヲ得

第二十三章 機關室

第二百五十一條 機關室ニハ特設肋骨、特設梁等ヲ以テ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第二百五十二條 機關室ハ適當ニ構造シ縱通帶板ヲ以テ各部ヲ接續スヘシ又高速力ノ船舶ノ汽機室ハ成ルヘク之ヲ船側ニ接續スヘシ

第二百五十三條 汽罐ノ爲隔壁ヲ屈折スルトキハ汽罐ノ周圍ヲ檢査スルニ充分ナル場所ヲ隔壁ト該汽罐トノ間ニ設クヘシ

第二百五十四條 石炭庫ノ隔壁及船艙ニ接スル汽罐室ノ隔壁ハ充分汽罐、煙道及煙突ト隔離シ且檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ間ニ隔板ヲ設クルカ又ハ適當ノ防熱方法ヲ施スヘシ

第二百五十五條 副汽罐ヲ甲板上下置クトキハ其ノ下部ニ

當ル甲板ハ厚二吋ヨリ少カラサル煉瓦又ハ「セメント」ヲ以テ被フヘシ

第二十四章 機關室口

第二百五十六條 機關室口ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ最下層甲板以上ニ圍壁ヲ設クヘシ

前項ノ圍壁ニハ成ルヘク横ニ區畫壁ヲ設ケ適宜ニ分畫シテ其ノ防撓力ヲ増シ且頂部ニハ山形梁ヲ設ケ兩側ヲ接續スヘシ

第二百五十七條 暴露甲板ニ設クル機關室口ニハ甲板上十八吋ヨリ低カラステテ甲板梁ノ下端ニ達スヘキ縁材ヲ設ケ之ニ甲板上ノ高約七呎ノ鋼製圍壁ヲ取附ケヘシ但シ全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ圍壁頂板ノ開口ニ高九吋ヨリ低カラサル縁材ヲ取附ケ之ニ鋼製ノ蓋板ヲ備フルトキハ甲板上圍壁ノ高ヲ四呎迄ニ減スルコトヲ得

船橋樓甲板又ハ船尾樓甲板ニ設クル機關室口ニハ縁材ノ高ヲ二呎以上ト爲ストキハ前項ノ圍壁ヲ設ケサルコトヲ得

甲板間ニ於ケル機關室口ノ圍壁ハ上下梁層ノ甲板梁ニ固著スヘシ

ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ會セシムヘシ

第二十五章 艙板及其ノ他ノ甲板口

第二百六十一條 艙口ノ縁材及船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一間ニ在ル暴露セル甲板ノ出入口ハ鋼製ト爲スヘシ

第二百六十二條 艙口、載炭口及其ノ他ノ甲板口ノ縁材ノ高ハ左表ニ依ルヘシ但シ小ナル載炭口ノ縁材ノ高ハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

| 甲板ノ位置及名稱                                 | 艙口及出入口 | 載炭口 | 天窓等 |
|--|--------|-----|-----|
| 暴露セル上甲板(全通船樓船甲板及遮浪甲板ヲ除ク)                 | 二十四吋   | 十八吋 |     |
| 暴露セル低船尾樓甲板                               |        |     |     |
| 船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一ニ相當スル箇所迄ノ場所                  |        |     |     |
| 船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ後方ノ場所               | 十八吋    | 十二吋 |     |
| 閉鎖裝置ヲ備ヘサル開口ヲ有スル部分                        |        |     |     |
| 開口ニ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル第二級閉鎖裝置又ハ同一效力ノ閉鎖裝置ヲ備フル部分 | 九吋     | 九吋  | 九吋  |

等シク縁材ノ厚ハ之ニ〇・〇六吋ヲ増シタルモノト爲シ圍壁ニハ堅ニ三十吋ノ距離ニ防撓材ヲ縁材ニ通シテ取附クヘシ但シ遮浪甲板及船樓甲板上ノ圍壁並直接波浪ヲ受ケサル部分ニ於テハ圍壁ノ厚ヲ適當ニ減スルコトヲ得本條ノ規定ハ小形船ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百五十八條 暴露甲板ニ於ケル機關室口ノ圍壁ニハ甲板上下十八吋以上ノ高サニ於テ出入口ヲ設クルコトヲ得但シ之ヲ設ケタルトキハ鋼製ノ戸ヲ備フヘシ

遮浪甲板及船樓甲板(低船尾樓甲板ヲ除ク)ニ在リテハ前項ノ高ハ之ヲ十二吋迄ニ減スルコトヲ得

本條ノ規定ハ小形船ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百五十九條 汽罐室口ノ天窓ハ堅牢ニ縁材ニ固著シ天窓頂板ヲ鋼板ニテ構造セサルトキハ適當ノ覆蓋ヲ備フヘシ

汽罐室口ノ頂部ニ格子蓋ヲ備フルトキハ鋼製ノ蓋板ヲ設ケ蝶鉸ヲ以テ圍壁ニ固著スヘシ

第二百六十條 汽機室口又ハ汽罐室口ノ長十五呎ヲ超ユルカ又ハ其ノ合長三十呎ヲ超ユルトキハ其ノ兩側ニ於テ梁上側板ト梁上帶板トノ間ニ鋼板ヲ張り詰メ之ヲ其ノ前後ニ於テ梁ノ心距ノ二倍延長シ尙之ヨリ前後ニテハ漸次其



前項ニ掲クルモノヲ除クノ外第二甲板以下ノ甲板又ハ完全ナル閉鎖装置ヲ備フル船樓内ノ甲板ノ船口ニ於テハ其ノ周圍ニ山形材等ヲ取附クルトキハ縁材ヲ甲板上ニ延長セシメサルモ妨ナシ

**第二百六十三條** 暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル船口ノ縁材ノ厚ハ〇・四四吋以上ト爲スヘシ

前條第二項ニ掲クル第二甲板以下ノ甲板又ハ完全ナル閉鎖装置ヲ備フル船樓内ノ甲板ニ於ケル船口ノ側縁材ノ厚ハ〇・五吋以上ノ端縁材ノ厚ハ〇・四吋以上ト爲スヘシ之ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ適當ニ側縁材ノ厚ヲ増スヘシ小ナル船口及長二百呎以下ノ船舶ノ船口ニ於テハ前二項ニ規定スル縁材ノ厚ヲ適當ニ減スルコトヲ得

**第二百六十四條** 船口ノ側縁材ハ船口ノ兩側ニ設クヘキ半梁ノ下端ニ達セシメ又暴露セル甲板ニ設クル船口ノ端縁材ハ之ヲ甲板下ニ延長シ船口兩端梁ニ固著スヘシ

**第二百六十五條** 船口ノ側縁材ト端縁材トヲ豎山形材ヲ以テ接續スルトキハ該山形材ノ厚ハ側縁材ノ厚ヨリ少カルヘカラス

船口ノ側縁材又ハ端縁材ヲ鋼甲板又ハ梁上帶板ニ固著スル山形材ノ厚ハ固著スヘキ縁材ノ厚ヨリ少カルヘカラス

倍ヲ超ユル場合又ハ側梁柱ヲ縁柱ヨリ十八吋ヲ超ユル距離ニ設クル場合ニ於テハ重量ヲ支持スル爲メ側縁材ノ下端ヲ六吋ヲ超エテ曲線ト爲スカ又ハ側縁材ノ下端ニ球山形材等ヲ取附クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ半梁、側縁材、曲線部又ハ球山形材等ヲ接續スル肘板ヲ肋骨一本置ニ設ケテ之縁材ニ取附クル山形材ハ半梁ノ上面ヨリ縁材ノ下端ニ達セシムヘシ

**第二百六十八條** 船口ノ周圍ニ鋼甲板ヲ張ラサルトキハ船口端梁ニ甲板ヲ附シ之ニ木甲板ノ端末ヲ固著シ又船口ノ兩側ニハ梁上帶板ト同一ノ寸法ヲ有スル甲板ヲ附シ之ニ縁材ヲ取附クヘシ

長十六呎ヲ超エ二十呎以下ノ船口側ニ鋼甲板ヲ張ラサルトキハ第十五號表、第十九號表及第二十號表ニ掲クル梁上帶板ノ二倍ノ幅ヲ有スル梁上帶板ヲ船口側ニ附シ之ヲ船口ノ前後ニ於テ肋骨ノ心距ノ二倍ノ所迄延長シ之ニ縁材ヲ取附クヘシ

**第二百六十九條** 長二十二呎ヲ超ユル船口ヲ上甲板又ハ船樓甲板ニ設クルトキハ其ノ兩側ニ鋼甲板ヲ張詰メ船口ノ前後ニ於テハ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ會セシムヘシ

又其ノ堅邊ノ幅ハ木甲板ヲ張ル場合ニ於テハ該甲板ノ厚ヨリ二分ノ一時大ナラシムヘシ

前項ノ山形材ハ本章第二百六十二條第一項ニ依リ縁材ノ高ヲ規定シタル船口ノ四隅ニ於テハ之ヲ鍛接スヘシ

**第二百六十六條** 縁材ノ甲板上ノ高二十四吋以上ノ船口ニシテ其ノ長十呎ヲ超ユルトキハ側縁材ノ上部ニ又幅十呎ヲ超ユルトキハ端縁材ノ上部ニ幅七吋以上ノ球山形材ヲ水平ニ取附ケ縁材ヲ補強スヘシ但シ長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ球山形材ノ寸法ヲ適當ニ減スルコトヲ得

長又ハ幅十呎ヲ超ユル船口ニ甲板上ノ高三十吋ヲ超エ三十六吋以下ノ縁材ヲ取附クルトキハ前項ニ規定スル球山形材ノ十呎以内ノ距離ニ該球山形材ヨリ甲板ニ達スル肘板又ハ支柱ヲ取附ケ縁材ヲ補強シ甲板上ノ高三十六吋ヲ超ユル縁材ヲ取附クルトキハ尙適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

**第二百六十七條** 長十呎ヲ超ユル船口ノ側縁材ハ半梁ノ下端ニ於テ六吋曲線ト爲スカ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ補強スヘシ但シ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ減スルコトヲ得

長十呎ヲ超ユル船口ニ於テ側梁柱ノ心距肋骨ノ心距ノ四

長三十呎若ハ幅二十呎ヲ超ユル船口ヲ設クルカ又ハ船體ニ比シ過大ナル長若ハ幅ヲ有スル船口ヲ設クルトキハ必要ニ應ジ其ノ兩側ニ於ケル鋼甲板、船口兩端梁及縁材ノ寸法ヲ増シ且特設肋骨若ハ二重副肋骨ヲ附スルカ又ハ肋骨ノ深ヲ増シテ該部ヲ補強スヘシ

**第二百七十條** 船口ノ仕切板梁及縦材ノ數及寸法ハ縁材ノ高二十四吋以上ヲ要スルモノ及石炭又ハ貨物ヲ積載スル甲板ニ設クルモノニ在リテハ第二十一號甲表、其ノ他ノモノニ在リテハ同號乙表ニ依ルヘシ

長百呎以下ノ船舶ニ在リテハ仕切板梁ノ深ハ第二十一號甲表又ハ乙表ニ掲クルモノノ十分ノ六、球板縦材及球山形縦材ノ深ハ同表ニ掲クルモノノ十分ノ八ト爲シ其ノ厚ハ同表中該深ニ等シキ深ヲ有スルモノノ厚ニ等シクシ又木製縦材ノ深及幅ハ同表ニ掲クルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得但シ仕切板梁ノ厚ハ〇・三吋ヨリ又中央木製縦材ノ幅ハ六吋半ヨリ少カルヘカラス

長百呎ヲ超エ二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ仕切板梁及縦材ノ寸法ハ第二十一號甲表又ハ乙表ニ掲クルモノト前項ニ依ルモノトニ依リ挿間法ニ依リ之ヲ定ムヘシ

**第二百七十一條** 仕切板梁ノ兩端ニ於ケル深ハ中央ノ深ノ



二分ノ一ト爲スコトヲ得但シ六吋ヨリ少カルヘカラス

第二百七十二條 仕切板梁及縁材ノ長又ハ心距カ第二十一號甲表及乙表ニ掲クルモノノ間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ其ノ寸法ヲ定ムヘシ

第二百七十三條 甲板間ノ高八呎六吋ヲ超エ之ニ石炭又ハ貨物ヲ積載スルトキハ該甲板間ニ設クル艙口ノ仕切板梁及縦材ノ寸法ハ適當ニ之ヲ増スヘシ

第二百七十四條 艙口蓋板ノ支點ノ間隔ハ四呎六吋ヲ超ユヘカラス但シ第二十一號乙表ニ依リ構造シタル仕切板梁及縦材ヲ有スル艙口ニ於テハ五呎六吋ト爲スコトヲ得仕切板梁ノ心距ハ十呎ヲ超ユヘカラス

第二百七十五條 仕切板梁ノ上下兩面ニ附スル山形材ハ廣邊ヲ水平ニ置キ上部ノ山形材ハ板梁ノ兩端ニ達セシムヘシ又上部ノ山形材ハ縦材ヲ支フル爲屈折セシムヘカラス

仕切板梁ノ兩端ニハ上下兩面ニ附スル山形材ノ厚ニ等シキ厚ト適當ノ幅トヲ有スル板ヲ兩面ニ取附クヘシ

第二百七十六條 艙口ニ縦材ヲ設ケサルトキハ仕切板梁ノ梁板ハ一本置ニ蓋板ノ上面ニ達セシメ又縦材ヲ設クルトキハ中央縦材ニ用ウル球板ハ蓋板ノ上面ニ達セシムヘシ

小ナル艙口及長二百呎以下ノ船舶ノ艙口ニ於テハ前項ノ規定ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

暴露セサル甲板ノ艙口ニ於テハ蓋板ノ代リニ格子蓋ヲ用ウルモ妨ナシ

第二百八十條 暴露甲板ニ設クル縁材ノ外面ニハ二呎以內ノ心距ニ又艙口ノ四隅ヨリ六吋ヲ超エサル距離ニ受金ヲ取附ケ覆布、帶金及楔ヲ以テ密閉シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

受金ハ幅二吋半以上ト爲シ鉸釘二箇以上ヲ以テ縁材ニ取附クヘシ

第二百八十一條 長又ハ幅十呎以上ノ艙口ニシテ縁材ノ高二十四吋以上ヲ要スルモノニ於テハ前條ニ規定スル密閉裝置ノ外特ニ堅牢ナル壓材ヲ設クルカ又ハ其ノ他適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第二百八十二條 圍壁艙口直下ノ艙口ニ設クル仕切板梁、縦材及縁材等ハ適當ニ其ノ強力ヲ増スヘシ

第二百八十三條 載炭口ノ構造及寸法ニシテ本章ニ規定セサルモノニ付テハ艙口ニ關スル規定ニ準スヘシ但シ小ナル載炭口ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第二百八十三條ノ二 暴露甲板ニ設クル出入口其ノ他ノ諸

第二百七十七條 縦材ノ上部ニ附スル山形材ハ其ノ兩端ニ達セシムヘシ

木製縦材ハ松又ハ之ト同一效力ヲ有スル木材ヲ以テ造リ其ノ兩端ニ鋼板ヲ附スヘシ  
縦材ト仕切板梁ト交叉スル部分ニ於テハ鋼製縦材ニハ山形材ヲ附シ木製縦材ニハ鋼板ヲ附シテ仕切板梁ニハ縦材ノ移動ヲ防ク爲山形材ヲ附スヘシ

第二百七十八條 仕切板梁及縦材ハ支面三吋以上ニシテ適當ナル形狀ヲ有スル鋼製受材ヲ以テ其ノ兩端ヲ支フヘシ受材ヲ山形材ニテ構造スルトキハ其ノ厚ハ二分ノ一吋以上ト爲シ又艙口側縁材ニ附スル受材ハ甲板ニ達セシムヘシ  
受材ノ底部ハ實體ト爲スカ又ハ徑八分ノ七吋ノ鉸釘二箇以上ヲ以テ緊著スヘシ  
小ナル艙口ニ於テハ本條ニ規定スル各材ノ寸法ヲ適當ニ減スルコトヲ得

第二百七十九條 艙口ニハ厚二吋半以上ノ木製蓋板ヲ設ケ縦材ヲ以テ支フルトキハ側縁材ニ幅二吋半以上ノ支材ヲ設ケ又縦材ナキトキハ端縁材ニ幅三吋以上ノ支材ヲ設クヘシ

口ニハ覆蓋及覆布並適當ノ締具ヲ備フルカ又ハ其ノ他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ

第二百八十四條 櫓ヲ楔止ト爲スヘキ甲板ニ於テ鋼甲板ヲ張ラサルトキハ櫓ノ前後ノ梁間ニハ適當ノ櫓孔板ヲ設ケ且櫓孔ノ周縁ニ又ハ山形材適當ノ球山形材ヲ取附クヘシ

第二十六章 通風器

第二百八十五條 船ノ各部ニハ検査官吏ノ適當ト認ムル通風器ヲ備フヘシ

第二百八十六條 暴露甲板ニ附スル徑六吋以上ノ通風器ノ縁材ノ高ハ三呎以上ト爲シ其ノ厚ハ左表ニ依ルヘシ但シ船首ヨリ船ノ長ノ四分ノ一ニ相當スル箇所ヨリ船尾ニ在ル遮浪甲板及船樓甲板(低船首樓甲板及低船尾樓甲板ヲ除ク)ニ附スルモノノ縁材ノ高ハ二呎六吋ト爲スコトヲ得

| 通風器縁材ノ内徑    | 縁材ノ厚  |
|-------------|-------|
| 六吋以上九吋以下    | 〇・三〇吋 |
| 九吋ヲ超エ十二吋以下  | 〇・三二吋 |
| 十二吋ヲ超エ十六吋以下 | 〇・三六吋 |



|             |       |
|-------------|-------|
| 十六吋ヲ超エ十八吋以下 | 〇・三八吋 |
| 十八吋ヲ超ユルモノ   | 〇・四〇吋 |

長二百呎以下ノ船舶ニ在リテハ前項ノ厚ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

**第二百八十七條** 暴露甲板ニ附スル通風器ノ縁材ハ其ノ厚ヨリ〇・〇六吋厚キ山形材ヲ以テ釘徑ノ四倍ノ心距ニ絞釘ヲ用キ鋼甲板ニ固著スヘシ

前項ノ鋼甲板上ニ木甲板アルトキハ山形材ノ堅邊ノ幅ハ木甲板ノ厚ヨリ二分ノ一吋大ナラシムヘシ

前項ノ鋼甲板ノ厚カ山形材ノ厚ヨリ薄キトキハ通風器ノ徑ノ二倍以上ノ長及幅ヲ有スル適當ノ厚ノ二重張板ヲ鋼甲板ニ附スルカ又ハ其ノ他適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ又鋼甲板ナキトキハ木甲板ノ下部ニ適當ノ鋼板ヲ張ルヘシ

旅客室又ハ船員室上ノ通風器ニシテ徑九吋以下ナルモノノ縁材ニ附スル山形材ハ螺釘ヲ以テ木甲板ヲ貫通シ鋼甲板ニ取附クルコトヲ得

徑十二吋ヲ超ユル通風器ヲ附スル部分ノ暴露甲板梁力肋

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 四十呎    | 十平方呎半           |
| 四十五呎   | 十一平方呎           |
| 五十呎    | 十一平方呎半          |
| 五十五呎   | 十二平方呎           |
| 六十呎    | 十二平方呎半          |
| 六十五呎以上 | 舷牆ノ長五呎毎ニ一平方呎ノ割合 |

**第二百九十條** 第二甲板以下ノ甲板ニハ適當ノ排水管ヲ設ケ之ヲ船底ニ導クヘシ

遮浪甲板又ハ船樓甲板ノ直下ノ場所ニシテ閉鎖裝置ヲ備ヘサル部分ニハ船外ニ通スル適當ノ排水孔ヲ設クヘシ

**第二百九十一條** 満載吃水線以下ニ於テ船外ニ通スヘキ排泄管ハ其ノ下端ヨリ水線上適當ノ高迄ハ鋼製又ハ鋼製ト爲シ其ノ上部ニ鉛管ヲ使用スルトキハ損傷ヲ防ク爲之ニ充分ナル圍ヲ設クヘシ

**第二百九十二條** 二重底又ハ艙内水艙ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ區畫室毎ニ船ノ中心線及兩側ニ於テ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ但シ船底ノ傾斜著シキ部分ニ於テハ兩

骨一本置ニ附スルモノナルトキハ該通風器ノ縁材ノ兩側ニ於テ梁間ニ縦山形材ヲ取附クヘシ

**第二百八十八條** 暴露甲板ニ附スル通風器ノ縁材ニハ堅牢ナル栓及覆布ヲ以テ密閉シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ通風器ノ構造ニ依リ検査官吏ニ於テ特ニ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**第二百八十八條ノ二** 「マツシルム」形、「グースネツキ」形等ノ通風器ヲ旅客室又ハ船員室上ニ附スルトキハ之ヲ堅牢ニ構造シ鋼甲板ニ螺釘ヲ以テ充分ニ固著スヘシ

第二十七章 排水裝置及諸管

**第二百八十九條** 閉塞舷牆ヲ設クル部分ニハ甲板上ノ水ヲ排出スル爲適當ノ排水口及排水管ヲ設ケ又該排水口ニ戸ヲ附スルトキハ黃鋼製ノ針ヲ備フル螺釘ト爲スヘシ

|      |                |
|------|----------------|
| 舷牆ノ長 | 各舷ニ設クヘキ排水口ノ全面積 |
| 三十呎  | 九平方呎半          |
| 三十五呎 | 十平方呎           |

側ノ吸水管ハ之ヲ省略スルコトヲ得

二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ艙内ニ滲水溜ヲ設ケサルトキハ兩側ノ滲水道ニ蒸氣唧筒ノ吸水管及手用唧筒各一個ヲ備ヘ又艙内ニ滲水溜ヲ設クルトキハ該滲水溜ニ底傾斜ノ度ニ應ジ一個若ハ三個ノ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導キ且兩側ノ滲水道ニ手用唧筒ヲ備フヘシ

**第二百九十三條** 二重底ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ各艙ニ蒸氣唧筒ノ吸水管及手用唧筒各一箇ヲ備フヘシ但シ大形船ニシテ船底ノ傾斜少キ部分ニ於テハ蒸氣唧筒ノ吸水管ハ二箇又ハ三箇ヲ備フヘシ

**第二百九十四條** 汽機室及汽鐘室ニ二重底ヲ備ヘ之ニ滲水溜ヲ設ケサルトキハ兩側ノ滲水道ニ蒸氣唧筒ノ吸水管各二箇ヲ導キ又滲水溜ヲ設クルトキハ該滲水溜及兩側ノ滲水道ニ蒸氣唧筒ノ吸水管各一箇ヲ導クヘシ

汽機室及汽鐘室ニ二重底ヲ備ヘサルトキハ中心線及兩側ニ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ但シ該室ニ於ケル船ノ幅二十六呎以下ナルトキハ兩側ノ吸水管ハ之ヲ設ケサルモ妨ナシ

**第二百九十五條** 船首尾艙ヲ水艙トシテ使用スルトキハ之ニ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ



船首尾艙ヲ水艙トシテ使用セサルトキハ船首艙ニハ適當ノ手用唧筒ヲ備ヘ船尾隔壁ニハ支水瓣ヲ設ケテ船尾艙ノ滲水ヲ車軸隧道ニ導クカ又ハ之ヲ他ニ排出スヘキ裝置ヲ爲スヘシ

**第二百九十六條** 車軸隧道ニハ滲水溜ヲ設ケ之ニ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ導クヘシ

**第二百九十七條** 手用唧筒ハ滿載吃水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ但シ吸水口ヨリ唧筒室ノ下部ニ至ル高ハ二十四呎ヲ超エサルコトヲ要ス

手用唧筒及管ノ内徑ハ左表ニ掲クルモノヨリ少カルヘカラス但シ船首艙ニ用ユルモノニ在リテハ四吋ヲ超ユルコトヲ要セス

| 上甲板下噸數     | 唧筒ノ内徑 | 管ノ内徑   |
|------------|-------|--------|
| 五百噸以下      | 四吋    | 二吋     |
| 五百噸ヲ超エ千噸以下 | 四吋半   | 二吋四分ノ一 |
| 千噸ヲ超エ二千噸以下 | 五吋    | 二吋半    |
| 二千噸ヲ超ユルモノ  | 五吋半   | 二吋四分ノ三 |

飛輪唧筒ヲ滿載吃水以上ノ適當ノ場所ニ備ヘ之ヲ各艙ニ於ケル蒸氣唧筒ノ滲水吸水管ト連結シ得ヘキ裝置ト爲ストキハ之ヲ各艙ニ設クヘキ手用唧筒ニ代用スルコトヲ得

**第二百九十八條** 各艙及二重底ニハ吃水管ヲ設ケ其ノ直下ノ下板ニ當板ヲ爲スヘシ

**第二百九十九條** 船首尾艙及車軸隧道ノ滲水溜ニ於ケル蒸氣唧筒ノ吸水管ハ其ノ内徑二吋四分ノ一ヨリ少カルヘカラス但シ上甲板下ノ噸數五百噸以下ノ船舶ニ在リテハ之ヲ二吋ニ減スルコトヲ得

**第三百條** 前條ニ掲クルモノヲ除クノ外蒸氣唧筒ノ滲水吸水管ノ内徑ハ左表ニ掲クルモノヨリ少カルヘカラス

| 上甲板下噸數       | 機關室中心線吸水<br>管及艙内中心線吸<br>水管 | 機關室兩側吸水<br>管及中心線吸水<br>管ヲ備ヘサル<br>艙内兩側吸水<br>管 | 中心線吸水<br>管ヲ備フル<br>トキ艙内兩<br>側吸水<br>管 |
|--------------|----------------------------|---|-------------------------------------|
| 五百噸ヲ超エ千噸以下   | 二吋四分ノ一                     | 二吋  | 二吋                                  |
| 千噸ヲ超エ千五百噸以下  | 二吋半                        | 二吋四分ノ一                                      | 二吋                                  |
| 千五百噸ヲ超エ二千噸以下 | 三吋                         | 二吋四分ノ三                                      | 二吋四分ノ一                              |
| 二千噸ヲ超エ三千噸以下  | 三吋半                        | 三吋  | 二吋半                                 |
| 三千噸ヲ超ユルモノ    | 三吋半                        | 三吋半   | 二吋四分ノ三                              |

一區畫室ニ二箇以上ノ蒸氣唧筒ノ吸水管ヲ備ヘ之ヲ一本ノ主管ヲ以テ唧筒ニ導クトキハ主管ノ内徑ハ中心線吸水管ニ要スルモノヨリ少カルヘカラス

**第三百一條** 滲水吸水管ノ端末ニハ芥除箱ヲ設クヘシ芥除箱ニ穿テル小孔ノ總面積ハ吸水管ノ截面ノ二倍ヨリ少カルヘカラス

**第三百一條ノ二** 蒸氣唧筒ノ吸水管ハ平水航路ノ船舶及上甲板下噸數五百噸未滿ノ沿海航路ノ船舶ニ限リ各艙及各水密區畫室ニ之ヲ導カサルモ妨ナシ

手用滲水唧筒及測水管ハ平水航路ノ船舶ニ限リ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ設ケサルモ妨ナシ

**第三百一條ノ三** 艙内又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ因リ破損セサル様堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クヘシ又汽管其ノ他内部ヨリ高壓力ヲ受クル諸管ニハ艙内又ハ石炭庫ヲ通過セシムヘカラス但シ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八章 内張板



**第三百二條** 船艙ノ船底ニ於テハ彎曲上部迄ハ厚二吋半ヨリ少カラサル木板ヲ張詰メ其ノ上部ノ船側ニ於テハ適當ノ厚ヲ有スル木板ヲ張詰ムルカ又ハ適當ノ間隔ニ木板若ハ鋼帶ヲ取附クヘシ

長百五十呎以下ノ船舶ニ在リテハ前項ノ船底ニ設クル木板ノ厚ヲ二吋ト爲スコトヲ得

**第三百三條** 二重底ノ内底板ニハ艙口直下及兩側塗水道ヲ除クノ外内張板ヲ張ラサルモ妨ナシ又艙口直下ニ於ケル内底板ノ厚ヲ〇・〇八吋増ストキハ該部ニ於テモ亦之ヲ張ラサルコトヲ得

**第三百四條** 石炭、礦石、木材、穀類等ノミヲ包裝ヲ施サスシテ運搬スル船舶ニ在リテハ船側ノ内張板ハ之ヲ張ラサルモ妨ナシ

油艙ニハ内張板ヲ張ラサルモ妨ナシ

第二十九章 操舵機具

**第三百五條** 舵柄又ハ舵柄弧ノ回轉スル部分ニ於テハ堅牢ナル回轉止ヲ甲板上ニ取附クヘシ但シ舵柄又ハ舵柄弧ニ適當ナル制動裝置ヲ備フルカ又ハ操舵機ヲ直接舵柄弧ニ連結スルトキハ回轉止ハ之ヲ取附ケサルモ妨ナシ

前項ノ回轉止ヲ取附クヘキ角度ハ舵ノ回轉止ノ角度ヨリ

大ナルヘカラス

**第三百六條** 長二百呎ヲ超ユル汽船ニ在リテハ操舵機ヲ備フヘシ

操舵機ヲ備フル船舶ニ在リテハ獨立セル用手操舵機又ハ豫備操舵機ヲ備フヘシ

特ニ強大ナル舵柄ヲ備フルトキハ之ヲ二箇ノ獨立セル操舵機具ニ共用スルモ妨ナシ

操舵機ノ操舵輪ハ船橋ト該機トニ之ヲ備フヘシ

**第三百七條** 長二百呎ヲ超ユル汽船ニ於テ船尾樓、全通船樓又ハ遮浪甲板ヲ有セサルトキハ船尾ニ於ケル操舵機具ハ鋼製ノ甲板室ヲ以テ蔽圍スヘシ

**第三百八條** 操舵鎖及操舵圓材ノ徑ハ第二十二號表ニ依ルヘシ但シ舵柄ノ長又ハ舵柄弧ノ半徑カ同表ニ掲クルモノト異ナルトキハ左ノ算式ニ依リ操舵鎖ノ徑ヲ算出スヘシ

$$D = 0.38 \sqrt{\frac{D_p}{R}}$$

d ハ操舵鎖ノ徑(吋ニテ)

D ハ舵頭ノ徑(吋ニテ)

R ハ操舵鎖ノ中心線迄測リタル舵柄ノ長又ハ舵柄弧ノ半徑(吋ニテ)

船側ニ適當ノ防撓桁板ヲ附シ且該甲板室ノ上部ニ當ル甲板ニハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三百十三條 削除

**第三百十四條** 遮浪甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ニ於テハ第十九號表ニ掲クル船樓下ノ上甲板梁上側板ニ附スル山形材ト同寸法ノ山形材ヲ以テ梁上側板ヲ外板ニ固著シ且肋骨ノ内側ニモ同寸法ノ山形材ヲ縱通セシメ外板トノ間ハ之ヲ水密ト爲スヘシ

**第三百十五條** 第二數一萬四千ヲ超ユル輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ノ船首艙ニ於テハ肋骨一本置ニ副肋材ヲ上甲板迄達セシムヘシ

第三十一章 船首樓、船尾樓、船橋及甲板室

**第三百十六條** 深十五呎以下ノ船舶ニ在リテハ副肋材ヲ達セシムル高ヲ増スカ又ハ肋骨ニ適當ノ補強構造ヲ爲スニ非サレハ船首樓、船尾樓又ハ船橋樓ヲ設クルコトヲ得ス

**第三百十七條** 船首樓、船尾樓及短船橋樓ノ側外板、梁上側板、梁上側板ニ附スル山形材、梁上帶板及鋼甲板ノ寸法ハ第二十號表ニ依ルヘシ

前項但書ノ場合ニ於ケル圓材ノ徑ハ鎖ノ徑ヨリ其ノ四分ノ一ヲ増スカ又ハ算式ニ依リ得タル徑ヲ第二十二號表ノ鎖ノ徑ニ充テ之ヲ定ムヘシ

操舵機ヲ備フル船舶ノ操舵裝置ニハ適當ナル緩衝發條ヲ備フヘシ

**第三百九條** 舵柄又ハ舵柄弧ノ腕ノ寸法ハ第二十二號表ニ依ルヘシ但シ腕ノ端末ニ於ケル寸法ハ同表ニ掲クルモノノ四分ノ三ニ減スルコトヲ得又舵柄弧ヲ舵頭ニ桎止ト爲ササルトキハ腕ノ寸法ハ其ノ全長ヲ通シテ同表ニ掲クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

**第三百十條** 操舵鎖ノ中心線迄測リタル導鎖滑車ノ徑ハ鎖徑ノ十六倍以上又車針ノ徑ハ鎖徑ノ二倍以上ト爲スヘシ但シ滑車ノ据付位置ニ依リ検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ適當ニ之ヲ減スルコトヲ得

**第三百十一條** 操舵機具ハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試験ヲ執行スヘシ

第三十章 輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船

**第三百十二條** 輕構船、全通船樓船及遮浪甲板船ノ上甲板上ニ長大ナル船樓又ハ甲板室ヲ設クルトキハ該甲板下ノ



前項ニ掲クル船樓ノ側外板ノ縦線ハ一列釘固著ト爲スヘシ但シ短船橋樓ノ兩端二十呎ノ間及側外板ノ厚〇・四八吋ヲ超ユル場合ニ於テハ之ヲ二列釘固著ト爲スヘシ前項但書ノ規定ハ特ニ短キ短船橋樓及小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第一項ニ掲クル船樓ノ側外板ノ横線ハ二列釘固著ト爲スヘシ但シ特ニ短キ船樓及小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**第三百十八條** 長船橋樓ノ側外板、梁上側板、梁上側板ニ附スル山形材、梁上帶板及鋼甲板ノ寸法ハ第十五號表ニ依リ船ノ長ト長船橋樓甲板迄ノ深トノ割合ヲ表中ノ長ト深トノ割合ニ充テ之ヲ定メ其ノ縦横線ノ固著方ハ第十六號表乃至第十八號表ニ依ルヘシ

長船橋樓ノ側外板ノ厚其ノ縦線ニ二列釘固著ヲ要セサルモノナルトキハ長船橋樓ノ兩端二十呎ノ間ハ之ヲ二列釘固著ト爲スヘシ但シ小形船ニ在リテハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

**第三百十九條** 第二數一萬四千ヲ超ユル船舶ノ船首樓ニ於テハ肋骨一本置ニ副肋材ヲ船首樓甲板迄達セシムヘシ

**第三百二十條** 船樓下ノ上甲板梁上側板ハ第十九號表ニ掲

| 船       | 幅      | 球 山 形 材 |     |       |
|---------|--------|---------|-----|-------|
|         |        | 深       | 幅   | 厚     |
| 二十四呎ヲ超エ | 三十呎以下  | 五吋      | 三吋  | 〇・四〇吋 |
| 三十呎ヲ超エ  | 三十六呎以下 | 六吋      | 三吋  | 〇・四四吋 |
| 三十六呎ヲ超エ | 四十二呎以下 | 七吋      | 三吋  | 〇・五〇吋 |
| 四十二呎ヲ超エ | 四十六呎以下 | 七吋      | 三吋  | 〇・五六吋 |
| 四十六呎ヲ超エ | 五十呎以下  | 七吋半     | 三吋半 | 〇・五六吋 |
| 五十呎ヲ超エ  | 五十四呎以下 | 八吋      | 三吋半 | 〇・六四吋 |
| 五十四呎ヲ超エ | 五十八呎以下 | 八吋半     | 三吋半 | 〇・六四吋 |
| 五十八呎ヲ超エ | 六十呎以下  | 九吋      | 三吋半 | 〇・六四吋 |

機關室口又ハ其ノ他ノ甲板口ヲ蔽圍セサル船樓ノ前部ニ於ケル隔壁ニハ前項ノ球山形材ヲ取附クヘキ位置ニ船首尾艙ニ用ウヘキ正肋材ト同寸法ノ山形材ヲ取附クヘシ船樓端ノ隔壁ハ上甲板梁ノ位置ニ取附ケ其ノ下部ハ適當ノ構造ト爲スヘシ

**第三百二十四條** 船樓内ノ肋骨ハ其ノ下端ヲ肘板ヲ以テ固著スルカ又ハ下端ヲ適當ニ上甲板下ニ延長シ上甲板下ノ

クル山形材ヲ以テ外板ニ固著シ且肋骨ノ内側ニモ梁上側板上ニ同寸法ノ山形材ヲ縦通セシメ外板トノ間ハ之ヲ水密ト爲スヘシ

**第三百二十一條** 長船橋樓下ノ上甲板ニ於ケル側外板、梁上側板、梁上側板ニ附スル山形材、梁上帶板及鋼甲板ノ寸法ハ該樓ノ兩端ヨリ船ノ幅ノ約三分ノ一ニ相當スル箇所迄ハ該樓端ニ於ケルモノト同一ト爲スヘシ

**第三百二十二條** 長船橋樓ノ兩端、船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル船首樓ノ後端及船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル船尾樓ノ前部ニ於テハ該樓ノ前後各六呎乃至十呎ノ間舷側厚板ヲ二重張ト爲シ且上甲板ノ梁上側板ヲ二重張ト爲スカ又ハ其ノ厚ヲ増スヘシ

**第三百二十三條** 船橋樓及船尾樓ノ前部ニ於ケル壁隔ノ厚ハ短船橋樓ノ側外板ノ厚ニ等シクスヘシ但シ〇・四吋ヨリ厚キコトヲ要セス又其ノ縁材ノ厚ハ之ニ〇・〇四吋ヲ増スヘシ

機關室口又ハ其ノ他ノ甲板口ヲ蔽圍スル船樓ノ前部ノ隔壁及縁材ニハ左表ニ掲クル球山形材ヲ堅ニ三十吋ノ距離ニ取附ケ其ノ上下兩端ハ肘板ヲ以テ之ヲ鋼甲板又ハ梁上ニ設クル鋼板ニ固著スヘシ

肋骨ト累接スヘシ

**第三百二十五條** 船樓上ニ長大ナル船樓又ハ甲板室ヲ設クルトキハ該船樓甲板下ノ船側ニ適當ノ防撓材ヲ附シ且該甲板室ノ上部ニ當ル甲板ニハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

**第三百二十六條** 長二百呎ヲ超ユル船舶ノ暴露セル上甲板上ニ設クル長大ナル甲板室ノ圍壁ハ鋼製ト爲シ約三十吋ノ距離ニ堅防撓材ヲ取附ケ且防撓桁板又ハ區畫壁ヲ以テ適當ニ之ヲ補強スヘシ

第三十二章 低船首樓及低船尾樓

**第三百二十七條** 低船尾樓ヲ設クル部分ニ於ケル肋骨及船側通材ノ寸法及配置ハ本編第七條ニ規定シタル艙内ノ深ニ上甲板梁ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁上上面迄ノ深ヲ加ヘタルモノヲ規定ノ艙内ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

**第三百二十八條** 低船尾樓ヲ設クル部分ノ梁及其ノ梁枝又ハ肘板、梁柱、木甲板、鋼甲板、梁上側板及其ノ山形材、梁上帶板、舷側厚板及其ノ直下ノ外板ノ寸法及配置ハ低船尾樓甲板ヲ上甲板ト看做シ其ノ下方ノ甲板ヲ第二甲板第三甲板等ト看做シテ之ヲ定ムヘシ但シ本編第七十五條ノ表中船ノ深及第十五號表中長ト深トノ割合ヲ定ムルニ用ユル船ノ深ニハ長船首樓ト之ニ連續セル低船尾樓ト



ヲ有スル船舶ヲ除クノ外本編第七條ニ規定スル船ノ深ニ  
上甲板梁ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ加ヘ  
タルモノヲ充ツヘシ

第三百二十九條 削除

第三百三十條 上甲板ノ舷側厚板ハ低船尾樓ノ前端ノ後部  
ニ適當ナル長ノ間之ヲ延長シ且其ノ前後ニ於テ之ヲ二重  
張ト爲スカ又ハ其ノ厚ヲ増スヘシ

低船尾樓ト長船橋樓トヲ連續スルトキハ其ノ部分ノ前後  
ニ於テ低船尾樓ノ舷側厚板ヲ二重張ト爲スカ又ハ其ノ厚  
ヲ増シ又長船橋樓ニ隣接スル低船尾樓ノ舷側厚板ハ其ノ厚  
ヲ増シ且長船橋樓ノ前端ニ於ケル舷側厚板ヲ二重張ト爲  
スヘシ

第三百三十一條

上甲板ノ梁上側板ハ低船尾樓ノ前端ヨリ  
肋骨ノ心距ノ約七倍後部ニ延長シ低船尾樓甲板ノ梁上側  
板ハ肋骨ノ心距ノ約四倍前部ニ延長シ又上甲板上ノ梁上  
側板ハ肋骨ノ心距ノ約八倍相累ネ且船橋樓ノ梁上側板モ  
亦適當ナル長ノ間後部ニ延長スヘシ但シ小形船ニ在リテ

甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ニ要スル寸法ノ山形材  
ヲ附シテ低船尾樓前端ノ隔壁ニ固著スヘシ

第三百三十七條

低船首樓ヲ設クル船舶ノ構造及寸法ハ本  
章中低船尾樓ヲ設クル船舶ニ關スル規定ニ準スヘシ

第三十三章 載貨門、載炭門及舷窓

第三百三十八條

舷側厚板ノ直下ニ載貨門又ハ載炭門ヲ設  
クルトキハ該部分ニ於テ舷側厚板ヲ二重張ト爲シ之ヲ其  
ノ前後ニ於テ肋骨ノ心距ノ約二倍延長シ且該門ヲ設クル  
爲肋骨二本以上ヲ切斷スルトキハ其ノ前後兩端ニ於テ幅  
ハ第三號甲板ニ揭クル正肋材ノ縱邊ノ幅ノ三・五倍以  
上、厚ハ該正肋材ノ厚ニ等シキ防撓桁板ヲ甲板間ニ設ケ  
其ノ上端ハ上甲板梁又ハ長船橋樓甲板梁ニ固著スルカ又  
ハ二重山形材ヲ以テ該甲板ノ梁上側板ニ固著シ下端ハ二  
重山形材ヲ以テ下層ノ甲板ノ梁上側板ニ固著スヘシ但シ  
載貨門又ハ載炭門ノ上ニ船樓アルトキハ特ニ必要ナル場  
合ヲ除クノ外縱強力ニ對スル補強構造ヲ爲ササルモ妨ナ  
シ

第三百三十九條

載貨門又載炭門ノ周圍ニハ堅牢ナル緣材  
ヲ設クヘシ

第三百四十條

載貨門又ハ載炭門ノ戸ニハ堅牢ナル防撓材

ハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第三百三十二條

低船尾樓ノ前端ニハ短船橋樓ノ側外板ノ  
厚ニ等シキ厚ノ隔壁ヲ設ケ適當ノ防撓材ヲ取附ケ二重山  
形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固著スヘシ

第三百三十三條

上甲板ノ全部又ハ一部ニ鋼甲板ヲ要スル  
船舶ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一ヲ超ユル低船尾樓ヲ設クル  
トキハ船ノ大小及長ト深トノ割合ニ依リ上甲板ノ鋼甲板  
ヲ肋骨ノ心距ノ二倍乃至五倍後部ニ延長シ低船尾樓甲板  
ト相累ナルノ外低船尾樓端ノ強力ヲ保持スル爲適當ノ補  
強構造ヲ爲スヘシ

第三百三十四條

上甲板ヲ低船尾樓前端ノ隔壁ノ後部ニ延  
長スルコトヲ要セサル船舶ニ在リテハ其ノ大小及長ト深  
トノ割合ニ依リ隔壁ノ兩面ニ各第十五號表ニ掲クル上甲  
板ニ要スル鋼甲板ノ厚ニ等シキ厚ノ肘板四箇又ハ五箇ヲ  
堅ニ取附ケ甲板ニ固著スヘシ

第三百三十五條

第二數一萬五千ヲ超ユル船舶又ハ深ノ十  
三・五倍ヲ超ユル長ヲ有スル船舶ニ在リテハ隔壁ト汽機  
室口ノ後端トノ距離ハ肋骨ノ心距ノ四倍ヨリ少カルヘカ  
ラス

第三百三十六條

低船尾樓甲板ノ鋼甲板ハ其ノ兩面ニ第二  
ヲ取附ケ適當ナル締具ヲ備ヘ且之ヲ閉鎖シタルトキハ水  
密ト成ルヘキ構造ト爲スヘシ

第三百四十一條

舷側厚板ニハ特ニ補強構造ヲ爲スニ非サ  
レハ載貨門又ハ載炭門ヲ設クルコトヲ得ス

第三百四十二條

長船橋樓ヲ除キ其ノ他ノ船樓ノ甲板上  
甲板トノ間ニ載貨門又ハ載炭門ヲ設クルトキハ其ノ前後  
兩端ニ防撓桁板ヲ設ケ且縱強力ヲ増スヘキ構造ト爲スヘ  
シ但シ短キ船樓ノ場合ニ於テハ縱強力ニ對スル補強構造  
ヲ爲ササルモ妨ナシ

第三百四十二條ノ二

滿載吃水線ノ標示ヲ附スル船舶ノ舷  
窓ハ本條ノ規定ニ依ルヘシ  
海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ六吋未滿ノ箇所ニ下  
緣ヲ有スル舷窓ハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ  
同等以上ノモノ又海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ四  
呎未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設ク  
ル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノ  
モノナルコトヲ要ス  
前項ニ掲クルモノノ外左ノ各號ノ舷窓ニハ内蓋ヲ備フヘ  
シ但シ内蓋ハ甲種舷窓以外ノモノニ在リテハ鑄鐵製ト爲  
スモ妨ナシ



一 船首ヨリ船ノ長ノ八分ノ一間ニ於ケル蔽圍シタル場所ニ設ケル舷窓

二 海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ七呎未満ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設ケル舷窓

三 何時ニテモ接近シ得ヘキ場所ニ設ケルモノヲ除クノ外乾舷甲板ノ下方ニ於テ前二號ニ該當セサル場所及船舶滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケル第一級又ハ第二級閉鎖裝置ヲ以テ閉鎖シタル船樓内ニ設ケル舷窓

乾舷甲板ノ下方ニ於ケル何時ニテモ接近シ得ヘキ場所ニ設ケル舷窓ニシテ内蓋ヲ備ヘサルモノニハ外蓋ヲ備ヘ又船舶滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケル第一級又ハ第二級閉鎖裝置ヲ以テ閉鎖シタル船樓内ノ何時ニテモ接近シ得ヘキ場所ニ設ケル舷窓ニシテ内蓋ヲ備ヘサルモノニハ舷窓二個毎ニ其ノ附近ニ一個ノ外蓋ヲ備ヘ置クヘシ但シ外蓋ハ鑄鐵製ト爲スモ妨ナシ

第三十四章 橋、索具及揚貨、揚

錨、繫船等ノ裝置並  
其ノ他ノ機製品

第三百四十三條 橋、索具、揚貨、揚錨及繫船ノ裝置、起

油庫ハ油密構造ト爲シ且適當ノ區畫壁又ハ制水板ヲ設クヘシ

第三百五十一條 燃料油ヲ積載スル區畫ハ管、艙口其ノ他ニ於テ油ノ到達スヘキ最高所以上一呎ニ相當スル水高壓カヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第三百五十二條 油艙ニハ上甲板上ニ充分ノ高ニ於テ開放スル排氣管ヲ設ケ之ニ掃除又ハ取換ノ爲取外シ易キ細目金網製隔膜ヲ備ヘ且二重底ニハ成ルヘク船底外板ニ適當ナル密閉裝置ヲ有スル掃除用口孔ヲ設クヘシ

油艙ニ溢油管ヲ設ケサルトキハ前項ノ排氣管ノ合計截面積ヲ注油管ノ截面積以上ト爲シ又溢油管ヲ設クルトキハ其合計截面積ヲ注油管ノ截面積以上ト爲シ且溢油管ハ之ヨリ溢出スル油又ハ油氣ニ因リ危險ヲ生セサル様適當ニ配置構造スルコトヲ要ス

第三百五十二條ノ二 油艙ニハ測深管又其他検査官吏ニ於テ適當ト認ムル測深裝置ヲ備フヘシ

測深管ハ暴露甲板又ハ滿載吃水線上ノ甲板ノ接近シ得ヘキ場所迄達セシムヘシ但シ車軸隧道又ハ機關室内ノ測深管ニシテ自動閉鎖裝置又ハ検査官吏ニ於テ適當ト認ムル錠付螺蓋ヲ備フルモノハ此ノ限ニ在ラス

錨鉤、端艇鉤等ノ機製品ハ其ノ用途ニ應シ適當ニ構造シ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試験ヲ執行スヘシ

第三百四十四條乃至第三百四十七條 削除

第三十五章 燃料油ヲ積載スル船舶

第三百四十八條 本章ノ規定ハ「エベル」式密閉試験ニ依リ華氏百五十度以上ノ引火點ヲ有スル燃料油ヲ積載スル船舶ニ之ヲ適用ス

華氏百五十度未満ノ引火點ヲ有スル燃料油ヲ積載スル船舶ノ構造方法ニ付テハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三百四十九條 燃料油ヲ積載スル二重底ハ適當ナル長ヲ有シ且其ノ中心線桁板ハ船首尾端ニ於ケル狹隘ナル部分ヲ除クノ外開孔ヲ設ケサルモノト爲スヘシ

前項ノ中心線桁板ハ油密又ハ水密ト爲ササルモ妨ナシ二重底其ノ他ニ於テ燃料油ヲ積載スル箇所ト清水ヲ積載スル箇所トヲ隣接スルトキハ其境界ニ適當ノ長ヲ有スル防油區畫ヲ設ケ之ヲ油密ニ構造スヘシ

清水艙用ノ管ハ油管ヲ兼用スルコトナク別ニ之ヲ設クヘシ

第三百五十條 燃料油ヲ積載スル船首尾水艙、艙内水艙及

測深管ノ直下ノ外板等ニハ當板ヲ爲スヘシ  
沈澱油庫其他ノ油庫ニハ驗油硝子ヲ設クヘカラス

厚キ硝子板、自動閉鎖裝置ノ瓣又ハ嘴子及適當ノ保護裝置ヲ備フルモノニシテ検査官吏ノ適當ト認ムル型式ノ驗油器ハ之ヲ沈澱油庫又ハ當用油庫ニ設クルコトヲ得

第三百五十三條 燃料油艙ニ接スル船艙又ハ石炭庫ノ隔壁ニハ之ニ沿ヒテ適當ノ油溜又ハ油道ヲ設ケ且該隔壁ニハ内張板ヲ張り排氣管ヲ設ケ隔壁ト内張板トノ間隔ノ通氣ヲ充分ニスヘシ船艙下ノ二重底内ニ燃料油ヲ積載スルトキハ内底板上ニ厚二吋以上ノ横木ヲ置キ其ノ上面ニ内張板ヲ張ルヘシ但シ内底板ノ縱橫線ヲ少クトモ二列釘固著ト爲スカ又ハ一列釘固著ノモノノ釘釘心距ヲ釘徑ノ四倍ト爲シ且容易ニ漏油ヲ塗水道及塗水溜ニ流入セシムル様適當ノ荷敷板ヲ敷ク場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百五十三條ノ二 沈澱油庫其ノ他ノ油庫等ヨリ漏油ノ虞アル箇所ニハ適當ノ油道、油受等ヲ設ケ且漏油力油溜又ハ塗水道ニ流入シ得ル裝置ヲ爲スヘシ

第三百五十四條 油艙ヲ脚荷水艙ニ兼用スルトキハ吸油管ヨリ吸油唧筒ニ導ク瓣又ハ嘴子ト吸油管ヨリ排水唧筒ニ導ク瓣又ハ嘴子ノ裝置ハ吸油唧筒ヲ以テ油艙ヨリ吸油中



排水唧筒ヲ以テ他ノ箇所ノ排水ヲ爲シ得ヘキモノナルコトヲ要ス但シ容積大ニシテ屢補充ヲ要セサル沈澱油庫又ハ常用油庫ヲ備フル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス  
 深水艙ヲ貨物、脚荷水及燃料油ニ共用スルトキハ貨物積載ニ當リテハ脚荷水及燃料油ノ注入管及吸出管ニ又燃料油積載ニ當リテハ淫水ノ吸出管ニ盲蓋ヲ取り附ケ得ル裝置ヲ爲スヘシ

第三百五十五條

吸油管ニハ機關室ニ於テ隔壁ノ内側ニ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ且吸油唧筒ヲ開放スル場合ニ吸油管ヲ塞キ得ル様唧筒ニ接シテ瓣又ハ嘴子ヲ備フヘシ

二重底ヲ除クノ外油庫ノ吸油管ニハ庫壁ニ於テ瓣又ハ嘴子ヲ備ヘ瓣又ハ嘴子ノ所在區畫ニ於ケル失火ノ際接近シ得ヘキ場所ヨリ之ヲ閉鎖シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ  
 船首艙又ハ船尾艙ニ燃料油ヲ積載スルトキハ吸油管ニハ瓣又ハ嘴子ヲ船首尾隔壁ノ内側ニ備フヘシ

沈澱油庫又ハ常用油庫ノ注油管ニハ吸油管ニ於ケルト同様ニ瓣若ハ嘴子及其ノ閉閉裝置ヲ備フルカ又ハ庫壁ニ於テ不還瓣ヲ取附クヘシ但シ注油管ヲ油庫ノ頂部ニ導クトキハ此ノ限ニ在ラス  
 機關室内ノ油管ニ備フル瓣又ハ嘴子ニハ機關室ノ上方ニ

於テ機關室圍壁外ノ場所ヨリ閉閉シ得ル裝置ヲ爲スヘシ  
 沈澱油庫又ハ常用油庫ノ吸水管ハ鐵製又ハ鋼製ト爲シ其ノ接合ハ堅牢ニシテ且機械仕上ヲ爲シ油ノ浸徹セサル接合材ヲ之ニ使用スヘシ

第三百五十六條

燃油裝置ノ送油管ヲ除キ其ノ他ノ油管及油艙内ヲ通スル吸水管ハ鐵製又ハ鋼製ト爲シ其ノ接合ハ堅牢ニシテ且機械仕上ヲ爲シ油ノ浸徹セサル接合材ヲ之ニ使用スヘシ

前項ノ諸管ハ機關室内ニ於テハ檢査及修繕シ易キ位置ニ之ヲ通スヘシ

第三百五十七條

汽罐室内及沈澱油庫ヲ設クル區畫内ニハ木材ヲ使用スヘカラス又汽罐ト油艙トノ間ニハ適當ノ間隔ヲ保チ必要ニ應シ適當ノ防熱裝置ヲ爲シテ燃料油ノ昇温ヲ防クヘシ

第三百五十八條

蒸氣唧筒ノ送水管及布管ハ海水ヲ汽罐室床板ニ灌キ淫水道ニ流シ落ス爲適當ノ場所ニ之ヲ設クヘシ  
 汽罐室ニハ其下部ニ蒸氣ヲ噴出セシメ得ヘキ多孔管ヲ備フヘシ

第三十六章 油 船

第三百五十九條

油船ニハ其ノ頂部ニ適當ノ膨脹圍壁ヲ設クヘシ

第三百六十條

油船ニハ其ノ中心線ニ船底ヨリ膨脹圍壁ノ頂部ニ達スル縱通隔壁ヲ設ケ又船ノ長ニ應シ二十四呎乃至二十八呎ヲ超エサル距離ニ横置隔壁ヲ設ケ適當ニ之ヲ區畫スヘシ

第三百六十一條

油船ハ之ヲ機關室及油艙以外ノ船艙ト隔離スル爲其ノ前後兩端ニ於テ船底ヨリ頂部ニ達スル防油區畫室ヲ設ケ其ノ長ハ肋骨ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ

第三百六十二條

油船ハ油密構造ト爲シ區畫室毎ニ膨脹圍壁頂板上八呎以上ノ水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ  
 油溜區畫室ハ頂板迄ノ水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第三百六十三條

油船ノ肋骨、肋板、内龍骨、甲板、梁、梁柱、油密隔壁等ノ構造及寸法竝吸油及通風ノ裝置等ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二編 機關部 (削除)

(昭和九年三月一日ヨリ施行)

附 則

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前船籍ニ登録シタル船舶ニシテ舊造船規程ニ合格スト認メラレタルモノハ本令施行後ト雖該規程ニ依ルコトヲ得

前項ニ依リ舊規程ニ依リタル場合ニ於テ該規程ニ合格スル船舶ハ之ヲ本令ニ合格スルモノト看做ス

本令公布前造船認許證書ノ交付ヲ申請シ本令施行前其ノ交付ヲ受ケタル船舶ハ明治四十三年六月遞信省令第六十四號造船規程ニ依ルコトヲ得

前項ニ依リ明治四十三年六月遞信省令第六十四號造船規程ニ依リタル場合ニ於テ該規程ニ合格スル船舶ハ之ヲ本令ニ合格スルモノト看做ス

附 則

(大正十一年遞信省令第三號)

本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 支水隔壁ノ構造、寸法及固著ハ明治四十三年六月遞信省令第六十四號造船規程ニ合格スルトキハ當分ノ内之ヲ本令ニ



海事法令集

合格スルモノト看做ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ従前ノ規程ニ依ルコトヲ得

附 則 (大正十五年) (遞信省令第四十八號)

本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル機關ニ付テハ従前ノ規程ニ依ルコトヲ得

材骨尾船及材首船骨龍形方

表號一第

| 噸數          | 方 形            | 材 骨            | 材尾有孔龍骨龍形方      |                | 噸數          | 方 形            | 材 骨            | 材首有孔龍骨龍形方      |                |
|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|             |                |                | 材尾有孔龍骨龍形方      | 材首有孔龍骨龍形方      |             |                |                | 材尾有孔龍骨龍形方      | 材首有孔龍骨龍形方      |
| 1800-2100   | 8 1/2 x 2 1/2  | 8 x 2 1/2      | 8 1/2 x 2 1/2  | 8 x 2 1/2      | 14200-16200 | 8 1/2 x 2 1/2  | 8 x 2 1/2      | 8 1/2 x 2 1/2  | 8 x 2 1/2      |
| 2100-2700   | 9 x 2 1/2      | 8 x 2 1/2      | 9 x 2 1/2      | 8 x 2 1/2      | 15200-16300 | 9 x 2 1/2      | 8 x 2 1/2      | 9 x 2 1/2      | 8 x 2 1/2      |
| 2700-3300   | 9 1/2 x 2 1/2  | 8 1/2 x 2 1/2  | 9 1/2 x 2 1/2  | 8 1/2 x 2 1/2  | 16300-17500 | 9 1/2 x 2 1/2  | 8 1/2 x 2 1/2  | 9 1/2 x 2 1/2  | 8 1/2 x 2 1/2  |
| 3300-4000   | 10 x 2 1/2     | 9 x 2 1/2      | 10 x 2 1/2     | 9 x 2 1/2      | 17500-18900 | 10 x 2 1/2     | 9 x 2 1/2      | 10 x 2 1/2     | 9 x 2 1/2      |
| 4000-4600   | 10 1/2 x 2 1/2 | 9 1/2 x 2 1/2  | 10 1/2 x 2 1/2 | 9 1/2 x 2 1/2  | 18900-20500 | 10 1/2 x 2 1/2 | 9 1/2 x 2 1/2  | 10 1/2 x 2 1/2 | 9 1/2 x 2 1/2  |
| 4600-5300   | 11 x 2 1/2     | 10 x 2 1/2     | 11 x 2 1/2     | 10 x 2 1/2     | 20500-22300 | 11 x 2 1/2     | 10 x 2 1/2     | 11 x 2 1/2     | 10 x 2 1/2     |
| 5300-6000   | 11 1/2 x 2 1/2 | 10 1/2 x 2 1/2 | 11 1/2 x 2 1/2 | 10 1/2 x 2 1/2 | 22300-24300 | 11 1/2 x 2 1/2 | 10 1/2 x 2 1/2 | 11 1/2 x 2 1/2 | 10 1/2 x 2 1/2 |
| 6000-7200   | 12 x 2 1/2     | 11 x 2 1/2     | 12 x 2 1/2     | 11 x 2 1/2     | 24300-26500 | 12 x 2 1/2     | 11 x 2 1/2     | 12 x 2 1/2     | 11 x 2 1/2     |
| 7200-7900   | 12 1/2 x 2 1/2 | 11 1/2 x 2 1/2 | 12 1/2 x 2 1/2 | 11 1/2 x 2 1/2 | 26500-28900 | 12 1/2 x 2 1/2 | 11 1/2 x 2 1/2 | 12 1/2 x 2 1/2 | 11 1/2 x 2 1/2 |
| 7900-8550   | 13 x 2 1/2     | 12 x 2 1/2     | 13 x 2 1/2     | 12 x 2 1/2     | 28900-31500 | 13 x 2 1/2     | 12 x 2 1/2     | 13 x 2 1/2     | 12 x 2 1/2     |
| 8550-9200   | 13 1/2 x 2 1/2 | 12 1/2 x 2 1/2 | 13 1/2 x 2 1/2 | 12 1/2 x 2 1/2 | 31500-34300 | 13 1/2 x 2 1/2 | 12 1/2 x 2 1/2 | 13 1/2 x 2 1/2 | 12 1/2 x 2 1/2 |
| 9200-9850   | 14 x 2 1/2     | 13 x 2 1/2     | 14 x 2 1/2     | 13 x 2 1/2     | 34300-37300 | 14 x 2 1/2     | 13 x 2 1/2     | 14 x 2 1/2     | 13 x 2 1/2     |
| 9850-10700  | 14 1/2 x 2 1/2 | 13 1/2 x 2 1/2 | 14 1/2 x 2 1/2 | 13 1/2 x 2 1/2 | 37300-40500 | 14 1/2 x 2 1/2 | 13 1/2 x 2 1/2 | 14 1/2 x 2 1/2 | 13 1/2 x 2 1/2 |
| 10500-11150 | 15 x 2 1/2     | 14 x 2 1/2     | 15 x 2 1/2     | 14 x 2 1/2     | 40500-43900 | 15 x 2 1/2     | 14 x 2 1/2     | 15 x 2 1/2     | 14 x 2 1/2     |
| 11150-11900 | 15 1/2 x 2 1/2 | 14 1/2 x 2 1/2 | 15 1/2 x 2 1/2 | 14 1/2 x 2 1/2 | 43900-47500 | 15 1/2 x 2 1/2 | 14 1/2 x 2 1/2 | 15 1/2 x 2 1/2 | 14 1/2 x 2 1/2 |
| 11900-12500 | 16 x 2 1/2     | 15 x 2 1/2     | 16 x 2 1/2     | 15 x 2 1/2     | 47500-51300 | 16 x 2 1/2     | 15 x 2 1/2     | 16 x 2 1/2     | 15 x 2 1/2     |
| 12500-13200 | 16 1/2 x 2 1/2 | 15 1/2 x 2 1/2 | 16 1/2 x 2 1/2 | 15 1/2 x 2 1/2 | 51300-55300 | 16 1/2 x 2 1/2 | 15 1/2 x 2 1/2 | 16 1/2 x 2 1/2 | 15 1/2 x 2 1/2 |
| 13200-14200 | 17 x 2 1/2     | 16 x 2 1/2     | 17 x 2 1/2     | 16 x 2 1/2     | 55300-59700 | 17 x 2 1/2     | 16 x 2 1/2     | 17 x 2 1/2     | 16 x 2 1/2     |
|             |                |                |                |                | 59700-64600 |                |                |                |                |

徑ノ頭船 表甲號二第

| 噸數      | 徑ノ頭船 | (節) 力速海航ノ船 |    |        |    |        |    |        |    |        |    |
|---------|------|------------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|
|         |      | 10         | 12 | 14     | 16 | 18     | 20 | 22     | 24 | 26     | 28 |
| 22-26   | 3    | 3 1/2      | 4  | 4 1/2  | 5  | 5 1/2  | 6  | 6 1/2  | 7  | 7 1/2  | 8  |
| 28-34   | 4    | 4 1/2      | 5  | 5 1/2  | 6  | 6 1/2  | 7  | 7 1/2  | 8  | 8 1/2  | 9  |
| 34-40   | 5    | 5 1/2      | 6  | 6 1/2  | 7  | 7 1/2  | 8  | 8 1/2  | 9  | 9 1/2  | 10 |
| 40-47   | 6    | 6 1/2      | 7  | 7 1/2  | 8  | 8 1/2  | 9  | 9 1/2  | 10 | 10 1/2 | 11 |
| 47-55   | 7    | 7 1/2      | 8  | 8 1/2  | 9  | 9 1/2  | 10 | 10 1/2 | 11 | 11 1/2 | 12 |
| 55-64   | 8    | 8 1/2      | 9  | 9 1/2  | 10 | 10 1/2 | 11 | 11 1/2 | 12 | 12 1/2 | 13 |
| 64-73   | 9    | 9 1/2      | 10 | 10 1/2 | 11 | 11 1/2 | 12 | 12 1/2 | 13 | 13 1/2 | 14 |
| 73-83   | 10   | 10 1/2     | 11 | 11 1/2 | 12 | 12 1/2 | 13 | 13 1/2 | 14 | 14 1/2 | 15 |
| 83-94   | 11   | 11 1/2     | 12 | 12 1/2 | 13 | 13 1/2 | 14 | 14 1/2 | 15 | 15 1/2 | 16 |
| 94-105  | 12   | 12 1/2     | 13 | 13 1/2 | 14 | 14 1/2 | 15 | 15 1/2 | 16 | 16 1/2 | 17 |
| 105-117 | 13   | 13 1/2     | 14 | 14 1/2 | 15 | 15 1/2 | 16 | 16 1/2 | 17 | 17 1/2 | 18 |
| 117-130 | 14   | 14 1/2     | 15 | 15 1/2 | 16 | 16 1/2 | 17 | 17 1/2 | 18 | 18 1/2 | 19 |
| 130-144 | 15   | 15 1/2     | 16 | 16 1/2 | 17 | 17 1/2 | 18 | 18 1/2 | 19 | 19 1/2 | 20 |
| 144-160 | 16   | 16 1/2     | 17 | 17 1/2 | 18 | 18 1/2 | 19 | 19 1/2 | 20 | 20 1/2 | 21 |
| 160-176 | 17   | 17 1/2     | 18 | 18 1/2 | 19 | 19 1/2 | 20 | 20 1/2 | 21 | 21 1/2 | 22 |
| 176-192 | 18   | 18 1/2     | 19 | 19 1/2 | 20 | 20 1/2 | 21 | 21 1/2 | 22 | 22 1/2 | 23 |
| 192-209 | 19   | 19 1/2     | 20 | 20 1/2 | 21 | 21 1/2 | 22 | 22 1/2 | 23 | 23 1/2 | 24 |
| 209-227 | 20   | 20 1/2     | 21 | 21 1/2 | 22 | 22 1/2 | 23 | 23 1/2 | 24 | 24 1/2 | 25 |
| 227-246 | 21   | 21 1/2     | 22 | 22 1/2 | 23 | 23 1/2 | 24 | 24 1/2 | 25 | 25 1/2 | 26 |
| 246-268 | 22   | 22 1/2     | 23 | 23 1/2 | 24 | 24 1/2 | 25 | 25 1/2 | 26 | 26 1/2 | 27 |
| 268-290 | 23   | 23 1/2     | 24 | 24 1/2 | 25 | 25 1/2 | 26 | 26 1/2 | 27 | 27 1/2 | 28 |
| 290-316 | 24   | 24 1/2     | 25 | 25 1/2 | 26 | 26 1/2 | 27 | 27 1/2 | 28 | 28 1/2 | 29 |
| 316-343 | 25   | 25 1/2     | 26 | 26 1/2 | 27 | 27 1/2 | 28 | 28 1/2 | 29 | 29 1/2 | 30 |
| 343-373 | 26   | 26 1/2     | 27 | 27 1/2 | 28 | 28 1/2 | 29 | 29 1/2 | 30 | 30 1/2 | 31 |
| 373-405 | 27   | 27 1/2     | 28 | 28 1/2 | 29 | 29 1/2 | 30 | 30 1/2 | 31 | 31 1/2 | 32 |
| 405-445 | 28   | 28 1/2     | 29 | 29 1/2 | 30 | 30 1/2 | 31 | 31 1/2 | 32 | 32 1/2 | 33 |
| 445-500 | 29   | 29 1/2     | 30 | 30 1/2 | 31 | 31 1/2 | 32 | 32 1/2 | 33 | 33 1/2 | 34 |
| 500-570 | 30   | 30 1/2     | 31 | 31 1/2 | 32 | 32 1/2 | 33 | 33 1/2 | 34 | 34 1/2 | 35 |
| 570-640 | 31   | 31 1/2     | 32 | 32 1/2 | 33 | 33 1/2 | 34 | 34 1/2 | 35 | 35 1/2 | 36 |
| 640-720 | 32   | 32 1/2     | 33 | 33 1/2 | 34 | 34 1/2 | 35 | 35 1/2 | 36 | 36 1/2 | 37 |
| 720-800 | 33   | 33 1/2     | 34 | 34 1/2 | 35 | 35 1/2 | 36 | 36 1/2 | 37 | 37 1/2 | 38 |
| 800-890 | 34   | 34 1/2     | 35 | 35 1/2 | 36 | 36 1/2 | 37 | 37 1/2 | 38 | 38 1/2 | 39 |



鐵骨鋼骨船 表乙第二號

| 部  | 名  | 材  | 寸法 |     | 重 | 備   |    |    |    |   |   |    |    |
|----|----|----|----|-----|---|-----|----|----|----|---|---|----|----|
|    |    |    | 長さ | 幅   |   |     |    |    |    |   |   |    |    |
| 鋼骨 | 船體 | 鋼骨 | 15 | 134 | 4 | 374 | 30 | 41 | 9  | 8 | 3 | 23 |    |
|    |    |    | 14 | 123 | 3 | 361 | 29 | 40 | 9  | 8 | 3 | 23 |    |
|    |    |    | 13 | 112 | 3 | 348 | 28 | 39 | 39 | 9 | 8 | 3  | 23 |
|    |    |    | 12 | 101 | 3 | 335 | 27 | 38 | 38 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 11 | 90  | 3 | 322 | 26 | 37 | 37 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 10 | 80  | 3 | 309 | 25 | 36 | 36 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 9  | 70  | 3 | 296 | 24 | 35 | 35 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 8  | 60  | 3 | 283 | 23 | 34 | 34 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 7  | 50  | 3 | 270 | 22 | 33 | 33 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 6  | 40  | 3 | 257 | 21 | 32 | 32 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 5  | 30  | 3 | 244 | 20 | 31 | 31 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 4  | 20  | 3 | 231 | 19 | 30 | 30 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 3  | 10  | 3 | 218 | 18 | 29 | 29 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 2  | 0   | 3 | 205 | 17 | 28 | 28 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 1  | 0   | 3 | 192 | 16 | 27 | 27 | 8 | 2 | 2  | 21 |

鋼骨鐵骨船 表丙第二號

| 部  | 名  | 材  | 寸法 |     | 重 | 備   |    |    |    |   |   |    |    |
|----|----|----|----|-----|---|-----|----|----|----|---|---|----|----|
|    |    |    | 長さ | 幅   |   |     |    |    |    |   |   |    |    |
| 鋼骨 | 船體 | 鋼骨 | 15 | 134 | 4 | 374 | 30 | 41 | 9  | 8 | 3 | 23 |    |
|    |    |    | 14 | 123 | 3 | 361 | 29 | 40 | 9  | 8 | 3 | 23 |    |
|    |    |    | 13 | 112 | 3 | 348 | 28 | 39 | 39 | 9 | 8 | 3  | 23 |
|    |    |    | 12 | 101 | 3 | 335 | 27 | 38 | 38 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 11 | 90  | 3 | 322 | 26 | 37 | 37 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 10 | 80  | 3 | 309 | 25 | 36 | 36 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 9  | 70  | 3 | 296 | 24 | 35 | 35 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 8  | 60  | 3 | 283 | 23 | 34 | 34 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 7  | 50  | 3 | 270 | 22 | 33 | 33 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 6  | 40  | 3 | 257 | 21 | 32 | 32 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 5  | 30  | 3 | 244 | 20 | 31 | 31 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 4  | 20  | 3 | 231 | 19 | 30 | 30 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 3  | 10  | 3 | 218 | 18 | 29 | 29 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 2  | 0   | 3 | 205 | 17 | 28 | 28 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 1  | 0   | 3 | 192 | 16 | 27 | 27 | 8 | 2 | 2  | 21 |

骨助ルタシ造機子以ラ材助副及材助正 (一ノ其) 表甲號三第

| 部  | 名  | 材  | 寸法 |     | 重 | 備   |    |    |    |   |   |    |    |
|----|----|----|----|-----|---|-----|----|----|----|---|---|----|----|
|    |    |    | 長さ | 幅   |   |     |    |    |    |   |   |    |    |
| 鋼骨 | 船體 | 鋼骨 | 15 | 134 | 4 | 374 | 30 | 41 | 9  | 8 | 3 | 23 |    |
|    |    |    | 14 | 123 | 3 | 361 | 29 | 40 | 9  | 8 | 3 | 23 |    |
|    |    |    | 13 | 112 | 3 | 348 | 28 | 39 | 39 | 9 | 8 | 3  | 23 |
|    |    |    | 12 | 101 | 3 | 335 | 27 | 38 | 38 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 11 | 90  | 3 | 322 | 26 | 37 | 37 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 10 | 80  | 3 | 309 | 25 | 36 | 36 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 9  | 70  | 3 | 296 | 24 | 35 | 35 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 8  | 60  | 3 | 283 | 23 | 34 | 34 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 7  | 50  | 3 | 270 | 22 | 33 | 33 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 6  | 40  | 3 | 257 | 21 | 32 | 32 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 5  | 30  | 3 | 244 | 20 | 31 | 31 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 4  | 20  | 3 | 231 | 19 | 30 | 30 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 3  | 10  | 3 | 218 | 18 | 29 | 29 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 2  | 0   | 3 | 205 | 17 | 28 | 28 | 8 | 2 | 2  | 21 |
|    |    |    | 1  | 0   | 3 | 192 | 16 | 27 | 27 | 8 | 2 | 2  | 21 |























| 號       | 10-10 |    | 10-13 |    | 10-16 |    | 10-19 |    | 10-22 |    | 10-25 |    | 10-28 |    |
|---------|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|-------|----|
|         | 材     | 寸  | 材     | 寸  | 材     | 寸  | 材     | 寸  | 材     | 寸  | 材     | 寸  | 材     | 寸  |
| 46      | 材形山   | 20 | 材形山   | 21 | 材形山   | 22 | 材形山   | 23 | 材形山   | 24 | 材形山   | 25 | 材形山   | 26 |
| 48-51   | 材形山   | 20 | 材形山   | 21 | 材形山   | 22 | 材形山   | 23 | 材形山   | 24 | 材形山   | 25 | 材形山   | 26 |
| 61-64   | 材形山   | 22 | 材形山   | 23 | 材形山   | 24 | 材形山   | 25 | 材形山   | 26 | 材形山   | 27 | 材形山   | 28 |
| 64-57   | 材形山   | 23 | 材形山   | 24 | 材形山   | 25 | 材形山   | 26 | 材形山   | 27 | 材形山   | 28 | 材形山   | 29 |
| 67-90   | 材形山   | 24 | 材形山   | 25 | 材形山   | 26 | 材形山   | 27 | 材形山   | 28 | 材形山   | 29 | 材形山   | 30 |
| 6-58    | 材形山   | 25 | 材形山   | 26 | 材形山   | 27 | 材形山   | 28 | 材形山   | 29 | 材形山   | 30 | 材形山   | 31 |
| 62-69   | 材形山   | 25 | 材形山   | 26 | 材形山   | 27 | 材形山   | 28 | 材形山   | 29 | 材形山   | 30 | 材形山   | 31 |
| 66-69   | 材形山   | 26 | 材形山   | 27 | 材形山   | 28 | 材形山   | 29 | 材形山   | 30 | 材形山   | 31 | 材形山   | 32 |
| 60-72   | 材形山   | 27 | 材形山   | 28 | 材形山   | 29 | 材形山   | 30 | 材形山   | 31 | 材形山   | 32 | 材形山   | 33 |
| 72-75   | 材形山   | 28 | 材形山   | 29 | 材形山   | 30 | 材形山   | 31 | 材形山   | 32 | 材形山   | 33 | 材形山   | 34 |
| 75-78   | 材形山   | 29 | 材形山   | 30 | 材形山   | 31 | 材形山   | 32 | 材形山   | 33 | 材形山   | 34 | 材形山   | 35 |
| 73-81   | 材形山   | 30 | 材形山   | 31 | 材形山   | 32 | 材形山   | 33 | 材形山   | 34 | 材形山   | 35 | 材形山   | 36 |
| 81-84   | 材形山   | 31 | 材形山   | 32 | 材形山   | 33 | 材形山   | 34 | 材形山   | 35 | 材形山   | 36 | 材形山   | 37 |
| 84-87   | 材形山   | 32 | 材形山   | 33 | 材形山   | 34 | 材形山   | 35 | 材形山   | 36 | 材形山   | 37 | 材形山   | 38 |
| 87-90   | 材形山   | 33 | 材形山   | 34 | 材形山   | 35 | 材形山   | 36 | 材形山   | 37 | 材形山   | 38 | 材形山   | 39 |
| 90-93   | 材形山   | 34 | 材形山   | 35 | 材形山   | 36 | 材形山   | 37 | 材形山   | 38 | 材形山   | 39 | 材形山   | 40 |
| 93-96   | 材形山   | 35 | 材形山   | 36 | 材形山   | 37 | 材形山   | 38 | 材形山   | 39 | 材形山   | 40 | 材形山   | 41 |
| 96-99   | 材形山   | 36 | 材形山   | 37 | 材形山   | 38 | 材形山   | 39 | 材形山   | 40 | 材形山   | 41 | 材形山   | 42 |
| 99-102  | 材形山   | 37 | 材形山   | 38 | 材形山   | 39 | 材形山   | 40 | 材形山   | 41 | 材形山   | 42 | 材形山   | 43 |
| 102-105 | 材形山   | 38 | 材形山   | 39 | 材形山   | 40 | 材形山   | 41 | 材形山   | 42 | 材形山   | 43 | 材形山   | 44 |

板壁隔水支表甲號九第

| 號  | 材   | 寸  | 材   | 寸  | 材   | 寸  | 材   | 寸  | 材   | 寸  | 材   | 寸  | 材   | 寸  |
|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 1  | 材形山 | 26 | 材形山 | 27 | 材形山 | 28 | 材形山 | 29 | 材形山 | 30 | 材形山 | 31 | 材形山 | 32 |
| 8  | 材形山 | 28 | 材形山 | 29 | 材形山 | 30 | 材形山 | 31 | 材形山 | 32 | 材形山 | 33 | 材形山 | 34 |
| 12 | 材形山 | 30 | 材形山 | 31 | 材形山 | 32 | 材形山 | 33 | 材形山 | 34 | 材形山 | 35 | 材形山 | 36 |
| 16 | 材形山 | 32 | 材形山 | 33 | 材形山 | 34 | 材形山 | 35 | 材形山 | 36 | 材形山 | 37 | 材形山 | 38 |
| 20 | 材形山 | 34 | 材形山 | 35 | 材形山 | 36 | 材形山 | 37 | 材形山 | 38 | 材形山 | 39 | 材形山 | 40 |
| 24 | 材形山 | 36 | 材形山 | 37 | 材形山 | 38 | 材形山 | 39 | 材形山 | 40 | 材形山 | 41 | 材形山 | 42 |
| 28 | 材形山 | 38 | 材形山 | 39 | 材形山 | 40 | 材形山 | 41 | 材形山 | 42 | 材形山 | 43 | 材形山 | 44 |
| 32 | 材形山 | 40 | 材形山 | 41 | 材形山 | 42 | 材形山 | 43 | 材形山 | 44 | 材形山 | 45 | 材形山 | 46 |
| 36 | 材形山 | 42 | 材形山 | 43 | 材形山 | 44 | 材形山 | 45 | 材形山 | 46 | 材形山 | 47 | 材形山 | 48 |
| 40 | 材形山 | 44 | 材形山 | 45 | 材形山 | 46 | 材形山 | 47 | 材形山 | 48 | 材形山 | 49 | 材形山 | 50 |
| 44 | 材形山 | 46 | 材形山 | 47 | 材形山 | 48 | 材形山 | 49 | 材形山 | 50 | 材形山 | 51 | 材形山 | 52 |
| 48 | 材形山 | 48 | 材形山 | 49 | 材形山 | 50 | 材形山 | 51 | 材形山 | 52 | 材形山 | 53 | 材形山 | 54 |
| 52 | 材形山 | 50 | 材形山 | 51 | 材形山 | 52 | 材形山 | 53 | 材形山 | 54 | 材形山 | 55 | 材形山 | 56 |
| 56 | 材形山 | 52 | 材形山 | 53 | 材形山 | 54 | 材形山 | 55 | 材形山 | 56 | 材形山 | 57 | 材形山 | 58 |

材撓防堅壁隔水支ル付取ヲ板肘ニ端兩下上 (一ノ共) 表乙號九第

| 長短ノ寸法 | 0             |    | 2          |    | 4             |    | 6          |    | 8          |    | 10         |    | 12         |    |
|-------|---------------|----|------------|----|---------------|----|------------|----|------------|----|------------|----|------------|----|
|       | 材             | 寸  | 材          | 寸  | 材             | 寸  | 材          | 寸  | 材          | 寸  | 材          | 寸  | 材          | 寸  |
| 山     | 3 1/2 x 2 1/2 | 25 | 4 x 3      | 30 | 4 1/2 x 3 1/2 | 32 | 5 x 3      | 32 | 5 1/2 x 3  | 32 | 6 x 3      | 32 | 6 1/2 x 3  | 35 |
| 山     | 4 x 2 1/2     | 30 | 4 1/2 x 3  | 32 | 5 x 3         | 32 | 5 1/2 x 3  | 32 | 6 x 3      | 32 | 6 1/2 x 3  | 32 | 7 x 3      | 32 |
| 山     | 4 1/2 x 3     | 32 | 5 x 3      | 32 | 5 1/2 x 3     | 32 | 6 x 3      | 32 | 6 1/2 x 3  | 32 | 7 x 3      | 32 | 7 1/2 x 3  | 32 |
| 山     | 5 x 3         | 34 | 5 1/2 x 3  | 36 | 6 x 3         | 36 | 6 1/2 x 3  | 36 | 7 x 3      | 36 | 7 1/2 x 3  | 36 | 8 x 3      | 36 |
| 山     | 5 1/2 x 3     | 36 | 6 x 3      | 36 | 6 1/2 x 3     | 36 | 7 x 3      | 36 | 7 1/2 x 3  | 36 | 8 x 3      | 36 | 8 1/2 x 3  | 36 |
| 山     | 6 x 3         | 36 | 6 1/2 x 3  | 36 | 7 x 3         | 36 | 7 1/2 x 3  | 36 | 8 x 3      | 36 | 8 1/2 x 3  | 36 | 9 x 3      | 36 |
| 山     | 6 1/2 x 3     | 36 | 7 x 3      | 36 | 7 1/2 x 3     | 36 | 8 x 3      | 36 | 8 1/2 x 3  | 36 | 9 x 3      | 36 | 9 1/2 x 3  | 36 |
| 山     | 7 x 3         | 38 | 7 1/2 x 3  | 38 | 8 x 3         | 38 | 8 1/2 x 3  | 38 | 9 x 3      | 38 | 9 1/2 x 3  | 38 | 10 x 3     | 38 |
| 山     | 7 1/2 x 3     | 40 | 8 x 3      | 40 | 8 1/2 x 3     | 40 | 9 x 3      | 40 | 9 1/2 x 3  | 40 | 10 x 3     | 40 | 10 1/2 x 3 | 40 |
| 山     | 8 x 3         | 40 | 8 1/2 x 3  | 40 | 9 x 3         | 40 | 9 1/2 x 3  | 40 | 10 x 3     | 40 | 10 1/2 x 3 | 40 | 11 x 3     | 40 |
| 山     | 8 1/2 x 3     | 40 | 9 x 3      | 40 | 9 1/2 x 3     | 40 | 10 x 3     | 40 | 10 1/2 x 3 | 40 | 11 x 3     | 40 | 11 1/2 x 3 | 40 |
| 山     | 9 x 3         | 42 | 9 1/2 x 3  | 42 | 10 x 3        | 42 | 10 1/2 x 3 | 42 | 11 x 3     | 42 | 11 1/2 x 3 | 42 | 12 x 3     | 42 |
| 山     | 9 1/2 x 3     | 42 | 10 x 3     | 42 | 10 1/2 x 3    | 42 | 11 x 3     | 42 | 11 1/2 x 3 | 42 | 12 x 3     | 42 | 12 1/2 x 3 | 42 |
| 山     | 10 x 3        | 42 | 10 1/2 x 3 | 42 | 11 x 3        | 42 | 11 1/2 x 3 | 42 | 12 x 3     | 42 | 12 1/2 x 3 | 42 | 13 x 3     | 42 |
| 山     | 10 1/2 x 3    | 42 | 11 x 3     | 42 | 11 1/2 x 3    | 42 | 12 x 3     | 42 | 12 1/2 x 3 | 42 | 13 x 3     | 42 | 13 1/2 x 3 | 42 |
| 山     | 11 x 3        | 44 | 11 1/2 x 3 | 44 | 12 x 3        | 44 | 12 1/2 x 3 | 44 | 13 x 3     | 44 | 13 1/2 x 3 | 44 | 14 x 3     | 44 |
| 山     | 11 1/2 x 3    | 44 | 12 x 3     | 44 | 12 1/2 x 3    | 44 | 13 x 3     | 44 | 13 1/2 x 3 | 44 | 14 x 3     | 44 | 14 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 12 x 3        | 44 | 12 1/2 x 3 | 44 | 13 x 3        | 44 | 13 1/2 x 3 | 44 | 14 x 3     | 44 | 14 1/2 x 3 | 44 | 15 x 3     | 44 |
| 山     | 12 1/2 x 3    | 44 | 13 x 3     | 44 | 13 1/2 x 3    | 44 | 14 x 3     | 44 | 14 1/2 x 3 | 44 | 15 x 3     | 44 | 15 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 13 x 3        | 44 | 13 1/2 x 3 | 44 | 14 x 3        | 44 | 14 1/2 x 3 | 44 | 15 x 3     | 44 | 15 1/2 x 3 | 44 | 16 x 3     | 44 |
| 山     | 13 1/2 x 3    | 44 | 14 x 3     | 44 | 14 1/2 x 3    | 44 | 15 x 3     | 44 | 15 1/2 x 3 | 44 | 16 x 3     | 44 | 16 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 14 x 3        | 44 | 14 1/2 x 3 | 44 | 15 x 3        | 44 | 15 1/2 x 3 | 44 | 16 x 3     | 44 | 16 1/2 x 3 | 44 | 17 x 3     | 44 |
| 山     | 14 1/2 x 3    | 44 | 15 x 3     | 44 | 15 1/2 x 3    | 44 | 16 x 3     | 44 | 16 1/2 x 3 | 44 | 17 x 3     | 44 | 17 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 15 x 3        | 44 | 15 1/2 x 3 | 44 | 16 x 3        | 44 | 16 1/2 x 3 | 44 | 17 x 3     | 44 | 17 1/2 x 3 | 44 | 18 x 3     | 44 |
| 山     | 15 1/2 x 3    | 44 | 16 x 3     | 44 | 16 1/2 x 3    | 44 | 17 x 3     | 44 | 17 1/2 x 3 | 44 | 18 x 3     | 44 | 18 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 16 x 3        | 44 | 16 1/2 x 3 | 44 | 17 x 3        | 44 | 17 1/2 x 3 | 44 | 18 x 3     | 44 | 18 1/2 x 3 | 44 | 19 x 3     | 44 |
| 山     | 16 1/2 x 3    | 44 | 17 x 3     | 44 | 17 1/2 x 3    | 44 | 18 x 3     | 44 | 18 1/2 x 3 | 44 | 19 x 3     | 44 | 19 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 17 x 3        | 44 | 17 1/2 x 3 | 44 | 18 x 3        | 44 | 18 1/2 x 3 | 44 | 19 x 3     | 44 | 19 1/2 x 3 | 44 | 20 x 3     | 44 |
| 山     | 17 1/2 x 3    | 44 | 18 x 3     | 44 | 18 1/2 x 3    | 44 | 19 x 3     | 44 | 19 1/2 x 3 | 44 | 20 x 3     | 44 | 20 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 18 x 3        | 44 | 18 1/2 x 3 | 44 | 19 x 3        | 44 | 19 1/2 x 3 | 44 | 20 x 3     | 44 | 20 1/2 x 3 | 44 | 21 x 3     | 44 |
| 山     | 18 1/2 x 3    | 44 | 19 x 3     | 44 | 19 1/2 x 3    | 44 | 20 x 3     | 44 | 20 1/2 x 3 | 44 | 21 x 3     | 44 | 21 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 19 x 3        | 44 | 19 1/2 x 3 | 44 | 20 x 3        | 44 | 20 1/2 x 3 | 44 | 21 x 3     | 44 | 21 1/2 x 3 | 44 | 22 x 3     | 44 |
| 山     | 19 1/2 x 3    | 44 | 20 x 3     | 44 | 20 1/2 x 3    | 44 | 21 x 3     | 44 | 21 1/2 x 3 | 44 | 22 x 3     | 44 | 22 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 20 x 3        | 44 | 20 1/2 x 3 | 44 | 21 x 3        | 44 | 21 1/2 x 3 | 44 | 22 x 3     | 44 | 22 1/2 x 3 | 44 | 23 x 3     | 44 |
| 山     | 20 1/2 x 3    | 44 | 21 x 3     | 44 | 21 1/2 x 3    | 44 | 22 x 3     | 44 | 22 1/2 x 3 | 44 | 23 x 3     | 44 | 23 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 21 x 3        | 44 | 21 1/2 x 3 | 44 | 22 x 3        | 44 | 22 1/2 x 3 | 44 | 23 x 3     | 44 | 23 1/2 x 3 | 44 | 24 x 3     | 44 |
| 山     | 21 1/2 x 3    | 44 | 22 x 3     | 44 | 22 1/2 x 3    | 44 | 23 x 3     | 44 | 23 1/2 x 3 | 44 | 24 x 3     | 44 | 24 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 22 x 3        | 44 | 22 1/2 x 3 | 44 | 23 x 3        | 44 | 23 1/2 x 3 | 44 | 24 x 3     | 44 | 24 1/2 x 3 | 44 | 25 x 3     | 44 |
| 山     | 22 1/2 x 3    | 44 | 23 x 3     | 44 | 23 1/2 x 3    | 44 | 24 x 3     | 44 | 24 1/2 x 3 | 44 | 25 x 3     | 44 | 25 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 23 x 3        | 44 | 23 1/2 x 3 | 44 | 24 x 3        | 44 | 24 1/2 x 3 | 44 | 25 x 3     | 44 | 25 1/2 x 3 | 44 | 26 x 3     | 44 |
| 山     | 23 1/2 x 3    | 44 | 24 x 3     | 44 | 24 1/2 x 3    | 44 | 25 x 3     | 44 | 25 1/2 x 3 | 44 | 26 x 3     | 44 | 26 1/2 x 3 | 44 |
| 山     | 24 x 3        | 44 | 24 1/2 x 3 | 44 | 25 x 3        | 44 | 25 1/2 x 3 | 44 | 26 x 3     | 44 | 26 1/2 x 3 | 44 | 27 x 3     | 44 |
| 山     | 24 1/2 x 3    | 44 | 25 x 3     | 44 | 25 1/2 x 3    | 44 | 26 x 3     | 44 | 26 1/2 x 3 | 44 | 27 x 3     | 44 |            |    |























| 梁ノ柱 | 徑ノ柱梁實由ルケ附取ニ置本一骨肋 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | 第一種              | 第二種 | 第三種 | 第四種 | 第五種 | 第六種 | 第七種 | 第八種 | 第九種 | 第十種 |
| 1   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 2   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 3   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 4   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 5   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 6   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 7   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 8   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 9   | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 10  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 11  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 12  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 13  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 14  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 15  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 16  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 17  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 18  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 19  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 20  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 21  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 22  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 23  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 24  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 25  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 26  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 27  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 28  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 29  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 30  | 21               | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |

柱ノ力

| 柱ノ力 | 第一種 | 第二種 | 第三種 | 第四種 | 第五種 | 第六種 | 第七種 | 第八種 | 第九種 | 第十種 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 2   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 3   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 4   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 5   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 6   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 7   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 8   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 9   | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 10  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 11  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 12  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 13  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 14  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 15  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 16  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 17  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 18  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 19  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 20  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 21  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 22  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 23  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 24  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 25  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 26  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 27  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 28  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 29  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 30  | 21  | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |

柱梁設特(一ノ其) 表號二十第

| 柱ノ力 | 柱梁設特(一ノ其) 表號二十第 |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | 第一種             | 第二種 | 第三種 | 第四種 | 第五種 | 第六種 | 第七種 | 第八種 | 第九種 | 第十種 |
| 1   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 2   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 3   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 4   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 5   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 6   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 7   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 8   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 9   | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 10  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 11  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 12  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 13  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 14  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 15  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 16  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 17  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 18  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 19  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 20  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 21  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 22  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 23  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 24  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 25  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 26  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 27  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 28  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 29  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |
| 30  | 21              | 27  | 31  | 35  | 44  | 47  | 51  | 55  | 59  | 63  |



| No. 柱   | 18-20 |     | 20-22 |     | 22-24 |     | 24-26 |     | 26-28 |     | 28-30 |     |
|---------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
|         | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   |
| 11-13   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 13-15   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 16-19   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 19-22   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 22-25   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 25-29   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 29-33   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 33-37   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 37-42   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 42-47   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 47-52   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 52-58   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 58-64   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 64-71   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 71-78   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 78-86   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 86-94   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 94-102  | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 102-110 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 110-118 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 118-126 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 12-134  | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |

板 通 縱 下 梁 設 特 (一ノ其) 表號三十第

| No. 板     | 18-20 |     | 20-22 |     | 22-24 |     | 24-26 |     | 26-28 |     | 28-30 |     |
|-----------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
|           | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   | 形     | 材   |
| 60-60     | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 60-83     | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 80-100    | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 100-120   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 120-150   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 150-180   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 180-210   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 210-230   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 230-250   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 250-280   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 280-320   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 320-380   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 380-430   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 430-480   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 480-540   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 540-600   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 600-670   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 670-740   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 740-820   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 820-900   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 900-990   | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 990-1090  | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 1090-1200 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 1200-1320 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |
| 1320-1450 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 | ○     | 山形材 |







| 船長          | 舷側上梁 |    |    |    | 板甲鋼 |    |    |    | 板外部頂ノ板甲橫筋 |    |    |    | 板甲上 |    |    |    |
|-------------|------|----|----|----|-----|----|----|----|-----------|----|----|----|-----|----|----|----|
|             | 材    | 厚  | 間  | 長  | 材   | 厚  | 間  | 長  | 材         | 厚  | 間  | 長  | 材   | 厚  | 間  | 長  |
| 1400-1570   | 鋼    | 22 | 22 | 22 | 鋼   | 22 | 22 | 22 | 鋼         | 22 | 22 | 22 | 鋼   | 22 | 22 | 22 |
| 1800-1900   | 鋼    | 24 | 24 | 24 | 鋼   | 24 | 24 | 24 | 鋼         | 24 | 24 | 24 | 鋼   | 24 | 24 | 24 |
| 1900-2150   | 鋼    | 26 | 26 | 26 | 鋼   | 26 | 26 | 26 | 鋼         | 26 | 26 | 26 | 鋼   | 26 | 26 | 26 |
| 2100-2400   | 鋼    | 28 | 28 | 28 | 鋼   | 28 | 28 | 28 | 鋼         | 28 | 28 | 28 | 鋼   | 28 | 28 | 28 |
| 2400-2900   | 鋼    | 30 | 30 | 30 | 鋼   | 30 | 30 | 30 | 鋼         | 30 | 30 | 30 | 鋼   | 30 | 30 | 30 |
| 2900-3150   | 鋼    | 32 | 32 | 32 | 鋼   | 32 | 32 | 32 | 鋼         | 32 | 32 | 32 | 鋼   | 32 | 32 | 32 |
| 3100-3200   | 鋼    | 34 | 34 | 34 | 鋼   | 34 | 34 | 34 | 鋼         | 34 | 34 | 34 | 鋼   | 34 | 34 | 34 |
| 3200-3350   | 鋼    | 36 | 36 | 36 | 鋼   | 36 | 36 | 36 | 鋼         | 36 | 36 | 36 | 鋼   | 36 | 36 | 36 |
| 3350-4200   | 鋼    | 38 | 38 | 38 | 鋼   | 38 | 38 | 38 | 鋼         | 38 | 38 | 38 | 鋼   | 38 | 38 | 38 |
| 4200-4600   | 鋼    | 40 | 40 | 40 | 鋼   | 40 | 40 | 40 | 鋼         | 40 | 40 | 40 | 鋼   | 40 | 40 | 40 |
| 4600-5100   | 鋼    | 42 | 42 | 42 | 鋼   | 42 | 42 | 42 | 鋼         | 42 | 42 | 42 | 鋼   | 42 | 42 | 42 |
| 5100-5300   | 鋼    | 44 | 44 | 44 | 鋼   | 44 | 44 | 44 | 鋼         | 44 | 44 | 44 | 鋼   | 44 | 44 | 44 |
| 5300-5500   | 鋼    | 46 | 46 | 46 | 鋼   | 46 | 46 | 46 | 鋼         | 46 | 46 | 46 | 鋼   | 46 | 46 | 46 |
| 5500-5800   | 鋼    | 48 | 48 | 48 | 鋼   | 48 | 48 | 48 | 鋼         | 48 | 48 | 48 | 鋼   | 48 | 48 | 48 |
| 5800-6500   | 鋼    | 50 | 50 | 50 | 鋼   | 50 | 50 | 50 | 鋼         | 50 | 50 | 50 | 鋼   | 50 | 50 | 50 |
| 6500-7000   | 鋼    | 52 | 52 | 52 | 鋼   | 52 | 52 | 52 | 鋼         | 52 | 52 | 52 | 鋼   | 52 | 52 | 52 |
| 7000-7300   | 鋼    | 54 | 54 | 54 | 鋼   | 54 | 54 | 54 | 鋼         | 54 | 54 | 54 | 鋼   | 54 | 54 | 54 |
| 7300-7900   | 鋼    | 56 | 56 | 56 | 鋼   | 56 | 56 | 56 | 鋼         | 56 | 56 | 56 | 鋼   | 56 | 56 | 56 |
| 7900-8500   | 鋼    | 58 | 58 | 58 | 鋼   | 58 | 58 | 58 | 鋼         | 58 | 58 | 58 | 鋼   | 58 | 58 | 58 |
| 8500-9200   | 鋼    | 60 | 60 | 60 | 鋼   | 60 | 60 | 60 | 鋼         | 60 | 60 | 60 | 鋼   | 60 | 60 | 60 |
| 9200-9900   | 鋼    | 62 | 62 | 62 | 鋼   | 62 | 62 | 62 | 鋼         | 62 | 62 | 62 | 鋼   | 62 | 62 | 62 |
| 9900-10600  | 鋼    | 64 | 64 | 64 | 鋼   | 64 | 64 | 64 | 鋼         | 64 | 64 | 64 | 鋼   | 64 | 64 | 64 |
| 10600-11400 | 鋼    | 66 | 66 | 66 | 鋼   | 66 | 66 | 66 | 鋼         | 66 | 66 | 66 | 鋼   | 66 | 66 | 66 |
| 11400-12200 | 鋼    | 68 | 68 | 68 | 鋼   | 68 | 68 | 68 | 鋼         | 68 | 68 | 68 | 鋼   | 68 | 68 | 68 |
| 12200-13100 | 鋼    | 70 | 70 | 70 | 鋼   | 70 | 70 | 70 | 鋼         | 70 | 70 | 70 | 鋼   | 70 | 70 | 70 |
| 13100-14100 | 鋼    | 72 | 72 | 72 | 鋼   | 72 | 72 | 72 | 鋼         | 72 | 72 | 72 | 鋼   | 72 | 72 | 72 |
| 14100-15200 | 鋼    | 74 | 74 | 74 | 鋼   | 74 | 74 | 74 | 鋼         | 74 | 74 | 74 | 鋼   | 74 | 74 | 74 |
| 15200-16400 | 鋼    | 76 | 76 | 76 | 鋼   | 76 | 76 | 76 | 鋼         | 76 | 76 | 76 | 鋼   | 76 | 76 | 76 |
| 16400-17600 | 鋼    | 78 | 78 | 78 | 鋼   | 78 | 78 | 78 | 鋼         | 78 | 78 | 78 | 鋼   | 78 | 78 | 78 |
| 17600-18800 | 鋼    | 80 | 80 | 80 | 鋼   | 80 | 80 | 80 | 鋼         | 80 | 80 | 80 | 鋼   | 80 | 80 | 80 |

舷側上梁及板甲鋼、板外部頂ノ板甲橫筋船長及板甲上 (二ノ其) 表號五十第

| 船長          | 舷側上梁 |    |    |    | 板甲鋼 |    |    |    | 板外部頂ノ板甲橫筋 |    |    |    | 板甲上 |    |    |    |
|-------------|------|----|----|----|-----|----|----|----|-----------|----|----|----|-----|----|----|----|
|             | 材    | 厚  | 間  | 長  | 材   | 厚  | 間  | 長  | 材         | 厚  | 間  | 長  | 材   | 厚  | 間  | 長  |
| 1400-1650   | 鋼    | 22 | 22 | 22 | 鋼   | 22 | 22 | 22 | 鋼         | 22 | 22 | 22 | 鋼   | 22 | 22 | 22 |
| 1650-1900   | 鋼    | 24 | 24 | 24 | 鋼   | 24 | 24 | 24 | 鋼         | 24 | 24 | 24 | 鋼   | 24 | 24 | 24 |
| 1900-2100   | 鋼    | 26 | 26 | 26 | 鋼   | 26 | 26 | 26 | 鋼         | 26 | 26 | 26 | 鋼   | 26 | 26 | 26 |
| 2100-2400   | 鋼    | 28 | 28 | 28 | 鋼   | 28 | 28 | 28 | 鋼         | 28 | 28 | 28 | 鋼   | 28 | 28 | 28 |
| 2400-2650   | 鋼    | 30 | 30 | 30 | 鋼   | 30 | 30 | 30 | 鋼         | 30 | 30 | 30 | 鋼   | 30 | 30 | 30 |
| 2650-2900   | 鋼    | 32 | 32 | 32 | 鋼   | 32 | 32 | 32 | 鋼         | 32 | 32 | 32 | 鋼   | 32 | 32 | 32 |
| 2900-3150   | 鋼    | 34 | 34 | 34 | 鋼   | 34 | 34 | 34 | 鋼         | 34 | 34 | 34 | 鋼   | 34 | 34 | 34 |
| 3150-3350   | 鋼    | 36 | 36 | 36 | 鋼   | 36 | 36 | 36 | 鋼         | 36 | 36 | 36 | 鋼   | 36 | 36 | 36 |
| 3350-3550   | 鋼    | 38 | 38 | 38 | 鋼   | 38 | 38 | 38 | 鋼         | 38 | 38 | 38 | 鋼   | 38 | 38 | 38 |
| 3550-4200   | 鋼    | 40 | 40 | 40 | 鋼   | 40 | 40 | 40 | 鋼         | 40 | 40 | 40 | 鋼   | 40 | 40 | 40 |
| 4200-4600   | 鋼    | 42 | 42 | 42 | 鋼   | 42 | 42 | 42 | 鋼         | 42 | 42 | 42 | 鋼   | 42 | 42 | 42 |
| 4600-5000   | 鋼    | 44 | 44 | 44 | 鋼   | 44 | 44 | 44 | 鋼         | 44 | 44 | 44 | 鋼   | 44 | 44 | 44 |
| 5000-5400   | 鋼    | 46 | 46 | 46 | 鋼   | 46 | 46 | 46 | 鋼         | 46 | 46 | 46 | 鋼   | 46 | 46 | 46 |
| 5400-5800   | 鋼    | 48 | 48 | 48 | 鋼   | 48 | 48 | 48 | 鋼         | 48 | 48 | 48 | 鋼   | 48 | 48 | 48 |
| 5800-6300   | 鋼    | 50 | 50 | 50 | 鋼   | 50 | 50 | 50 | 鋼         | 50 | 50 | 50 | 鋼   | 50 | 50 | 50 |
| 6300-6900   | 鋼    | 52 | 52 | 52 | 鋼   | 52 | 52 | 52 | 鋼         | 52 | 52 | 52 | 鋼   | 52 | 52 | 52 |
| 6900-7300   | 鋼    | 54 | 54 | 54 | 鋼   | 54 | 54 | 54 | 鋼         | 54 | 54 | 54 | 鋼   | 54 | 54 | 54 |
| 7300-7900   | 鋼    | 56 | 56 | 56 | 鋼   | 56 | 56 | 56 | 鋼         | 56 | 56 | 56 | 鋼   | 56 | 56 | 56 |
| 7900-8500   | 鋼    | 58 | 58 | 58 | 鋼   | 58 | 58 | 58 | 鋼         | 58 | 58 | 58 | 鋼   | 58 | 58 | 58 |
| 8500-9200   | 鋼    | 60 | 60 | 60 | 鋼   | 60 | 60 | 60 | 鋼         | 60 | 60 | 60 | 鋼   | 60 | 60 | 60 |
| 9200-9900   | 鋼    | 62 | 62 | 62 | 鋼   | 62 | 62 | 62 | 鋼         | 62 | 62 | 62 | 鋼   | 62 | 62 | 62 |
| 9900-10600  | 鋼    | 64 | 64 | 64 | 鋼   | 64 | 64 | 64 | 鋼         | 64 | 64 | 64 | 鋼   | 64 | 64 | 64 |
| 10600-11400 | 鋼    | 66 | 66 | 66 | 鋼   | 66 | 66 | 66 | 鋼         | 66 | 66 | 66 | 鋼   | 66 | 66 | 66 |
| 11400-12200 | 鋼    | 68 | 68 | 68 | 鋼   | 68 | 68 | 68 | 鋼         | 68 | 68 | 68 | 鋼   | 68 | 68 | 68 |
| 12200-13100 | 鋼    | 70 | 70 | 70 | 鋼   | 70 | 70 | 70 | 鋼         | 70 | 70 | 70 | 鋼   | 70 | 70 | 70 |
| 13100-14100 | 鋼    | 72 | 72 | 72 | 鋼   | 72 | 72 | 72 | 鋼         | 72 | 72 | 72 | 鋼   | 72 | 72 | 72 |
| 14100-15200 | 鋼    | 74 | 74 | 74 | 鋼   | 74 | 74 | 74 | 鋼         | 74 | 74 | 74 | 鋼   | 74 | 74 | 74 |
| 15200-16400 | 鋼    | 76 | 76 | 76 | 鋼   | 76 | 76 | 76 | 鋼         | 76 | 76 | 76 | 鋼   | 76 | 76 | 76 |
| 16400-17600 | 鋼    | 78 | 78 | 78 | 鋼   | 78 | 78 | 78 | 鋼         | 78 | 78 | 78 | 鋼   | 78 | 78 | 78 |
| 17600-18800 | 鋼    | 80 | 80 | 80 | 鋼   | 80 | 80 | 80 | 鋼         | 80 | 80 | 80 | 鋼   | 80 | 80 | 80 |



















樓、船尾樓又ハ全甲板面積ノ十分ノ一ヲ超ユル船橋樓若  
ハ甲板室ヲ設置スルニ適セサルモノヲ謂フ

**第三條** 本令ニ於テ船ノ長サトハ上甲板梁上ニ於テ船首材  
ノ前面ヨリ推進器孔ヲ有スル船舶ニ在リテハ舵柱ノ後面  
迄、之ヲ有セサル船舶ニ在リテハ船尾材ノ後面迄ノ水平  
距離ヲ謂フ但シ上部突出ノ船首材ヲ有スル船舶ニ付テハ  
該材下部ノ前面ニ沿ヒ延長シタル直線ヲ以テ船首材ノ前  
面トシ、外軸ト内軸トヲ併有スル船舶ニ付テハ内軸前面  
ヲ以テ船首材ノ前面トシ又舵柱ヲ有セス且舵ヲ船尾材ニ  
取附ケサル船舶ニ付テハ舵頭ノ中心ヲ以テ舵柱ノ後面ト  
ス

本令ニ於テ船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ  
外面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ舷端突出ノ肋骨ヲ有スル船  
舶ニ付テハ肋骨下部ノ外面ニ沿ヒ延長シタル直線ヲ肋骨  
ノ外面ト看做ス

本令ニ於テ船ノ深サトハ船ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上  
面ヨリ上甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ  
**第四條** 本令ニ於テ第一數トハ重甲板船ニ在リテハ船ノ深  
サト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂ヒ輕甲板船ニ在リ  
テハ船側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ト第二甲板梁ノ上面ト

ノ寸法ハ船ノ幅ニ依リ、之ヲ定ムヘシ

**第八條** 船體各部ノ工事ハ良好且有效ナルコトヲ要ス

**第九條** 本令ノ規定ニ該當セサル船體ノ構造並ニ材料及其  
ノ寸法ハ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力  
ヲ有スト認ムルモノニ限リ本令ニ適合スルモノト看做ス

**第十條** 管海官廳ハ船舶ノ用途、航路ノ狀況又ハ載貨ノ種  
類ニ應シ本令ノ規定ニ拘ラス船體ノ構造及材料寸法ヲ適  
當ニ斟酌スルコトヲ得

**第十一條** 第三級船及第四級船ノ船體ノ構造並ニ材料及其  
ノ寸法ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル但シ第百八  
條、第百十四條及第二十二章ニ規定スルモノニ付テハ此  
ノ限ニ在ラス

第二章 材 料

**第十二條** 船體ノ構造ニ使用スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ  
他ノ缺點ヲ有セスシテ十分乾燥シタルモノナルコトヲ要  
ス

**第十三條** 船體ノ構造ニ使用スル曲材ハ天然ノ屈曲材ニシ  
テ木理ノ通りタルモノナルコトヲ要ス  
蒸曲ケ木材ハ仕上後裂疵ナキモノナルコトヲ要ス

**第十四條** 船體構造材料ノ等級ハ第一號表ニ依ル

木船構造規程

ノ中央迄ノ深サト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ  
本令ニ於テ第二數トハ重甲板船ニ在リテハ船ノ長サト幅  
ト深サトヲ相乘シタル數ヲ謂ヒ輕甲板船ニ在リテハ長サ  
ト幅ト船側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ト第二甲板梁ノ上面  
トノ中央迄ノ深サトヲ相乘シタル數ヲ謂フ  
本條ノ長サ、幅及深サハメートルヲ以テ單位トシ單位下  
ハ二位ニ止メ第三位ハ四捨五入トス

**第五條** 本令ハ特定アル場合ヲ除クノ外船ノ長サカ深サ  
ノ十倍ヲ超ユルコトナク且幅ノ六倍ヲ超エサル船舶ノ構  
造ヲ示シ又寸法及箇數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限  
度ヲ示シタルモノトス

**第六條** 船ノ長サ三〇メートル以上ノ船舶ニ付テハ管海官  
廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ノ外其ノ長サヲ深サノ十  
三倍以上ト爲スニトヲ得ス

**第七條** 肋骨ノ寸法又心距ハ第一數ニ依リ、船首材、龍骨、  
船尾材、舵柱、船尾縱翼材、船尾橫翼材、舵心材、舵  
針、蝶番、内龍骨、側内厚板、側内龍骨、彎曲部縱通  
材、船側縱通材、内部腰板、梁受板、副梁受板、梁壓材、  
副梁壓材、船鏢、木甲板、内張板、外板及固著釘等ノ寸  
法ハ第二數ニ依リ、梁、梁曲材、船首肘材及船尾肘材等

本令ニ規定スル縱梁、梁柱、梁下縱通材、橋孔板並ニ船  
口ノ蓋板、縱材及船口梁ノ寸法ハ乙材ヲ用キタルトキノ  
寸法トシ船口縁材、副龍骨、副内龍骨及第百四條ニ規定  
スル添材内龍骨ノ寸法ハ甲材ヲ用キタルトキノ寸法ト  
ス

**第十五條** 別表ニ掲クル木材ハ第一號表ニ掲クル同一等級  
ノ他ノ木材ヲ以テ代用スルコトヲ得

別表ニ掲クル木材ノ代リニ第一號表ニ掲クル他ノ等級ノ  
木材又ハ「チーク」若ハ赤樫ヲ用ウルトキハ左ノ各號ノ  
規定ニ依ル

- 一 甲材ノ代リニ乙材ヲ用ウルトキハ百分ノ十、丙材ヲ  
用ウルトキハ百分ノ二十又丁材ヲ用ウルトキハ百分ノ  
三十以上其ノ截面積ヲ別表ニ掲クルモノヨリ増スコト  
ヲ要ス
- 二 乙材ノ代リニ丙材ヲ用ウルトキハ百分ノ十又丁材ヲ  
用ウルトキハ百分ノ二十以上其ノ截面積ヲ別表ニ掲ク  
ルモノヨリ増スコトヲ要ス
- 三 乙材ノ代リニ甲材ヲ用ウルトキハ百分ノ十以下其ノ  
截面積ヲ別表ニ掲クルモノヨリ減スルコトヲ得
- 四 「チーク」若ハ赤樫ヲ甲材ノ代リニ用ウルトキハ百分



ノ十、乙材ノ代リニ用ウルトキハ百分ノ二十以下其ノ  
截面積ヲ別表ニ掲クルモノヨリ減スルコトヲ得

**第十六條** 第一級船ニ在リテハ本令ニ依リ甲材又ハ乙材ヲ  
使用スヘキ場合ニ於テ丙材又ハ丁材ヲ使用スルコトヲ得  
ス

**第十七條** 鋼材ハ同一寸法ノ鐵材ヲ以テ之ニ代用スルコト  
ヲ得

**第十八條** 本令ニ規定スル堅材トハ檜、「チーク」、櫟、  
檜、山毛櫸、栗、櫻、楠、樟、赤柿、椎、鹽地又ハ之ニ  
類似ノ木材ヲ謂ヒ柔材トハ桂、榿、松、米松、樺、赤松、  
桂、姫子松、榿、赤身杉、檜、杉、蝦夷松、樅又ハ之ニ  
類似ノ木材ヲ謂フ

第三章 龍骨、船首材、船尾材、

舵柱、力材、船尾縱翼材、

船尾橫翼材及船尾管胴材

**第十九條** 龍骨、船首材、船尾材及舵柱ノ寸法ハ第三號表  
ニ依ル

**第二十條** 龍骨ヲ構成スル各材ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ用  
ウルモノヲ除クノ外一〇・五メートル以上ナルコトヲ要  
ス

前項ノ長サヨリ短キ材ヲ龍骨ニ使用スルトキハ其ノ下面  
ニ副龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル龍骨ノ深サハ規定  
ノ深サノ三分ノ二以上、副龍骨ノ深サハ龍骨ノ規定ノ深  
サノ二分ノ一以上ト爲シ肋骨心距ヨリ大ナラサル心距ニ  
敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムヘシ

前二項ノ規定ハ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管  
海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得  
龍骨ニハ龍骨翼板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿チ且溝ノ上  
部ニハ適當ナル縁ヲ殘シ置クヘシ

**第二十一條** 龍骨ノ接手ハ鈎形水平嵌接ト爲スコトヲ要ス  
但シ嵌接ノ中央ニ大ナル木栓ヲ打込ムトキハ平面水平嵌  
接ト爲スコトヲ得

龍骨ノ嵌接ハ其ノ長サヲ用材ノ深サノ五倍以上、其ノ端  
末ノ深サヲ用材ノ深サノ四分ノ一以上ト爲シ其ノ兩端ニ  
二箇宛、其ノ中間ニ三〇センチメートルノ心距ニ敲釘ヲ  
用キテ相互ニ緊著セシムヘシ

龍骨ノ嵌接ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲水留栓ヲ打込  
ムヘシ  
龍骨ノ嵌接ハ副龍骨及龍骨翼板ノ嵌接ト一・五メートル  
以上相避距セシム且樁根及艙口ト適當ニ避距セシムヘシ

**第二十二條** 船主材ノ寸法ハ滿載吃水線ヨリ上部ニ至ルニ  
從ヒ漸次減少シテ其ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノ截面  
積ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

船首材ハ一材ヲ以テ作ルヘシ但シ長サ三〇メートル以上  
ノ船舶ニシテ其ノ船首材ノ嵌接ノ長サヲ用材ノ深サノ三  
倍半以上ト爲シ且適當ノ副船首材ヲ設クル場合ニ於テハ  
二材ヲ以テ作ルコトヲ得

船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ四倍以上ト  
爲シ且前條ニ規定スル龍骨ノ嵌接ニ等シキ構造ト爲スヘ  
シ

船首材ノ下部屈曲セシテ龍骨ニ銜接スルトキハ筒ニテ  
相嵌込ミ兩面ニ適當ナル金具ヲ附シ且内部ニ根曲材ヲ設  
ケ其ノ銜接部ヲ緊著スヘシ又接合部ニハ適當ノ位置ニ浸  
水ヲ防ク爲水留栓ヲ打込ムヘシ

**第二十三條** 車軸孔ヲ有セサル船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以  
テ作り其ノ上部ヲ上甲板梁ニ固著シ其ノ下部ニ於ケル龍  
骨トノ固著ハ前條第四項ノ規定ニ依ルヘシ

前項ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ其  
ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノ截面積ノ四分ノ三ト爲ス  
コトヲ得

**第二十四條** 車軸孔ヲ有スル船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ  
作り其ノ上部ヲ上甲板梁又ハ第二甲板梁ニ固著シ其ノ下  
部ニ於ケル龍骨トノ固著ハ第二十二條第四項ノ規定ニ依  
ルヘシ但シ第二數八〇〇未滿ノ船舶ニ在リテハ根曲材ヲ  
省略シ船尾材ト龍骨トヲ直接緊著スルモ妨ナシ

前項ノ船尾材ノ車軸孔ノ各側ニ於テハ其ノ截面積ヲ船尾  
材ノ規定ノ截面積ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ厚サヲ規定  
ノ厚サノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

**第二十五條** 舵柱ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り上甲板迄達セ  
シメ其ノ下部ニ於テハ筒ニテ龍骨ニ嵌込ミ且船尾材、龍  
骨及舵柱ニ跨ル黃銅製金具ヲ兩面ニ取附ケ三材ノ結合ヲ  
堅固ナラシムヘシ但シ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ付  
テハ管海官廳ニ於テ固著方ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得  
龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ第三號表ニ掲クル龍骨ノ寸  
法ノ五分ノ一ヨリ小ナラサル厚サヲ有スル黃銅製連結材  
ヲ設ケ之ヲ船尾材、龍骨及舵柱ニ堅牢ニ固著スヘシ

**第二十六條** 船尾材ト舵柱トハ其ノ上部空間ニ堅材ヲ挿入  
シ其ノ兩面ニ第三號表ニ掲クル船尾縱翼材ヲ設ケ之ヲ緊  
著セシムヘシ  
船尾縱翼材ハ舵柱ノ接面ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ其ノ截面



積ヲ減シ其ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノモノノ三分ノ二ト爲スコトヲ得

舵柱ヲ有セサル船舶ニ在リテハ前二項ノ規定ニ準シ船尾縦翼材ヲ設ケルカ又ハ船尾材前面ニ船尾横翼材ヲ設ケ之ヲ船尾材ニ緊著シ且其ノ兩端ヲ横曲材ヲ以テ船側ニ固著スヘシ

船尾横翼材ハ成ルヘク一材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ第三號表ニ依ルヘシ但シ其ノ兩端ニ於ケル截面積ハ規定ノモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

**第二十七條** 船首材及船尾材ニハ外板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿ツヘシ

**第二十八條** 船ノ首尾ニハ斜肋骨ヲ取附クルニ十分ナル高さ及長サヲ有シ龍骨ノ厚サヨリ小ナラサル厚サヲ有スル力材ヲ設クヘシ

**第二十九條** 船尾管胴材ハ堅材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ船尾管ノ徑ノ二倍以上ト爲スヘシ

船尾管胴材ハ成ルヘク上下二材ヲ以テ構成シ孔ノ兩側ニ於テ三〇センチメートルヲ超エサル心距ニ敲釘ヲ用ヒテ相互ニ緊著セシムヘシ

船尾管胴材上部ニハ堅曲材ヲ設ケ船尾材及管胴材ヲ緊著

舵針ハ黃銅製ナルコトヲ要ス

第五章 肋 骨

**第三十四條** 肋骨ハ天然ノ曲材ヲ以テ構成シ其ノ寸法及心距ハ第二號表ニ依ル

肋骨ノ心距ハ肋骨ノ寸法ヲ規定ノ寸法ヨリ大ト爲ストキハ其ノ寸法ニ應シ第二號表ニ掲クルモノヨリ大ト爲スコトヲ得

肋骨心距ガ第二號表ニ掲クル肋骨心距ノ一倍四分ノ一ヲ超ユルトキハ適當ノ斜帶板ヲ肋骨外面ニ取附クヘシ

**第三十五條** 肋根材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ累接シ長短肢配置ト爲ストキハ船ノ中央部ニ於テハ各肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且累接ノ長サヲ船ノ幅ノ七分ノ一以上ト爲スヘシ

**第三十六條** 肋根材及半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ四分ノ一以上、半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スヘシ

半肋根材ノ銜接ハ龍骨ノ中心線ヲ交互ニ五センチメートル以上左右ニ隔離セシムルコトヲ要ス

**第三十七條** 長肋根材ト短肋根材トヲ以テ肋骨ヲ構成スル

木船構造規程

スヘシ

船尾管ノ外面ハ少クトモ其ノ前後部ニ於テハ船尾管胴材及船尾材ノ孔面ニ密接セシムルコトヲ要ス

第四章 舵

**第三十條** 舵心材ノ徑ハ第三號表ニ依ル

航海速力一時間ニ付十海量以上ノ汽船及船體ノ大サニ比シ特ニ大ナル舵ヲ有スル船舶ノ舵心材ハ適當ニ其ノ徑ヲ増加スヘシ

**第三十一條** 舵心材ハ舵頭迄一材ヲ以テ作り之ヲ矧材ト緊著セシムヘシ

矧材ノ厚サハ之ヲ舵心材ノ厚サト等シクシ其ノ後端ニ至ルニ從ヒ適當ニ其ノ厚サヲ減スルコトヲ得

舵心材頂部ノ舵柄取附部ハ成ルヘク角形ト爲シ且其ノ截面積ヲ適當ニ増加スヘシ

舵心材筆先部ノ長サハ舵心材ノ徑ノ二倍半ヨリ大ナルコトヲ要ス

**第三十二條** 舵針及壺金ノ材料、寸法及蝶番ノ數ハ第三號表ニ依ル最上ノ蝶番ハ成ルヘク舵頭管ニ近ク之ヲ設クヘシ

**第三十三條** 銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ有スル船舶ノ蝶番及

トキハ船ノ中央部ニ於テハ長肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ二分ノ一以上、短肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ七分ノ一以上ト爲シ龍骨ノ上面ニ於テ相累接セシムヘシ

**第三十八條** 二材合セ肋骨ノ肋材銜接ノ避距ハ第一數七以下ノ船舶ニ於テハ船ノ幅ノ八分ノ一以上、第一數七ヲ超ユル船舶ニ於テハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スヘシ

肋材ハ銜接ハ總テ密接セシメ木栓ヲ以テ相嵌合セシムヘシ但シ第一數七以下ノ船舶ニ付テハ木栓ヲ省略スルコトヲ得

肋骨ヲ構成スル肋材ハ其ノ銜接ノ兩側ニ於テ敲釘又ハ木釘ヲ以テ他ノ肋材ニ緊著セシメ且銜接ノ中間ニ於テ心距四五センチメートル以内ニ木釘又ハ打込釘ヲ以テ固著セシムヘシ

**第三十九條** 銜接又ハ嵌接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ他ノ肋材ノ長サヲ船ノ幅ノ三分ノ一以上ト爲スヘシ

單材肋骨ノ銜接又ハ嵌接ハ之ヲ其ノ隣接肋骨ノ銜接又ハ嵌接ト船ノ幅ノ七分ノ一以上相避距セシムヘシ

六七三



用材ノ深サノ四倍以上ノ長サヲ有スル添材ヲ取附ケ衝接ノ兩側ニ於テ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムヘシ又其ノ嵌接部ハ嵌接ノ長サヲ用材ノ深サノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムヘシ但シ肋根材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ衝接又ハ嵌接スルトキハ船ノ幅ノ五分ノ一以上ノ長サヲ有スル添材ヲ設クルコトヲ要ス

**第四十條** 蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ第二號表ニ掲クルモノヨリ其ノ寸法ヲ減スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ肋骨ノ心距ヲ適當ニ減スヘシ

**第四十一條** 船ノ幅ガ深サノ三倍以上ナル船舶ニ於テハ中央部船ノ長サノ三分ノ二間ハ底部肋骨ノ寸法ヲ增加スヘシ

船底彎曲部ノ彎曲半徑小ナル船舶ニ於テハ彎曲部肋骨ヲ適當ニ補強スヘシ

**第四十二條** 斜肋骨ノ踵部ハ力材ニ植込ミ敲釘ヲ以テ堅牢ニ緊著セシムヘシ

**第四十三條** 船首肋材及鎖鎖孔材ハ各一材ヲ以テ作り其ノ厚サヲ肋骨ノ厚サノ二倍以上ト爲スヘシ

船首材ヨリ鎖鎖孔材ノ後方適當ナル距離迄船首肋材、鎖鎖孔材及肋骨ノ間隙ニハ填材ヲ挿入スヘシ

**第四十七條**

内龍骨ノ嵌接ハ水平嵌接ト爲シ其ノ長サハ用材ノ深サノ五倍以上、其ノ端末ノ深サハ四分ノ一以上ト爲シ其ノ兩端ニ二箇宛、其ノ中間ニ三〇センチメートルノ心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

内龍骨ノ嵌接ハ龍骨及副内龍骨ノ嵌接ト一・五メートル以上相避距セシメ又機關ト適當ニ避距セシムヘシ

**第四十八條** 内龍骨ト船ノ首尾ニ於ケル力材トハ二肋骨心距以上相累ネ龍骨迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムヘシ

**第四十九條** 檣ハ檣座ニ嵌込ミ直接内龍骨ニ嵌込ムコトヲ得ス

**第五十條** 側内厚板ハ成ルヘク助根材ト第一肋材トノ接合部ニ之ヲ設クヘシ

**第五十一條** 側内龍骨ハ第二數四五〇以上ノ船舶ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ船ノ首尾兩端ニ於テハ適當ニ減少スルコトヲ得

側内龍骨ノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ四倍以上ト爲シ四箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムヘシ

**第五十二條** 船底彎曲部ニハ船ノ首尾ニ通ズル彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ六分ノ一以上

**第四十四條** 船尾肋材ハ其ノ心距ヲ頂部ニ於テ第二號表ニ掲クル心距以下、踵部ニ於テ二分ノ一以下ト爲シ其ノ面積ヲ踵部ニ於テ規定ノ單材肋骨ノ頂材ノ面積ノ一倍三分ノ一以上、頂部ニ於テ四分ノ三以上ト爲スヘシ

船尾肋材ハ船尾縱翼材又ハ船尾橫翼材ニ植込ミ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムヘシ

第六章 内龍骨、側内厚板、側内龍骨及彎曲部縱通材

**第四十五條** 内龍骨、側内厚板及側内龍骨ノ寸法竝ニ彎曲部縱通材ノ厚サハ第三號表ニ依ル

**第四十六條** 内龍骨ヲ構成スル各材ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ使用スルモノヲ除ク外九メートル以上ナルコトヲ要ス

前項ノ長サヨリ短キ材ヲ以テ内龍骨ヲ構成スルトキハ其ノ上面ニ副内龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル内龍骨ノ深サハ規定ノ深サノ三分ノ二以上、副内龍骨ノ深サハ内龍骨ノ規定ノ深サノ二分ノ一以上ト爲シ肋骨心距ヨリ大ナラサル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムヘシ

前二項ノ規定ハ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

ト爲スヘシ但シ船ノ首尾ニ於テハ總幅ヲ適當ニ減スルコトヲ得

**第五十三條** 側内厚板及彎曲部縱通材ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ成ルヘク三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムヘシ

第七章 船鍰、梁壓材、副梁壓材、梁受板、副梁受板、船側

縱通材及内部腰板

**第五十四條** 船鍰ハ船ノ長サ二〇メートル以上ノ船舶ニ之ヲ設クヘシ但シ第二數四五〇未滿ノ船舶ニ於テハ梁壓材ノ幅ヲ第三號表ニ掲クルモノノ一倍半以上ト爲シ之ヲ船鍰ニ兼用スルモ妨ナシ

**第五十五條** 船鍰ノ厚サハ第三號表ニ依リ其ノ幅ハ外板及梁壓材ニ固著スルニ十分ナルモノト爲スコトヲ要ス

船鍰ヲ貫キテ舷牆柱ヲ設クルトキハ船鍰ハ二材ヲ以テ構成スルコトヲ得

**第五十六條** 梁壓材ハ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ艙梁ニ設クルモノハ同表ニ掲クル二段上級ノモノト爲スコトヲ要ス

梁トノ接合ニ於ケル梁壓材ノ幅ハ第四號表ニ掲クル梁ノ



幅以上ナルコトヲ要ス

第五十七條 副梁壓材ハ第二數八〇〇以上ノ船舶ノ各層甲

板梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第五十八條 梁受板ハ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號

表ニ依ル但シ船梁ニ設クルモノハ同表ニ掲クル二段上級

ノモノト爲スコトヲ要ス

第五十九條 副梁受板ハ第二數三七五ヲ超ユル船舶ノ各層

梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第六十條 船側縦通材ハ船ノ長サノ中央ニ於テ最下層梁ノ

之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第六十一條 内部腰板ハ第二甲板梁又ハ船梁ノ梁壓材上ニ

之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第六十二條 船罫、梁壓材、副梁壓材、梁受板、副梁受

板、船側縦通材及内部腰板ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ三

倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムヘ

シ但シ副梁壓材、副梁受板及内部腰板ノ嵌接ニ付テハ敲

釘ノ代リニ打込釘ヲ用ウルコトヲ得

前項ニ掲クル各材ノ嵌接ハ適當ニ相互ニ避距セシムヘ

シ

第八章 梁及梁ノ配置

第六十三條 甲板梁及船梁ノ寸法ハ第四號表ニ依ル但シ輕

減スルコトヲ得

船ノ首尾ニ於テ甲板ノ幅ガ中央部ニ於ケル船ノ幅ノ四分

ノ三ヨリ小ナル部分ニ附スル梁ハ其ノ截面積ヲ前項ニ掲

クルモノノ四分ノ三迄減スルコトヲ得

第六十四條 甲板梁ノ心距ハ肋骨心距ノ二倍ト爲スヘシ但

シ一二〇センチメートルヲ超過スルコトヲ得ス

第六十五條 梁ハ其ノ中央ヨリ兩端ニ至ルニ從ヒ漸次其ノ

深サヲ減少シテ梁端ニ於テハ中央ノ深サノ十分ノ九ト爲

スコトヲ得

第六十六條 上甲板梁ノ梁矢ハ梁ノ長サノ五十分ノ一、第

二甲板梁ノ梁矢ハ梁ノ長サノ百分ノ一ト爲スベシ

第六十七條 各層ニ於ケル梁ハ成ルヘク肋骨ノ位置ニ設ケ

肋骨ニ密接セシム且梁受板上ノ鳩尾形溝ニ嵌込ムヘシ

各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ之ヲ設クヘシ

第六十八條 甲板口ノ端梁ノ截面積ハ甲板梁ノ規定ノ截面

積ニ左ノ係數ヲ乘シタルモノト爲スヘシ但シ機關室口ノ

端梁ノ寸法ハ第四號表ニ掲クル船梁ノ寸法以上ナルコト

ヲ要ス

| 甲 板 口 ノ 長 サ (米) | 係 數 |
|-----------------|-----|
| 二・五未滿           | 一・一 |
| 二・五以上           | 一・二 |
| 三・五未滿           | 一・二 |
| 三・五以上           | 一・四 |
| 四・五未滿           | 一・四 |

甲板口ノ位置ニ特設梁ヲ設ケタル場合ニ於テハ甲板口ノ

端ヨリ特設梁迄ノ距離ヲ甲板口ノ長サニ充テ前項ノ規定

ヲ適用スヘシ

樁ノ前後ノ梁ノ截面積ハ甲板梁ノ規定ノ截面積ノ一・一

倍ト爲スヘシ

機關室口ノ端梁ハ堅材ナルコトヲ要ス

第六十九條 甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ノ截面積ハ甲板梁

ノ四分ノ三ト爲シ其ノ心距ハ甲板梁ノ心距ニ等シク爲ス

ヘシ但シ船ノ幅ノ四分ノ一以下ノ長サヲ有スル半梁ノ寸

法ハ適當ニ之ヲ減スルコトヲ得

第七十條 甲板口及樁孔ノ兩側ニハ縦梁ヲ設クヘシ

縦梁ノ截面積ハ甲板梁ノ規定ノ截面積ニ左ノ係數ヲ乘シ

タルモノト爲スヘシ

木船構造規程

縱 梁

| 縱 梁 ノ 長 サ (米) | 係 數 |
|---------------|-----|
| 二・五未滿         | 〇・八 |
| 二・五以上         | 一・〇 |
| 三・五未滿         | 一・〇 |
| 三・五以上         | 一・二 |
| 四・五未滿         | 一・二 |

機關室口ノ縦梁ハ堅材ナルコトヲ要ス

第七十一條 船ノ長サノ中央ニ於テ最下甲板梁ノ船側ニ於

ケル上面迄ノ深サガ四メートル以上五メートル未滿ナル

船舶ニ於テハ船ノ長サノ中央部二分ノ一間ハ上甲板梁一

本置ニ船梁ヲ設クヘシ

前項ノ深サカ五メートル以上ナル船舶ニ付テハ船ノ首尾

ヲ通シ上甲板梁一本置ニ船梁ヲ設クヘシ

第七十二條 前條第一項ノ船舶ニ在リテハ船ノ長サノ中央

部二分ノ一間ニ於テ船側肋骨、船底肋骨及甲板梁ノ截面

積ヲ規定ノ截面積ノ五分ノ一以上、彎曲部肋骨ノ截面積

ヲ規定ノ截面積ノ三分ノ一以上増加シ且第六十條ニ規定

スル船側縦通材ノ截面積ヲ船梁ノ規定ノ截面積以上ト爲

ストキハ船梁ヲ設ケサルモ妨ケナシ

前條第二項ノ船舶ニ在リテ船ノ全長ニ互リ前項ノ補強ヲ



爲ストキハ船梁ヲ設ケサルモ妨ナシ

前二項ノ船側縦通材ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ四倍以上ト爲シ四箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムヘシ

第七十三條 艙口、機關室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

揚錨機、斜橋等ヲ支フル梁ハ其ノ寸法ヲ適當ニ増加スヘシ

第九章 梁 曲材

第七十四條

各層甲板梁ニハ梁毎ニ第四號表ニ掲クル堅梁曲材ヲ取附クヘシ但シ船ノ幅五メートル未満ノ船舶ニ付テハ堅梁曲材ノ寸法ヲ同表ニ掲クル二段上級ノモノト爲ストキハ甲板梁一本置ニ之ヲ取附クルコトヲ得

甲板口端梁ニ附スル堅梁曲材ハ梁ノ寸法ニ應シ適當ニ其ノ寸法ヲ増スコトヲ要ス

輕甲板船ノ甲板梁ニ附スル堅梁曲材ノ寸法ハ第四號表ニ掲クル二段下級ノモノ迄減スルコトヲ得

第七十五條

船梁ニハ梁毎ニ第四號表ニ掲クル三段上級ノ堅梁曲材ヲ取附クヘシ

第七十六條

堅梁曲材ノ代リニ鋼製肘板及山形材ヲ用ウル

ニハ之ヲ設ケサルモ妨ナシ

上層梁ニ梁柱ヲ設クルトキハ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

第八十一條 甲板梁ノ規定ノ截面積以上ノ截面積ヲ有スル梁下縦通材ヲ設ケ且梁柱ノ截面積ヲ第八十三條ニ依ルモノノ一倍半ト爲ストキハ梁一本置ニ梁柱ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ梁下縦通材ノ接手ハ嵌接ト爲スコトヲ要シ其ノ長サハ用材ノ深サノ三倍以上ト爲スヘシ

第八十二條 船ノ幅五メートル未満ノ船舶ニ於テハ梁及之ニ附スル堅梁曲材ノ寸法ヲ表ニ掲クル三段上級ノモノト爲ストキハ梁柱ヲ設ケサルモ妨ナシ

第八十三條 艙内ニ於ケル木製梁柱ノ各邊ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

$S = 1.6(N + 2)$

S ハ各邊ノ寸法 ミリメートル

N ハ第一數

鐵製中實梁柱ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ス

$D = 6(N + 1)$

D ハ各邊ノ寸法

木船構造規程

トキハ其ノ寸法ハ第四號表ニ依ル但シ梁腕及側腕ニ於ケル山形材ノ長サハ堅梁曲材ノ腕ノ長サト等シクスヘシ

第七十七條

橋孔前後ノ梁又ハ長サ二・五メートルヲ超ユル甲板口ノ縦梁及端梁ノ兩端ニハ橫梁曲材ヲ取附クヘシ機關室口及長サ三・五メートルヲ超ユル艙口ノ端梁ニハ其ノ兩面ニ前項ノ橫梁曲材ヲ設クヘシ

橫梁曲材ノ厚サ及幅ハ第四號表ニ掲クル堅梁曲材ノ厚サ及幅ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

第七十八條

甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ堅梁曲材ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムルノ外其ノ兩端ニハ橫梁曲材ヲ設ケ之ヲ船側及縦梁ニ固著セシムヘシ但シ船ノ幅ノ四分ノ一以下ノ長サヲ有スル半梁ニ於テハ堅梁曲材ハ之ヲ梁毎ニ附セサルモ妨ナク又長サ二・五メートル未満ノ甲板口ニ於ケル半梁ニ付テハ管海官廳ニ於テ橫梁曲材ノ取附ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七十九條

肋骨間ニ於テ堅梁曲材ヲ固著セシムルトキハ該部ニ填材ヲ挿入スヘシ

第十章 梁 柱

第八十條

梁柱ハ梁毎ニ之ヲ設クヘシ但シ船ノ首尾ニ於テ上甲板ノ幅力船ノ幅ノ二分ノ一以下ナル部分ニ設クル梁

d ハ徑 ミリメートル

N ハ第一數

甲板間ノ梁柱ノ截面積ハ前二項ノ規定ニ依ルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第八十四條 梁ノ心距ガ規定ノモノヨリ大ナルトキハ梁柱ノ寸法ハ前條ノ規定ニ依ルモノヨリ適當ニ其ノ寸法ヲ増加スヘシ

第八十五條

梁柱カ木製ナルトキハ適當ナル金具ヲ以テ又鐵製ナルトキハ二箇以上ノ螺釘又ハ捻込釘ヲ以テ十分ニ其ノ兩端ヲ固著セシムヘシ

第八十六條 甲板室、斜橋、揚錨機及揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第十一章 外板、舷牆及内張板

第八十七條

外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ長サノ五分ノ一間ハ車軸覆板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚サヲ減シ船ノ首尾ニ在リテハ同表ニ掲クル寸法ノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第八十八條

外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外五・五メートル



以上ト爲シ外板及外部腰板ノ幅ハ三〇センチメートル以下ト爲スヘシ

**第八十九條** 外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ横線ハ上下ニ隣接スルトキハ三肋骨心距以上、一條ヲ隔ツルトキハ二肋骨心距以上、二條ヲ隔ツルトキハ一肋骨心距以上相互ニ避距セシムルコトヲ要シ又三條ヲ隔ツルニ非サレハ同一ノ肋骨上ニ之ヲ置クコトヲ得ス但シ船ノ首尾兩端ニ於テハ之ヲ適用セサルコトヲ得

**第九十條** 龍骨翼板ノ兩舷ニ於ケル横線ハ相互ニ三肋骨心距以上且龍骨ノ嵌接ト一・五メートル以上避距セシムベシ  
龍骨翼板ノ横線ハ嵌接ト爲スコトヲ要シ其ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムヘシ但シ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ於ケル龍骨翼板ノ嵌接ニ付テハ敲釘ノ代リニ龍骨迄達スル長サヲ有スル打込釘ヲ用ウルコトヲ得

**第九十一條** 外部腰板ハ吃水線附近ニ取附ケ其ノ總幅ハ左表ニ依ル

**第九十四條** 内張板ノ厚サハ第三號表ニ依ル但シ船ノ首尾兩端ニ於テハ同表ニ掲ケル厚サノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第十二章 甲板

**第九十五條** 木甲板ノ厚サハ第三號表ニ依ル

木甲板ノ幅ハ二五センチメートルヲ超ユルコトヲ得ス又其ノ端末ニ於ケル幅ハ填絮ヲ施スニ十分ナルコトヲ要ス木甲板ノ長サハ五・五メートル以上ト爲スヘシ但シ船ノ首尾兩端及甲板口間ニ於ケルモノハ此ノ限ニ在ラス

**第九十六條** 木甲板ノ横線ハ相隣接スル木甲板ニ付テハ梁心距ノ二倍以上相互ニ避距セシムルコトヲ要シ又木甲板三條ヲ隔ツルニ非サレバ同一ノ梁上ニ之ヲ置クコトヲ得ス

**第九十七條** 艙口、機關室口其ノ他大ナル甲板口カ相接近スルトキハ該口間ノ木甲板ハ其ノ厚サヲ適當ニ増加シ之ヲ特ニ堅牢ニ梁ト固著セシムヘシ

**第九十八條** 揚錨機、揚貨機、繫船機具等ノ下部ニ於ケル甲板ニハ適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第十三章 骨首肘材及船尾肘材  
**第九十九條** 最下層梁ノ下方ニ於テハ左表ニ定ムル數ノ船

木船構造規程

|               |                  |
|---------------|------------------|
| 船ノ長サノ深サニ對スル割合 | 外部腰板ノ總幅ト船ノ深サトノ割合 |
| 六倍以下          | 百分ノ二十五           |
| 六倍ヲ超エ八倍以下     | 百分ノ三十            |
| 八倍ヲ超エ十倍以下     | 百分ノ三十五           |
| 十倍ヲ超ユルトキ      | 百分ノ四十            |

**第九十二條**

舷側厚板ハ其ノ幅三〇センチメートルヲ超ユルトキハ二材ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ各材ハ肋骨ノ間ニ於テ二肋骨心距ヨリ大ナラサル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムヘシ  
舷側厚板ノ横線ハ梁壓材及梁受板ノ嵌接ト適當ニ避距セシムヘシ

**第九十三條**

重甲板船ノ暴露上甲板ニハ適當ナル高サヲ有スル舷牆ヲ設クヘシ  
前項ノ舷牆ハ之ヲ堅牢ニ構造シ若シ舷門ヲ設クル爲之ヲ切斷スルトキハ其ノ兩側ノ舷牆柱ヲ適當ニ補強スヘシ

首肘材及船尾肘材ヲ設ケ層梁間ニ於テハ一箇以上ノ船首肘材ヲ設クヘシ

| 種類   | 船ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離 |           |
|------|--------------------------------------|-----------|
|      | 一・五メートル以下                            | 一・五メートル以上 |
| 船首肘材 | 一箇                                   | 二箇        |
| 船尾肘材 | 一箇                                   | 二箇        |
| ノ數   | 一箇                                   | 二箇        |

**第一百條** 船首肘材及船尾肘材ノ寸法ハ第四號表ニ依ル

**第一百一條** 各層梁受板ノ端末ニハ別ニ肘材ヲ設クヘシ

**第一百二條** 船首肘材及船尾肘材ハ成ルヘク縦通材ノ位置ニ之ヲ設ケ下部ニ用ウルモノハ其ノ部分ニ於ケル内張板ニ四五度ノ角度ヲ以テ之ヲ交叉セシムヘシ

第十四章 適當比例ノ船舶

**第一百三條** 本章ニ於テ適當比例ノ船舶トハ其ノ長サガ深サノ十倍ヲ超ユルカ又ハ幅ノ六倍ヲ超ユル船舶ヲ謂フ

**第一百四條** 適當比例ノ船舶ニハ其ノ長サト深サ又ハ長サト幅トノ割合ニ依リ左表ニ從ヒ上部ニ於テハ梁壓材及舷側



甲板ノ截面積ヲ増シ下部ニ於テハ内龍骨若ハ側内龍骨ノ  
截面積ヲ増スカ又ハ内龍骨ノ兩側ニ添材内龍骨ヲ増設ス  
ヘシ

|                            |                  |                   |                  |
|----------------------------|------------------|-------------------|------------------|
| 長サト深サ又ハ幅トノ比                | 梁壓材ノ増加スヘキ截面積トノ割合 | 舷側厚板ノ増加スヘキ側面積トノ割合 | 内龍骨ノ増加スヘキ側面積トノ割合 |
| 長サカ深サノ十倍以下又ハ幅ノ六倍ヲ超エ六倍以下    | 百分ノ十五            | 百分ノ十五             | 百分ノ二十五           |
| 長サカ深サノ十倍以上又ハ幅ノ七倍ヲ超エ八倍以下    | 百分ノ三十            | 百分ノ三十             | 百分ノ五十            |
| 長サカ深サノ十二倍ヲ超ユルカ又ハ幅ノ八倍ヲ超ユルモノ | 百分ノ五十            | 百分ノ五十             | 百分ノ八十            |

第五條

船ノ首尾ヲ通シ鋼製斜帶板ヲ肋骨ノ外面ニ取附クヘシ  
前項ノ斜帶板ノ幅ハ肋骨心距ノ六分ノ一以上ト爲シ其ノ  
厚サハ幅ノ八分ノ一以上ト爲スヘシ

第六條

斜帶板ハ肋骨ニ四五度ノ角度ニ取附ケ船首ニ於

テ之ヲ蔽圍スル構造ト爲スモノニ付テハ其ノ水密裝置適  
當ナラサル限り船口縁材ノ甲板上ノ高サヲ四五センチメ  
ートル以上ト爲スヘシ

|                        |      |            |      |
|------------------------|------|------------|------|
| 船舶ノ種類                  | 第一級船 | 長サ六〇メートル以上 | 第三級船 |
|                        | 第二級船 | 長サ三〇メートル以上 |      |
| 重甲板船ノ上甲板               | 四五糎  | 三〇糎        | 一五糎  |
| 輕甲板船ノ上甲板、低船首樓甲板及低船尾樓甲板 | 三〇糎  | 二三糎        | 一五糎  |
| 船樓甲板(低船首樓甲板及低船尾樓甲板ヲ除ク) | 二三糎  | 一五糎        | 一〇糎  |

船樓甲板又ハ第三級船以下ノ船舶ノ上甲板ニ於テハ平載  
炭孔ヲ設クルコトヲ得  
前項ノ平載炭孔ノ枠及蓋ハ黃銅製又ハ鋼製ニテ堅牢ニ之  
ヲ構造シ其ノ蓋ハ螺込又ハ挿込接合ト爲シ若シ螺番ニ依  
リ取附ケラレサルトキハ鎖ヲ以テ常ニ枠ニ連結シ置クコ  
トヲ要ス

暴露甲板ニ設クル船口及機關室口ノ縁材ノ厚サハ第一項  
ノ表ニ掲クル縁材ノ高サノ三分ノ一以上ト爲スヘシ但シ  
縁材ノ實際ノ高サノ五分ノ一ヨリ小ナラス且七センチメ

木船構造規程

テハ其ノ頭部ヲ後方ニ向ハシメ船尾ニ於テハ之ヲ前方ニ  
向ハシムル様配置シ船艙ノ下部ヨリ肋根材迄達セシメ其  
ノ心距ハ左表ニ依ル

|                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 長サト深サ又ハ幅トノ比                   | 心距(糎) |
| 長サカ深サノ十倍ヲ超エ十一倍以下又ハ幅ノ六倍ヲ超エ七倍以下 | 二四〇   |
| 長サカ深サノ十倍以上又ハ幅ノ七倍ヲ超エ十二倍以下      | 二二〇   |
| 長サカ深サノ十二倍ヲ超ユルカ又ハ幅ノ八倍ヲ超ユルモノ    | 一八〇   |

第七條

斜帶板ハ船ノ中央部ニ於テハ三本以上交叉セシ  
メ其ノ交叉部ハ板ノ厚サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル鉸釘一  
箇ヲ以テ固著セシムヘシ  
斜帶板ノ累接部ハ累接ノ長サヲ板ノ幅以上ト爲シ板ノ厚  
サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル鉸釘二箇以上ヲ以テ固著セシ  
ムヘシ

第十五章 甲板口及船側口

第八條

暴露甲板ニ設クル船口、機關室口、載炭口、出  
入口、天窗、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室  
ニハ縁材ヲ設ケ其ノ甲板上ノ高サハ左表ニ依ルヘシ但シ  
第三級船ノ上甲板ニ設クル大ナル船口ニ於テ挿板等ヲ以

トトルヨリ小ナラサルコトヲ要ス

第九條

帆船ニ付テハ上甲板及檣ヲ梗止メト爲ス甲板ニ  
於ケル檣ノ前後ノ梁ノ間ニハ檣ノ兩側ニ縱梁ヲ設ケ填材  
及橫梁曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ甲板ノ厚サノ一倍三  
分ノ一ノ厚サト檣徑ノ二倍ヨリ少カラサル幅トヲ有スル  
檣孔板ヲ設クヘシ但シ小ナル檣孔ニ付テハ管海官廳ニ於  
テ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第十條

長サ二・五メートル以上ノ船口ニハ中央ニ堅牢  
ナル取外シ得ヘキ梁ヲ設ケ縱梁ニ堅固ニ取附ケラレタル  
堅材ノ受臺ニ嵌込ムヘシ  
長サ三・五メートル以上ノ船口ニハ前項ノ梁ノ代リニ第  
四號表ニ掲クル船梁ノ寸法以上ノ寸法ヲ有スル特設梁ヲ  
設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一箇及橫梁曲材二箇ヲ以テ之ヲ  
船側ニ固著セシムヘシ

第十一條

船口ニハ蓋板ヲ備ヘ縱材又ハ船口梁ヲ以テ之  
ヲ支フル裝置ト爲スヘシ  
船口ノ縱材又ハ船口梁ノ心距ハ一・五メートル以内ト爲



シ其ノ兩端ハ縁材ニ堅牢ニ取附ケラレタル堅材ノ受臺ニ嵌込ムヘシ

蓋板ノ厚サハ支點間ノ間隔一メートルニ付三・五センチメートルト爲スヘシ但シ三・五センチメートルヨリ小ナルコトヲ得ス

縦材又ハ艙口梁ノ寸法ハ其ノ長サニ應シ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

|               |     |    |    |
|---------------|-----|----|----|
| 縦材又ハ艙口梁ノ長サ(米) | 一・五 | 一三 | 一  |
|               | 二・五 | 一八 | 一六 |
|               | 三・五 | 二二 | 二〇 |
|               | 四・五 | 二六 | 二三 |

長サ三〇メートル未滿ノ船舶又ハ輕甲板船ノ上甲板、低船首樓甲板及低船尾樓甲板ニ於ケル艙口ノ蓋板、縦材又ハ艙口梁ノ寸法ハ前二項ニ依ルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第百十二條 暴露甲板ノ艙口縁材ノ外面ニハ七五センチメートル

酌スルコトヲ得

| 船舶ノ種類                  | 甲板ノ種類                            |                                  |      |
|------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------|
|                        | 第一級船<br>又ハ長サ一ト<br>六〇メートル以<br>上ノ船 | 第二級船<br>又ハ長サ一ト<br>六〇メートル以<br>下ノ船 | 第三級船 |
| 重甲板船ノ上甲板               | 一五〇                              | 一二〇                              | 六〇   |
| 輕甲板船ノ上甲板、低船首樓甲板及低船尾樓甲板 | 一二〇                              | 九〇                               | 六〇   |
| 船樓甲板(低船首樓甲板及低船尾樓甲板ヲ除ク) | 六〇                               | —                                | —    |

暴露甲板ニ設ケル機關室口ノ圍壁ニハ第百八條第一項ニ規定スル縁材ノ高サ以上ノ高サニ於テ出入口ヲ設ケルコトヲ得但シ之ヲ設ケタルトキハ堅牢ナル戸ヲ備フヘシ

第百十五條 機關室口圍壁ノ頂部ニハ天窓ヲ設クヘシ

前項ノ天窓ニハ縁材ヲ設ケ且適當ナル覆蓋ヲ備フヘシ汽罐室圍壁ノ頂部ニ開口ヲ設ケルトキハ蝶番ヲ以テ固著シタル鋼製ノ蓋板ヲ備フヘシ

第百十六條 暴露甲板ニ設ケル載炭口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋、覆布及適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルヘキ装置ヲ備フヘシ

暴露甲板ニ設ケル通風器ニハ有效ナル閉鎖装置ヲ備フヘシ

木船構造規程

一ト以内ノ心距ニ及艙口ノ四隅ヨリ二〇センチメートルヲ超エサル距離ニ堅牢ナル帶金受ヲ取附ケ覆布、帶金又ハ帶板及楔ヲ以テ密閉シ得ヘキ装置ト爲スヘシ但シ小ナル艙口ノ密閉装置ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル近海以上ノ航行區域ヲ有スル總噸數一五〇噸以上ノ船舶ノ暴露セル艙口ニハ艙口覆布試驗規程ニ依ル甲種覆布二枚ヲ備ヘ且艙口ノ長サ三メートル以上ナルトキハ適當ナル壓材ヲ以テ之ヲ締附ケル装置ヲ備フヘシ

第百十三條 長サ三・五メートル以上ノ機關室口ノ中央ニハ第四號表ニ掲ケル艙梁ノ寸法以上ノ寸法ヲ有スル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一箇及橫梁曲材二箇ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムヘシ

長サ四・五メートルヲ超ユル機關室口又ハ船ノ幅ノ三分ノ一ヲ超ユル幅ヲ有スル機關室口ニ在リテハ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船體ノ強力ヲ補強スヘシ

第百十四條 機關室口ハ成ルヘク小サク之ヲ作り其ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ甲板間ニ圍壁ヲ設クヘシ

暴露甲板ニ設ケル機關室口ハ左表ニ掲ケル甲板上ノ高サヲ有スル堅牢ナル圍壁ヲ以テ之ヲ蔽圍スヘシ但シ小ナル機關室口ニ付テハ管海官廳ニ於テ圍壁ノ高サヲ適當ニ對

第百十七條 船側ニ載貨門又ハ載炭門其ノ他大ナル開口ヲ設ケルトキハ其ノ周圍ニハ適當ノ補強構造ヲ爲シ其ノ樁

ハ堅材ヲ使用シ其ノ戸ハ堅牢ニ作り適當ノ締具ヲ備ヘ閉鎖シタルトキ水密トナルヘキ構造ト爲スヘシ

第百十八條 船側口ハ舷側厚板、梁受板、副梁受板及内部腰板ヲ切缺キテ之ヲ設ケルコトヲ得ス但シ特ニ相當ノ補強構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第百十九條 満載吃水線ヲ標示スル船舶ノ上甲板下ニ設ケル舷窓ニシテ海水ニ於ケル最高満載吃水線ヨリ一五センチメートル未滿ノ箇所ニ其ノ下縁ヲ有スルモノハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノ又海水ニ於ケル最高満載吃水線ヨリ一二二センチメートル未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設ケル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

第十六章 固著釘及固著法

第百二十條 堅梁曲材ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第四號表ニ依リ其ノ他重要ナル部分ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第五號表ニ依ル但シ用材ノ寸法力規定ノ寸法ヨリ大ナルトキハ固著釘ノ徑ヲ適當ニ増加スヘシ



打込釘ノ徑ハ第五號表ニ掲クル敲釘ノ徑ヨリ三ミリメートル減シタルモノト爲スコトヲ得

圓釘ノ代リニ角釘ヲ用ウルトキハ其ノ邊ハ圓釘ノ徑ノ十分ノ九ト爲スヘシ

敲釘ヲ打込ムヘキ釘孔ノ徑ハ釘徑ヨリ一・五ミリメートル以上小ナルモノト爲スヘシ

敲釘ハ總テ同金屬ノ座金ノ上ニテ敲著セシムヘシ  
螺釘ハ敲釘ノ代リニ之ヲ用ウルコトヲ得

第二百一十一條 打込釘ノ長サハ固著スヘキ材料ノ厚サニ應シ成ルヘク長キモノヲ用ウヘシ  
板ヲ肋骨又ハ梁等ニ固著スル打込釘ノ長サハ板ノ厚サノ二倍四分ノ一以上ト爲スヘシ

第二百一十二條 木釘ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ハ固著セラルル用材ノ木理ニ直角ノ方向ニ之ヲ切開シテ楔止メト爲スヘシ但シ外板及外部腰板ヲ固著スル木釘ノ外端ハ楔止メノ代リニ填絮ヲ施スヘシ

頭部ヲ三ミリメートル以上太メタル勾配木釘ヲ用ウルトキハ其ノ頭端ニ付テハ前項ノ施工ヲ爲スコトヲ要セス  
木釘ハ固著セラルル用材ノ厚サノ和ヨリ適當ニ長キモノヲ使用スヘシ

第二百一十三條 銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ施スヘキ外板等ノ固著釘ニ鋼又ハ亞鉛鍍銅ヲ使用スルトキハ其ノ頭部ニ填絮ラ卷附ケタル儘之ヲ打込ミ且其ノ頭部ヲ緊密ニ打込ミタル木栓等ヲ以テ保護スヘシ

外板及甲板等水密ヲ要スル場所ニ使用スル敲釘又ハ打込釘ニ付テハ前項ニ該當セサルモノト雖モ成ルヘク前項ノ施工ヲ爲スヘシ

第二百一十四條 船ノ首尾ニ於ケル力材又ハ内龍骨ト船首材船尾材又ハ龍骨トハ此等ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ四五センチメートル以内ノ心距ニ於テ固著セシムヘシ但シ内龍骨ト力材トカ相累接スル箇所ニ於テハ效釘ハ内龍骨ヲ貫通セシムルコトヲ要ス

舵柱ハ推進器孔ノ上部ニ於テ四五センチメートル以内ノ心距ニ船尾材迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムヘシ

第二百一十五條 舵心材ト矧材トハ四五センチメートル以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ固著セシムヘシ

第二百一十六條 肋骨ハ材込釘ヲ以テ之ヲ龍骨ニ固著セシム

シムヘシ但シ第二甲板又ハ艙梁ニ於ケル梁壓材ノ敲釘ハ外板ヲ貫通セサルモ妨ナシ

二 梁トノ固著 梁壓材ハ梁毎ニ打込釘ヲ以テ之ヲ梁ニ固著セシムヘシ

三 梁受板トノ固著 船鰐ニ兼用スル梁壓材又ハ第二甲板若ハ艙梁ノ梁壓材ハ梁毎ニ梁及梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムヘシ但シ第二數四五〇未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

四 舷側厚板トノ固著 船鰐ニ兼用スル梁壓材ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムヘシ

五 舷柱トノ固著 船鰐ニ兼用スル梁壓材ヲ貫キテ舷柱ヲ設クルトキハ舷柱毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムヘシ

第二百一十七條 龍骨ト内龍骨トハ肋骨毎ニ肋骨ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ固著セシムヘシ

第二百一十八條 側内厚板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ

第二百一十九條 側内龍骨ハ龍骨毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ

第二百二十條 彎曲部縦通材ハ其ノ幅一五センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ、幅一五センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ但シ其ノ幅二〇センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ用ウヘキ固著釘ノ數ヲ適當ニ増加スヘシ

前項ノ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

第二百二十一條 梁受板及副梁受板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ  
梁受板ノ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

第二百二十二條 梁壓材ノ固著ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
一 肋骨トノ固著 船鰐ニ兼用セサル梁壓材ハ肋骨毎ニ梁壓材、肋骨及外板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セ

シムヘシ

木船構造規程



**第三百三十四條** 船鏢ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムヘシ  
船鏢ハ梁毎ニ梁壓材、梁及梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシム且梁ノ間ニ於テ打込釘ヲ以テ之ヲ梁壓材ニ固著セシムヘシ

船鏢ヲ貫キテ舷牆柱ヲ設グルトキハ船鏢ハ舷牆柱毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシム且船鏢ヲ二材合セト爲ストキハ舷牆柱ノ間ニ於テモ敲釘ヲ以テ之ヲ相互ニ緊著セシムヘシ但シ肋骨毎ニ肋材ヲ延長シテ舷牆柱ト爲ス場合ニ於テ船鏢カ一材ヨリ成ルモノナルトキハ舷牆柱毎ニ用ウル敲釘ハ舷牆柱一本置ニ十分ナル長サヲ有スル打込釘ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得又船鏢カ二材合セナル場合ニ於テ舷牆柱ノ心距カ肋骨心距以下ナルトキハ舷牆柱ノ間ニ於ケル敲釘ハ之ヲ省略スルコトヲ得

**第三百三十五條** 船側縦通材ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ但シ第七十二條第一項又ハ第二項ヲ適用シタル場合ノ船側縦通材ニ在リテハ肋骨毎ニ外板ヲ貫通スル敲釘二箇ヲ以テ之ヲ固著セシムヘシ  
**第三百三十六條** 内部腰板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ

割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ肋骨單材ナルトキノ固著釘ノ總數ハ之ヨリ一箇ヲ減スルコトヲ得

龍骨翼板及舷側厚板ニ於テハ前二項ノ固著釘ノ中其ノ幅三五センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ一箇以上、幅三五センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ二箇以上ノ敲釘ヲ用ウヘシ

外板及外部腰板ニ於テハ第一項ノ固著釘ノ中肋骨一本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ヲ用ウヘシ但シ肋骨毎ニ敲釘又ハ木釘一箇以上ヲ用ウルトキハ固著釘四箇ヲ要スル場合ト雖モ之ヲ三箇ト爲スコトヲ得

船底彎曲部ノ彎曲半徑小ナル船舶ノ彎曲部外板ニ於テハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ用ウヘシ  
**第三百三十九條** 外板及外部腰板ハ肋骨ノ箇所ニ於テ衝接シ横線ノ兩側ニ於テ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ但シ該肋骨ニ隣接スル肋骨ニ敲釘ヲ以テ固著セシメタル外板及外部腰板ニ付テハ其ノ横線ノ兩側ニハ打込釘ノミヲ用ウルモ妨ナシ

**第四百十條** 第二數一、五〇〇ヲ超ユル船舶ノ中央部船ノ長サノ五分ノ三間ニ於テハ龍骨翼板ヲ肋骨ノ間ニ於テ二

木船構造規程

**第三百三十七條** 堅梁曲材ニ用ウル敲釘ノ心距ハ木製梁曲材ニ在リテハ二三センチメートルヲ、鋼製梁曲材ニ在リテハ三〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得又敲釘ノ數ハ側腕ニ於テハ咽喉部釘ヲ含ミ三箇以上、梁腕ニ於テハ二箇以上ナルコトヲ要ス

柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成シタル船舶ニ於ケル堅梁曲材ノ側腕ニ用ウル敲釘ハ總テ外板迄貫通セシムルコトヲ要ス  
横梁曲材ノ各腕ニ於ケル敲釘ノ數ハ二箇以上ナルコトヲ要ス

**第三百三十八條** 外板、外部腰板、龍骨翼板及舷側厚板ハ其ノ幅二〇センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅二〇センチメートルヲ超ユル二五センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅二五センチメートルヲ超ユル三〇センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ固著釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムヘシ但シ肋骨單材ナルトキハ幅二五センチメートルヲ超ユル場合ト雖モ固著釘ノ數ヲ三箇ト爲スコトヲ得  
三〇センチメートルヲ超ユル幅ヲ有スル龍骨翼板及舷側厚板ニ在リテハ之ヲ肋骨毎ニ固著セシムヘキ固著釘ノ總數ハ幅七・五センチメートル毎ニ及其ノ端數ニ付一箇ノ

肋骨心距以內ノ心距ニ敲釘ヲ以テ之ヲ龍骨ニ固著セシムヘシ

**第四百一十一條** 木甲板ハ幅一五センチメートル以下ナルトキハ一箇以上、幅一五センチメートルヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ之ヲ梁毎ニ固著セシムヘシ

**第四百一十二條** 船首肘材又ハ船尾肘材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ敲釘ヲ以テ固著セシム其ノ兩腕ハ四五センチメートル以內ノ心距ニ成ルヘク肋骨ノ箇所ニ於テ外板迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムヘシ

船首肘材又ハ船尾肘材ノ各腕ニ於ケル敲釘ノ數ハ咽喉部釘ヲ除キ二箇以上ナルコトヲ要ス

**第四百一十三條** 斜帶板ハ板ノ厚サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル敲釘ヲ以テ之ヲ肋骨毎ニ固著セシムヘシ

**第四百一十四條** 甲板口ノ緣材ハ四五センチメートル以內ノ心距ニ敲釘ヲ以テ端梁又ハ縱梁ニ固著セシムヘシ

第十七章 填絮及船底包板

**第四百一十五條** 水密ト爲スヘキ接合部ニハ填絮ヲ施スヘシ

**第四百一十六條** 填絮ヲ施シタル部分ハ射水又ハ漲水ニ依ル水密試驗ニ堪フルモノナルコトヲ要ス

**第四百一十七條** 船底ニハ滿載吃水線附近ノ所迄船底包板ヲ



張詰ムヘシ但シ適當ノ防腐劑ヲ塗布スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八章 機關室

第四百四十八條 機關室ノ前後ニハ少クトモ第二甲板ニ達スル隔壁ヲ設クヘシ

第二數一、五〇〇ヲ超ユル船舶ニ付テハ前項ノ隔壁及石炭庫ノ圍壁ヲ鋼製ト爲スヘシ

第四百四十九條 機關室ノ甲板間ニ於ケル部分ノ周圍ニハ周壁ヲ設ケテ之ヲ暴露甲板迄達セシムヘシ

第四百五十條 機關ノ下部ニ於ケル内龍骨ハ成ルヘク堅材ヲ使用シ且汽罐ノ下部ト内龍骨ノ上部トヲ三〇センチメートル以上隔離スルカ又ハ該部ニ適當ノ防熱工事ヲ施スヘシ

第四百五十一條 隔壁、圍壁其ノ他船體ノ部分カ木製ニシテ發動機又ハ汽罐ニ接近シ燃焼ノ虞アルモノナルトキハ之ニ金屬板ヲ張ルカ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃焼ヲ豫防シ且汽罐ニ接近スル場合ニハ防熱ノ爲金屬板ノ下ニ石綿若ハ毛紙ヲ敷クカ又ハ適當ノ間隔ヲ置クヘシ  
電動機船ノ蓄電池室ニハ通風ノ裝置ヲ爲シ其ノ床ハ鉛板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第四百五十二條 機關室ニ付テハ第一百三條ニ依ル機關室口ノ補強ヲ爲スノ外機關ノ種類及馬力ニ應シ肋骨及縱通材ニ適當ノ補強ヲ爲スヘシ

第四百五十三條 機關臺ハ成ルヘク長キ堅材ヲ以テ適當ニ構造シ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ固著スルノ外必要ニ應シ肋骨ノ位置ニ於テ機關臺ノ兩側ニ堅曲材ヲ取附ケテ之ヲ堅牢ニ船底ニ固著セシムヘシ

第四百五十四條 第二數二、〇〇〇ヲ超ユル船舶ニ付テハ機關室ヨリ船尾管ニ達スル通行シ得ヘキ軸路ヲ設クヘシ但シ甲板ヨリ各軸受及船尾管ニ達シ得ヘキ昇降路ヲ設クルトキハ軸路ハ通行シ得サルモノナルモ妨ナシ

第十九章 船樓及甲板室

第四百五十五條 輕甲板船ニ在リテハ甲板室又ハ船橋樓ノ高さハ二・一メートルヲ超ユルコトヲ得ス又船ノ首尾ニ於テ船ノ長サノ五分ノ一間ニハ甲板室ヲ設クルコトヲ得ス

第四百五十六條 船首樓、船橋樓及船尾樓ノ各材ノ截面積ハ上甲板下ノ各材ノ截面積ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ  
船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ヲ設クルトキハ上甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鐔ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スヘシ

第四百五十七條

低船首樓又ハ低船尾樓ノ各材ノ寸法ハ上甲板以下ニ要スルモノニ等シクスヘシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クルトキハ上甲板ノ梁壓材及梁受板ヲ該船樓内ニ五肋骨心距以上延長スヘシ但シ第二數四五〇未滿ナルトキハ四肋骨心距以上、第二數二五〇未滿ナルトキハ三肋骨心距以上、第二數一二五未滿ナルトキハ二肋骨心距以上之ヲ延長スルニ止ムルモ妨ナシ  
低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ付テハ上甲板ノ高さニ於テ船ノ首尾ヲ通シ舷側厚板ヲ設クヘシ

第四百五十八條

甲板室ハ堅牢ニ構造シ少クトモ其ノ四隅ハ甲板室頂部ヨリ梁下面迄貫通スル螺釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムヘシ

第二十章 檣、帆架及斜檣

第四百五十九條 帆船ノ檣、帆架、斜檣等ノ寸法ハ左表ニ依ル

| 名  | 稱 | 材料 | 徑                     |
|--|---|----|-----------------------|
| 「シッブ」、「バーク」及「ブリック」ノ前檣、正檣、前上檣及正上檣                 |   | 杉  | 長サ一メートル<br>ニ付三センチメートル |
| 「シッブ」ノ後上檣  |   | 杉  | トール                   |
| 頂檣、「シッブ」及「バーク」ノ後檣、「バーク」ノ後上檣並ニ「バークンダイン」、「ブリガンダイン」 |   | 杉  | 長サ一メートル<br>ニ付二センチメートル |
| 「トッブスルスクーナー」、「スク                                 |   | 杉  | ニ付二センチメートル            |

木船構造規程

| 斜檣                                    | 材料 | 徑                     |
|---------------------------------------|----|-----------------------|
| 「イナー」、「ラッガー」、「カッター」、「ゲッチ」及「スルーブ」ノ檣    |    | トール                   |
| 「ヤード」、「ブーム」、「ガフ」、「ジブ」、「ブーム」及「フライイングジブ | 杉  | 長サ一メートル<br>ニ付二センチメートル |
|                                       | 杉  | 長サ一メートル<br>ニ付五センチメートル |

前項ノ檣ノ長サハ上檣ニ在リテハ上檣索具帶金ヨリ下部固定帶金迄、下檣ニ在リテハ下檣索具帶金ヨリ内龍骨上面迄ノ長サトシ其ノ徑ハ上檣ニ在リテハ下檣上端部、下檣ニ在リテハ上甲板樑止部ニ於ケル徑ト爲スヘシ

第四百六十條

下檣ノ上端ノ徑ハ上檣ノ下端ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ス

第二十一章 通風間隙及塗水路

第四百六十一條 各層甲板梁ノ梁受板又ハ副梁受板ノ直下ニハ通風ノ爲船ノ首尾ヲ通シ間隙ヲ設クヘシ  
船首艙又ハ船尾艙ニ於テハ前項ノ間隙ノ外梁受板ト内龍



骨トノ間ニ通風間隙ヲ設クヘシ

第六十二條 龍骨ノ兩側ニ於ケル肋骨ノ下面ニハ船ノ首尾ヲ通シ適當ノ淦水路ヲ設クヘシ但シ外板ノ縱線上ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

第二十二章 排水裝置及諸管

第六十三條 舷牆ニハ甲板上ノ水ヲ排除スル爲適當ナル排水口ヲ設クヘシ

暴露甲板上ニハ船外ニ通スル適當ナル排水孔ヲ設クヘシ

第六十四條 第二甲板以下ノ甲板及蔽圍セラレタル船樓内ノ上甲板ニハ適當ノ排水管ヲ設ケ之ヲ淦水道ニ導クヘシ

第六十五條 手動淦水「ポンプ」及測水管ハ各船ニ之ヲ設クヘシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ手動淦水「ポンプ」ノ數ヲ減シ又平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ限り手動淦水「ポンプ」及測水管ヲ設ケサルコトヲ得

前項ノ手動淦水「ポンプ」ハ滿載吃水線以上ノ高サニ於テ何時ニテモ近寄り得ヘキ場所ニ之ヲ裝置スヘシ

第六十六條 手動淦水「ポンプ」ノ吸水管ノ内徑ハ四センチメートル以上ニシテ船ノ大サニ應シ適當ノモノト爲スヘシ但シ一〇センチメートルヨリ大ナルコトヲ要セ

働不還弁ハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得滿載吃水線下ニ於テ取附クル弁ハ鑄鐵製ナルコトヲ得ス

第二十三章 操舵機具及揚錨、揚貨、繫船等ノ裝置

第七十條 舵柄又ハ舵柄弧ニ對シテハ甲板上ニ堅牢ナル回轉止ヲ取附クヘシ但シ舵柄又ハ舵柄弧ニ適當ノ制動裝置ヲ備フルカ又ハ操舵機ヲ直接舵柄弧ニ連結スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 舵柄又ハ舵柄弧ノ半徑ハ成ルヘク第三號表ニ掲クル舵心材ノ徑ノ四倍以上ト爲スヘシ

第七十二條 舵柄ノ寸法ハ舵頭固定部ニ於テハ帶金ノ深サ及腕ノ幅ヲ第三號表ニ掲クル舵心材ノ徑ノ三分ノ一以上、腕ノ厚サヲ其ノ幅ノ二分ノ一以上ト爲シ腕ノ端末ニ於テハ舵頭部ニ於ケル寸法ノ三分ノ二ト爲スヘシ

二箇ノ腕ヲ有スル舵柄弧ニ在リテハ各腕ノ寸法ヲ前項ニ依ルモノノ五分ノ四ト爲スヘシ

第七十三條 操舵鎖ノ徑ハ第三號表ニ掲クル舵心材ノ徑ノ百分ノ五以上ト爲シ操舵圓材ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ一倍四分ノ一以上ト爲スヘシ

第七十四條 導鎖滑車ハ操舵鎖ヲ小角度ニ屈曲セシメサ

ス

手動淦水「ポンプ」ノ内徑ハ吸水管ノ内徑ノ二倍以上ト爲スヘシ

淦水吸水管ノ端末ニハ適當ナル芥除箱ヲ設クヘシ

第六十七條 動力ニ依ル淦水「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ付テハ各船ニ其ノ吸水管ヲ導キ各船ノ淦水ヲ排除シ得ヘキ裝置ト爲スヘシ但シ第二數一、五〇〇以下ノ船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ淦水吸水管ヲ各船ニ導カサルモ妨ナシ

第六十八條 船内又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ依リ破損セサル様堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クヘシ

汽管其ノ他高内壓力ヲ受クル諸管ハ船内又ハ石炭庫ヲ通過セシムルコトヲ得ス但シ適當ノ圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條 滿載吃水線ヲ標示スル船舶ニ在リテハ滿載吃水線下ニ開口ヲ有スル各排泄管ニハ自動不還弁二箇ヲ備ヘ中一箇ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ之ヲ設クヘシ但シ滿載吃水線以上ノ高サニ於ケル甲板上ノ何時ニテモ近寄り得ヘキ場所ヨリ弁ヲ閉チ得ル裝置ト爲ストキハ自

ル様之ヲ配置シ其ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ十五倍以上ト爲シ其ノ車針ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ一・七倍以上ト爲スヘシ

第七十五條 操舵、揚錨、揚貨、繫船等ノ諸機具、錨鈎、端艇鈎其ノ他ノ鐵製品ハ其ノ用途ニ應シ之ヲ適當ニ構造スヘシ但シ管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試驗ヲ執行スルコトアルヘシ

第二十四章 油運搬船

第七十六條 本章ノ規定ハ船内ニ鋼製槽ヲ据附ケ油類ヲ積載スル船舶ニ之ヲ適用ス

第七十七條 油槽ハ堅牢ナル臺上ニ据附ケ船體ノ動搖ニ依リ移動セサル様支柱ヲ以テ之ヲ支持スヘシ

油槽ハ現場ニ於テ其ノ周圍及上下ヲ検査シ得ヘキ十分ナル餘地ヲ保ツ様之ヲ据附クルカ又ハ船口ヨリ取出シ得ル寸法ノモノナルコトヲ要ス

第七十八條 油槽ハ之ヲ堅牢ニ構造シ其ノ頂板上ニ五メートルノ水高壓力ヲ以テ試驗ヲ行フモ變形又ハ漏洩セサルモノナルコトヲ要ス

第七十九條 油槽ニハ適當ナル排氣管ヲ備ヘ之ヲ上甲板ニ適當ノ高サニ達セシメ其ノ開口ニハ取外シ得ヘキ細目金網ヲ備フヘシ各槽ヲ連結スル油管ハ之ヲ堅牢ニ槽ニ取







骨龍内, 舵, 材翼尾船, 柱舵, 材尾船, 材首船, 骨龍 表號三第

| 梁受板      | 受上板甲<br>板ノ副梁 | 梁壓材       | 板上甲<br>板及第二<br>甲 | 船<br>鋸 | 木<br>板 | 外<br>部<br>腰<br>板 | 外<br>部<br>腰<br>板 | 舷<br>側<br>厚<br>板 | 龍<br>骨<br>翼<br>板 | 内<br>張<br>板 |
|----------|--------------|-----------|------------------|--------|--------|------------------|------------------|------------------|------------------|-------------|
| 樺        | 樺            | 樺         | 樺                | 樺      | 松      | 松                | 松                | 樺                | 樺                | 松           |
| 樺×樺      | 樺×樺          | 樺×樺       | 樺×樺              | 樺      | 樺      | 樺                | 樺                | 樺×樺              | 樺×樺              | 樺           |
| 20×6     | —            | 7         | —                | —      | 5      | 4.5              | 4.5              | 23×5             | 17.5×5.5         | 2.5         |
| 22×6.5   | —            | 21×7.5    | —                | 4.5    | 5      | 4.5              | 5                | 27×5.5           | 18.5×6           | 3           |
| 24×7     | —            | 23×8.5    | —                | 5      | 5.5    | 5                | 5.5              | 30×6             | 19.5×7           | 3.5         |
| 24×7.5   | —            | 25×9.5    | —                | 5.5    | 5.5    | 5                | 6.5              | 33×6.5           | 21×8             | 4           |
| 24×8     | 21.5×5.5     | 26.5×10   | —                | 6      | 6      | 5.5              | 7                | 36×7             | 22.5×8.5         | 4.5         |
| 24.5×8.5 | 22×6         | 28×11     | —                | 6.5    | 6      | 6                | 7.5              | 38×7.5           | 24×9.5           | 4.5         |
| 25×9     | 22.5×6.5     | 29.5×11.5 | —                | 7      | 6.5    | 6.5              | 8                | 40×7.5           | 25×10            | 5           |
| 25.5×9.5 | 23×7         | 30.5×12   | 19×6.5           | 7.5    | 6.5    | 6.5              | 8.5              | 41.5×8           | 26×10.5          | 5.5         |
| 25.5×10  | 23×7.5       | 31.5×12.5 | 20×7             | 8      | 7      | 7                | 9                | 43×8.5           | 27×11            | 5.5         |
| 26×10.5  | 23.5×8       | 33×13.5   | 21.5×7           | 8.5    | 7      | 7                | 9.5              | 45×8.5           | 28.5×12          | 6           |
| 26.5×11  | 24×8.5       | 34.5×14   | 22×7.5           | 9      | 7.5    | 7.5              | 10               | 48×9             | 30×12.5          | 6.5         |
| 27×11.5  | 24.5×9       | 36×15     | 23.5×7.5         | 9.5    | 7.5    | 8                | 10.5             | 50×9.5           | 31×13.5          | 6.5         |
| 27.5×12  | 25×9.5       | 37×15.5   | 24×8             | 10     | 8      | 8.5              | 11               | 52×10            | 32.5×14          | 7           |

面截ノ骨肋 表號二第

| 第一<br>材<br>料<br>數 | 肋<br>骨<br>ノ<br>心<br>距 | 合 材 二      |            |          | 材 單        |            |          |
|-------------------|-----------------------|------------|------------|----------|------------|------------|----------|
|                   |                       | 材根肋        | 曲彎<br>材部   | 材 頂      | 材根肋        | 曲彎<br>材部   | 材 頂      |
|                   |                       | 樺          | 樺          | 樺        | 樺          | 樺          | 樺        |
| 工起ヲ 下以<br>3—3.5   | 樺<br>35               | 角 樺<br>7.5 | 角 樺<br>6.5 | 角 樺<br>5 | 角 樺<br>9.5 | 角 樺<br>8.5 | 角 樺<br>7 |
| 3.5—4             | 37                    | 8.5        | 7.5        | 6        | 10.5       | 9.5        | 8        |
| 4—4.5             | 39                    | 10         | 8.5        | 7        | 12.5       | 11         | 9        |
| 4.5—5             | 41                    | 11         | 10         | 8        | 14         | 12.5       | 10.5     |
| 5—5.5             | 43                    | 12.5       | 11         | 9        | 15.5       | 14         | 11.5     |
| 5.5—6             | 45                    | 14         | 12         | 9.5      | 17.5       | 15.5       | 12.5     |
| 6—6.5             | 47                    | 15.5       | 13.5       | 10.5     | 19.5       | 17.5       | 14       |
| 6.5—7             | 49                    | 17         | 14.5       | 11       | 21.5       | 19         | 15       |
| 7—7.5             | 51                    | 18.5       | 16         | 12       | 23.5       | 21         | 16.5     |
| 7.5—8             | 54                    | 20         | 17         | 12.5     | 25.5       | 22.5       | 17.5     |
| 8—8.5             | 56                    | 21.5       | 18         | 13       | 27         | 24         | 18       |
| 8.5—9             | 58                    | 23         | 19         | 14       | 28.5       | 25.5       | 19.5     |
| 9—9.5             | 60                    | 24.5       | 20         | 15       | 30.5       | 27         | 21       |
| 9.5—10            | 62                    | 26         | 21.5       | 16       | 32.5       | 28.5       | 22.5     |



船及材曲梁、梁

表號四第

| 堅    |    |     | 及肘板      |          | 二代用ス |       | 堅梁曲材 |     | 材肘尾船及材肘首船 |    |   |   |   |   |
|------|----|-----|----------|----------|------|-------|------|-----|-----------|----|---|---|---|---|
| 徑ノ釘敲 | 中固 | 腕端部 | 山形材      | 肘板       | 腕ノ長サ | 製木腕端部 | 幅    | サ   | 厚         | 鋼  | 鋼 | 鋼 | 鋼 | 鋼 |
|      |    |     |          |          |      |       |      |     |           |    |   |   |   |   |
| 14   | 12 | 10  | 50×50×6  | 16×22×6  | 63   | 11    | 7.5  | 5.5 | 29        | 14 |   |   |   |   |
| 15   | 13 | 11  | 50×50×6  | 17×24×6  | 70   | 12    | 8.5  | 5.5 | 31        | 15 |   |   |   |   |
| 16   | 14 | 12  | 50×50×7  | 19×27×7  | 77   | 12.5  | 9    | 6   | 33        | 16 |   |   |   |   |
| 17   | 15 | 13  | 50×50×7  | 21×29×7  | 83   | 13.5  | 9.5  | 6   | 34        | 16 |   |   |   |   |
| 17   | 15 | 13  | 50×50×8  | 23×32×8  | 90   | 14    | 10   | 6.5 | 35        | 17 |   |   |   |   |
| 18   | 16 | 14  | 55×50×8  | 24×34×8  | 97   | 15    | 10.5 | 6.5 | 37        | 17 |   |   |   |   |
| 18   | 16 | 14  | 60×50×8  | 26×37×8  | 103  | 15.5  | 11   | 7   | 38        | 18 |   |   |   |   |
| 19   | 17 | 15  | 65×50×8  | 28×39×8  | 110  | 16.5  | 11.5 | 7   | 40        | 18 |   |   |   |   |
| 19   | 17 | 15  | 70×60×8  | 30×42×8  | 117  | 17    | 12   | 7.5 | 41        | 19 |   |   |   |   |
| 20   | 18 | 16  | 70×60×9  | 31×44×9  | 123  | 18    | 12.5 | 7.5 | 42        | 19 |   |   |   |   |
| 20   | 18 | 16  | 75×65×9  | 33×47×9  | 130  | 19    | 13   | 8   | 44        | 20 |   |   |   |   |
| 21   | 19 | 17  | 75×70×9  | 35×49×9  | 137  | 20    | 14   | 8   | 45        | 21 |   |   |   |   |
| 22   | 20 | 17  | 80×70×9  | 36×51×9  | 143  | 21    | 14.5 | 8.5 | 47        | 22 |   |   |   |   |
| 23   | 20 | 18  | 80×70×10 | 37×53×10 | 150  | 21.5  | 15   | 8.5 | 48        | 22 |   |   |   |   |
| 23   | 21 | 18  | 85×75×10 | 39×56×10 | 157  | 22    | 15.5 | 9   | 50        | 23 |   |   |   |   |
| 24   | 21 | 18  | 85×75×11 | 41×58×11 | 163  | 22.5  | 16   | 9   | 51        | 23 |   |   |   |   |
| 24   | 22 | 19  | 90×75×11 | 43×61×11 | 170  | 23    | 16.5 | 9.5 | 52        | 24 |   |   |   |   |
| 25   | 22 | 19  | 90×80×12 | 44×63×12 | 177  | 23.5  | 17   | 9.5 | 54        | 24 |   |   |   |   |

備考 咽喉釘部ノ厚サハ咽喉部敲釘ノ箇所ニ於テ腕ノ長サニ直角ニ測リタルモノトス

法寸ノ等板張内及板外、板甲木、材通縦諸ノ他ノ其

| 材<br>料<br>寸<br>法<br>第<br>二<br>數 | 尾材   | 龍骨   | 船翼   | 舵     |      |         | 内  | 側    | 側        | 彎     | 受甲     |           |
|---------------------------------|------|------|------|-------|------|---------|----|------|----------|-------|--------|-----------|
|                                 | 材及柱  | 材    | 材    | 舵心材ノ徑 | 舵針ノ徑 | 厚サノ深サ及  | 龍骨 | 内厚板  | 内龍骨      | 曲部縦通材 | 板及八内部板 |           |
|                                 | 檣    | 檣    | 檣    | 檣     | 又黄銅  | 又黄銅     | 檣  | 檣    | 檣        | 松     | 檣      |           |
|                                 | 角    | 角    | 角    | 角     | 角    | 角       | 角  | 角    | 角        | 角     | 角      |           |
| 75—125                          | 17.5 | 12   | 16.5 | 16.5  | 4    | 6×2     | 2  | 20   | 17.5×5.5 | —     | 5.5    | —         |
| 125—175                         | 18.5 | 13   | 17.5 | 18    | 4.3  | 6.5×2.2 | 2  | 21.5 | 18.5×6   | —     | 6      | —         |
| 175—250                         | 19.5 | 14   | 18.5 | 19.5  | 3.5  | 5.3×1.8 | 3  | 23   | 19.5×6.5 | —     | 6.5    | —         |
| 250—375                         | 21   | 15   | 20   | 21.5  | 3.8  | 5.7×1.9 | 3  | 25   | 21×7     | —     | 7      | —         |
| 375—500                         | 22.5 | 16   | 21.5 | 23.5  | 4    | 6×2     | 3  | 27   | 22.5×7.5 | 12    | 7.5    | 24×6.5    |
| 500—625                         | 24   | 17   | 22.5 | 25    | 4.3  | 6.5×2.2 | 3  | 29   | 24×8     | 13.5  | 8      | 24.5×7    |
| 625—750                         | 25   | 18   | 23.5 | 26    | 4.5  | 6.8×2.3 | 3  | 30.5 | 25×8.5   | 14.5  | 8.5    | 25×7.5    |
| 750—875                         | 26   | 18.5 | 24.5 | 27.5  | 4.8  | 7.2×2.4 | 3  | 31.5 | 26×9     | 15.5  | 9      | 25.5×8    |
| 875—1,000                       | 27   | 19   | 25.5 | 28.5  | 5    | 7.5×2.5 | 3  | 32.5 | 27.5×9   | 16.5  | 9      | 25.5×8.5  |
| 1,000—1,250                     | 28.5 | 20   | 26.5 | 30    | 4.8  | 7.2×2.4 | 4  | 34   | 28.5×9.5 | 18    | 9.5    | 26×9      |
| 1,250—1,500                     | 30   | 21   | 28   | 31.5  | 5    | 7.5×2.5 | 4  | 36   | 30×10    | 19.5  | 10     | 26.5×9.5  |
| 1,500—1,750                     | 31   | 22   | 29   | 33    | 5.3  | 8×2.6   | 4  | 37.5 | 31×10.5  | 20.5  | 10.5   | 27×10     |
| 1,750—2,000                     | 32.5 | 23   | 30   | 34.5  | 5.5  | 8.3×2.8 | 4  | 39   | 32.5×11  | 22    | 11     | 27.5×10.5 |







| 件<br>第<br>二<br>名<br>數 | 徑            |              |              |              |
|-----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|                       | 龍骨ト内龍骨トノ固著敲釘 | 龍骨ト内龍骨トノ固著敲釘 | 龍骨ト内龍骨トノ固著敲釘 | 龍骨ト内龍骨トノ固著敲釘 |
| 75—125                | 19           | 16           | 15           | 14           |
| 125—175               | 20           | 17           | 16           | 15           |
| 175—250               | 21           | 18           | 17           | 16           |
| 250—375               | 22           | 19           | 18           | 17           |
| 375—500               | 23           | 20           | 18           | 17           |
| 500—625               | 24           | 21           | 19           | 18           |
| 625—750               | 25           | 22           | 19           | 18           |
| 750—875               | 25           | 22           | 20           | 19           |
| 875—1,000             | 26           | 23           | 20           | 19           |
| 1,000—1,250           | 27           | 24           | 21           | 20           |
| 1,250—1,500           | 28           | 25           | 22           | 21           |
| 1,500—1,750           | 29           | 26           | 23           | 22           |
| 1,750—2,000           | 30           | 27           | 24           | 23           |

### 船舶機關規程

(昭和九年二月一日  
逕信省令第十號)  
改正 昭和十五年八月  
逕信省令第四十五號

#### 目次

- 第一章 總則
- 第二章 材料及材料試驗
  - 第一節 試驗片
  - 第二節 壓延鋼材
  - 第三節 鍛鋼材
  - 第四節 鑄鋼材
  - 第五節 管
  - 第六節 雜則
- 第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關
  - 第一節 汽機
  - 第二節 筒形汽罐及直立汽罐
  - 第三節 水管汽罐及過熱器
  - 第四節 汽罐附屬品
  - 第五節 汽罐ニ關スル雜則
  - 第六節 給水裝置
  - 第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル裝置

#### 船舶機關規程

#### 第八節 管

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

#### 第十章 燃油裝置

#### 第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

##### 第一節 發動機

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第四節 氣槽

第五節 排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第六節 水壓試驗

第七節 補汽罐

#### 第五章 特殊施設

#### 第六章 艤裝品及備品

#### 附則

#### 第一章 總則

第一條 本令ニ於テ汽機又ハ發動機トハ特ニ規定スル場合  
ヲ除クノ外推進軸系ニ連接スル汽機又ハ發動機ヲ謂フ  
本令ニ於テ汽罐トハ補汽罐ヲモ包含ス  
本令ニ於テ第一種螺旋軸トハ一體被金ヲ有スルカ又ハ之



ト同等ノ耐蝕性ヲ有スル螺旋軸ヲ謂ヒ第二種螺旋軸トハ其ノ他ノ螺旋軸ヲ謂フ

適當ナル船尾管内滑油裝置ヲ備フル螺旋軸ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ第一種螺旋軸ト看做ス

第二條 船舶ノ推進機關ヲ分チテ甲種、乙種及丙種ノ三種トス

乙種機關ハ第一級船又ハ第二級船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

丙種機關ハ第一級船又ハ第二級船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三條 汽罐ニ付テハ第三章第二節又ハ第三節ノ規定ニ依リ算定シタル汽罐各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中最小ノモノヲ以テ其ノ制限汽壓トス、但シ該汽罐ニ連絡スル汽機、汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第四條 本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ監督ヲ受ケテ之ヲ執行スベシ

試驗機ハ船用品試驗機試驗規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

本令ニ依ル材料試驗ニハ船用品試驗機取締規則ニ定ムル

使用期間内ニ在ル材料試驗機ヲ用ウベシ

第五條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ノ規定ニ該當セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノ又ハ機關ノ用途ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

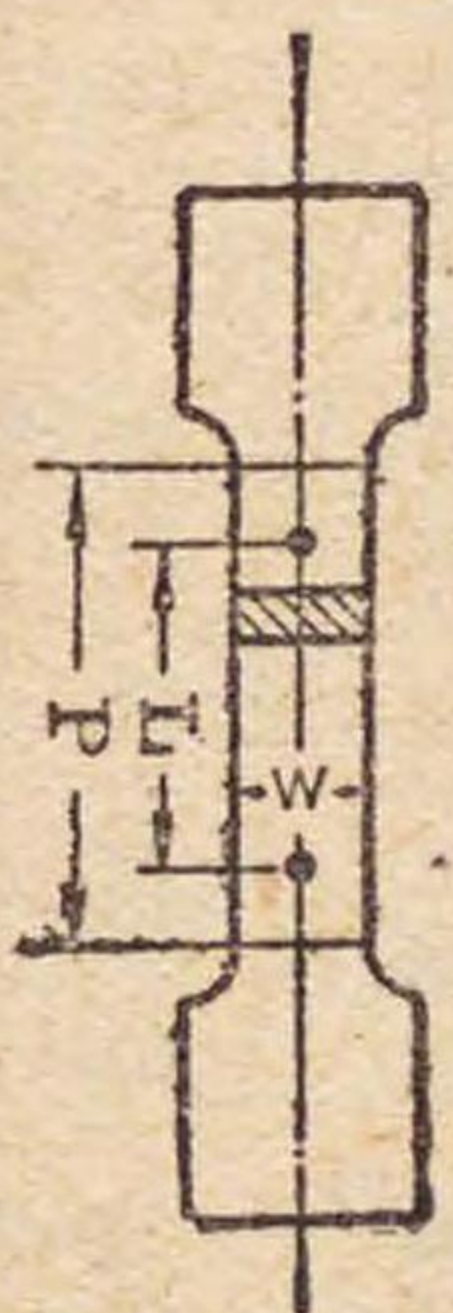
第六條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 材料及材料試驗

第一節 試驗片

第七條 抗張試驗ニ用ウル標準試驗片ハ左ノ形狀及寸法ト爲スベシ、但シ其ノ兩端ハ試驗機ニ應ジ之ニ適合スル形狀ニ仕上グルモノトス

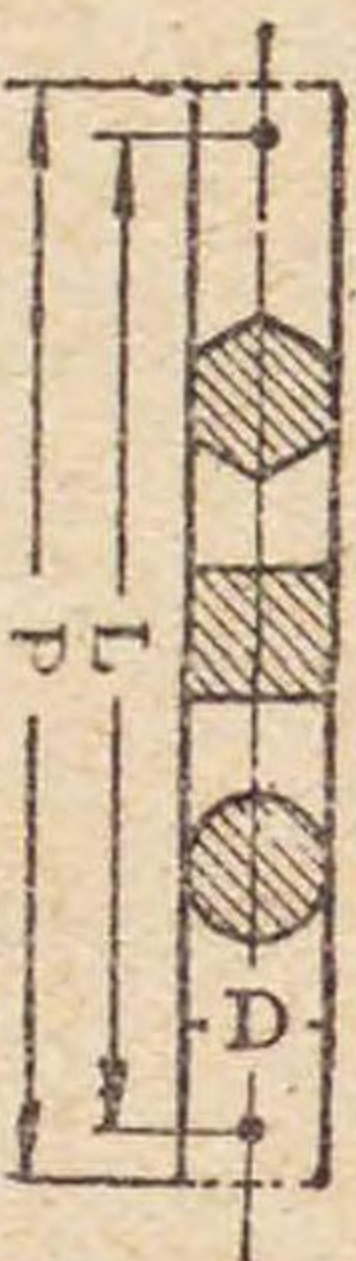
一 第一號試驗片 主トシテ鋼板、平鋼及形鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離 二〇〇耗  
平行部ノ長サP 約二二〇耗  
幅 W 左表ニ依ル

|           |           |
|-----------|-----------|
| 試驗片ノ厚サ(耗) | 試驗片ノ幅W(耗) |
| 二三ヲ超ユルモノ  | 四〇以下      |
| 九以上二三以下   | 五〇以下      |
| 九未満       | 六〇以下      |

二 第二號試驗片 主トシテ徑(又ハ對邊距離)二五耗以下ノ棒鋼ニ對シテ用ウルモノ



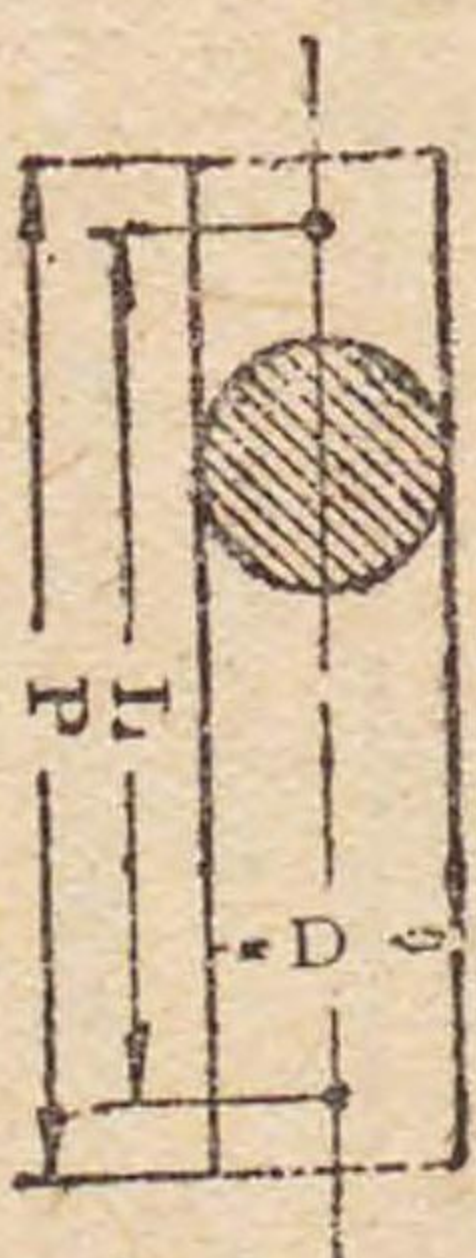
標點距離Lハ徑(又ハ對邊距離)Dノ八倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サPハDノ約九倍、平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニ依リ之ヲ作成スルコトヲ得

三 第三號試驗片 徑(又ハ對邊距離)二五耗ヲ超ユル棒鋼ニ對シテ用ウルモノ



船舶機關規程

標點距離Dハ徑(又ハ對邊距離)Dノ四倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サPハDノ約四・五倍、平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニヨリ之ヲ作成スルコトヲ得



標點距離L 五〇耗  
平行部ノ長サP 約六〇耗  
徑 D 一四耗

材料ノ都合ニ依リ右ノ寸法ト爲シ得ザルトキハ左ノ算式ニ依リ標點距離ヲ定ムルコトヲ得

$$L = 4\sqrt{A}$$

Lハ標點距離(耗ニテ)

Aハ横截面積(平方耗ニテ)

五 第五號試驗片 主トシテ管類並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)板ニ對シテ用ウルモノ



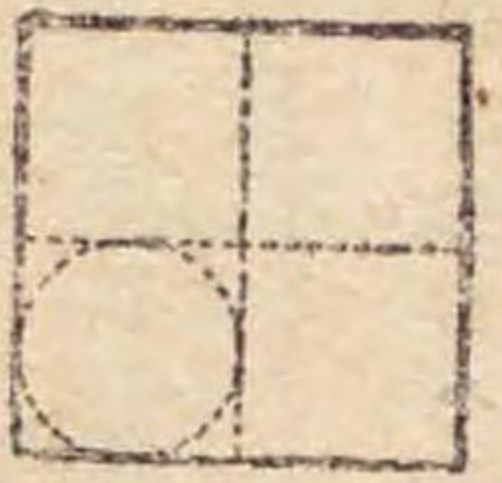
標點距離L 五〇耗  
平行部ノ長サP 約七〇耗  
厚幅 W 二五耗  
原厚サノ儘トス



第八條 壓延鋼材ノ抗張試驗片ニハ成ルベク壓延肌ヲ殘スベシ

前項ノ規定ニ拘ラズ徑又ハ對邊距離六五耗以下ノ棒鋼ノ試驗片ニ付テハ適宜機械仕上ヲ爲シ又六五耗ヲ超ユル棒鋼ニ在リテハ左圖ニ於テ小圓ヲ以テ示ス位置ヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得

前項ニ依リ作成スル試驗片ノ徑ハ之ヲ一四耗以下ト爲スコトヲ得ズ



第九條 壓延鋼材ノ屈曲試驗片ノ幅、徑又ハ對邊距離ハ三五耗以上ナルコトヲ要ス、但シ「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形鋼ヨリ採取セル試驗片ノ幅ハ三五耗未滿ナルモ妨ナク又徑又ハ對邊距離三五耗未滿ノ棒鋼ニ對シテ用ウル試驗片ハ壓延セル儘ノ材料ヲ使用スベシ

「フランヂ」ノ幅五〇耗未滿ノ形鋼ニ在リテハ之ニ壓力ヲ加ヘ又ハ鉋打シテ扁平ト爲シタルモノヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得

壓延鋼材ノ屈曲試驗片ニハ左ノ加工以外ノ加工ヲ爲スコトヲ得ズ

- 一 剪斷ノ爲生ジタル稜角又ハ縁ノ不整ヲ鏝又ハ研磨機ニ依リ削除スルコト
- 二 厚サ二五耗以上ノモノニ付剪斷面ヲ機械仕上ト爲スコト

厚サ一二耗未滿ノ燒入屈曲試驗片ニハ前項各號ノ加工ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 鍛鋼材ハ鑄鋼材ノ屈曲試驗片ハ幅二五耗厚サ一九耗ノ截面ヲ有シ角隅ニハ半徑一・五耗ノ丸味ヲ附シタルモノトス

第十一條 抗張試驗片及屈曲試驗片ノ數ハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外左表ニ依ル

| 種類                                       | 抗張試驗片ノ數                                 | 屈曲試驗片ノ數                                       |
|--|---|---|
| 加工ノ爲加<br>熱スル鋼板<br>又ハ使用中<br>火焰ニ接觸<br>スル鋼板 | 壓延シタル儘ノ鋼板一箇ニ燒入屈曲試驗片二・五耗ノ超ユルトキハ其ノ兩端ヨリ各一箇 | 壓延シタル儘ノ鋼板一箇ニ燒入屈曲試驗片一箇但シ其ノ重量二・五耗ノ超ユルトキハ兩端ヨリ各一箇 |

| 鍛鋼材  | 鋳鋼材       | 形鋼、棒鋼、又ハ鋳鋼材 | 其ノ他 |
|--|-----------|-------------|-----|
| 造テ五箇鍛鋼材一箇每ニ重シタル〇シ一箇未滿ノ重量ニシタル塊ヨリニ重シタル多數ノ鍛鋼材 | 其ノ端數每ニ一箇ハ | 當ヨリ認ムル數     | 同右  |
| 同上   | 同上        | 當ヨリ認ムル數     | 同右  |

| 鑄鋼材                 | 同 上 |
|---------------------|-----|
| 鑄鋼材ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル數 | 同上  |

第十二條 壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼板ニ在リテハ横又ハ縦ノ方向ヨリ形鋼又ハ棒鋼ニ在リテハ長サノ方向ヨリ之ヲ採取シ矯正ノ必要アルトキハ常溫ノ儘矯正スベシ

壓延鋼材ノ試驗片ハ鋼材ト共ニスル場合ノ外之ニ燒鈍其ノ他ノ熱處理ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 鍛鋼材ノ試驗片ハ鍛鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲シタル後其ノ主體ヨリ小ナラザル截面ヲ有スル部分ヨリ縱ニ切取ルモノトス、但シ鍛鋼品ノ形狀又ハ用途ニ依リ



横ニ切取ルモ妨ナシ

第十四條 鑄鋼材ノ試験片ハ之ヲ鑄鋼材ニ附著又ハ連結シテ鑄造シ鑄鋼材ト共ニ熱處理ヲ爲シタル後切取ルベシ

第二節 壓延鋼材

第十五條 機關ノ重要部分ニ用ウル壓延鋼材ハ平爐又ハ電氣爐ニ依リ製造セラレ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第十六條 前條ノ壓延鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス、但シ同一ノ汽罐又ハ汽槽ニ於テ同一ノ用途ニ供スル鋼板又ハ縱支柱用棒鋼ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ每平方耗七珎ヲ超ユルコトヲ得ズ  
一 抗張試験 抗張力及欄點間伸長百分率ハ左表ニ依ルコト

| 種類                       | 抗張力標準抗張片(每平方耗珎)試驗片 | 標點間伸長率 |             |
|--------------------------|--------------------|--------|-------------|
|                          |                    | 厚サ九耗以上 | 厚サ九耗未滿      |
| 加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焰ニ接觸スル鋼板 | 四一以上<br>五〇以下       | 第一號    | 三以上<br>二以上  |
| 其ノ他ノ鋼板                   | 四五以上<br>五五以下       | 第一號    | 二以上<br>一七以上 |

三 縱壓試験 鋼材ニ在リテハ徑ノ二倍ニ等シキ長サヲ有スル試験片ヲ赤熱シタル儘原長ノ三分ノ一ニ至ル迄縱ノ方向ニ壓縮スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

第十七條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ欄點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ其ノ試験ヲ無効トシ更ニ最初ニ試験片ヲ採取シタル鋼材ニ付再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験、屈曲試験又ハ縱壓試験ガ不合格ト爲リタルトキハ其ノ試験片一箇ニ付更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得  
前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鋼材ハ總テ不合格トス

第十八條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼材ハ第十六條ノ規定ニ合格シタル鋼材ヨリ製造シ左ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

打展試験 頭部ヲ赤熱シテ脚部ノ徑ノ二・五倍迄扁平ニ打展スルモ其ノ縁ニ裂疵ヲ生ゼザルコト  
前項ノ試験ニ用ウル鋼材ノ數ハ同一徑ノモノノ重量四分ノ一珎又ハ其ノ端數毎ニ一箇トス

| 形鋼               | 第一號          | 厚サ九耗以上 | 厚サ九耗未滿       |
|------------------|--------------|--------|--------------|
| 汽罐ノ燃燒室又ハ火爐ノ支柱用棒鋼 | 五〇以下         | 第二號    | 二五以上<br>三〇以上 |
| 其ノ他ノ棒鋼           | 四五以上<br>五五以下 | 第三號    | 二八以上<br>三〇以上 |

二 屈曲試験 燒入屈曲試験ニ於テハ試験片ヲ濃紅色(日光ノ直射セザル室内ニ於テ判定スルモノニシテ約六五〇度)ニ熱シテ約二八度ノ水中ニ急冷シタル後常溫屈曲試験ニ於テハ常溫ノ儘試験片ニ壓力ヲ加ヘ又ハ鈍打ニ依リ左表ノ内側半徑ニテ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

| 種類 | 内側半徑               |
|----|--------------------|
| 鋼板 | 試驗片ノ厚サノ一・五倍以上      |
| 形鋼 | 試驗片ノ厚サノ一・五倍以上      |
| 棒鋼 | 試驗片ノ徑又ハ對邊距離ノ一・五倍以上 |
| 鋼材 | 密著                 |

前條ノ規定ハ鋼ノ再試験ニ付之ヲ準用ス

第十九條 厚サ六耗未滿ノ壓延鋼材及抗張力ヲ重要トセザル部分ニ使用スル壓延鋼材ニハ抗張試験及燒入屈曲試験ヲ省略スルコトヲ得

第三節 鍛鋼材

第二十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鍛鋼材ハ平爐、坩堝爐又ハ電氣爐ニ依リ製造シタル鋼塊ヨリ製造シ品質均一ニシテ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス  
前項ノ鍛鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第二十一條 主機ノ軸、「ピストン」桿、十字頭、連接桿、推進軸系ノ軸類其ノ他強力ヲ重要トスル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ用途ニ應ジ日本標準規格ニ規定スル第三種、第四種又ハ第五種ノモノ又ハ此等ニ相當スルモノヲ用ヒ

其ノ主體ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ四分ノ一以內ニ、主體以外ノ部分ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ三分ノ二以內ニ鍛鍊スベシ、但シ一體型又ハ半組成型ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニ用ウル鍛鋼材ニ付テハ其ノ截面積ノ割合ハ二分ノ一以內トス  
軸ノ鏢又ハ桿ノ鏢若ハ又端ハ之ヲ本體ト鍛合又ハ熔接スルコトヲ得ズ



前項ノ軸ノ鏝又ハ桿ノ鏝若ハ又端ガ組成型ナルトキハ十分ナル強力ヲ有スル鍛鋼製又ハ鑄鋼製ノモノト爲スベシ但シ乙種機關又ハ丙種機關ニ在リテハ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ鍛鋼製又ハ鑄鋼製ニ非ザルモノト爲スコトヲ得

前三項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル補機ノ「クランク」軸ニ用ウル鍛鋼材ニ之ヲ準用ス

第二十二條 前條第一項ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ニシテ大サ又ハ形狀ニ依リ其ノ截面積ノ割合ガ前條第一項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ其ノ割合ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十三條 第二十一條ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

- 一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗四四冠以上六〇冠未満ナルコト、抗張力ガ每平方耗五五冠未満ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上、抗張力ガ每平方耗五五冠以上ナルトキハ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ九〇以上ナルコト
- 二 屈曲試験 常溫ノ儘左表ニ掲グル内側半徑ヲ以テ一

|                   |         |
|-------------------|---------|
| 八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト | 内側半徑(耗) |
| 抗張力(每平方耗冠)        | 六以下     |
| 四四以上五〇未満          | 一〇以下    |
| 五〇以上五五未満          | 一六以下    |
| 五五以上六〇未満          |         |

軸ノ計畫仕上徑二五〇耗以上ノ一體型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ノ「クランク」部ハ該鍛造物ノ成ルベク中心部ニ於テ五ニ直角ナル二方向ニ採取シタル試験片ニ付抗張試験及屈曲試験ヲ執行シ左表ノ規格ニ適合スルコトヲ要ス、此ノ場合ニ於テハ前項ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

| 試験片採取方向(每平方耗冠) | 抗張力(每平方耗冠)   | 標點間伸長百分率                   | 裂疵ヲ生ゼザルコトヲ要スル屈曲角度 |
|----------------|--------------|----------------------------|-------------------|
| 軸ノ中心線ニ平行ナル方向   | 四二以上<br>五三未満 | 抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上 | 一八〇               |
|                | 五三以上<br>五八未満 | 抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ八八以上  |                   |

| 「クランク」腕ノ中心線ニ平行ナル方向   | 抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ八九以上 | 抗張力ト標點間伸長百分率ノ一・五倍トノ和ガ八七以上 | 一五〇 |
|--|----------------------------|---------------------------|-----|
| 屈曲試験ニ於ケル試験片ハ常溫ノ儘屈曲スルモノトシ其ノ屈曲ノ内側半徑ハ軸ノ中心線ニ平行ナル方向ノ抗張力ガ每平方耗四八冠未満ノモノニ付テハ六耗以下、每平方耗四八冠以上ノモノニ付テハ一〇耗以下、每平方耗五三冠以上ノモノニ付テハ一六耗以下ト爲スベシ |                            |                           |     |

鍛造ノ割合ニ關シ前條ノ規定ニ依リタル鍛鋼材ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二項ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニシテ鍛造ノ方法其ノ他方法ノ事由ニ依リ同項ノ規定ニ依リ難キモノハ第一項ノ試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限り當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

第二十五條 第二十三條ノ材料ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

第四節 鑄鋼材

第二十六條 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ平爐、轉爐、電氣爐又ハ坩堝爐ニ依リ鑄造シ其ノ品質均一ニシテ有害ナル疵、鑄集其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鑄鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ  
鑄鋼材ノ疵等ニシテ強力ニ對スル影響輕微ナリト認ムルモノニ付テハ管海官廳ハ鑄掛、電氣熔接又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ修補セシムルコトヲ得

前項ノ補修ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳必要アリト認



ムルトキハ補修後更ニ該鑄鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲サシムルコトヲ得

**第二十七條** 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ第一號及第二號ノ試験ニ合格シ且該鑄鋼材ガ左ノ第三號及第四號ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス、但シ強力ヲ重要トセザル部分ニ用ウル鑄鋼材ニ付テハ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ第一號乃至第四號ノ試験一部又ハ全部ヲ省略スルコトヲ得

一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗四一冠以上五五冠以下ニシテ標點間伸長百分率ハ二〇以上ナルコト

二 屈曲試験 常溫ノ儘二五耗以下ノ内側半徑ヲ以テ一〇度以上屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

三 落下試験 鑄鋼材ヲ約三米ノ高サヨリ硬質ノ地面ニ落下シ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生ゼザルコト

四 錠打試験 前號ノ試験執行後鑄鋼材ヲ吊シ其ノ重量ニ應ジ三冠乃至七冠ノ錠ヲ以テ其ノ表面ヲ打ツモ有害ナル裂疵、鑄集、偏肉其ノ他ノ缺點ヲ認メザルコト  
形狀特ニ複雜又ハ長大エシテ落下試験ヲ執行スルトキハ變形ノ虞アリト認ムルモノニ付テハ該鑄鋼材ノ成ルベク隔リタル兩端ヨリ採取シタル各二個ノ試験片ガ前項第一

號及第二號ノ試験ニ合格スルトキハ落下試験ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ト雖モ錠打試験ハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ

**第二十八條** 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限り更ニ之ト同數ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ其ノ試験片ニ依リ代表セザル鑄鋼材ハ之ヲ不合格トス  
鑄鋼材ニハ再試験用試験片採取前更ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ既ニ合格シタル試験ニ付テモ更ニ試験ヲ行フコトヲ要ス

第五節 管

**第二十九條** 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ良質ノ平爐鋼又ハ電爐鋼ヲ用キ常溫引拔法又ハ高溫仕上法ニ依リ無接

合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ銲接合管又ハ銲接合管ナルモ妨ナシ

水管汽罐ノ水管ニ用ウル鋼管ニシテ外徑四〇耗未滿ノモノ又ハ汽罐ノ給水管ニ用ウル鋼管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ常溫引拔法ニ依リ製造シタルモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ高溫仕上法ニ依リ製造シタルモノナルモ妨ナシ

常溫引拔無接合鋼管及銲接合鑄管ハ製造後之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

**第三十條** 機關ノ重要部分ニ用キル鋼管ハ常溫引拔法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ每平方耗五冠以上ノ壓力ヲ受ケザルモノハ鑲附管ナルモ妨ナシ  
每平方耗一二・五冠以上ノ壓力ヲ受クル外徑一三五耗以上ノ汽管ニハ銅管ヲ用ウルコトヲ得ズ

第六節 雜則

**第三十一條** 管、特殊鋼材、黃銅材、可鍛鑄鐵材又ハ鑄鐵材ニ付テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限り其ノ指示スル所ニ依リ材料試驗ヲ行フ

**第三十二條** 乙種機關又ハ丙種機關ニ用ウル材料ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ材料試驗ヲ省略スルコトヲ得但シ軸ノ一部ニ用ウル鑄鋼材ノ材料試驗及制限汽壓每平方耗一〇冠ヲ超ユル汽罐若ハ高溫ノ受壓槽又ハ制限壓力每平方耗一四冠ヲ超ユル其ノ他ノ受壓槽ニ用ウル鋼板ノ屈曲試験ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

**第三十三條** 管海官廳ハ材料規格ニ適合セザル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法若ハ箇所ヲ限り又ハ其ノ他ノ條件ヲ附シテ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽機  
**第三十四條** 汽機ハ容易ニ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

**第三十五條** 軸ノ寸法ハ汽機及軸ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ  
一 往復動汽機ニ用ウル鍛鋼製ノ「クランク」軸、中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{APD^2Se}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)



D<sup>2</sup> ハ一推進軸系ニ於ケル低壓汽筒ノ數又ハ單式汽機ノ汽筒ノ數一個ナルトキハ其ノ徑(耗ニテ)ノ二乗、二箇ナルトキハ各汽筒ノ徑(耗ニテ)ノ二乗ノ和

P ハ復水器ヲ備ヘザルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎ニテ)、復水器ヲ備フルトキハ汽罐ノ制限汽壓(每平方糎ニテ)、ニ一ヲ加ヘタルモノ

S ハ行長(耗ニテ)

A ハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力軸ノ場合ニ在リテハ「クランク」軸ノ毎分計畫回轉數ト中間軸又ハ推力軸ノ毎分計畫回轉數トノ比

e ハ「クランク」軸ノ場合ニ在リテハ一、中間軸又ハ推力軸ノ場合ニシテ「クランク」軸トノ間ニ動力傳導裝置若ハ變速裝置アルトキハ其ノ總傳道率、動力傳導裝置若ハ變速裝置ナキトキハ一

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|          |            |              |            |
|----------|------------|--------------|------------|
| 往復動汽機ノ種類 | 「クランク」ノ數   | 「クランク」軸又ハ推力軸 | 中間軸        |
|          | 甲種機關又ハ乙種機關 | 甲種機關又ハ乙種機關   | 甲種機關又ハ乙種機關 |

| 汽機種類 | 單式汽機 |      | 二聯機  |      | 復二聯機 |      | 汽二聯機 |      | 汽一聯機 |      | 汽四聯機 |      |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|      | 一角   | 二角   | 一角   | 二角   | 一角   | 二角   | 一角   | 二角   | 一角   | 二角   | 一角   | 二角   |
| 汽機   | 1.49 | 1.36 | 1.55 | 1.47 | 1.07 | 1.01 | 1.10 | 1.14 | 1.03 | 0.98 | 0.96 | 0.86 |
| 汽機   | 1.42 | 1.31 | 1.47 | 1.40 | 0.94 | 0.89 | 0.88 | 0.84 | 0.84 | 0.84 | 0.84 | 0.78 |
| 汽機   | 1.35 | 1.24 | 1.40 | 1.33 | 0.85 | 0.80 | 0.80 | 0.76 | 0.76 | 0.76 | 0.76 | 0.70 |
| 汽機   | 1.28 | 1.17 | 1.33 | 1.26 | 0.76 | 0.71 | 0.71 | 0.67 | 0.67 | 0.67 | 0.67 | 0.61 |
| 汽機   | 1.21 | 1.10 | 1.26 | 1.19 | 0.67 | 0.62 | 0.62 | 0.58 | 0.58 | 0.58 | 0.58 | 0.52 |
| 汽機   | 1.14 | 1.03 | 1.19 | 1.12 | 0.58 | 0.53 | 0.53 | 0.49 | 0.49 | 0.49 | 0.49 | 0.43 |
| 汽機   | 1.07 | 0.96 | 1.12 | 1.05 | 0.49 | 0.44 | 0.44 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.40 | 0.34 |
| 汽機   | 1.00 | 0.89 | 1.05 | 0.98 | 0.40 | 0.35 | 0.35 | 0.31 | 0.31 | 0.31 | 0.31 | 0.25 |

二 鋼製「クランク」腕ノ厚サ及幅組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$t = 0.625d$$

$$w = 0.438d$$

一體型「クランク」軸ナルトキ  $bt^2 = 0.417d$

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)

w ハ組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(耗ニテ)

b ハ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅(耗ニテ)

d ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

三 「タービン」汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{\frac{T}{R}}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

T ハ計畫軸馬力

R ハ軸ノ計畫毎分回轉數

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

| 軸ノ種類 | 中間軸        |      | 推力軸        |      |
|------|------------|------|------------|------|
|      | 甲種機關又ハ乙種機關 | 丙種機關 | 甲種機關又ハ乙種機關 | 丙種機關 |
| K    | 1.00       | 0.95 | 1.05       | 1.00 |

四 往復動汽機ト其ノ廢汽ニ依リ動作スル「タービン」汽機ト同一推進軸系ニ聯動スル汽機ノ鍛鋼製ノ中間

船舶機關規程

軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{975,000 \times \frac{T}{R} + 0.73 \times d^3 \times \frac{T}{R}}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

T ハ「タービン」汽機ノ計畫軸馬力

R ハ當該推進軸系ノ計畫毎分回轉數

d<sub>c</sub> ハ第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

r ハ往復動汽機ノ計畫毎分回轉數

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

| 軸ノ種類 | 中間軸        |      | 推力軸        |      |
|------|------------|------|------------|------|
|      | 甲種機關又ハ乙種機關 | 丙種機關 | 甲種機關又ハ乙種機關 | 丙種機關 |
| K    | 1.00       | 0.95 | 1.05       | 1.00 |

五 鍛鋼製螺旋軸ノ耗

$$ds = d + \frac{P}{C}$$

ds ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

d ハ汽機ノ種類ニ應ジ第一號、第三號、前號又ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)



P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)  
C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|            |     |
|------------|-----|
| 第一種螺旋軸ナルトキ | 一四四 |
| 第二種螺旋軸ナルトキ | 一〇〇 |

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル  
「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸  
系ノ推力軸ハ中間軸ニ付テハ第一號ノKノ數値ハ  
之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

螺旋軸ハ前部軸鏝ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ  
應ジ第一號第一號、第三號又ハ第四號規定ニ依リ算定シ  
タル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコ  
トヲ得

第三十六條 軸鏝ヲ連結スル螺釘ノ軸鏝連結面ニ於ケル徑  
ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^3}{Nd_1}}$$

d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ)  
N ハ螺釘ノ數  
d<sub>1</sub> ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)  
D ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ト回轉數ヲ異ニスル往復動汽機ノ  
「クランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中Dハ  
前條第一號第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」  
軸ノ徑(耗ニテ)ニ〇・九五ヲ乘ジタルモノトス  
螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ第一號又ハ前項ノ規定ニ  
依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ前項ノ規定ニ依  
ルノ外汽機ノ種類ニ應ジ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中  
間軸ノ徑ノ〇・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ  
軸鏝根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル  
半徑ノ丸味ヲ附スベシ  
軸鏝ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸鏝ヲ後退力ニ堪フル様  
適當ナル構造ト爲スベシ

第三十七條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三十五條第一  
項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲  
スコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適  
當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管及軸支肘ノ「ブツシュ」ニ  
當ル部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小  
ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.03 \cdot s + 7.5$$

T ハ被金ノ厚サ(耗ニテ)  
ds ハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタ  
ル螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモ  
ノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第三十八條 甲種機關又ハ乙種機關ニ在リテハ往復動汽機  
ニハ各汽筒ノ兩端及汽筒間ノ蒸汽通路ニ「タービン」汽  
機ニハ適當ノ箇所ニ有效ナル逃弁ヲ備ヘ該部ニ於ケル  
最大汽壓ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃汽スル様之ヲ調  
整スベシ

第三十九條 汽筒ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ  
船舶機關規程

第四十條 多汽筒式「タービン」汽機一箇ノミヲ裝備シ遠  
洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ該「タービン」汽  
機ノ汽筒中其ノ一箇ニ對シ蒸汽ヲ遮斷スルモ推進器ヲ回  
轉シ得ル様適當ニ裝置スベシ  
前項ノ「タービン」汽機ニ在リテハ少クモ二箇ノ汽筒ニ  
後退翼車ヲ備フベシ

第四十一條 汽筒又ハ之ニ附屬スル弁匣等ハ之ヲ製造シ削  
仕上ラ爲シタルトキ夫々左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行  
スベシ、但シ内外全面ヲ削仕上ゲタル内筒ニ付テハ管海  
官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

一 單式汽機ノ汽筒 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六疋以  
上ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疋ヲ加ヘタ  
ル壓力汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六疋未滿ナルトキハ  
汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二 二聯成汽機  
高壓汽筒 單式汽機ノ汽筒ニ同ジ  
低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乘ジタル壓力

三 三聯成汽機  
高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疋ヲ加ヘタル  
壓力  
中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・七五ヲ乘ジタル壓力



低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・三〇ヲ乗ジタル壓力  
四 四聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疋ヲ加ヘタル  
壓力

第一中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓

第二中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乗ジタル  
壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・二五ヲ乗ジタル壓力

五 「タービン」汽機ノ汽筒 各膨脹階段ノ初壓力ノ一・

五〇倍及每平方糎二疋ノ中大ナル壓力

六 高壓「タービン」汽機ノ配汽室 汽罐ノ制限汽壓ノ

一・五〇倍ノ壓力但シ適當ナル逃弁ヲ備フルモノハ

配汽室内蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

七 中壓又ハ低壓「タービン」汽機ノ配汽室 該室内蒸

汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

八 收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋、弁匣及弁匣蓋

其ノ附屬スル汽筒ニ對スル壓力ト同一ノ壓力

第四十二條

復水器管ノ管板間ノ長サガ管ノ外徑ノ一二〇  
倍以上ナルトキハ一二〇倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ支板ヲ  
設クベシ

第四十三條

復水器ノ器胴、通水室又ハ蓋ハ之ヲ製造シタ  
ルトキ每平方糎一・五疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行ス  
ベシ

復水器管ヲ取附ケタルトキハ二米以上ノ水高壓力又ハ之  
ニ相當スル壓力ヲ以テ漏否試驗ヲ執行スベシ

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第四十四條

主トシテ張力ヲ受クル部分ハ鍛合又ハ別ニ定  
ムル所ニ依ルノ外熔接スルコトヲ得ズ但シ鍛合部又ハ熔  
接部ニ覆板ヲ附シ適當ナル銲接合ト爲ストキハ此ノ限ニ  
在ラズ

小ナル汽兜ノ胴板又ハ直立汽罐ノ又管ノ縱接合ハ前項ノ  
規定ニ拘ラズ之ヲ鍛合又ハ熔接スルコトヲ得

第四十五條

工事ノ爲加熱シタル鋼板又ハ鋼製支柱ニハ適  
當ナル熱處理ヲ爲スベシ

二板以上ノ鋼板ヲ銲接合スル場合ニ於テハ之ヲ銲締スル  
以前ニ於テモ此等ノ鋼板ガ充分密著スル状態ト爲シ且銲  
孔ハ成ルベク該鋼板ヲ假接合シタル後鑽孔スベシ

第四十六條

胴板ニ設クル隋圓形ノ孔ハ短徑ヲ罐ノ長サニ  
平行セシムベシ

胴板ニ設クル人孔又ハ他ノ孔ノ徑ガ胴板ノ厚サノ二・五

倍ニ七〇耗ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ適當ナル補

強環ヲ附シ該部分ノ強率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル強率ヨ

リ小ナラザルモノト爲スベシ

長徑一五〇耗ヲ超ユル人孔其ノ他ノ孔ヲ鏡板ニ設クルト

キハ相當ノ強力ヲ有スル緣環又ハ左ノ算式ニ依リ算定シ

タルモノヨリ小ナラザル深サヲ有スル曲線ニ依リテ鏡板

ヲ補強スベシ

$$h = \sqrt{t \times W}$$

h ハ孔ノ短徑部ニ於テ板ノ外面ヨリ測リタル曲線ノ  
深サ(耗ニテ)

t ハ板ノ厚サ(耗ニテ)

W ハ孔ノ短徑(耗ニテ)

第四十七條

人孔其ノ他ノ孔ニ用ウル押壓製ノ蓋ハ適當ナ  
ル熱處理ヲ爲シタルモノナルコトヲ要ス

孔蓋ト孔トノ間隙ハ孔ノ周ノ各點ニ於テ一・五耗ヲ超ユ  
ルコトヲ得ズ

第四十八條

胴板ノ縱接合ニ用ウル覆板ハ胴板ト同質ノ板  
ヲ用キ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小

ナルコトヲ得ズ

一 各列ノ銲數ガ同一ナル場合

外覆板

$$t_0 = \frac{5}{8} \times T$$

内覆板

$$t = \frac{5}{8} \times T + 3$$

二 外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲數ノ半數ナル場合

外覆板

$$t_0 = \frac{5}{8} \times \frac{T(P-d)}{(P-2d)}$$

内覆板

$$t = \frac{5}{8} \times \frac{T(P-d)}{(P-2d)} + 3$$

T ハ接合スベキ胴板ノ厚サ(耗ニテ)

t\_0 ハ外覆板ノ厚サ(耗ニテ)

t ハ内覆板ノ厚サ(耗ニテ)

P ハ外列ニ於ケル銲ノ心距(耗ニテ)

d ハ銲孔ノ徑(耗ニテ)

第四十九條

端列ニ於ケル銲孔ノ中心ヨリ板端迄ノ距離ハ  
其ノ孔徑ノ一・五倍以上ナルコトヲ要ス

二列以上ノ銲接合ニ於ケル銲列間ノ距離ハ左ノ算式ニ依  
リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 各列ノ銲數ガ同一ナル場合



千鳥形銲接合ナルトキ  $V_1 = 0.33p + 0.67d$   
 竝列銲接合ナルトキ  $V_1 = 21$

二 外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲數ノ半數ナル場合

千鳥形銲接合ナルトキ  $V_1 = 0.2p + 1.15d$   
 $V_1 = 0.165p + 0.67d$

竝列銲接合ナルトキ  $V_1 = 0.33p + 0.67d$  ノ中其大  
 $V_1 = 2d$   
 $V_1 = 2d$  ナルモノ

$V_1$  ハ銲數同一ナル各銲列ノ距離(耗ニテ)

V ハ外列ト其ノ次ノ列トノ距離(耗ニテ)

p ハ外列ニ於ケル銲ノ心距(耗ニテ)

d ハ銲孔ノ徑(耗ニテ)

**第五十條**

胴板ノ縱接合ニ於ケル銲ノ心距ハ左ノ算式ニ依  
 リ算定シタルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

$$P = 0.5H + 40$$

P ハ銲ノ心距(耗ニテ)

T ハ板ノ厚サ(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|             |         |            |
|-------------|---------|------------|
| Pナル心距ニ於ケル銲數 | 累接合ナルトキ | 兩覆板銲接合ナルトキ |
| —           | 一・三二    | 一・七五       |

$$P = \frac{(T-a) \times S \times C \times J}{D}$$

P ハ制限汽壓(毎平方釐珎ニテ)

T ハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)

S ハ胴板ノ最小抗張力(毎平方釐珎ニテ)

D ハ胴ノ最大內徑(耗ニテ)

J ハ縱接合ノ強率ニシテ第二項ニ依リ定メタルモノ

a ハ胴板ノ厚サ四五耗未滿ナルトキハ一・五 四五

耗以上トナルトキハ零

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|                           |      |
|---------------------------|------|
| 縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五耗未滿トナルトキ | 五二・一 |
| 縱接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ四五耗以上トナルトキ | 五〇・〇 |
| 縱接合ガ累接三列銲ナルトキ             | 五〇・五 |
| 縱接合ガ累接二列銲ナルトキ             | 四九・三 |
| 縱接合ガ累接一列銲ナルトキ             | 四三・三 |

縱接合ノ強率ハ左ノ各號ノ強率中最小ノモノトス

一 接合ニ於ケル胴板ノ強率

$$J_1 = \frac{p-d}{p}$$

|   |      |      |
|---|------|------|
| 二 | 二・六二 | 三・五〇 |
| 三 | 三・四七 | 四・六三 |
| 四 | 四・一四 | 五・五二 |
| 五 | —    | 六・〇〇 |

**第五十一條**

胴板ト鏡板トノ接合強率ヲ〇・四二以上ト爲シ  
 シ胴板ノ厚サ一六耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ハ二以上ト爲スベシ

筒形汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ片面型汽罐ニ在リテハ

接合強率ヲ〇・六〇以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ

一六耗ヲ超ユルトキハ二以上、三五耗ヲ超ユルトキハ三

以上ト爲シ兩面型汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ〇・六二

以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ一三耗ヲ超ユルトキ

ハ二以上、三〇耗ヲ超ユルトキハ三以上ト爲スベシ

直立汽罐ノ胴板ノ周圍接合ハ接合強率ヲ〇・四二以上ト

爲シ其ノ接合ガ全周ニ亘ラザルトキ又ハ胴板ノ厚サ一六

耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ヲ二以上ト爲スベシ

**第五十二條**

胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依  
 リ算定シタルモノトス

二 接合ニ於ケル銲ノ強率

$$J_2 = \frac{n \times d^2 \times k}{p \times T}$$

三 外列ノ銲ノ心距ガ其ノ他ノ列ノ銲ノ心距ノ二倍ナル

トキノ銲及胴板ノ聯合強率

$$J_3 = \frac{p-2d}{p} + \frac{J_2}{n}$$

T ハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)

P ハ外列ニ於ケル銲ノ心距(耗ニテ)

d ハ銲孔ノ徑(耗ニテ)

n ハ pナル心距ニ於ケル銲數

k ハ兩覆板ヲ有スル場合ニ於テハ二・二一、其ノ他

ノ場合ニ於テハ〇・六四

第四十四條第二項ニ依リ鍛合又ハ熔接シタル胴板ノ強力

ニ對スル制限汽壓ハ管海官廳ノ定ムル所ニ依ル

四箇以上ノ螺旋支柱ノ取附孔ガ胴ノ中心線ニ平行又ハ略

平行ニ配置セララルトキハ孔ノ間隔ハ該支柱間ニ於ケル

胴板ノ強率ガ縱接合ノ強率ヨリ小ナラザル様之ヲ定ムベ

**第五十三條**

平板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ各號ノ算



式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス  
一 螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支ヘラレタル部分

$$P = C_1 \times \frac{(T-1)^2 + KW^2}{a^2 + b^2}$$

- P ハ制限汽壓(毎平方英尺ニテ)
- T ハ板ノ厚サ(耗ニテ)
- a ハ支柱各列中心線ノ距離(耗ニテ)
- b ハ各列ニ於ケル支柱心距(耗ニテ)
- W ハ座金、條板又ハ二重張板ノ厚サ(耗ニテ)
- K ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ座金、條板又ハ二重張板ヲ取附ケザルトキ又ハ板ニ固著セザル座金ヲ備フル場合ニ於テ其ノ厚サ又ハ徑ガ表ニ掲グル寸法ニ適合セザルトキハ零

|   |      |
|---|------|
| 厚サハ板ノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ノ支柱ノ徑ノ三・五倍以上ノ座金ヲ外ニ備フルトキ        | 〇・一五 |
| 厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ心距ノ〇・六六倍以上ノ座金ヲ板ニ固著シタルトキ | 〇・三五 |
| 厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍徑ハ支柱ノ心距ノ〇・六六倍以上ノ條板ヲ板ニ固著シタルトキ | 〇・五五 |
| 厚サハ板ノ厚サノ一・〇〇乃至〇・六六倍ナル二重張板ヲ板ニ固著シタルトキ             | 〇・八五 |

C<sub>1</sub> ハ定數ニシテ左表ニ依ル

| 支點ノ種類                                    | 板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケルモノナルトキ | 板ニ火焰ノ接觸ヲ受ケルモノナルトキ |
|--|-------------------|-------------------|
| 支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ鉸締シタルトキ                      | 四二〇〇              | 三七一〇              |
| 支柱ヲ板ニ振込ミ外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ                   | 六三一〇              | 五五二〇              |
| 支柱ヲ板ニ挿込ミ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ                   | 七〇〇〇              | 六一五〇              |
| 支柱ヲ板ニ挿込ミ外面ニハ座金、條板又ハ二重張板ヲ當テ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ | 七三六〇              | 六四五〇              |
| 管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ                 | —                 | 三八二〇              |
| 管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ         | —                 | 五二八〇              |

二 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢相互間又ハ焰管巢ト胴板トノ間ノ部分

$$P = C_2 \times \frac{(T-1)^2 + KW^2}{a^2 + b^2}$$

- a 及Tハ前號ニ同ジ
- b ハ管支柱ノ水平心距(耗ニテ)
- ハ管支柱ノ縦心距(耗ニテ)

- w ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ其ノ厚サ(耗ニテ)
- k ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ〇・五五之ヲ取附ケザルトキハ零

|                            |      |
|----------------------------|------|
| C <sub>2</sub> ハ定數ニシテ左表ニ依ル |      |
| 端列ノ管支柱ノ外端ヲ母螺締ト爲サザルトキ       | 三八二〇 |
| 端列ノ管支柱ノ外端ヲ一箇置ニ母螺締ト爲シタルトキ   | 四六三〇 |
| 端列ノ管支柱ノ外端ヲ總テ母螺締ト爲シタルトキ     | 五二八〇 |

三 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢ニ於ケル部分

$$P = C_3 \times \frac{(T-1)^2}{P_2}$$

- P 及Tハ第一號ニ同ジ
- p ハ當該部分ニ於ケル四箇ノ管支柱ノ中心點ノ構成スル四邊形ノ四邊ノ平均ノ長サ(耗ニテ)
- C<sub>3</sub> ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|                                  |      |
|----------------------------------|------|
| 管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ         | 二八〇〇 |
| 管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ | 三六〇〇 |

前項ノ算式ヲ適用スルニ當リ當該部分ニ於ケル支點ノ種

類ガ同一ナラザルトキハ定數C<sub>1</sub>、C<sub>2</sub>、C<sub>3</sub>及Kハ各種類ノ支點ノ數ニ之ニ對スル定數ヲ乘ジタルモノノ和ヲ支點ノ總數ニテ除シタルモノトス

前二項ノ規定ヲ支點ノ配置不規則ナル部分又ハ曲線シタル板ノ曲線ニ近キ部分ニ適用スルニ當リテハ左ノ規定ニ依ル

- 一 曲線ノ彎曲起點ハ之ヲ支點ト看做シ其ノ彎曲内半徑ガ板ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ曲線ノ外面ヨリ板ノ厚サノ三・五倍ノ距離ノ點ヲ彎曲起點ト看做ス
- 二 少クトモ三支點ヲ通り内部ニ支點ヲ有セザル最大圓ノ徑ヲdトシ第一項ノ算式中a<sup>2</sup>+b<sup>2</sup>ノ代リニd<sup>2</sup>ヲ用ウ
- 三 曲線ノ彎曲起點ガ支點ナル報告ノ定數C<sub>1</sub>ハ板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキハ八〇六〇、耗ガ火焰ノ接觸ヲ受ケルモノナルトキハ七〇四〇トス

第五十四條 支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ鉸締スル場合ニ於ケル板ノ厚サハ支柱ノ螺糸底ニ於ケル徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板及側板ニ於テ後管板又ハ背板ニ最モ近キ支柱列ト後管板又ハ背後ノ曲線ノ彎曲部起點トノ距離ハ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ前條第



一項第一號ノ算式ニ用キ算定シタルヨリ大ナルコトヲ得ズ  
 燃焼室ノ頂板ヲ側板ト接合スル爲ノ彎曲部ノ彎曲外半徑ガ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ第五十七條ノ算式ニ用キ算定シタル支梁ノ心距Dノ二分一ヨリ小ナルトキハ側板ノ内面ト之ニ最モ近キ支梁ノ中心トノ距離ハDヨリ大ナルコトヲ得ズ又右ノ彎曲外半徑ガDノ二分一ヨリ大ナルトキハ支梁ノ中心ヨリ彎曲起點迄測リタル平坦部ノ幅ハDノ二分一ヨリ大ナルコトヲ得ズ

**第五十五條** 焰管巢ヲ形式スル焰管ガ水平ナル直立汽罐ノ管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同様ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P = \frac{49.2 \times (T-1.5) \times S \times (p-d)}{D \times p}$$

- P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)
- T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)
- S ハ管板ノ抗張力 (每平方糎ニテ)
- D ハ胴ノ中心線ヨリ管板ノ縱端列ノ管嵌孔ノ中心迄

ノ距離ノ二倍 (耗ニテ)  
 p ハ管ノ縱心距 (耗ニテ)  
 d ハ管板ニ於ケル管孔ノ徑 (耗ニテ)  
 前項ノ管板ノ縱端列ニ於ケル管ハ少クトモ一箇置ニ管支柱ト爲スベシ

**第五十六條** 筒形汽罐ノ後管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同様ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P = \frac{2400(D-d)T}{W \times D}$$

- P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)
- T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)
- D ハ焰管ノ水平心距 (耗ニテ)
- d ハ普通焰管ニ對スル管孔ノ徑 (耗ニテ)
- W ハ燃焼室上部ノ奥行 (耗ニテ)

**第五十七條** 燃焼室ノ頂板ヲ支フル鑄製支梁ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times G^2 \times T \times S}{(L-P) \times D \times L}$$

- P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

- d ハ支梁中央部ノ深サ (耗ニテ)
- T ハ支梁ノ厚サ但シ二板合セ支梁ナルトキハ各板ノ厚サノ和 (耗ニテ)
- L ハ燃焼室上部ノ内側ニ於テ測リタル奥行 (耗ニテ)
- P ハ支梁ノ支フル支柱ノ心距 (耗ニテ)
- D ハ支梁ノ心距 (耗ニテ)
- S ハ支梁ニ用ウル鋼材ノ最小抗張力 (每平方糎ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|                    |                               |
|--------------------|-------------------------------|
| 各支梁ノ支フル支柱ノ數nガ奇ナルトキ | $\frac{n}{n+1} \times 25.3$   |
| 各支梁ノ支フル支柱ノ數nガ偶ナルトキ | $\frac{n+1}{n+2} \times 25.3$ |

**第五十八條** 燃焼室ノ筒形底部ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザル部分ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times [325(T-1)-L]}{D}$$

- P ハ制限汽壓 (平方糎ニテ)
- T ハ燃焼室底部ノ鋼板ノ厚サ (耗ニテ)
- D ハ燃焼室底部ノ外徑 (耗ニテ)
- L ハ燃焼室底部ノ奥行ニシテ該部ヲ形成スル鋼板ヲ他ノ鋼板ト銲接合スル銲ノ中心線ヨリ測リタルモノ (耗ニテ)
- C及C<sub>1</sub>ハ定數ニシテ左表ニ依ル

| 縦接合ノ種類 | C       | C <sub>1</sub> |
|--------|---------|----------------|
| 銲合     | 107,000 | 3,520          |
| 銲接     | 96,600  | 3,160          |

**第五十九條** 筒形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times [325(T-1)-L]}{D}$$

- P、C及C<sub>1</sub>ハ前條ニ同シ
- T ハ火爐鋼板ノ厚サ (耗ニテ)
- D ハ火爐ノ外徑 (耗ニテ)



L ハ火爐ノ長サニシテ火爐鋼板ヲ曲線ト爲シ板、補強環等ト接合スル場合ニ於テハ曲線ノ彎曲起點ヨリ又火爐鋼板ヲ他ノ鋼板ノ曲線ト銲接合スル場合ニ於テハ銲ノ中心線ヨリ測リタルモノ（耗ニテ）

**第六十條** 錐形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C(T-1)}{D}$$

- P ハ制限汽壓（毎平方糎ニテ）
- T ハ火爐ノ錐形部ニ於ケル鋼板ノ最小厚サ（耗ニテ）
- D ハ火爐ノ錐形部ニ於ケル最小外徑（耗ニテ）
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

| 火 爐 ノ 種 類                | C    |
|--------------------------|------|
| 「モリソン」式、「ダイトン」式又ハ之ニ類スルモノ | 一〇九〇 |
| 「リーズ、フオージ、バルブ」式又ハ之ニ類スルモノ | 一一六〇 |

**第六十一條** 支柱又ハ其ノ他ニ依リ補強セラレザル半球狀火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

ジー」環ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{10,300(T-1)^2}{D \times (D-d)}$$

- P ハ制限汽壓（毎平方糎ニテ）
- T ハ「オジー」環ノ厚サ（耗ニテ）
- D ハ環ノ内徑（耗ニテ）
- d ハ火爐底部ノ外徑ニシテ「オジー」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ（耗ニテ）

**第六十四條** 火爐板ノ厚サハ二一耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

**第六十五條** 胴ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有シ外方ニ突出スル球面狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{21.6 \times S \times (T-1)}{R}$$

- P ハ制限汽壓（毎平方糎ニテ）
- T ハ鏡板ノ厚サ（耗ニテ）但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
- R ハ鏡板ノ球面内半徑（耗ニテ）

$$P = \frac{627(T-1)}{R}$$

- P ハ制限汽壓（毎平方糎ニテ）
- T ハ火爐鋼板ノ厚サ（耗ニテ）
- R ハ火爐ノ球面外半徑（耗ニテ）

**第六十二條** 截頭圓錐形直立火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ記號ヲ用キ第五十九條ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

- D ハ火爐板ト頂板トノ接合銲ノ中心線ニ於テ測リタル外徑ト火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所ニ於テ測リタル外徑トノ平均（耗ニテ）
- L ハ火爐板ト頂板トノ接合銲ノ中心線ヨリ火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所迄ノ距離（耗ニテ）

火爐底部ト胴板トヲ螺旋支柱列ニ依リ連結シタル場合ニ於テ螺旋支柱ノ心距ガ其ノ端ヲ絞締シタルモノニ在リテハ火爐板ノ厚サノ一四倍ヲ、母螺締ト爲シタルモノト在リテハ一六倍ヲ超ユルコトナク且螺旋支柱ノ螺系上ノ徑ガ火爐板ノ厚サノ二・二五倍以上ナルトキハ前項ノLハ螺旋支柱列ノ中心迄測ルコトヲ得

**第六十三條** 直立汽罐ノ火爐底部ト胴板トヲ接合スル「オ

S ハ鏡板ノ抗張力（毎平方糎ニテ）

前項ノ鏡板ニ在リテハ其ノ周圍ノ曲線部ニ於ケル曲線ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ

**第六十六條** 二枚以上ノ板ヨリ成リ外方ニ突出スル半球狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1.5) \times S \times J}{R}$$

- P ハ制限汽壓（毎平方糎ニテ）
- T ハ鏡板ノ厚サ（耗ニテ）
- S ハ鏡板ノ最小抗張力（毎平方糎ニテ）
- J ハ第五十二條第二項ノ規定ヲ準用シ算定シタル鏡板相互ノ接合強率
- R ハ鏡板ノ球面内半徑（耗ニテ）
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|                 |      |
|-----------------|------|
| 鏡板相互ノ接合ガ一列銲ナルトキ | 四三・三 |
| 鏡板相互ノ接合ガ二列銲ナルトキ | 四九・三 |
| 鏡板相互ノ接合ガ三列銲ナルトキ | 五〇・三 |

**第六十七條** 螺旋支柱又ハ縱支柱ノ螺系底又ハ其ノ他ノ部



分ニ於ケル最小ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C \sqrt{PA} + 3$$

- d ハ螺旋支柱又ハ縦支柱ノ最小ノ徑(耗ニテ)
- p ハ制附汽壓(每平方糎ニテ)
- A ハ平板中該支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方糎ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

螺旋支柱ナルトキ

縦支柱ナルトキ

|          |      |
|----------|------|
| 螺旋支柱ナルトキ | 〇・四四 |
| 縦支柱ナルトキ  | 〇・四〇 |

前項ノ算式ヲ斜向支柱ニ適用スル場合ニ於テハ算式中ノCノ代リニ左ノCヲ用ウベシ

$$C = C_x \sqrt{\frac{L}{H}}$$

- O ハ前項ニ同ジ
- L ハ斜向支柱ノ長サ(耗ニテ)
- H ハ斜向支柱ノ一端ニ於ケル平板ヨリ他端迄ノ距離(耗ニテ)

燃燒室ノ内側ニ於ケル螺旋支柱ノ母螺ノ高サハ該螺旋支柱ノ螺絲部ノ徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第六十八條 管板ヲ支持スベキ管支柱ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{527.21}{A}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎ニテ)
- a ハ管支柱ノ最小橫截實面積(平方糎ニテ)
- A ハ管板中該管支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方糎ニテ)

管支柱ノ厚サハ管支柱ガ焰管集ノ外周列ニ在ルモノナルトキハ六・〇糎以上、其ノ他ノモノナルトキハ四・五糎以上ナルコトヲ要ス

管支柱ハ兩管板ニ振込ミタル上之ヲ適當ニ擴張シ緊著スベシ管支柱ノ燃燒室端ニテ母螺ヲ附スベカラズ

第六十九條 前二條ノ支柱ノ螺糸ハ成ルベク左表ニ依ルベシ

| 支柱ノ種類 | 螺     | 距(耗)  |
|-------|-------|-------|
| 螺旋支柱  | 二・〇以上 | 三・〇以下 |

| 管 | 支 | 柱 | 二・五以上 | 三・五以下 |
|---|---|---|-------|-------|
| 縱 | 支 | 柱 | 四・〇以上 | 六・五以下 |

第七十條 焰管ノ厚サハ成ルベク左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルザルモノト爲スベシ

$$T = \frac{PD}{700} + 2$$

- T ハ焰管ノ厚サ(耗ニテ)
- D ハ焰管ノ外徑(耗ニテ)
- P ハ制限汽壓(每平方糎ニテ)

第三節 水管汽罐及過熱器

第七十一條 水管汽罐ノ構造ハ本節ニ特ニ規定シタルモノノ外前節ノ規定ニ依ルベシ

第七十二條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ縱接合ハ胴ノ縱接合部ニ於ケル內徑ガ該接合部ニ於ケル胴板ノ厚サノ一〇倍未滿ナルトキハ累接ト爲スコトナク該部ノ橫截內面ヲ圓形ナラシムベシ

第七十三條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ一部ヲ成ス管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{472 \times S \times (T-3)}{D} \times \frac{p-d}{P}$$

- P ハ制限汽壓(每平方糎ニテ)
- D ハ胴ノ內徑(耗ニテ)
- T ハ管板ノ厚サ(耗ニテ)
- S ハ管板ノ抗張力(每平方糎ニテ)
- p ハ胴ノ中心線ニ平行ニ測リタル管孔ノ心距(耗ニテ)
- d ハ管孔ノ徑(耗ニテ)

管板ノ厚サハ胴板又ハ鏡板ト接合スル部分ニ於テハ第五十二條ノ規定ニ依ル胴板ノ強力ニ相當スル厚サ迄之ヲ減ズルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ厚サノ急激ナル變化ヲ避ケ且其ノ部分ヲ機械仕上ト爲スベシ

第七十四條 水管汽罐ノ胴、管寄等ニ設クル管孔ハ管ヲ緊密ニ取附ケ得ルモノト爲スベシ

管孔ヲ其ノ中心線ガ管板ニ垂直ナル様穿ツトキ孔ノ管座ノ深サヲ一〇糎以上ト爲シ斜ニ穿ツトキハ孔ノ管座ノ直圓筒部ノ深サヲ一三糎以上ト爲スベシ

第七十五條 水管汽罐ノ水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス



$$P = \frac{1,400(T-2)}{D} - 28$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ水管ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ水管ノ外徑 (耗ニテ)

a ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|                   |      |
|-------------------|------|
| 火焔若ハ高熱瓦斯ノ通路ニ直ニシテ管 | 11.0 |
| 巢端列又ハ其ノ次ノ列ノ管ナルトキ  | 11.0 |
| 其ノ他ノ管ナルトキ         | 1.5  |

水管ノ厚サハ八耗ヲ超ニルコトヲ得ズ

水管ハ總テ擴張其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ管板ニ

緊密ニ取附ケ管端ハ管座ヨリ六耗以上突出セシムベシ

水管ハ脱出セザル様其ノ兩端ヲ固定スベシ單ニ其ノ端部

ヲ喇叭形ニ擴張シテ固定シタル場合ニ於テハ端部ノ外徑

$$D = 1.03d + 1.5$$

D 水管端部ノ外徑 (耗ニテ)

d 水管ノ外徑 (耗ニテ)

第七十六條 管寄其ノ他ニ類似ノモノノ管ヲ取附ケザル  
平面部ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シ

タルモノトス

$$P = C \times \left( \frac{T-2.5}{B} \right)^2$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ平面部ノ厚サ (耗ニテ)

B ハ内側支點間ニ於テ測リタル平面部ノ幅 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|        |      |
|--------|------|
| 鍛鋼ナルトキ | 五八三〇 |
| 鑄鋼ナルトキ | 四六〇〇 |

管寄ノ管ヲ取附ケル平面部ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定  
シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.47 \sqrt{d} + 6.5$$

T ハ平面部ノ厚サ (耗ニテ)

d ハ管孔ノ徑 (耗ニテ)

過熱器ノ管寄其ノ他火焔ノ放射熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯  
ノ衝擊ヲ受ケ且使用中内部ニ蒸氣ノミヲ有スル管寄ノ厚  
サハ前二項ニ依リ算定シタルモノノ一・一二五倍ヨリ小  
ナルコトヲ得ズ

ニ依リ算定シタルモノノ二分ノ一迄減ズルコトヲ得

$$A = K \times \frac{H}{P+1}$$

A ハ安全弁ノ合計面積 (平方糎ニテ)

H ハ汽罐ノ受熱面積 (平方米ニテ) ニシテ一面ガ火

焔又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部

分ノ火焔又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面積トス但シ筒形

汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ハ之ヲ除外シ且

焔管ハ外徑ヲ基トシテ算定シ水管汽罐ニ在リテハ汽

胴及水胴ハ之ヲ除外スルモノトス

P ハ汽罐ノ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 筒形汽罐又<br>ハ直立汽罐                   | 六・一 |
| 機關室密閉式強壓通風ヲ使用セ<br>ズシテ石炭ノミヲ手焚スルモノ | 七・三 |
| 其ノ他ノモノ                           | 七・三 |
| 自然通風ニ依リ石炭ノミヲ手焚<br>スルモノ           | 五・三 |
| 其ノ他ノモノ                           | 六・一 |

汽罐ノ制限汽壓ヲ低下シタル爲安全弁ノ面積ガ前項ノ規  
定ニ適合セザルモノト爲リタル場合ニ於テ安全弁ガ第八

管寄ノ視孔部ハ蓋ヲ有效ニ取附ケ得ル様機械仕上ト爲ス  
ベシ此ノ場合該部分ノ厚サハ第一項ノ算式ニ依リ算定シ  
タルモノヨリ二・五耗ヲ減ズルコトヲ得但シ八耗未滿ト  
爲スコトヲ得ズ

視孔ノ蓋ハ堅牢ナル構造ト爲シ取外及取附作業ヲ繰返ス  
モ安全ヲ害スル虞ナキコトヲ要シ蓋ヲ螺釘ニ依リ取附ケ  
ル構造ト爲ストキハ該取附螺釘ノ折損シタル場合ニ於テ  
モ危険ナキモノト爲スベシ

第四節 汽罐附屬品

第七十七條 汽罐ニ接續スル管ニハ罐板ト接合スル部分ニ  
於テ接近シ易キ箇所ニ弁又ハ「ロック」ヲ備フベシ

第七十八條 汽罐ニハ徑四〇耗以上ノ發條式安全弁二個以  
上ヲ備ヘ汽罐ノ制限汽壓每平方糎二〇耗以下ナルトキハ  
其ノ合計面積ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ヨリ小ナ  
ラザルモノト爲スベシ但シ安全弁ハ左ノ算式ニ依リ算定  
シタル面積ガ一・九五平方糎未滿ナルトキハ徑五〇耗以  
上ノモノ一箇、一二・五平方糎未滿ナルトキハ徑四〇耗  
以上ノモノ一箇ト爲スコトヲ得

先驅弁ヲ有スル安全弁又ハ高揚程型安全弁ニシテ管海官  
廳適當ト認ムルモノニ付テハ其ノ合計面積ヲ前項ノ規定



十條第二項ノ規定ニ適合スルモノナルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第七十九條 安全弁ノ弁匣ハ汽罐ニ直接取附ケ他ノ弁ニ共用スルコトヲ得ズ

安全弁ノ弁匣ノ蒸氣進入路ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ二分ノ一以上ト爲シ廢汽路及廢汽管ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ一・一倍以上ト爲スベシ

廢汽路ニハ適當ナル排水裝置ヲ設ケ之ヲ滲水溜其ノ他適當ナル箇所ニ導クベシ

安全弁ニハ弁ヲ同時ニ開キ得ル揚弁裝置ヲ設ケ其ノ把手ハ之ヲ近寄り易キ安全ナル位置ニ導クベシ

安全弁發條ハ汽罐ノ制限汽壓ニ相當スル壓力ヲ加ヘタルトキ其ノ長サガ弁徑ノ四分ノ一以上短縮シ更ニ之ヲ弁徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノナタコトヲ要ス

第八十條 安全弁ハ汽罐ノ制限汽壓ノ一・〇三倍以下ノ壓力ニ於テ自然ニ噴汽スル様調整スベシ

安全弁ハ塞汽弁ヲ閉ヂ充分ニ焚火シ水管汽罐ニ在リテハ數分間、其ノ他ノ汽罐ニ在リテハ一五分間以上噴汽セシムルモ汽壓ノ昇騰尙汽罐ノ制限汽壓ノ十分ノ一ヲ超エザ

水管 汽罐 硝子示面計二箇

長サ四米ヲ超ユル  
船體ニ對シ横  
ニ配置シタル場合  
ニ於テハ兩ノ兩端  
ニ近ク取附クベシ

前項ノ驗面「コック」ハ三箇ヲ以テ一組ト爲スベシ但シ徑二・五米未滿ノ筒形汽罐又ハ高サ二・五米未滿ノ直立汽罐ニ在リテハ二箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ得

硝子示面計及驗面「コック」ハ成ルベク之ヲ汽罐ニ直接取附ケ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ適當ナル内徑及強力ヲ有スル筒ニ取附クベシ

前項ノ筒ハ成ルベク汽罐ニ近接シテ固定スルコトヲ要シ筒ヲ導管ニ依リ汽罐ニ連絡セシムル場合ニ於テハ筒ノ位置ガ不慮ニ變動セザル様取附ケ汽側ノ導管ハ凝結水ノ滯溜セザルモノト爲スベシ

第八十三條 汽罐ニハ焚口面ノ見易キ位置ニ壓力計一箇ヲ備フベシ焚口ガ汽罐ノ兩面ニ在ル場合ニ於テハ各焚口面ニ之ヲ備フベシ

ルモノナルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ汽罐ニ適當ナル水準ヲ維持セシムルニ必要ナル程度ヲ超エ給水ヲ爲スコトヲ得ズ

第八十一條 蒸氣過熱器ト汽罐トノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置アルトキハ蒸氣過熱器ニ適當ナル逃出弁ヲ備ヘ之ヲ容易ニ操縱シ得ル揚弁裝置ヲ設クベシ

第八十二條 汽罐ニハ左表ニ依リ罐内ノ水準面ヲ容易ニ知リ得ベキ裝置ヲ互ニ近接セザル位置ニ備ヘ且筒形汽罐及直立汽罐ニハ燃燒室頂部ノ高サヲ適當ニ標示スベシ

| 汽罐ノ種類  | 裝置ノ種類及數               | 摘 要  |
|--------|-----------------------|--|
| 直立汽罐   | 硝子示面計一箇<br>及驗面「コック」一組 |  |
| 筒形片面汽罐 | 硝子示面計二箇               | 徑五米未滿ノ汽罐ニ在リテハ中一箇ヲ驗面「コック」一組ヲ以テ代用スルコトヲ得      |
| 筒形兩面汽罐 | 硝子示面計二箇<br>及驗面「コック」二組 | 硝子示面計及驗面「コック」ハ夫々汽罐ノ各面ニ於テ他面ニ於ケルト反對ノ位置ニ取附クベシ |

第八十六條 汽罐ノ放水弁又ハ放水「コック」ヨリ船外ニ通ズル放水管ハ内徑二〇耗以上ナルコトヲ要ス

二箇以上ノ汽罐ヲ備フル船舶ニ在リテハ各汽罐ノ放水管ヲ一箇ノ共通管ニ接続セシムル場合ニ於テハ振縮不還弁ニ依リ各汽罐ノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置ト爲スベシ

第五節 汽罐ニ關スル雜則

第八十七條 汽罐ハ移動セザル様之ヲ船體ニ据附クベシ

第八十八條 汽罐ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ノ周圍ニハ相當ノ空積ヲ存スベシ

第八十九條 汽罐ハ之ヲ製造シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

一 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疋以下ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疋ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ每平方糎三・五疋ヲ加ヘタル壓力

第九十條 蒸氣過熱器ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ



第六節 給水装置

第九十二條

主汽罐ノ給水装置ハ正給水装置及副給水装置ヨリ成リ各装置ハ汽機ヲ全力ニ於テ運轉スル場合ニ必要ナル給水能力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第九十三條

正給水装置ノ「ポンプ」ガ主機ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ該「ポンプ」ハ發條逃出弁ヲ備ヘタルモノニシテ其ノ數ハ二箇トシ各「ポンプ」ハ必要ナル全給水ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ一箇ヲ使用中ト雖モ他ヲ解放シ得ルモノト爲スベシ但シ長サ五〇米未滿ノ船舶ノ機關ニ在リテハ正給水装置ノ「ポンプ」ヲ一箇ト爲スコトヲ得

二箇ノ主機ヲ備フル船舶ニ於テ前項ノ給水「ポンプ」ヲ各主機ニ一箇宛配置シタルトキハ各「ポンプ」ガ雙方ノ温水溜ヨリ吸水シ得ル様装置スベシ

正給水装置ノ「ポンプ」ガ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノトナルトキハ之ニ自動調整装置ヲ備フベシ

長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ前項ノ「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ第九十四條ノ副給水装置ノ「ポンプ」ニ自動調整装置ヲ備フベシ

第九十四條 副給水装置ノ「ポンプ」ハ獨立ノ動力ニ依リ

動作セラルルモノニシテ温水溜及清水槽ヨリ吸水シ得ルモノナルコトヲ要ス但シ受熱面積二〇平方米未滿ノ汽罐ノ副給水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

給水「ポンプ」ノ吸水管中醗汽ノ際汽罐内ノ水ヲ循環セシムル爲メ汽罐ノ底部ヨリ吸水スル管ハ之ヲ他ノ吸水管ト別箇ノモノト爲スベシ

第九十五條

補汽罐ニハ適當ナル正副二重ノ給水装置ヲ備フベシ但シ受熱面積二〇平方米未滿ノ補汽罐ノ副給水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル装置

第九十六條

排水装置ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外木船ニ在リテハ木船構造規程第二十二章、鋼船ニ在リテハ鋼船構造規程第二十三章、國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶區畫規程第十二章ノ規定ニ依リ第九十七條 滄水「ポンプ」ハ船ノ長サニ應ジ左表ニ依リ之ヲ備フベシ

|         |                    |                       |           |    |
|---------|--------------------|-----------------------|-----------|----|
| 船ノ長サ(米) | 主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ノ數 | 獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ノ數 | 手動「ポンプ」ノ數 | 摘要 |
|---------|--------------------|-----------------------|-----------|----|

雜用「ポンプ」、脚荷水「ポンプ」、衛生「ポンプ」等ニシテ滄水排出ノ目的ニ對シ適當ニ裝置セラレタルモノナルトキハ之ヲ第一項ノ滄水「ポンプ」ト看做スコトヲ得

第九十八條

滄水吸引主管ノ内徑ハ船ノ長サニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但シ第三號ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スルモノニ在リテハ六〇耗未滿ト爲スコトヲ得ズ

一 長サ二五米未滿ノ船舶

$D = 1.25 \sqrt{L - 10} + 10$

二 長サ二五米以上三三五米未滿ノ船舶

$D = 2.67 \sqrt{L - 20} + 15$

三 長サ三五米以上ノ船舶

$D = 1.67 \sqrt{L(B + D)} + 25$

d ハ滄水主管ノ内徑(耗ニテ)

L、B、D ハ夫夫船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ長さ、幅及深サ(米ニテ)

前項第三號ノ船舶ニ在リテハ各水密區畫ニ對スル滄水吸

|        |   |   |   |   |
|--------|---|---|---|---|
| 二五未滿   | 一 | 一 | 一 | 管海官廳差支ナシト認ムル場合ニ依リ旅客船ニ非ザル船舶ニ在リテハ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ヲ省略シ又長サ一〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ滄水及桶一箇ヲ以テ「ポンプ」ニ代フルコトヲ得 |
| 二五以上   | 一 | 一 | 一 | 管海官廳長サ三〇米未滿ノ船舶ニ付獨立動力「ポンプ」ノ備付ガ實際ニ困難ナリト認ムルトキハ他ノ「ポンプ」ノ能力其ノ他ヲ考慮シ其ノ備附ヲ省略セシムルコトヲ得               |
| 五〇以上   | 二 | 一 | 一 |   |
| 滿一〇〇以上 | 二 | 二 | 一 |   |
| 滿一〇〇以上 | 二 | 二 | 一 |   |

前項ノ滄水「ポンプ」ハ夫夫動力「ポンプ」ヲ以テ手動「ポンプ」ニ、獨立動力「ポンプ」一箇ヲ以テ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」二箇ニ代フルコトヲ得



引水管ノ内徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタラモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ一〇〇耗ヲ超ユルコトヲ要セズ又國際航海ニ從事スル船舶ニ在リテハ五〇耗未滿ト爲スコトヲ得ズ

$$d = 2.15 \sqrt{(B+D) + 25}$$

d ハ滄水支管ノ内徑(耗ニテ)

I ハ當該支管ニ依リ排水スベキ區畫室ノ長サ(米ニテ)

B、D ハ夫夫船舶國籍證書ニ記載スベキ船ノ幅及深サ(米ニテ)

第九十九條

滄水排水装置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 各動力滄水「ポンプ」ハ實際上手動「ポンプ」ニテ差支ナキ箇所ヲ除クノ外各艙、機關室及軸路ヨリ吸水シ得ル配置ト爲スコト
- 二 第九十七條第一項ノ規定ニ依リ備フベキ各獨立動力滄水「ポンプ」ハ滄水主管内ノ水ノ流速ガ通常ノ操作狀態ニ於テ毎分一二二米以上トナル吸水能力ヲ有スルモノナルコト但シ第九十七條第一項ノ規定ニ依ル「ポンプ」ノ外尙其ノ他ニ獨立動力滄水「ポンプ」ヲ備フルトキハ其ノ各箇ノ吸水能力ヲ同條同項ノ規定ニ依リ獨立動力滄水「ポンプ」一箇毎ノ吸水能力ニ加算スルコトヲ得ルコト

ンブ」ノ外尙其ノ他ニ獨立動力滄水「ポンプ」ヲ備フルトキハ其ノ各箇ノ吸水能力ヲ同條同項ノ規定ニ依リ獨立動力滄水「ポンプ」一箇毎ノ吸水能力ニ加算スルコトヲ得ルコト

- 三 獨立動力滄水「ポンプ」中少クトモ一箇ハ他ノ滄水「ポンプ」ガ船體ノ他ノ箇所ヨリ排水中ト雖モ直接機關室ヨリ排水シ得ル装置ト爲スコト
- 四 機關室ニ於ケル滄水吸引管ハ之ヲ泥芥箱ニ接續シ泥芥箱ハ滄水溜ニ通ズル眞直ナル尾管及急速ニ開閉シ得ル構造ノ蓋ヲ有シ且成ルベク機關室床面上ヨリ容易ニ掃除シ得ル場所ニ之ヲ設置スルコト但シ管海官廳ニ於テ船體ノ構造、吸引管ノ配置其ノ他ニ依リ差支ナシト認ムル箇所ニ限り吸引管端ニ附シタル泥芥箱ヲ以テ泥芥箱ニ代フルコトヲ得ルコト
- 五 各艙、軸路及石炭庫ニ於ケル滄水吸引管端ニハ吸引管ノ接合部ヲ取外サザルモ容易ニ掃除シ得ル構造ノ泥芥箱ヲ備フルコト
- 前項第四號及第五號ノ泥芥箱ノ吸水孔集ノ各孔ノ徑ハ一〇耗以下ニシテ孔ノ總面積ハ吸水管ノ橫截面積ノ三倍以上ト爲スベシ

第一百條

循環水「ポンプ」ハ不還弁ヲ經テ機關室ノ成ルベク最低部ヨリ直接滄水ヲ吸引シ得ル装置ト爲シ其ノ吸引管ノ内徑ハ該「ポンプ」ノ海水吸引管ノ内徑ノ三分ノ二以上ト爲スベシ

前項ノ不還弁ニハ成ルベク適當ナル揚弁装置ヲ備フベシ燃料ニ石炭ヲ使用シ又ハ使用スルコトアルベキ汽罐ト汽機トノ間ニ水密隔壁ナキ長サ一一〇米以上ノ船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船又ハ旅客船ニ非ザル近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ少クトモ一箇ノ循環水「ポンプ」ヨリ復水器管ヲ經テ直接船外ニ排水シ得ル様装置スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノ又ハ装置スルコト甚シク困難ナリト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第一百一條

長サ四〇米以上ノ船舶又ハ長サ三〇米以上ノ旅客船ニ在リテハ獨立動力「ポンプ」中一箇ハ海水ヲ吸引シテ甲板上ニ送水シ且船體ノ前後部ニ同時ニ配水シ得ル装置ト爲スベシ

第一百二條

海水ヲ吸引シ得ル「ポンプ」ニ接續スル滄水管ニハ海水又ハ水槽ト滄水トニ同時ニ開通シ得ザル「コック」又ハ不還弁ヲ備ヘ海水、脚荷水又ハ水槽ノ水ガ貨物

艙、機關室若ハ軸路ニ流入シ又ハ一區畫ヨリ他區畫ニ流入スルコトヲ防止スベシ

滄水配流箱ニ於ケル弁ハ不還弁ト爲スベシ貨物艙、機關室又ハ軸路ヨリ排水スベキ「ポンプ」ノ吸引管ハ二重底又ハ水槽ノ充水管又ハ排水管トハ別箇ノモノト爲スベシ

滄水吸引管ヲ連絡スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板上ノ近寄り易キ場所ニ之ヲ備フベシ

滄水管ガ鋼管ナルトキハ成ルベク亜鉛鍍ト爲スベシ石炭庫其ノ他損傷ヲ受ケ易キ場所ニ於ケル滄水吸引管ハ之ニ適當ナル保護装置ヲ備フベシ

第一百三條 二重底又ハ水槽ヲ有スル船舶ハ二重底又ハ水槽ノ水ヲ獨立ノ動力「ポンプ」ニ依リ排出シ得ル適當ナル装置ヲ備フベシ

第一百四條 長サ三五米以上ノ船舶ハ循環水「ポンプ」ニ依ラズシテ冷却水ヲ復水器ニ送り得ル装置ヲモ備フベシ但シ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル循環水「ポンプ」二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連絡スル装置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五條

船外ヨリ吸水スル管ハ海水弁又ハ海水「コック」



ニ連絡シ海水弁又ハ海水「コック」ハ之ヲ直接外板ニ取附ケタルカ又ハ外板ニ取附ケタル堅牢ナル脚筒ニ取附ケ機關室床板上ニ於テ容易ニ操作シ得ルモノト爲スベシ  
鋼船ノ外板ニ弁「コック」又ハ前項ノ唧筒ヲ取附ケル螺釘ハ之ヲ外板ニ振込ムカ又ハ埋頭ト爲スベシ

**第六六條** 第八十六條ノ放水管ハ近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ニ連絡スベシ  
前項ノ弁又ハ「コック」ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ鋼船ニ在リテハ其ノ取附部ニ於ケル外板ノ腐蝕ヲ防止スル爲外板ニ適當ナル裝置ヲ爲スベシ

第一項ノ「コック」ハ之ヲ閉鎖スルニ非ザレバ其ノ開閉把手ヲ取放チ得ザル裝置ト爲スベシ  
第一項ノ放水管ヲ罐水循環ノ爲使用スル船舶ニ在リテハ同項ノ弁又ハ「コック」ト罐水循環路トヲ遮斷シ得ル様適當ニ裝置スベシ

**第六七條** 排水管ハ成ルベク近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル排水弁又ハ排水「コック」ニ連絡スベシ但シ長サ三〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ最大吃水線上ニ於テ船外ニ通ズル排水管ニ限リ管海官廳ノ見込ニ依リ弁又ハ「コック」ヲ備ヘザルコトヲ得

**第六八條** 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ

要スル汽機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滞ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキニ之ヲ二様ト爲サザルコトヲ得  
前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲スコトヲ得

第八節 管

**第六九條** 汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ小徑ノ過熱汽管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

$$P = \frac{(T-a)}{D} \times K$$

P ハ制限汽壓(毎平方糎廷ニテ)  
D ハ管ノ内徑(糎ニテ)  
T ハ管ノ厚サ(糎ニテ)  
a 及K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

| 管ノ種類 | a   | K   |
|------|-----|-----|
| 引拔銅管 | 一・〇 | 四四〇 |

當ニ熱處理ヲ爲スベシ

**第七十二條** 汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル様適當ニ裝置スベシ

汽管ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ  
減壓弁ヲ備フル場合ニ於テハ減壓蒸汽ノ側ニ適當ナル逃出弁ヲ備フベシ

**第七十三條** 汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ少クトモ二箇ノ汽罐ヨリ汽笛、操舵汽機及發電汽機ニ送汽シ得ル裝置ト爲スベシ

**第七十四條** 二二〇度以上ノ蒸汽ヲ通ズル弁匣、膨脹接手等ハ鑄鋼其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ製造スルコトヲ要ス

**第七十五條** 管ハ振動ヲ防止スル爲帶金其ノ他ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ取附クベシ

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

**第七十六條** 給水「ポンプ」ノ水筒ハ之ヲ製造シ創任上ヲ爲シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ  
給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル弁「コック」給水加熱

| 汽管        |     | 給水管    |     |
|-----------|-----|--------|-----|
| 鐵附銅管      | 一・〇 | 引拔銅管   | 一・〇 |
| 常溫引拔銅管    | 二・五 | 鐵附銅管   | 一・〇 |
| 高溫仕上無接合銅管 | 三・〇 | 常溫引拔銅管 | 二・〇 |
| 鍛合鋼管      | 三・〇 |        |     |
|           | 八四四 |        | 七〇三 |
|           | 六三三 |        |     |
|           | 三五五 |        |     |
|           | 二六六 |        |     |
|           | 三三〇 |        |     |

第八十二條末項ノ導管中汽側ノモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項汽管ノ例ニ依リ水側ノモノ及第八十六條ノ放水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項給水管ノ例ニ依ル

**第七十條** 銅管ハ之ヲ彎曲スル場合ニ於テハ前條ニ依リ算定シタル厚サヨリ大ナル厚サノモノヲ用キ且管ノ中心線ニ於テ測リタル彎曲半徑ヲ管ノ外徑ノ二倍以上ト爲スベシ

**第七十一條** 汽管、給水管、第八十二條末項ノ導管又ハ第八十六條ノ放水管ニ用ウル銅管ハ之ヲ取附ケル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ  
鋼管ニシテ工事ノ爲加熱シタルモノハ之ヲ取附ケル前適當ニ



器、給水濾器等ニシテ給水ノ壓力ヲ受クル部分ハ之ヲ製造シ仕上ゲルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル管ハ鈔ヲ附シ仕上ラ爲シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ二・五倍ノ壓力  
鋼管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ四・〇倍ノ壓力

制限汽壓毎平方糎三〇疋ヲ超ユル汽罐ノ給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル鋼管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ水壓試験ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第一百七十七條 主汽管ハ鈔ヲ附シ仕上ラ爲シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力  
鋼管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ三倍ノ壓力

第一百八十八條 循環水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ラ爲シタルトキ毎平方糎四疋ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ但シ獨立ノ動力ニ依リテ動作セラルルモノナルトキハ毎平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スルコトヲ得

第一百九十九條 抽氣「ポンプ」ノ氣筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造

煙路内ニ堰板ヲ設クルコトヲ得ズ

隨時ニ石炭又ハ油ヲ燃燒シ得ル装置ヲ備フル汽罐ニ在リテ煙突又ハ煙路内ニ堰板ヲ有スルトキハ該堰板ヲ全開シ得ル構造ト爲シ且全開シタルトキハ不慮ニ開度ヲ變更スル虞ナキモノト爲スベシ

第二百二十六條 噴油「ポンプ」、油濾器及燃料油加熱器ハ充分ナル能力ヲ有シ且隨時使用シ得ルモノ二組以上ヲ備フベシ但シ補汽罐又ハ長サ三〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得

噴油「ポンプ」ハ吸油側及送油側ニ弁又ハ「コック」ヲ附シ且送油側ニ有效ナル逃弁ヲ備ヘ之ヨリ逃シタル油ヲ該「ポンプ」ノ吸油側ニ導入スル装置ト爲スベシ  
燃油装置ヲ有スル汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油「ポンプ」ノ送油管ヲ配油弁匣ニ接続スルカ又ハ各汽罐ニ對スル送油管ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ  
噴油器、噴油「ポンプ」、加熱器及油濾器等ヨリノ漏油ニ對シテハ適當ナル油受ヲ設クベシ

第二百二十七條 噴油「ポンプ」及之ニ接続スル管系ハ給水「ポンプ」、滄水「ポンプ」又ハ脚荷水「ポンプ」及此等ニ接続スル管系ト兼用スルコトヲ得ズ

シ削仕上ラ爲シタルトキ毎平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

第二十條 潤滑油「ポンプ」ノ油筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ラ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ

油冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ

第二十一條 滄水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ラ爲シタルトキ毎平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

第二十二條 最大吃水線以下ノ外板ニ取附クル弁匣「コック」又ハ第五條ノ脚筒又ハ船尾管ハ之ヲ製造シタルトキ毎平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

第十節 燃油裝置

第二十三條 本節ノ規定ハ「エーベル」式密閉試験ニ依リ引火點六五度以上ノ燃料油ヲ汽罐ニ於テ燒燃スル裝置ヲ有スル船舶ニ之ヲ適用ス

第二十四條 汽罐ニハ適當ナル防熱裝置ヲ施シ且之ト油槽ノ側壁又ハ二重底頂板トハ適當ノ間隔ヲ保タシムベシ

第二十五條 油ノミヲ燃燒スル汽罐ニ在リテハ煙突又ハ

油管ハ總テ清水管ト兼用スルコトヲ得ズ

第二十八條 噴油「ポンプ」ノ送油側ニ於ケル油管ハ無接合鋼管トシ其ノ管鈔ハ之ヲ機械仕上ト爲シ且成ルベク直接接合ト爲シ接合材ヲ用ウル場合ニ於テハ高溫ノ油ノ滲透セザル薄キモノヲ用ウベシ

前項以外ノ油管ハ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ  
油管ハ機關室ニ於テハ檢査及修繕ニ便宜ナル位置ニ之ヲ取附クベシ

第二十九條 噴油「ポンプ」ノ動力裝置ハ其ノ所在區畫室ニ於テ又該區畫室ノ失火ノ際ニハ接近シ得ベキ他ノ場所ニ於テ之ヲ操縱シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十條 油槽ニハ硝子製示面計ヲ取附クルコトヲ得ズ但シ自動閉塞式ノ弁又ハ「コック」及適當ノ保護裝置ヲ備フル厚硝子板製ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 燃料油槽ト脚荷水槽トニ兼用スル區畫室二箇以上ヲ有スル船舶ニ在リテハ移油「ポンプ」ニテ該區畫室中ノ一室ヨリ吸油中脚荷水「ポンプ」ニテ他室ノ排水ヲ爲シ得ル裝置ト爲スベシ但シ容積大ニシテ屢補充スルヲ要セザル澄油槽又ハ常用油槽ヲ備フルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ



深水槽ヲ貨物艙、脚荷水槽又ハ燃料油槽ニ兼用スル船舶ニ在リテハ該槽ニ貨物ヲ積載スル場合脚荷水及燃料油ノ注入管竝ニ吸出管ニ、該槽ヲ燃料油槽又ハ脚荷水槽トシテ使用スル場合海水吸出管ニ盲蓋ヲ取附ケ得ル装置ト爲スベシ

**第三百三十二條** 移油管ニハ機關室又ハ「ポンプ」室隔壁ノ内側ニ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ移油「ポンプ」ニハ之ヲ解放スル場合移油管ト遮斷シ得ル様其ノ吸油側ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

**第三百三十三條** 二重底ヲ除クノ外燃料油槽ヨリ吸油スル管ニハ槽壁ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ其ノ所在區畫ノ失火ノ際接近シ易キ左ノ場所ヨリ開閉シ得ル装置ト爲スベシ

燃料油ヲ積載スル船首艙又ハ船尾艙ヨリ吸油スル管ニ在リテハ前項ノ装置ヲ有スル弁又ハ「コック」ハ之ヲ該艙ノ内壁ニ附スベシ但シ機關室ガ船尾艙ニ隣接スル船舶ニ在リテハ該弁又ハ「コック」ハ之ヲ船尾隔壁ノ機關室側ニ附スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ小型油槽ニ付管海官廳差支ナシト認ムルトキハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

トヲ得ズ

**第三百三十九條** 油槽ハ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ノモノト爲スベシ

**第四百十條** 燃油裝置ノ各部分ハ左ノ壓力ヲ以テ之ヲ試験スベシ

- 一 噴油「ポンプ」ノ油筒又ハ之ニ附屬スル弁ハ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力
- 二 噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管、燃料油加熱器及其ノ附屬具ハ常用最大壓力ノ二倍ト每平方糎二八疋トノ中大ナル壓力
- 三 前號以外ノ油管ニシテ機關室ニ在ルモノハ每平方糎二疋
- 四 燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力

前項第一號ニ掲グルモノノ試験ハ製造シ削任上ヲ爲シタルトキ、第二號乃至第四號ニ掲グルモノノ試験ハ船内取附後之ヲ執行スベシ

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 發動機

**第四百十一條** 發動機ハ容易且確實ニ推進器ヲ反轉セシメ

船舶機關規程

**第三百三十四條** 澄油槽及常用油槽ノ充油管ニハ前條第一項ノ装置ヲ有スル弁若ハ「コック」又ハ不還弁ヲ槽ニ接続スル箇所ニ備フベシ但シ充油管ガ槽ノ頂部ニ接続セラルルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ成ルベク燃料油ヲ澄油槽及常用油槽ヨリ二重底ニ放出スル管ヲ設ケ槽ニ接続スル箇所ニ於テ之ニ前條第一項ノ装置ヲ有スル弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

**第三百三十五條** 機關室內ノ油管ニ附スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板上ニ於テ開閉シ得ルモノト爲スベシ

**第三百三十六條** 機關室內ノ油槽ニ附スル沈澱水ノ排出管ニハ自動閉塞式又ハ封鎖裝置附ノ弁若ハ「コック」ヲ備フベシ

**第三百三十七條** 蒸汽ニ依リ燃料油ヲ加熱スル場合ニ於テハ加熱用蒸汽管ノ末端ハ凝汽中ニ於ケル油ノ有無ヲ検査シ得ル様之ヲ驗水槽ニ導クベシ

燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ之ヲ銅管又ハ鐵管ト爲スベシ

**第三百三十八條** 機關室又ハ燃料油槽、澄油槽若ハ燃料油「ポンプ」ヲ備フル室ニ於ケル海水吸引管ハ鉛管ト爲スコ

又船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

軸馬力三〇〇ヲ超ユル發動機ハ成ルベク自己反轉式ノモノト爲スベシ

軸馬力六〇ヲ超ユル發動機ニシテ「クラッチ」ヲ用キ推進器ヲ反轉スルモノニハ適當ナル整速裝置ヲ備フベシ

**第四百二十二條** 徑二五〇糎以上ノ氣筒ニシテ最大壓力每平方糎三五疋以上ノモノニハ取扱者ニ危害ヲ及ボス虞ナキ位置ニ適當ナル安全弁又ハ逃弁ヲ備ヘ最大壓力ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様調整スベシ

**第四百二十三條** 輕油、燈油、揮發油又ハ瓦斯ヲ燃料トスル單働發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方糎一八疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C \sqrt[3]{D \cdot S}$$

- d ハ軸ノ徑(糎ニテ)
- D ハ氣筒ノ徑(糎ニテ)
- S ハ行長(糎ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル



| 機類     | 動種     | 氣筒數    | C       |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|        |        |        | 「クランク」軸 | 推力軸    | 中間軸    | 第一種螺旋軸 |        |        |        |        |        |        |
| 二衝程發動機 | 動      | 一      | 甲種機關    | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |
|        |        |        | 乙種機關    | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |
|        |        |        | 二       | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
| 三      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |
| 四      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |
| 五      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |
| 六      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |
| 四衝程發動機 | 動      | 一      | 甲種機關    | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |
|        |        |        | 乙種機關    | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |
|        |        |        | 二       | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
|        |        |        |         | 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |
| 三      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |
| 四      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |
| 五      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |
| 六      | 甲種機關   | 0.0373 | 0.0354  | 0.0311 | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |
| 乙種機關   | 0.0373 | 0.0354 | 0.0311  | 0.0110 | 0.0111 | 0.0110 | 0.0143 | 0.0133 |        |        |        |        |

| 機  | 七      | 六      | 五      | 四      | 三      | 二      | 一      |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 「クランク」軸ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ | 0.0202 | 0.0190 | 0.0171 | 0.0152 | 0.0133 | 0.0114 | 0.0095 |
| 「クランク」軸ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ | 0.0113 | 0.0101 | 0.0090 | 0.0079 | 0.0068 | 0.0057 | 0.0046 |

「クランク」軸ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百四十四條 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方呎一八疋ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K = \sqrt{\frac{3P}{18}}$$

P ハ氣筒内ノ最大壓力(每平方呎疋ニテ)

第百四十五條 重油ヲ燃料トスル燒球式二衝程單働發動機

ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方呎二五疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ寸法ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 「クランク」軸ノ徑

$$d_c = \sqrt{\frac{D_2 \times (AS + BL)}{100}}$$

d<sub>c</sub> ハ「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

船舶機關規程

| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | 甲種機關又ハ乙種機關 |      | 丙種機關 |      |
|-----|-----------|------------|------|------|------|
|     |           | A          | B    | A    | B    |
| 一   | —         | 二・七五       | 二・六九 | 二・三六 | 二・三三 |
| 二   | L         | 三・四三       | 二・六〇 | 二・九四 | 二・三三 |
| 三   | 人         | 三・〇三       | 二・六八 | 二・六〇 | 二・三〇 |
| 四   |           | 三・四六       | 二・六二 | 二・九七 | 二・二五 |
| 五   | ☆         | 六・八八       | 二・一〇 | 五・九〇 | 一・八〇 |
|     |           | 三・八八       | 二・五〇 | 三・三三 | 二・一四 |

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離(耗ニテ)

A 及 B ハ定數ニシテ左表ニ依ル



|   |  |      |      |      |      |
|---|--|------|------|------|------|
| 六 |  | 四・二九 | 二・四三 | 三・六八 | 二・〇八 |
|   |  | 五・〇八 | 二・三三 | 四・三六 | 一・九八 |
|   |  | 六・八三 | 二・二二 | 五・八六 | 一・八一 |

二 一體型「クラシク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サ  
 $bt^2 = 0.4173c$

dc ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クラシク」軸ノ  
 徑(耗ニテ)  
 b ハ腕ノ幅(耗ニテ)

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)ニシテdcノ〇・  
 六〇倍以上ナルコト  
 三 推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑

$$d = C \sqrt{D^2 S}$$

- d ハ軸ノ徑(耗ニテ)
- D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)
- S ハ行長(耗ニテ)
- C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

| 氣筒數 | 「クラシク」ノ<br>配置 | 推 力 軸          |        | 中 間 軸          |        | 第 一 種 螺 旋 軸    |         | 第 二 種 螺 旋 軸    |        |
|-----|---------------|----------------|--------|----------------|--------|----------------|---------|----------------|--------|
|     |               | 甲種機關又<br>ハ乙種機關 | 丙種機關   | 甲種機關又<br>ハ乙種機關 | 丙種機關   | 甲種機關又<br>ハ乙種機關 | 丙種機關    | 甲種機關又<br>ハ乙種機關 | 丙種機關   |
| 一   | —             | 0.11211        | 0.1110 | 0.1110         | 0.1111 | 0.1155         | 0.11211 | 0.1169         | 0.1155 |
| 二   | —             | 0.1166         | 0.1153 | 0.1153         | 0.1150 | 0.1190         | 0.1165  | 0.1196         | 0.1165 |
| 三   | —             | 0.1213         | 0.1199 | 0.1199         | 0.1196 | 0.1236         | 0.1211  | 0.1246         | 0.1211 |
| 四   | —             | 0.1260         | 0.1245 | 0.1245         | 0.1242 | 0.1284         | 0.1258  | 0.1294         | 0.1258 |
| 五   | —             | 0.1307         | 0.1291 | 0.1291         | 0.1288 | 0.1332         | 0.1306  | 0.1342         | 0.1306 |
| 六   | —             | 0.1354         | 0.1337 | 0.1337         | 0.1334 | 0.1378         | 0.1352  | 0.1394         | 0.1352 |

|   |  |       |       |       |       |       |       |       |       |
|---|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 六 |  | 0.355 | 0.337 | 0.337 | 0.337 | 0.371 | 0.353 | 0.372 | 0.353 |
| 五 |  | 0.319 | 0.303 | 0.303 | 0.303 | 0.338 | 0.321 | 0.340 | 0.321 |
|   |  | 0.331 | 0.315 | 0.315 | 0.315 | 0.348 | 0.330 | 0.349 | 0.330 |
|   |  | 0.348 | 0.330 | 0.330 | 0.330 | 0.365 | 0.346 | 0.366 | 0.346 |
|   |  | 0.355 | 0.337 | 0.337 | 0.337 | 0.371 | 0.353 | 0.372 | 0.353 |

「クラシク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル  
 「クラシク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ  
 勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クラシク」軸受  
 ト推力軸ノ間ニ於テ「クラシク」軸又ハ特設軸ニ取附ク  
 ルトキハ該部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項第一號ノ算式ニ依  
 リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

又ハ厚サハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル「クラシク」軸  
 ノ徑(耗ニテ)ヲdcニ充テ前條第二號ノ算式ヲ用キ算定  
 シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ  
**第四百十七條** 「デーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ「クラシク」  
 軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナル  
 コトヲ得ズ

$$d_s = \sqrt[3]{\frac{D^2 \times (ASp + BLP)}{1,000}}$$

- ds ハ「クラシク」軸ノ徑(耗ニテ)
- D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)
- S ハ行長(耗ニテ)
- L ハ「クラシク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距  
 離(耗ニテ)
- P ハ氣筒内ノ最大壓力(每平方糎ニテ)

**第四百十六條** 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平  
 方糎二五疋ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定  
 ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數ヲ乗ジタルモノヨリ小  
 ナルコトヲ得ズ

$$K = \sqrt[3]{0.02P + 0.5}$$

P ハ氣筒内ノ最大壓力(每平方糎ニテ)  
 前項ノ發動機ノ鍛鋼製ノ一體型「クラシク」軸ノ腕ノ幅



p ハ氣筒内平均有效圖示壓力（毎平方糎ニテ）  
 A及Bハ定數ニシテ左表ニ依ル  
 一 二衝程單働式ナルトキ

| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | 甲種機關又ハ乙種機關 |      | 丙種機關  |      |
|-----|-----------|------------|------|-------|------|
|     |           | A          | B    | A     | B    |
| 一   | —         | 一〇・八六      | 一・六〇 | 九・三三  | 一・三七 |
| 二   | —         | 一〇・八六      | 一・六〇 | 九・三三  | 一・三七 |
| 三   | —         | 一一・六〇      | 一・五二 | 一〇・八〇 | 一・三〇 |
| 四   | —         | 一三・八三      | 一・四八 | 一一・八六 | 一・二七 |
| 五   | —         | 一四・五一      | 一・四五 | 一二・四五 | 一・二四 |
| 六   | —         | 一五・二二      | 一・四三 | 一三・九七 | 一・二三 |
| 七   | —         | 一五・八〇      | 一・四一 | 一三・五五 | 一・二二 |

二 四衝程單働式ナルトキ

| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | 甲種機關又ハ乙種機關 |      | 丙種機關  |      |
|-----|-----------|------------|------|-------|------|
|     |           | A          | B    | A     | B    |
| 八   | —         | 一六・六三      | 一・四〇 | 一四・二六 | 一・二〇 |
| 九   | —         | 一七・四〇      | 一・三一 | 一三・五〇 | 一・〇四 |
| 一〇  | —         | 一八・四二      | 一・二六 | 一三・一〇 | 一・一八 |
| 一一  | —         | 一九・四二      | 一・二一 | 一二・八〇 | 一・一四 |
| 一二  | —         | 二〇・四二      | 一・一七 | 一二・五〇 | 一・一〇 |
| 一三  | —         | 二一・四二      | 一・一三 | 一二・二〇 | 一・〇六 |
| 一四  | —         | 二二・四二      | 一・一〇 | 一一・九〇 | 一・〇二 |
| 一五  | —         | 二三・四二      | 一・〇七 | 一一・六〇 | 〇・九八 |
| 一六  | —         | 二四・四二      | 一・〇四 | 一一・三〇 | 〇・九四 |
| 一七  | —         | 二五・四二      | 一・〇一 | 一一・〇〇 | 〇・九〇 |
| 一八  | —         | 二六・四二      | 〇・九八 | 一〇・七〇 | 〇・八六 |
| 一九  | —         | 二七・四二      | 〇・九五 | 一〇・四〇 | 〇・八二 |
| 二〇  | —         | 二八・四二      | 〇・九二 | 一〇・一〇 | 〇・七八 |
| 二一  | —         | 二九・四二      | 〇・八八 | 九九・八〇 | 〇・七四 |
| 二二  | —         | 三〇・四二      | 〇・八五 | 九九・五〇 | 〇・七〇 |
| 二三  | —         | 三一・四二      | 〇・八二 | 九九・二〇 | 〇・六六 |
| 二四  | —         | 三二・四二      | 〇・七八 | 九八・九〇 | 〇・六二 |
| 二五  | —         | 三三・四二      | 〇・七四 | 九八・六〇 | 〇・五八 |
| 二六  | —         | 三四・四二      | 〇・七〇 | 九八・三〇 | 〇・五四 |
| 二七  | —         | 三五・四二      | 〇・六六 | 九八・〇〇 | 〇・五〇 |
| 二八  | —         | 三六・四二      | 〇・六二 | 九七・七〇 | 〇・四六 |
| 二九  | —         | 三七・四二      | 〇・五八 | 九七・四〇 | 〇・四二 |
| 三〇  | —         | 三八・四二      | 〇・五四 | 九七・一〇 | 〇・三八 |
| 三一  | —         | 三九・四二      | 〇・五〇 | 九六・八〇 | 〇・三四 |
| 三二  | —         | 四〇・四二      | 〇・四六 | 九六・五〇 | 〇・三〇 |
| 三三  | —         | 四一・四二      | 〇・四二 | 九六・二〇 | 〇・二六 |

三 二衝程複働式ナルトキ

| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | 甲種機關又ハ乙種機關 | 丙種機關 |
|-----|-----------|------------|------|
| 四   | —         | 一〇・六六      | 一・六〇 |
| 五   | —         | 一一・六〇      | 一・五二 |
| 六   | —         | 一二・六〇      | 一・四五 |
| 七   | —         | 一三・八三      | 一・四八 |
| 八   | —         | 一四・五一      | 一・四五 |
| 九   | —         | 一五・二二      | 一・四三 |
| 一〇  | —         | 一五・八〇      | 一・四一 |
| 一一  | —         | 一六・四〇      | 一・三九 |
| 一二  | —         | 一七・〇〇      | 一・三七 |

四 四衝程複働式ナルトキ

| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | 甲種機關又ハ乙種機關 | 丙種機關 |
|-----|-----------|------------|------|
| 三   | —         | 一四・三三      | 一・三三 |
| 四   | —         | 一五・二〇      | 一・二四 |
| 五   | —         | 一六・一〇      | 一・一五 |
| 六   | —         | 一七・〇〇      | 一・〇六 |
| 七   | —         | 一八・〇〇      | 〇・九七 |
| 八   | —         | 一九・〇〇      | 〇・八八 |
| 九   | —         | 二〇・〇〇      | 〇・七八 |
| 一〇  | —         | 二一・〇〇      | 〇・六九 |
| 一一  | —         | 二二・〇〇      | 〇・六〇 |
| 一二  | —         | 二三・〇〇      | 〇・五二 |
| 一三  | —         | 二四・〇〇      | 〇・四四 |
| 一四  | —         | 二五・〇〇      | 〇・三五 |
| 一五  | —         | 二六・〇〇      | 〇・二六 |
| 一六  | —         | 二七・〇〇      | 〇・一七 |
| 一七  | —         | 二八・〇〇      | 〇・〇八 |
| 一八  | —         | 二九・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 一九  | —         | 三〇・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二〇  | —         | 三一・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二一  | —         | 三二・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二二  | —         | 三三・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二三  | —         | 三四・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二四  | —         | 三五・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二五  | —         | 三六・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二六  | —         | 三七・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二七  | —         | 三八・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二八  | —         | 三九・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 二九  | —         | 四〇・〇〇      | 〇・〇〇 |
| 三〇  | —         | 四一・〇〇      | 〇・〇〇 |

| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | 甲種機關又ハ乙種機關 |      | 丙種機關  |      |
|-----|-----------|------------|------|-------|------|
|     |           | A          | B    | A     | B    |
| 一   | —         | 一〇・八六      | 一・六〇 | 九・三三  | 一・三七 |
| 二   | —         | 一一・八二      | 一・四三 | 一〇・九九 | 一・二三 |



| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | 甲種機關又ハ乙種機關 |      | 丙種機關  |      |
|-----|-----------|------------|------|-------|------|
|     |           | A          | B    | A     | B    |
| 一   |           | 一〇・八六      | 一・六〇 | 九・三三  | 一・三七 |
| 二   |           | 二・八一       | 一・四三 | 一〇・九九 | 一・三三 |
| 三   | 人         | 一四・四八      | 一・三〇 | 一二・四一 | 一・二二 |
| 四   | 十         | 一三・四一      | 一・三九 | 一一・五〇 | 一・一九 |
| 五   | 六         | 一五・六八      | 一・二六 | 一三・四五 | 一・〇八 |
| 六   | ※         | 一四・五〇      | 一・三〇 | 一二・四四 | 一・二二 |
| 七   | ※         | 一九・七〇      | 一・一九 | 一六・九〇 | 一・〇二 |
| 八   | ※         | 一八・五九      | 一・三三 | 一五・七七 | 一・〇五 |
| 九   | ※         | 二二・六〇      | 一・一五 | 一八・五三 | 〇・九九 |
|     |           | 二〇・〇四      | 一・一八 | 一七・二〇 | 一・〇一 |

|    |   |       |      |       |      |
|----|---|-------|------|-------|------|
| 一〇 | ※ | 二〇・〇四 | 一・一八 | 一七・二〇 | 一・〇一 |
| 一一 | ※ | 一八・四二 | 一・〇八 | 一四・三八 | 〇・九三 |
| 一二 | ※ | 二二・七三 | 一・一六 | 一八・六三 | 一・〇〇 |
| 一三 | ※ | 二二・一〇 | 一・一五 | 一八・九六 | 〇・九九 |
| 一四 | ※ | 二六・五〇 | 一・〇九 | 二三・七三 | 〇・九四 |

備考 ※印ヲ附シタルモノハ二筒ノ氣筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

「クランク」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ  
 勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力軸トノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取付クルトキハ該部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項ノ算式ニ依リテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

**第四百十八條** 「ディーゼル」式發動機ノ「クランク」軸ノ鋼製ノ腕ノ幅又ハ厚サハ左ノ各號ノ算式ニ依リ定メタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

- w = 0.438 dc
  - t = 0.625 dc
  - dc ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)
  - w ハ「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ(耗ニテ)
  - t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)
  - 一 一體型「クランク」軸ナルトキ  
 $dc^2 = 0.417 dc^3$
  - dc<sub>1</sub> ハ前號ニ同ジ
  - t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ(耗ニテ)ニシテ dcノ〇・五六倍以上ナルコト
  - b ハ「クランク」軸ノ腕ノ幅(耗ニテ)
- 前項ノ規定ハ高速機關又ハ管海官廳差支ナシト認ムル機關ニ付テハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得
- 第四百十九條** 「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ中間軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$D = C^3 \sqrt{n(1+M)D^2 Sp \times \frac{1}{R} \times e}$$

| 氣筒數 | 「クランク」ノ配置 | K    | Z     | C          |       |   |
|-----|-----------|------|-------|------------|-------|---|
|     |           |      |       | 甲種機關又ハ乙種機關 | 丙種機關  | 種 |
| 一   |           | 二六・二 | 〇・五三七 | 〇・一一六      | 〇・一一〇 |   |
| 二   |           | 一八・八 | 〇・四一七 | 〇・一五七      | 〇・一四三 |   |

- d ハ中間軸ノ徑(耗ニテ)
  - D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)
  - S ハ行長(耗ニテ)
  - P ハ氣筒内平均有效圖示壓力(毎平方糎ニテ)
  - n ハ「クランク」軸系ヲ異ニシテ同一推進軸系ニ聯動スル發動機ノ數
  - r ハ「クランク」軸ノ毎分計畫回轉數
  - R ハ中間軸ノ毎分計畫回轉數
  - e ハ「クランク」軸ト中間軸トノ間ニ裝置セラレタル動力傳導裝置又ハ變速裝置ノ總傳導率
  - M ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル數ト左表ニ掲グルZトノ中小ナルモノ
  - C ハ定數ニシテ左表ニ依ル
- 一 二衝程單働式ナルトキ



| 三     | 四     | 五     | 六     | 七     | 八     | 九     | 一〇    | 一一    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人     | 十     | 六     | 六     | 六     | 六     | 六     | 六     | 六     |
| 八・四   | 四・五   | 三六・二  | 二・九   | 二・〇   | 一一・八  | 一八・二  | 一・五   | 一・九   |
| 〇・一〇〇 | 〇・一〇六 | 〇・三二六 | 〇・〇五九 | 〇・〇四一 | 〇・一三三 | 〇・一九一 | 〇・〇二七 | 〇・〇一七 |
| 〇・一六八 | 〇・一八四 | 〇・一九八 | 〇・一九八 | 〇・二〇一 | 〇・二〇三 | 〇・二〇九 | 〇・二一三 | 〇・二一七 |
| 〇・一六〇 | 〇・一七五 | 〇・一八八 | 〇・一九八 | 〇・二〇〇 | 〇・二〇〇 | 〇・二〇六 | 〇・二一〇 | 〇・二一四 |

| 二     | 一     |
|-------|-------|
| 六     | 六     |
| 二五・二  | 三・五   |
| 〇・一三三 | 〇・〇二〇 |
| 〇・二六六 | 〇・一五三 |

| 二     | 一     | 二     | 三     | 四     | 五     | 六     | 七     | 八     | 九     | 一〇    |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一     | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     | 一     |
| 三・八   | 四・〇   | 四・一   | 四・二   | 四・三   | 四・四   | 四・五   | 四・六   | 四・七   | 四・八   | 四・九   |
| 〇・六八〇 | 〇・五二七 | 〇・四一〇 | 〇・三二六 | 〇・二五三 | 〇・一八八 | 〇・一三〇 | 〇・〇七二 | 〇・〇一四 | 〇・〇〇六 | 〇・〇〇二 |
| 〇・〇九七 | 〇・一〇七 | 〇・一三三 | 〇・一六六 | 〇・二〇九 | 〇・二五二 | 〇・三〇五 | 〇・三六八 | 〇・四三二 | 〇・五〇六 | 〇・五九〇 |
| 〇・〇九二 | 〇・一〇二 | 〇・一二八 | 〇・一六二 | 〇・二〇五 | 〇・二五八 | 〇・三二一 | 〇・三八四 | 〇・四四七 | 〇・五二一 | 〇・六〇五 |

| 三     | 二     |
|-------|-------|
| 六     | 六     |
| 二・八   | 二・〇   |
| 〇・〇四九 | 〇・〇二五 |
| 〇・二〇九 | 〇・二二五 |
| 〇・一九九 | 〇・二〇四 |

三 二衝程複働式ナルトキ

| 八     | 七     | 六     | 五     | 四     | 三     | 二     | 一     |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 六     | 六     | 六     | 六     | 六     | 六     | 六     | 六     |
| 一・七   | 〇・二   | 三・五   | 〇・四   | 九・二   | 二・〇   | 四・五   | 一六・八  |
| 〇・〇一九 | 〇・〇〇五 | 〇・〇三一 | 〇・〇〇八 | 〇・一〇六 | 〇・〇三一 | 〇・一〇六 | 〇・一〇〇 |
| 〇・二二〇 | 〇・二二七 | 〇・二五五 | 〇・二三九 | 〇・二二三 | 〇・一〇一 | 〇・一七六 | 〇・一四〇 |
| 〇・二六六 | 〇・二五四 | 〇・二四一 | 〇・二二七 | 〇・二一一 | 〇・一七二 | 〇・一六七 | 〇・一三三 |

| 二     | 一     | 〇     | 九     |
|-------|-------|-------|-------|
| 六     | 六     | 六     | 六     |
| 六・八   | 一・〇   | 一・〇   | 〇・二   |
| 〇・〇二〇 | 〇・〇〇九 | 〇・〇〇七 | 〇・〇〇三 |
| 〇・二二〇 | 〇・三一一 | 〇・三〇一 | 〇・二九一 |
| 〇・二〇四 | 〇・二九五 | 〇・二八五 | 〇・二七六 |

四 四衝程複働式ナルトキ

| 五     | 四     | 三     | 二     | 一     |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 六     | 六     | 六     | 六     | 六     |
| 一六・二  | 四・五   | 三・三   | 一六・八  | 二六・二  |
| 〇・一八四 | 〇・一〇六 | 〇・三〇〇 | 〇・三二六 | 〇・五二七 |
| 〇・一九三 | 〇・一七九 | 〇・一六三 | 〇・一四二 | 〇・一一三 |
| 〇・一八六 | 〇・一七〇 | 〇・一五五 | 〇・一三五 | 〇・一〇九 |



|    |                                      |    |   |      |       |        |        |
|----|--------------------------------------|----|---|------|-------|--------|--------|
| 備考 | ※印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒ガ同時ニ點<br>火スルモノナルコトヲ示ス | 六  | ※ | 11.0 | 0.0E1 | 0.110E | 0.195  |
|    |                                      | 七  | ※ | 13.1 | 0.19E |        |        |
|    |                                      | 八  | ※ | 15.5 | 0.09E | 0.116  | 0.110E |
|    |                                      | 九  | ※ | 17.1 | 0.019 | 0.119  | 0.115  |
|    |                                      | 一〇 | ※ | 19.5 | 0.10E | 0.116  | 0.115  |
|    |                                      | 一一 | ※ | 21.1 | 0.00E | 0.113  | 0.113  |
|    |                                      | 一二 | ※ | 23.5 | 0.120 | 0.111  | 0.111  |

M ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定スベシ

$$M = K \frac{10,000D^3S}{(6.24d^2 + WF^2)R^2}$$

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

W ハ「クランク」腕ニ附シタル鈎合錘ノ重量(耗ニテ)

b ハ「クランク」腕ニ附シタル鈎合錘ノ重心點ヨリ「クランク」軸ノ中心線ニ至ル距離(耗ニテ)

W ハ勢車ノ重量(耗ニテ)

F ハ勢車ノ外徑(耗ニテ)

R ハ軸ノ毎分回轉數

K ハ定數ニシテ前項ノ表ニ依ル

回轉數ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系ノ推力軸又ハ中間軸ノ場合ニ在リテハ第一項ノZ及前項ノMノ數値ハ之ヲ管海官廳ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

第百五十條

「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ推力軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間ノ軸ノ一・〇五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十一條

「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ螺旋軸ノ

徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$ds = d + \frac{P}{C}$$

ds ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

d ハ第百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ

徑(耗ニテ)

P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

|            |     |
|------------|-----|
| 第一種螺旋軸ナルトキ | 一四四 |
| 第二種螺旋軸ナルトキ | 一〇〇 |

第百五十二條

船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」軸ノ寸法ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十八條ノ規定ニ依リ丙種機關トシテ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十三條

鍛鋼製中空軸ノ外徑ハ發動機及軸ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十七條、第百四十九條乃至

第百五十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ內徑ガ外徑ノ三分ノ一未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

$$K = \sqrt[3]{\frac{1}{1-R^4}}$$

R ハ中空軸ノ內徑ヲ外徑ニテ除シタル商

第百五十四條

鍛鋼製推力軸ハ推力受臺ノ前部及後部ニ於テハ其ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條、第百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

鍛鋼製螺旋軸ハ前部軸鈔ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十六條、第百四十九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第百五十五條

抗張力ガ不明ナル壓延黃銅製螺旋軸ノ徑ハ發動機ノ種類ニ應ジ第百四十三條乃至第百四十條又ハ第百五十一條ノ規定ニ依リ算定シタル鍛鋼製第一種螺旋軸ノ徑ノ一・〇五倍以上ト爲スベシ

第百五十六條

軸鈔ヲ連結スル螺釘ノ軸鈔連結面ニ於ケル徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ